

支那金融機關

各項支出	二九、四〇一、〇〇〇
開辦費分擔	四〇八、〇〇〇
營業用土地家屋分擔	一、〇九八、〇〇〇
本年純利	二一五、六七九、〇〇〇
合計	二四六、六七三、〇〇〇

東三省阜新殖業銀行

民國四年五月日支新協約成立スルヤ、滿蒙ニ日本ノ新勢力ノ侵入スルヲ防ガン爲、土地及金融、企業等ニ關スル機關設立ノ計畫、盛ニ行ハレタリシガ、東三省阜新殖業銀行モ、亦其一ニ數ヘ得ベキモノニシテ、發企人ハ、王承燾、孫澤綸、文卿、吳琦、潭啓瑞、朱成勳、吳兆毅、揚光輔ニシテ其設立許可申請ニ際シ大總統ニ上レル條陳ノ要ニ曰ク

(前略) 此次ノ交涉解結スルヤ遠近ノ人民激昂慷慨セザルナク救國儲金忽チニ鉅資ヲ集ム、民氣ノ激發カクノ如キハ實ニ歷來未ダアラザルトコロナリ、其激發ノ勢ニ因リテ、之ヲ誘導シ此ヲ以テ事ニ趨ラシメバ何事カナラザラン、此ヲ以テ功ヲ圖ラバ何ノ功カ倍モザラン、(中略)承燾等ハ東三省人ナリ、謹ンテ東三省權利ノアルトコロニ就キ、急ニ挽救ヲ圖ラント欲スルモノニ端アリ

一ニ曰ク東三省勸業公司ヲ設立シテ以テ實業ヲ振興ス、ソレ我東三省ノ形勢ハ既ニ京畿ヲ屏散シ輻員マタ俄日ニ毗連シ、其間物産豐富土地膏腴ナリ、南滿ノ水利、森林、墾畜、礦産ヨリ其他ノ利源ニ及ブマア尤モ各省ニ甲タリ、中日新約ニ依リ自由ノ經營ヲ許ス事トナリタレバ、彼ハ汲々トシテ進行シ、自ラ必ズ餘力ヲ留メザルベシ、此民氣振興ノ時ニ當リ先發人ヲ制スルノ端ヲ謀ラバ、

庶幾クハ各種ノ利權盡ク他族ノ手ニ落ツルヲ致サザラン

一ニ曰ク東三省勸業銀行ヲ設立シテ以テ金融ヲ活潑ニセシ、數十年來我國實業ノ發達シ能ハザルハ半ハ計畫ノ疎漏ニ由リ半ハ金融ノ滯塞ニ由ル、而モ實業ニ熱心ナルモノハ固ヨリ少ナカラズ、此時機ニ乘ジテ活躍ヲ試ミント欲セザルハナシ、資本ヲ供給シ得バ實業ノ獎勵モ空言トナラズ、必ズ袂ヲ聯ネテ興リ、臂ヲ攘ヒテ起チ雄ヲ實業界ニ爭フモノアラン、金融ヲ活潑ニスル機關ハ實業振興ノ補助タルベキモノナリ

以上ノ二者相輔ケテ行ハバ庶クハ利權ヲ萬一ニ挽救スベシ、茲ニ先ヅ承燾等ヨリ二百五十萬元ヲ擔任シテ、四分ノ一ヲ基金トシ、更ニ六百五十萬元ヲ招募シテ一千萬ノ總額トナシ、株式滿ツルヲ待テテ、五百萬元ヲ以テ東三省勸業銀行ヲ設立セン(下略)

尙又當時財政部ニ上レル願書ノ要左ノ如シ。

(前略) 銀行資本ハ五百萬元ト定メ、先ヅ承燾等ヨリ百二十五萬元ヲ擔任シ、以テ四分ノ一ノ基金トシ、並ニ殖業銀行則例ニ遵ヒ、本銀行章程三十三條ヲ草シ許可ヲ待ナテ株式ヲ募集シ、總額四分ノ一以上ノ株金ヲ募集シ得タル後、更ニ詳細ノ章程ヲ具シテ、許可證ノ下付ヲ請ヒ營業ヲ開始セントス(下略)

斯クテ王等ヨリ東三省阜殖業銀行章程ヲ、財政部ニ具呈シテ、其許可ヲ請ヘルニ、民國四年七月二十七日ノ政府公報ニ於テ、財政部批令ヲ以テ、コレヲ認可公表セリ、右ニヨレバ其章程第二條ニ明記スルガ如ク、本銀行ハ農林、水利、墾牧、鑛産、工廠事業ニ放資スルヲ以テ目的トシ、總資本ヲ五百萬元、五萬株、毎株百元ニ分ツ、資本總額四分ノ一拂込ヲ以テ開業スベク營業期限ハ開業日ヨリ六十年、専ラ支那資本ニ依ル營業タリ、而シテ財政部ハ其章程第八條ヲ「本銀行ハ別ニ放資方法及抵當償還章程ヲ定メ財政部ノ許可ヲ得テ施行スベシ」ト修訂シタル外、全然原章程ヲ認可シタリ、其章程

次ノ如シ。

東三省阜新殖業銀行章程

- 第一條 本銀行ハ株式会社有限公司トナシ東三省阜新殖業銀行ト名ヅク
- 第二條 本銀行ハ農林、水利、開墾、牧畜、鑛産、工廠等ノ放款ヲ以テ業務ト爲ス
- 第三條 本銀行ハ専ラ支那人株主ヲ以テ組織シ完全ナル商辦ノ營業ト爲ス
- 第四條 本銀行ハ本店ヲ北京ニ設ケ、財政部ニ稟請シテ支店及代理機關ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 本銀行ノ資本總額ヲ五百萬元トナシ之ヲ分チテ五萬株トシ毎株一百元ト爲ス
前項資本ノ應募額ガ總額ノ四分ノ一ニ達スル時ハ即チ營業ヲ開始ス
- 第六條 本銀行ノ年限ハ開業ノ日ヨリ起算シテ六十年ヲ以テ滿期ト爲ス、滿期後株主會議ノ決議ヲ經テ財政部ニ稟請シ其許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第七條 本銀行ノ營業種類左ノ如シ
(一) 水利ノ抵當ニ關スル放款、(二) 森林ノ抵當放款、(三) 墾牧ノ抵當放款、(四) 鑛業ノ抵當放款、(五) 工廠ノ抵當放款、
(六) 預金、(七) 生金銀ノ賣買、(八) 爲替、(九) 期拂手形ノ發行及他銀行業務ノ代理
- 第八條 本銀行ノ放款方法及抵當償還規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第九條 本銀行ハ抵當放款以外ニ若シ現款尙多クシテ時ニ貸出ニ應ジ得ザル時ハ酌量ノ上其購買セル國家債券地方債券及其他殖業銀行債券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第十條 本銀行ニ總經理一人副經理一人董事五人監事三人ヲ設ク
- 第十一條 總經理副經理ハ株主會ニ於テ百株以上ノ株主中ヨリ之ヲ選任シ同時ニ財政部ニ之ヲ報告ス其他職員ハ總經理ヨリ推任ス
- 第十二條 董事監事ハ株主會ニ於テ五十株以上ノ株主中ヨリ之ヲ選任ス

- 第十三條 總副經理ノ任期ヲ四年トシ董事監事ノ任期ヲ三年トス、滿期後更ニ重任スルコトヲ得
前項總副經理董事監事ノ選舉投票責任權限等ハ別ニ章程ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第十四條 總副經理董事監事ハ任期中ニ於テ他項職務ヲ兼營スルコトヲ得ス
 - 第十五條 本銀行ハ毎年一回本店所在地ニ於テ通常株主總會ヲ開催ス、但シ特別ノ事故アル時ハ臨時株主總會ヲ召集スルコトヲ得
前項會議章程ハ別ニ之ヲ定ム
 - 第十六條 本銀行ハ殖業銀行條例ニ遵照シテ財政部ニ稟請シ其許可ヲ得テ債券ヲ發行スルコトヲ得
前項債券ノ發行ハ償還辦法ヲ安定シ並ニ發行章程ヲ財政部ニ稟請シ其許可ヲ得タル後之ガ募集ヲナスモノトス
 - 第十七條 本銀行ハ毎年必ズ純益ノ十分ノ一ヲ控除シ公積金トナシ以テ資本缺損填補ノ用ニ備フ
 - 第十八條 本銀行ハ毎年純利ノ百分ノ五ヲ配當均一準備資金中ニ加フ
 - 第十九條 本銀行ハ純益ヲ株主ニ配當セントスル時ハ須ク財政部ニ之ヲ稟報スヘシ
 - 第二十條 本銀行ハ半年毎ニ必ズ財産目録及出入對照表ヲ詳造シ財政部ノ檢査ヲ請フベシ
 - 第二十一條 本銀行ハ須ク本章程ノ主旨ニ按照シテ詳細章程ヲ擬具シ財政部ニ其許可ヲ稟請スベシ
 - 第二十二條 本銀行章程ハ財政部批准ノ日ヨリ効力ヲ發生ス
 - 第二十三條 本章程ニ於テ未ダ盡サレル事ハ宜シク株主會議ノ決議ヲ經テ隨時財政部ニ稟請シテ其許可ヲ受ク可シ
- 斯クテ本銀行ハ、直ニ株式募集ニ着手セシガ、其後ノ狀況ニ至リテハ、杏トシテ聞ク處ナシ、元其創立ノ動機ニ於テ必要ニ迫ラレタルニアラズ、只當時ノ日支交渉ニ激セラレテ、利權ノ外人ノ手中ニ移ルヲ禦グガ爲ニ、計畫シタルモノナレバ、其昂奮狀態ノ冷却スルト共ニ、計畫者亦次第ニ冷淡ナルニ至ルハ、理ノ當然ニシテ、現今如何ノ狀態ニアルヤ殆ンド知ルベカラズ。

恒豐農業銀行

民國四年春交通銀行協理任鳳苞ハ、北京天津ニ於ケル富豪巨商ヲ糾合シテ、農業銀行設立ノ議ヲ提倡シタリシガ、次デ梁燕老、中國銀行總裁李士偉、及儲蓄銀行總理賀碩諸氏ノ同意アリタルヨリ、茲ニ恒豐農業銀行ト定名シテ其規則書ヲ草シ、財政農商兩部ニ其認可ヲ申請セリ、今該行ノ章程ヲ示セバ左ノ如シ。

- 第一條 本銀行ハ株式会社トナシ、恒豐農業銀行ト名ク
- 第二條 本銀行ハ未開荒蕪地ノ開墾及ビ農民ノ金融ヲ調節スルヲ以テ業務トナス
- 第三條 本銀行ノ資本總額ヲ五百萬元トナシ之ヲ五萬株ニ分チ一株銀百元トス、銀行資本増加ノ必要アル時ハ株主總會ノ決議ニ依テ再ビ株ヲ發行ス
- 第四條 本銀行ハ規定株數ノ五分ノ一ノ應募者ヲ得タル時ハ營業ヲ開始ス
- 第五條 本銀行ハ本店ヲ長春ニ設ケ開業後必要ニ應ジテ漸次分行或ハ分號ヲ設ケ其分行號ノ未ダ成立セザル時ハ其他ノ銀行商號等ニ委託シテ營業ヲ代理ス
- 第六條 本銀行ノ株券ハ概ネ記名式ヲ用ヒ中華民國人ニ非サレハ賣買轉讓ノ權無キモノトス
- 第七條 本銀行ノ營業年限ハ總行(本店)開業ノ日ヨリ起算シテ滿五十年ヲ期トナシ期間滿チタル時ハ株主總會ノ決議ニヨリ財政農商兩部ニ向ヒ營業期間ノ延長許可ノ申請ヲナスコトヲ得
- 第八條 本銀行ノ營業種類左ノ如シ
土地權設ノ擔保貸付 其他農業補助ニ關スル投資以上ノ放款ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

- 生金銀ノ賣買、爲替ノ辦理、各種期拂手形、各種預金並ニ證券及ビ其他一切貴重品ノ代理保管、銀行會社商店及個人收取手形ノ代理支拂
- 條 本銀行ハ開墾及農產貿易轉運業ヲ兼營スルコトヲ得其章程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十條 本銀行ハ株主總會ノ決議ヲ經テ必要ト認メタル時ハ財政部ノ許可ヲ呈請シテ債券ヲ發行スルヲ得其債券發行ニ關スル章程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 毎年營業所得ノ純利益額ノ内其十分ノ五ハ積立金トナシ其餘ヲ株主ニ配當ス、右積立金及株主配當ハ必ス株主總會ノ議決ヲ經テ財政部ニ報告シ其許可アリタル後之ヲ辦理ス
- 第十二條 本銀行ハ總理一名、協理二名、董事十名監察人五名ヲ設ケ均シク株主ノ公選ニ由リ其選定後ハ財政部ニ之ヲ報告ス、其選舉法ハ別ニ之ヲ定ム其他職員ハ總理協理ヨリ推任ス、右總協理ハ持株百株以上董事監察人ハ五十株以上ヲ有スルニ非サレハ株主ハ之ヲ選舉スルヲ得ス
- 第十三條 總協理ノ任期ヲ五ヶ年董事監察人ハ三ヶ年トス但重任スル事ヲ得而シテ任期間ハ他銀行及會社ノ職務ヲ兼任スルヲ得ス
- 第十四條 株主總會ハ分チテ通常、臨時ノ二種トナシ株主會々議細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十五條 通常總會ハ毎年舊曆春季總行所在地ニ於テ一回開催シ總理ヨリ召集ノ通知ヲナス時必ス前年ノ營業成績報告ヲ各株主ニ送附スヘシ
- 第十六條 總理力重要事件ニシテ須ク必要アル可シト認メタル時或ハ董事監察人全部ヲ通シテ或ハ又總株數ノ五十分ノ一以上ノ株主ガ必要ナリト認メタル時開會ヲ請求セバ董事ヨリ臨時株主會ヲ召集スル事ヲ得
- 第十七條 株主總會々員ハ十株ヲ以テ一表決權ヲ有シ十株以上ハ五株毎ニ一權ヲ増シ十株以下ノ株主ハ他ノ株主ト補足シテ互ニ一人ヲ推シテ代表トナスヲ得ルト共ニ亦一表決權ヲ得ルモノトス
- 第十八條 本章程ハ若シ不完全ノ點アル時及ヒ將來若シ更改ノ必要アル時ハ株主總會ノ決議ニ依リテ改修シ財政農商兩部ニ請フテ其許可アリタル後之ヲ實行スルモノトス

本銀行ハ純然タル農業銀行ナルモ、支那今日ノ經濟狀態カ果シテ斯ノ如キ種類ノ銀行ノ健全ナル發達ニ適スルヤ否ヤハ、大ナル疑問ナルガ、其後何等消息ヲ聞ク處ナキヨリスレバ、或ハ其儘中絶シタルニアラザルカ。

裕國實業銀行

民國五年十月張春城氏外七人ノ名義ヲ以テ、裕國實業銀行ヲ組織セントシ其章程ヲ添へ、財政部ノ認可ヲ求メタル處、財政部ハ章程中一二修改ヲ加ヘテ之ヲ認可シ、一切ヲ同年十一月四日ノ政府公報ヲ以テ公表シタリ、出願書及章程ノ概要左ノ如シ。

出願書

張春城等裕國實業銀行ヲ創立シ、其設立認可ヲ懇請シ、以テ實業ヲ起シ國民ヲ裕ニセントス、思フニ富國ノ基本ハ實業ニアリ、實業ノ發達ハ金融ニ繫ル、故ニ歐米各國ノ銀行業タル極メテ發達セリ、我國ニ於テハ銀行業未ダ發達セザルヲ以テ、資金流通セズ、實業ヲ企圖スルモ運用之ニ伴ハズ、爲メニ金融日ニ涸レ、公私共ニ困厄ス、東三省一帶ハ此弊最モ甚ダシ、春城等時難ニ見ル所アリ、爰ニ同志ヲ求メ資本二百萬元ヲ集メテ、裕國實業銀行ヲ創立ス、其ノ目的專ラ東三省塞北一帶ノ開墾、牧畜、山林、鑛山ニ資スルニ在リ、資本ノ豐富ト組織ノ完全ヲ期シ、必ス資金ノ流通ヲ圓滑ナラシメ、上ハ國家ヲ輔ケ、下ハ社會ヲ濟ハン、今關外ハ物産豐饒ナルニ利源未ダ開カレズ、振興ノ手段ヲ講ゼズシテ之ヲ棄ツルハ遺憾ニ堪ヘズ、伏シテ貴部數年來規定スル銀行條例ヲ讀ムニ、指導至ラザルナシ、春城等仰テ政府ノ意ヲ體シ、既失ノ利源ヲ恢復センコトヲ期ス、故ニ有限株式組織ノ實業銀行ヲ創立ス、冀クハ社會ノ金融ヲ調節シ中央銀行ノ及バザル所ヲ補助セン、將來資金流通セバ實業ハ振興ヲ望ムベシ、富國利民ハ指顧シテ期ス

可シ、以上裕國實業銀行創立ノ由來及章程草案ヲ謹書シ貴部ノ認可ヲ願フ

出願人

- 張 春 城 續 麟 閣 王 洪 身 董 耕 雲
- 畢 維 垣 李 超 周 東 海 陳 農 霽

裕國實業銀行章程 (財政部ノ修正ヲ經タルモノ)

- 第一條 裕國實業銀行ハ本店ヲ北京ニ分店ヲ奉天、吉林、黑龍江ニ置キ且ツ他ノ銀行ト代理契約ヲ結ブコトヲ得但シ分店ノ設置又ハ撤廢代理契約ノ締結又ハ取消ハ其都度財政部ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 本銀行ハ純然タル民營ノ株式有限公司トス
- 第三條 本銀行ノ資本總額ヲ銀二百萬元トシ之ヲ二萬株ニ分ツ
- 第四條 本銀行ハ株式總數ヲ募集シ資本金額ノ四分ノ一即チ五十萬元ノ拂込アリタル時ハ財政部ノ検査ヲ受ケ其ノ認可登記ヲ經タル後營業ヲ開始ス
- 第五條 本銀行ハ本章程ノ認可アリタル後六ヶ月以内ニ營業ヲ開始シ若シ該期間ヲ經過スルモ營業ヲ開始スルヲ得サルトキハ財政部ハ本章程ノ認可ヲ取り消ス
- 第六條 本銀行ノ營業期間ハ三十年トシ開業ノ日ヨリ起算シ期間後尙ホ營業ヲ繼續セントスルトキハ株主總會ノ決議ニヨリ財政部ノ認可ヲ受ケテ期間ヲ延長スルコトヲ得
- 第七條 本銀行ハ毎年營業利益金ノ十分ノ一ヲ積立金トナス
- 第八條 積立金ハ之レヲ以テ損失ヲ填補シ利益配當ノ平均ヲ維持ス
- 第九條 本銀行毎年ノ營業利益金ハ其ノ十分ノ一ノ積立金ヲ差引キタル殘額ヨリ年六分ノ配當ヲナシ再殘額ハ其十分ノ七ヲ剩増トシテ株主ニ分配シ十分ノ三ヲ獎勵金トシテ職員ニ分配ス若シ積立金ヲ差引キタル殘額ガ少數ナルカ又ハ年六分ノ法定利率ニ達セザルトキ

ハ其ノ十二分ノ十ヲ以テ利益配當金及割増トナシニテ職員獎勵金トナスコトヲ得
第十條 株主ノ得ヘキ配當金及割増ハ株式數ニ應シ平均ニ分配シ以テ公正ヲ期ス但シ發起人引受株ニ對スル配當金及割増ハ普通ノ株式
ノ二倍トス

第十一條 裕國實業銀行ノ株券ハ記名式トシ中華民國國民ニ限リ株主タルコトヲ得

第十二條 株主カ利益配當證券又ハ割増證券ヲ紛失シタルトキハ其ノ旨本銀行ニ通知スヘシ銀行ニ於テハ新聞紙上ニ無効ヲ公告シ若シ
故障ノ申出ナキトキハ株主ハ株券携帶ノ上銀行ニ出頭シ新ニ交附ヲ受クヘシ

第十三條 事實上ノ必要ニヨリ株主總會ノ決議ニヨリ資本ヲ増加スルトキハ財政部ノ認可ヲ受ケテ株式ヲ募集ス但シ此ノ株式ハ原株主
優先引受ナシ尙殘數アルトキハ一般ニ募集ス

第十四條 裕國實業銀行ノ營業科目左ノ如シ

一、長期定期預金

二、爲替

三、殖業銀行則例第六條ニヨリ田地山林家屋工業上ノ有形財産又ハ株券債券等ヲ擔保トシ三十箇年以内ニ元利ヲ年賦償還スヘキ貸付
但一口貸出額ハ擔保物ノ實價十分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ス

擔保物カ家屋ナルトキハ保險契約アルコトヲ要ス然ラサルトキハ貸出額ハ家屋實價ノ十分ノ五ヲ超ユルヲ得ス

貸出金少數ナル場合ニ實力アル者五人以上ノ連帶保證アルトキハ別ニ擔保物ヲ要セス但シ貸出期限ハ五ヶ年以内トシ貸出シ口數ハ
總貸出シ口數ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

四、金銀製物品又ハ有價證券ヲ擔保トスル貸出

五、地金銀及各種貨幣ノ賣買、但シ投機事業ヲナスヲ得ス

六、各種手形ノ割引

七、他銀行ノ代理

ルコトヲ得

第十五條 殖業銀行則例第二十條第二十一條及第二十二條ノ規定ニ從ヒ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ本銀行ハ公債償還期限前ト雖モ信
用ヲ固ムル爲メ債券ヲ買收スルコトヲ得

第十六條 裕國實業銀行ノ債券ハ無記名トス但シ應募者ノ請求アルトキハ記名式トナスコトヲ得

第十七條 裕國實業銀行ニ總理(頭取)一人協理(副頭取)一人董事(取締役)七人監察人(監查役)五人ヲ置キ何レモ株主總會ニ於テ選任シ
財政部ニ届ケ出ツ其ノ選舉方法ハ別ニ之レヲ定ム其ノ他ノ職員ハ總理及協理之ヲ任用ス

第十八條 本銀行ハ本店ニ職員會ヲ設ケ總理、協理、董事ヲ以テ之ヲ組織シ一切ノ營業方針ヲ議定ス其ノ議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 總理及協理ハ一百株以上董事及監察人ハ五十株以上ヲ有スル株主ニアラサレハ之ニ當選スルコトヲ得ス

第二十條 總理及協理ノ任期ハ三年トシ董事及監察人ノ任期ハ一年トス在任中ハ他銀行ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得ス任期滿了後再選ス
ルコトヲ得

第二十一條 本銀行ノ株主總會ハ分ツテ通常總會臨時總會ノ二トス其議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 通常總會ハ毎年一回陽曆二月本店ノ所在地ニ於テ之ヲ開ク總協理又ハ職員會ニ於テ重要ナル事件アリト認メ又ハ株式總數
ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十三條 株主ハ一株ニ付一箇ノ表決權ヲ有シ十一株以上ヲ有スル株主ハ提議權ヲ有ス

第二十四條 本銀行ハ財政部ノ監督ヲ受ケ若シ財政部ニ於テ本章程及法令ニ違反スル行爲アリト認ムルトキハ一切ノ營業ヲ停止ス

第二十五條 財政部カ銀行則例ヲ改正シタルトキハ之ニ從テ本章程ヲ修正ス

第二十六條 之レニ因テ之レヲ見レバ本銀行ハ主トシテ東三省實業開發ヲ目的トスルモノニシテ、彼ノ東三省阜
新殖業銀行等ト同一趣旨ニ出デタルモノ、如ク、其分店所在地モ之ヲ奉天、吉林、黑龍江三省ニ限リ、
章程ニヨレバ資本金二百萬元ノ四分ノ一即チ五十萬元ノ拂込アリタル時ハ財政部ノ検査ヲ經テ營業ヲ

開始ストアリ、更ニ又本章程認可後六ヶ月以内ニ營業ヲ開始スベキ旨ヲ定ムルモ、未ダ其開始セラレタルヲ聞カズ、從テ其後ノ成績現狀等知ルニ由ナシ。

華富殖業銀行

滿蒙回疆方面邊疆ニ於ケル實業ノ振興、信托事業ヨリ社會ノ金融發展ヲ期シ、以テ利權回收ノ目的ヲ達セントシテ、蒙古通ノ稱アル、將官姚錫光其他張殿英、明徹、馬吉符、姜廷榮等發起トナリ華富殖業銀行ヲ組織シ、財政部ニ其設立許可ヲ申請シ、民國四年七月一日附ヲ以テ、之ガ許可ヲ得タルガ、該銀行ノ章程ヲ示セバ次ノ如シ。

華富殖業銀行章程

- 第一條 華富殖業銀行ハ完全ナル商辦株式有限會社ト爲ス
- 第二條 華富殖業銀行ハ國家ヲ補助シ金融ヲ調濟シ貸出チナシ滿蒙回疆ノ開墾牧畜礦業林業ノ實業ヲ振興スルヲ以テ目的ト爲ス
- 第三條 本行ハ本店ヲ北京ニ設ケ營業ニ從テ漸次必要ナル地點ニ支店代理店ヲ財政部ノ認可ヲ以テ分設スヘシ
- 第四條 本銀行資本總額ヲ六百萬元トナシ之ヲ六萬株ニ分チ每株百元トス、株募集ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第五條 本銀行ハ資本總額ノ四分ノ一即百五十萬元ノ拂込アリタル時營業ヲ開始ス
- 第六條 本銀行ハ本章程批准ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ須ク營業ヲ開始セサル可カラズ、若シ此期限内ニ開業セサル時ハ財政部ハ批准章程ノ取消ヲナスコトヲ得
- 第七條 本銀行ノ株券ハ均シク記名式トナシ其株主ハ中華民國ノ民ヲ以テ限リト爲ス

第八條 本銀行ハ事業上ノ必要ニヨリ株主總會ノ決議ヲ經テ資本ノ增加ヲナシ財政部ノ批准ヲ稟請シテ株式募集ヲナスコトヲ得

第九條 本銀行ノ營業期限ヲ三十箇年トナシ營業開始ノ日ヨリ起算シテ滿期ニ至リ若シ營業ヲ繼續セント欲セハ株主總會ノ決議ヲ經テ財政部ニ稟請シ營業期限ヲ延期スルコトヲ得

第十條 本銀行ハ毎年營業所得ノ純利總額ノ内ニ割ヲ公積金ト爲シ其餘ヲ株主ノ配當トナスヲ得

第十一條 本銀行公積金ハ左列用途ヲ除ク外ニ移用スルコトヲ得ス

甲、利益配當ノ平均

乙、利益配當ノ平均維持

丙、營業上必要ナル資産ノ購買

第十二條 本銀行ノ營業種類左ノ如シ

(一) 農業工業ニ關シ確實ナル抵當品ヲ有スル者ヘノ分年償還方法ニヨル貸付(二) 動産不動産ノ抵當貸付(三) 命銀貸及有價證券ヲ以テ抵當トスル者ヘノ貸付(四) 預金(五) 金銀及各種貨幣買賣(六) 爲替及期拂手形ノ發行(七) 各種期票ノ割引(八) 他銀行會社業務ノ代理

第十三條 本銀行ハ若シ本章程以外ノ工商業務ヲ兼營セントセハ須ラク殖業銀行則例第二十四條ニ遵據シテ財政部或ハ當該管地方官ニ稟請シテ其許可ヲ受ケ可シ

第十五條 本銀行發行ノ債券ハ須ク發行數目(番號)ヲ作り報告表ヲ以テ財政部ニ報告ス

第十六條 本銀行ハ金庫ノ委託ヲ受ケ金庫事務ヲ代理スルコトヲ得

第十七條 本銀行ニハ總理一名、協理一名、董事七名、監事五名ヲ設ケ均シク株主總會ノ公選ニ由リテ選定シ後財政部ニ稟請ス、其選舉方法ハ別ニ之ヲ定ム、其他職員ハ總協理ヨリ推舉任任ス

第十八條 銀行ハ本店所在地ニ職員會ヲ設ケ總理協理董事監事ヲ以テ之ヲ組織シ營業上各項方針ヲ決定ス

其組織方法及議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 前條總協理ハ株數百株以上、董事監事ハ五十株以上ヲ有スルニ非サレハ株主ハ之ヲ選舉スルコトヲ得ス

第二十條 總協理ノ任期ヲ三年トシ董事監事ハ二年トス任期内ハ他銀行ノ職務ヲ兼任スルヲ得ヌ滿期後ハ公選重任スルコトヲ得
 第二十一條 華富殖業銀行ノ株主總會ヲ通常總會臨時總會ノ二種ニ分ツガ議事規則ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十二條 通常總會ハ毎年陽曆三月本店所在地ニ於テ一回開會シ總協理ヨリ召集ノ通知ヲナス此時ハ必ス前年度營業成績ヲ株主並ニ財
 部ニ報告スヘシ

第二十三條 總協理或ハ職員會カ重要事件アリト認メタル時ハ或ハ株主株數總額ノ五分ノ一以上ノ請求アル時ハ均シク臨時總會ヲ開會ス
 ルコトヲ得

第二十四條 株主ハ每一株ヲ以テ一表決權ヲ有ス、但シ一株主ニシテ十一株以上ヲ有スル者ノ議決權行使ハ詳細章程ニ於テ之ヲ定ム

第二十五條 華富殖業銀行ハ應ニ財政部ノ監督ヲ受クヘシ若シ一切業務ニシテ財政部ニ於テ本章程及法令ニ違背シタリト認メタル時ハ之
 ヲ制止スルヲ得

即チ本銀行ハ邊境開發ヲ目的トスル拓殖銀行ニシテ、其滿蒙回疆ヲ目的トスルニ於テ、東三省阜新
 殖業、民國實業銀行等ヨリ其企業範圍大ニ、殖邊銀行ト殆ンド同一ノモノト見ルベシ、設立後ノ營業
 狀態等ニツイテハ多ク聞ク處ナシ。

崇華殖業銀行

譚啓瑞、吳兆毅、段日陞等ノ主唱發企ニ係ル崇華殖業銀行ハ、資本金ヲ一百萬元トシ、公司條例ノ
 規定ニ照ラシ、總資本ノ四分ノ一ハ發起人ニ於テ擔任募集濟ノ上、現金二十五萬元ハ之レヲ銀行ニ預
 入レアルコトヲ證明シ、(內五萬元ハ北京銀號ニ、十五萬元ハ奉天銀號ニ)其證書ヲ添付シ、民國五年一月財政部ノ認可登錄ヲ願出

デタルヨリ、財政部ニ於テハ奉天財政廳及北京商務總會ヲ經テ調査ノ上、其確實ヲ認メ、登錄認可シ
 旨、銀行章程八章四十四箇條及ビ株式募集章程四章二十二箇條ト共ニ同年二月十四日ノ政府公報ヲ以
 テ公表セリ。

右ニ依レバ本銀行ハ實業ノ發展、金融ノ活潑ヲ目的トシ、本店ヲ北京ニ、支店ヲ蒙古東三省ノ各繁
 盛區域ニ設ケ、營業期間ヲ三十ヶ年トシ、專ラ十年賦ヲ期限トスル不動産ヲ抵當トシ、又五年ヲ期限
 トスル不動産ヲ抵當トシ、及ビ一年期限ノ動産有價證券ヲ抵當トシ水利、森林、墾牧、種植、鑛産工
 場事業ニ放資スルノ一般銀行業ニ從事シ、總資本ヲ一百萬元ト定メ、二萬株ニ分チ、支那人資本ノミ
 ヲ募集シ、發起人ニ於テ總株四分ノ一ヲ引受ケ募集シタル上、創立會ヲ召集シ、役員ヲ選舉シ正式登
 録ヲ受ケタル後、營業ヲ開始スベシト云フニ在リ。

其當時恰モ王承堯、譚啓瑞等ノ發企ニテ資金五百萬元ノ東三省阜新殖業銀行ヲ組織シ、財政部ノ
 批令認可ヲ得、更ラニ又五百萬元ノ資本ニテ阜新殖業公司ヲ組織セント企畫シタルガ、之ニ對シ北京
 ニ於ケル二三ノ新聞ハ、發起人王承堯ヲ攻撃シ、右計畫ノ如キハ其間欺瞞ノ點アリト稱シ、種々非難
 ヲ加ヘタル結果、財政部ハ認可ヲ取消サントスト迄傳ヘラレ、一面又王承堯ハ該新聞記事ヲ誣妄トシ
 テ、辯明ノ廣告ヲナシ居リシガ、之レト前後シテ突如本崇華殖業銀行ノ成立ヲ見ルニ至リ、而カモ其
 性質等モ略ホ同一ニ、又發起人譚啓瑞、吳兆毅等ハ同ジク阜新殖業銀行ノ發起人ナルヨリ、元來ハ阜

新殖業銀行ノ規模ヲ縮少シタルモノナランカトモ推測セラレタリ、阜新殖業銀行ガ其後何等ノ實績ヲ見ザルハ、或ハ此推測ノ當レルニアラザルヤヲ思ハシムルモ、本銀行モ其後實際ニ營業ヲ開始シ、其標榜セル目的ノ爲メニ何等ナシタル所ナキガ如シ、今其認可セラレタル章程ヲ掲出セン。

崇華殖業銀行章程

第一章 總 則

- 第一條 本銀行ハ實業ヲ發展セシメ金融ヲ活潑ナラシムルヲ以テ宗旨トナシ名ヲ定メテ崇華殖業銀行ト曰フ
- 第二條 本銀行ハ股份有限公司トナシ募集株主ハ専ラ支那人タルニ限ル
- 第三條 本銀行ノ資本ヲ銀一百萬元トシ發起人ヨリ之ヲ募集シ四分ノ一以上ノ應募額ニ達シタル時ハ創立會ヲ召集シ總理、協理、董事、監事、各員ヲ撰定シ財政部ニ登記ノ上營業ヲ開始ス
- 第四條 未募集ノ株ハ發起人ヨリ連帶擔任シテ全額ノ募集ヲナス
- 第五條 本銀行ハ總行ヲ北京ニ設ケ滿蒙東三省ノ各繁盛地ニハ順次分行或ハ代理處ヲ設ケ其都度財政部ニ其認可ヲ稟請ス
- 第六條 北京銀行ニ管理處ヲ附設ス其ノ權限ハ總理之レヲ執行ス
- 第七條 本銀行ノ營業ハ開業ノ日ヨリ起算シテ三十年ヲ以テ期限トナス滿期後株主總會ノ決議ヲ經テ財政部ノ許可ヲ稟請シテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 營 業

- 第八條 本銀行ハ左記範圍内ニ於ケル營業ニ從事スルコトヲ得
 - 一 左記各項ノ水利、森林、開墾、牧畜、種植、鑛產、工廠ノ抵當ニ關スル放款
 - 甲 不動産ヲ以テ抵當ト爲シ十年以内ニ分期償還スルモノ
 - 乙 不動産ヲ以テ抵當ト爲シ五年以内ニ定期償還スルモノ

丙 不動産或ハ有價證券ヲ以テ抵當トナシ一年以内ニ定期償還スルモノ

- 二 爲替ノ辦理及明拂手形ノ發行
- 三 國家及公共團體ノ債券其他殖產銀行債券ノ代理發行或ハ購買
- 四 生金銀及各種貨幣ノ賣買
- 五 各種預金ノ收受
- 六 其他銀行ノ業務代理
- 七 有價證券及貴重物品ノ代理保管
- 八 本銀行ハ中國銀行ニ向テ隨時商議ノ上中國銀行紙幣ヲ行使スルコトヲ得
- 第九條 抵當ト爲ス不動産ハ確實ニ收益ノ永續スルモノヲ以テ限リト爲ス若シ曾テ保險ヲ經タルモノハ須ラク保險ヲ附加シテ合同スヘシ
- 第十條 不動産ヲ以テ抵當ト爲ス放款ハ其總數ハ本銀行評定價額ノ三分ノ二ヲ以テ最大限度トナス其評價方法ハ原價ト時價ヲ比較シ其低キモノヲ以テ標準ト爲ス
- 第十一條 若シ房屋ヲ以テ抵當ト爲ス時ハ須ラク評價内ヨリ滿期ニ至ル銷耗數目若干ヲ減去シタルモノヲ以テ標準トナスヘシ
- 第十二條 債務者ハ放款償還力五分ノ一以上ニ至ル毎ニ本銀行ニ向テ抵當品相當ノ一部分ノ解除ヲ要求スル事ヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ
- 第十三條 債務者カ分年償還ノ義務ヲ履行シ能ハサル時ハ本銀行ハ抵當全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得
- 第十四條 本銀行ハ抵當品價格カ低落スルトキハ抵當ノ增加ヲ要求スルコトヲ得、債務者カ要求ニ應セサルトキハ本銀行ハ隨時全部ノ償還ヲ要求スル事ヲ得
- 第十五條 債務者カ第十三條、第十四條ノ要求ニ應セサルトキハ本銀行ハ其抵當品ヲ自由ニ處分スルノ權利ヲ有ス、其處分ノ結果所缺ノ元利ヲ清算シテ若シ不足アレハ債務者ニ補償ヲ要求スルコトヲ得、若シ餘剩アレハ則チ給還スヘシ

第十六條 本銀行ハ毎年帳簿締切後一ヶ月内ニ總行所在地ニ於テ總理ヨリ株主會ヲ召集ス

第十七條 總理カ重要事故ニシテ會議ノ必要アリト認メタル時ハ或ハ總株數ノ五分ノ一以上ノ株主カ重要事件ニ因リ理由書ヲ提出シ會議ヲ請求シタル時ハ均シク臨時株主會ヲ召集スヘシ

第十八條 本銀行各株主ハ一株毎ニ一議決權ヲ有シ一株主ニシテ十株以上ヲ有スルモノハ二株毎ニ一議決權ヲ有シ百株以上ノ者ハ五株毎ニ一議決權ヲ有シ一千株以上ノ者ハ十株毎ニ一議決權ヲ有ス

第十九條 株主事故アリテ會議ニ出席シ能ハサルトキハ委任狀ヲ他株主ニ託シテ代理決議ヲナス事ヲ得但シ株主以外ノ人ニ託スルヲ得ス其ノ委任狀ハ本銀行ニ保留シテ證據トナスヘシ

第二十條 株主ノ會議事項ニ特別ノ利害干係ヲ有スルモノハ其事故ノ決議ニ加入スルヲ得ス決議ノ數ハ他人ヲシテ代理セシメテ其議決權ヲ行使スルコトヲ得ス

第二十一條 株主會ノ決議事項ハ議決録ニ記載シ議長之ニ捺印ス

第四章 總理協理及董事監事

第二十二條 總理一人協理一人ヲ設ク均シク創立會成立セル時ハ一百株以上ノ株主中ヨリ選定シ當選者ハ財政部ニ報告シテ其許可ヲ受ク

第二十三條 總理ノ職務權限左ノ如シ

- 一 本銀行ノ對内對外事務ヲ綜理ス
- 二 株主及債券ニ署名捺印ス
- 三 行員ノ指揮並ニ監督
- 四 分行々長ノ委任(株主ノ推舉ニ由レルモノヲ以テ委任スルモ亦可ナリ)及行員黜陟
- 五 株主會及董事會ノ召集

六 會議ノ時議長ト爲ルコト

七 各種章程及辦事細則ノ編定

第二十四條 協理ハ總理ヲ補助シテ任務ヲ處理ス總理事故アル時ハ其職務ヲ代行スルコトヲ得

第二十五條 董事五人ヲ設ク創立會ヨリ五十株以上ノ株主中ヨリ選定シ財政部ニ之ヲ報告ス(以下省略)

浙江地方實業銀行

浙江地方實業銀行ハ當初浙江銀行ト稱シ浙江官錢局ヲ變更シテ純然タル商業銀行トナシ、官商ヨリ其資本金ヲ籌出シテ、官商ノ合同經營トナシタルモノナリ、其資本金ハ一百萬元ニシテ、之レヲ一萬株ニ分チ、内六千株、即六十萬元ハ、官ヨリ之ヲ支出シ、殘餘ノ四千株即チ四十萬元ハ之ヲ一般商民ヨリ募集スル豫定ナリシガ、民有株ハ全部ノ拂込アリシモ、官株ハ未拂込額二十九萬八百元アリ、依テ省庫ヨリ同行預入ノ綱捐三十萬元ヲ永久預入シオキ、以テ不足額ニ充ツルコト、ナシ居レリ、其營業ヲ管理スル爲メ官ヨリ一名ノ監理官ヲ派シテ、銀行一切ノ事宜ヲ司ラシメ、別ニ株主ヨリ總理、協理、董事等ヲ選舉シ、各々分任シテ營業經營ニ就キ監理セシム。

該銀行ノ主ナル業務ハ、浙江官錢局ノ辦理セルモノト大差ナシ、即チ商業銀行ト全ク相同ジク(一)短期貸附、(二)各種預金、(三)各種手形ノ割引、(四)送金爲替及荷爲替、(五)手形ノ代理取立等ヲ經營スルト共ニ、設立ヲ奏報セル文ニ見ルガ如ク、現時浙江省ニ流通セル貨幣ハ、墨西哥弗又ハ英洋銀

元ニシテ、其流通已ニ久シク、人民ノ慣用スル所タレバ、若シ是等ノ兌換券ヲ發行スルニ於テハ、浙江省財政ノ權ハ、外人ノ手ニ掌握セララルニ至ルベシ、故ニ本銀行ニ於テ浙江省流通ノ銀錢票ヲ發行シ、利權ノ外溢ヲ未前ニ防止セントシ、紙幣ノ發行ヲナメニアリ。

元浙江銀行ハ清末所設ノ浙江銀行ヲ改組シテ、民國元年一月開業セルモノニシテ、全省金庫ヲ經理シ、純然タル省立銀行ノ性質ヲ有シ、浙江、上海等ニ於テ紙幣ヲ發行セリ、後民國三年秋中國銀行杭州ニ分行ヲ設クルヤ、該行ハ金庫事務ヲ擧ゲテ、中國銀行ニ移シ、爾來專ラ實業銀行トシテ工業商業ノ補助ヲナスコト、セリ、其時偶々政府紙幣ヲ統一セントスルノ計畫アリシヨリ、本行又率先中國銀行紙幣ヲ領有シテ、之レヲ流通セシムルコト、シ、經理李馥蓀氏四年春入京シ、中國銀行ト契約シ、浙江銀行ノ所發紙幣ハ全部回收スルコト、セリ、第四期決算ノ時迄ニ發行セル中國銀行兌換券ハ、合計百四十四萬八千七百元アリ、中國銀行ニ存スル準備金八十萬四千元ナリ。

民國四年ヨリ浙江地方實業銀行ト改稱シ、杭州ニ本店ヲ上海、海門等ニ支店ヲ置キ、上海ニ於テハ他ノ中國、交通銀行ト共ニ上海公棧ヲ設ケ、又杭州ニ於テハ東棧ト稱スル倉庫ヲ設ケ、專ラ生糸、綢緞ヲ抵當トシテ預リ、コレニ對シテ資金ノ融通ヲナスノ途ヲ探レリ、現在ノ職員次ノ如シ。

董事 朱葆三 朱曉雨 樓映齋 胡濟生 王湘泉 顧竹溪 周季綸

袁仲符

稽查員 吳燦麟 錢新之

上海店經理 李馥蓀

杭州店經理 何敬安

海門店經理 韓懋棠

浙江地方實業銀行ノ民國六年營業純利ハ、洋十一萬一千二百五十四元ニシテ十二月末決算報告ニヨレバ定期預金ハ四十三萬八千元、當座預金一百九十九萬九千餘元、發行兌換券百五十萬六千餘元ニシテ、之ヲ上半期決算ト比較スレバ、發行額ハ約十餘萬元ヲ増シ、中國銀行預入準備金ハ八十七萬四千元アリ、之ヲ兌換券發行額ニ比スレバ、約五割五分ニシテ、上半期決算ヨリモ七萬元ノ増加ナリ、即チ之ニ依テ該行兌換券發行ノ増加ニ從テ、準備金モ増加セルヲ觀ルベシ、十二月末ニ於ケル該行貸出ハ、百二十八萬八千餘元、抵當貸付百二十八萬九千餘元、兩者合計ヲ上半期末ニ比スレバ、二十餘萬元ノ増加ナリ、浙江銀行貸付ノ本期回收セルモノ三千一百餘元、又本期利息收入モ、亦前期ニ比シ、二萬餘元ヲ増加セリ、該行ハ儲蓄處ヲ特設シテ以來、資本金中ヨリ十萬元ヲ支出シテ資本ニ當テ、同時ニ章程十一條ヲ規定シテ、財政部ノ許可ヲ得、杭州及上海ノ兩處ニ同時ニ開業シ、別ニ會計ヲ立テ、相混合セザル事トナシタルガ今回ノ決算ニ於テ兩處共ニ一千餘元ノ利益ヲ擧ゲ、更ニ定期預金一萬六千元、當座預金四萬八千餘元ヲ有シ、並ニ章程ノ規程ニ遵據シテ、預金ノ四分ノ一ヲ以テ內國公債券三萬元ヲ購買シ、之ヲ杭州中國銀行及上海興業銀行ニ分託シテ、保管シ以テ信用ヲ昭ニセリ、同年ノ配當ハ每株二元ナリト云フ、今該行第五期決算報告ニ據リ、其ノ營業ノ概況ヲ記セバ左ノ如シ。

杭州本店 該行ノ營業計畫ハ信用貸付ヲ減少シ、抵當貸付ヲ増加スルヲ以テ目的トスルガ故ニ、東倉庫ヲ擴張シ、擔保品ノ收容ニ便利ナラシムルニ努メツ、アリ、同行ハ東棧(東倉庫)ノ外ニ湖墅ニ以前一ノ米棧(米穀倉庫)ヲ有シタリシモ、其地位宜シカラズ、應用ニ適セザリシガ故ニ、別ニ湖墅仁和倉庫跡ヲ買取リ、之ニ修覆ヲ加ヘテ穀類倉庫ニ使用シ、名ヅケテ北棧トナシ、六年八月中開業セリ、爾來米ノ倉入ヲナスモノ、該貨物ヲ擔保ニ借入ヲナス者、漸次増加シツ、アリ、同所ハ錢塘江ヲ上下スル貨物ニシテ、必ス通過スヘキ地點ニテ、而カモ貨物ヲ收容スル倉庫ヲ有セザル點ヨリ、開口ノ家屋ヲ購買シテ、倉庫トナシ、之ヲ南棧ト名ヅケ、十月中開業シ、現ニ一般貨物及擔保貨物ヲ相當ニ收容セリ。

本期該行ノ抵當貸付、及同業貸付ハ、共ニ前期ニ比シテ多ク、所有中國銀行兌換券發行額モ、亦稍ヤ増加セリ、寧波獨立事件發生ノ際ニハ、預金ニ多少ノ動搖アリタルモ、間モナク原狀ニ復歸シ、今回ノ決算ニ於テハ、營業器具家屋其他ノ減價償却ヲ控除シタル外ニ、純益三萬八千二百餘元ニ達シタリ。

上海支店 上海市場ハ歐戰ノ影響ヲ受ケ、船腹減少シ、輸出入貨物均シク停滯シ、各業不振ナリシニ加ヘテハ、九月中銀塊相場異常ノ昂騰ヲナシテ、現銀更ニ多額ノ流失アリタル等、此兩種ノ原因アリテ金融ハ殊ニ恐慌ヲ呈シタルガ、該行ハ此市況ニ際シ、一意準備ニ重キヲ置キ現銀ヲ豊富ナラシメ

以テ信用ヲ加フルニ努メタリシヲ以テ、敢テ多クノ貸付ヲナサズ、其他一切ノ取引ニ慎重ノ用意ヲ以テ、健實ナル營業ヲナスコトヲ方針トセリ、而シテ其舊時ノ建物ハ、既ニ多年ヲ經、且ツ營業ノ用ニ合ハザルガ故ニ、更ニ増築ヲ行ヒ顧客ノ便利ヲ加ヘタリ、將來時局ニシテ安靜ニ歸セバ、同行ノ營業ノ發展ハ、必ズヤ見ルベキモノアルベシト期待セラル、本期決算ニ於テハ、銀行手形、印刷費、行用器具及ビ家屋建築費等ヲ控除シテ純益一萬五千餘元ナリ。

海門支店 海門ハ六年度ハ漁業甚ダ旺ンニシテ、秋期收穫モ亦豐作ナリシガ故ニ、市面甚ダ活潑ヲ呈シ、該行營業ハ總テ前期ニ比シテ増加ヲナシ、純益一千六百餘元ナリ、今浙江地方實業銀行第五期收支及貸借對照表ヲ參考ノ爲メ表示スレバ左ノ如シ。

貸借對照表 (民國六年十一月末)

負債ノ部	
資本	一、〇〇〇、〇〇〇元
特別積立金	二六、一八八
一般積立金	二五、七六五
定期預金	四三八、〇四二
當座預金	一、九九五、九〇一
票存	二、八五八
兌換券	一、五四六、三九〇

浙江地方實業銀行

支那金融機關

暫存存款	五七、〇二六
未拂利息	八五三
上期純利	五六、二一一
本期純利	五五、〇四二
計	五、二一三、二七九
資產ノ部	
未拂込株金	二九〇、八〇〇
有價證券	三二〇、七九二
銀行錢莊貸	四四一、七九八
往來放款	一、二八八、二四八
抵當貸付	一、二八九、二二八
浙江銀行貸	八一、四八二
中國銀行預	八七四、〇〇〇
銀行手形印紙費	一〇、〇〇〇
家屋地產	一一二、三六九
儲蓄處資本	一〇〇、〇〇〇
上海倉庫資本	六八〇
現金	四〇三、七七八
計	五、二三一、二七九

收支決算表

利息	八八、九三八
升水	三、七七四
房地產收入	六九六
口錢	七九
計	九一、四八八
支出	
總務處經費	四、五四三
各種支出	二三、九八一
減價償却	七、九二〇
本期純利	五五、〇四二
計	九一、四八八

次ニ同行歷年資産負債表次ノ如シ。

負債ノ部

期	次	積立金	特別積立金	定期預金	當座預金	票	存	兌換券	高	暫時預金	本期純利
五	上	三〇、五九	一五四、五六八	二八四、〇二四	一、二六八、八七一	六、六四六	六、六四六	六六、八九〇	五〇、四三六	五、七六六	五、七六六
五	下	一七、八七一	二七、七七四	四四、一八〇	一、九七、七三六	五、三	五、三	七六、〇〇三	二、二九一	五、七一九	五、七一九
六	上	二、七七三	二五、六六六	四六、二六五	一、二六、七六六	一、九九	一、九九	一、四八、七〇〇	五、二七三	五、二七三	五、二七三
六	下	二、七六五	二六、八八	四三、八〇四	一、九〇、九〇一	二、八五八	二、八五八	一、五、四六、九〇〇	五、七〇三	五、七〇三	五、七〇三

支那金融機關

一一一

(註) 特別積立金ハ元二十萬元アリ、官廳カ該行ヲ實業銀行ニ改組シ、發行權ヲ取消スニツキ獎勵金トシテ與ヘシモノニシテ
 專ラ從來ノ浙江銀行並中華民國浙江銀行ノ舊缺損ヲ填補スルノ用ニ充ツルモノナリ、實業銀行成立前ニハ舊缺損ハ浙江
 銀行貸付金項下ニ劃入シ、清理ニ從事シ、損失アレバ特別積立金中ヨリ支辦セリ、之レ該積立金カ年々減少スル所以ナリ

財產ノ部

期	次	有價證券	銀行錢莊 貸出預金	當座貸金	抵當貸金	中國銀行預 入準備金	土地家屋 器具	公棧資本	現 金
五年	上 半	二四、九三三	一五、九五四	五四五、三六七	一〇、七五〇	二九四、〇〇〇	四、三〇七	六八〇	二〇、四八〇
五年	下 半	二六、八三五	三四六、三八九	一、〇五八	一、二三五九	三五〇、〇〇〇	九、二七九	六八〇	四、九五四
六年	上 半	三〇、八五八	五四、八八五	一、二九二	一、一四八、九五	八〇四、〇〇〇	九、七六三	六八〇	六、八二五
六年	下 半	三〇、七九二	四四、七九八	一、二八二	一、二八九、三九	八七五、〇〇〇	一一、三六九	六八〇	四、〇三七

上海商業儲蓄銀行

本銀行ハ民國四年六月ヨリ上海ニ開設セラレタル商業銀行ニシテ、貯金ヲ兼營ス、同行資本中ニハ
 外人資本モ加ハリ居リ、外人中ヨリ監査役ヲ擧ゲタルガ、設立以來着々成績擧ガリ、支那ニ於ケル近
 來ノ企業中最モ成功セルモノ、一ナリトス、同行資本金ハ開業ノ當時僅カニ十萬元ナリシガ、後二十
 萬元ニ増加シ、更ニ又十萬元ヲ増募シ計三十萬元トナセリ。

普通營業ノ外中國、交通、興業、浙江實業、鹽業各銀行ト共同シテ、上海ニ上海公棧ヲ設ケ以テ倉
 庫ヲ兼營ス、上海本店ノ外無錫、蘇州ニ支店ヲ設ケ、常州、南通、南京、下關等ニ分理處アリ、其職

員次ノ如シ。

- 總 董 莊得之
- 副總董 林 絳 秋
- 董 事 徐 秀 森 李 履 蓀 樓 暎 齊 金 伯 平 孔 庸 之 鍾 紫 垣 王 曉 穎
- 孫 景 西 唐 露 園
- 總 經 理 陳 光 甫
- 副 經 理 楊 敦 甫 朱 成 章

同行ノ營業狀態ハ非常ニ良好ニシテ、資本金僅々三十萬元ヲ以テ、既ニ百五十六萬六千餘元ノ預金
 ヲ吸收セルガ收益亦從テ多ク、一九一五年七月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル營業期間ハ五分ノ配當
 ヲナシ、爾來同様ノ配當ヲナシ、一九一六年以來此外三分ノ特別配當ヲナシ、一九一七年上半年期ニハ
 五分ノ外二分五厘ノ特別配當ヲナセリ、其歷年ノ純益額左ノ如シ。

- 第一期 自開業至四年十二月 四、四八〇、一六六
 - 第二期 自五年一月至六月 九、七四四、三五四
 - 第三期 自五年七月至十二月 三三、四八〇、七三九
 - 第四期 自六年一月至六月 二六、三九六、六〇〇
- 次ニ同行一九一七年上半年期損益表貸借對照表ヲ示セバ次ノ如シ。

損益計算書

上海商業儲蓄銀行

一一三

支那金融機關

支出ノ部

總營業費	一八、五九〇、七七
監查役俸給	三四四、八三
家具及附屬品減價償却	三五二、二八
無錫支店開業費	一、一六四、四五
六ヶ月間利益戻	二二、六三七、三七
計	四四、〇八九、七〇
收入ノ部	三五、六九五、九三
利息	八、三九三、七七
爲替、口錢、其他	四四、〇八九、七〇
計	四四、〇八九、七〇

貸借對照表

負債ノ部

資本金	三〇〇,〇〇〇,〇〇
積立金	六,〇〇〇,〇〇
爲替準備金	四,〇〇〇,〇〇
當座勘定	九五八,四二三,四九
定期預金	五九八,九〇九,八四
コール預金	三八,七二四,三一

上海商業儲蓄銀行

合計

貯蓄	一、五九六、〇五七、六四
未拂銀行手形	七二、〇三一、一〇
發行爲替手形	四一、〇八一、九四
支拂同	三、五五一、七二
利子假勘定其他	八、五三六、〇〇
未拂配當	三、六二二、九五
損益計算	四二〇,〇〇
前期ヨリ繰越	二四、七五九、二三
養生學校費	五〇〇,〇〇
社員賞與	四、五〇〇,〇〇
積立金	五、〇〇〇,〇〇
爲替準備	二、〇〇〇,〇〇
二十萬弗ニ對スル二分五厘ノ後期配當(年五分)	五、〇〇〇,〇〇
同二分五厘ノ特別配當(年三分トナル)	五、〇〇〇,〇〇
計	二二,〇〇〇,〇〇
差引	二,七五九、二三
下半年利益	二二,六三七、三七
合計	二六,三九六、六〇
上海商業儲蓄銀行	二,〇六一、六九七、九五

支那金融機關

資産ノ部

手許現金有高	三四八、八二七、九五
銀行同	三五四、五四九、四二
投資	七〇三、三七七、三七
借取當座勘定	二二、七〇六、四二
擔保附借越當座勘定	一八六、七〇二、七六
定期借入金	二七二、〇六五、二一
コール借入金	六三八、六四六、五二
聯合借入金	一四七、五二〇、八六
割引手形	四〇、九四三、二六
荷爲替手形	八二七、一一〇、六四
受入手形	七、二九六、五五
銀行組合建築資金	一一、一五二、八七
雜頁債	一一、二八二、三二
家具及附屬品	五、四三一、七二
豫備資	二、一一二、〇九
合計	六、四六〇、〇〇
	五、〇〇〇、〇〇
	二、〇六一、六九七、九五

尙同行歷年ノ營業成績要領ヲ示セバ次ノ如シ。

負債ノ部

期	次	資本金	積立金	兌換準備金	定期預金	當座預金	票據預金	儲蓄預金	暫時預金	每期純利
第一期	期	100,000	1,000		3,497	3,497	3,497	1,883		4,480
第二期	期	100,000	1,000		4,716	4,716	4,716	3,546	43	9,660
第三期	期	100,000	1,000	2,000	5,010	8,007	4,049	4,515		3,760
第四期	期	100,000	6,000	4,000	5,969	9,583	4,081	7,031	3,574	3,530

資産ノ部

期	次	現金	貸出金	購入證券	當座透款	定期貸抵	當座貸抵	抵當貸金	割引貸出財	産
第一期	期	1,343	1,478	3,019	1,990	1,218	2,058	2,133		3,056
第二期	期	2,449	1,876	1,592	2,737	4,351	1,923	1,018		3,988
第三期	期	3,949	2,626	1,592	2,018	6,617	1,812	2,275	42	5,240
第四期	期	3,887	3,549	2,376	4,867	6,866	1,475	4,943	726	6,460

浙江興業銀行

浙江興業銀行ハ光緒三十二年ノ創立ニシテ、既ニ十有一年ノ歴史ヲ有ス、當時設立ノ趣旨ハ全浙鐵路ノ金融機關トナサントスルニアリ、元全浙鐵路ニ鐵路銀行ヲ附設セントセシモ、後銀行ヲ鐵路ニ屬セシメバ、資金自ラ混雜シ、損益金額彼是牽連スルノ虞アリ、且銀行ノ資金ヲ單ニ鐵道株主ニノミ求ム

ル時ハ、恐ラク不足ナルベク、若シ鐵路公司ヨリ資金ヲ立替スル時ハ、路款ハ元造路ノ用ニ充ツルモノナレバ、一時ハ急ニ應ズルヲ得ルモ、將來返還スル能ハザル時ハ困難スベシトノ意見アリ、遂ニ本銀行ヲ以テ株式組織トナスコト、シ、目的モ亦實業振興ニ資セントスルニ改メ、遂ニ浙江興業銀行ト定メタリ、資本金ハ暫ク鐵路公司ヨリ其一半ヲ負擔シ其他ハ他ヨリ株ヲ募集シテ之レニ充テタルガ、後鐵路公司資金ヲ要スルガ爲メニ、其持株ノ五分ノ二ヲ賣出セリ、民國成立後鐵路ハ政府ニ於テ收回シテ、國有トナセシヨリ、該株主ハ更ニ鐵路公司所有株式ヲ悉ク買戻シ、其組織ヲ新ニシ浙江鐵路ト取引勘定ヲ清算シ、遂ニ完全ノ民有株式ニヨル實業銀行トナセリ。

該銀行ノ資金ハ一百萬元ニシテ、コレヲ每株一百元一萬株ニ分チ、開業ノ初四分ノ一ノ拂込ヲナシ、翌年第二回拂込ヲナシ、其後民國ニ至リ、四年、六年ノ二回ニ殘額ノ未拂株金ノ拂込ヲ了シ、今ヤ全額ノ拂込ヲ終レリ

該行本店ハ元杭州ニアリ、光緒三十四年漢口上海ニ支店ヲ設ケタリ、然ルニ杭州ハ交通不便ナルヨリ、民國四年本店ヲ上海ニ移シ、杭州ハ支店ニ改メ、次イデ北京、天津ニ支店ヲ、奉天、哈爾濱ニ出張所ヲ設ケタリ、尙其役員次ノ如シ。

- | | | |
|-----------|-----|-----|
| 總辦事處(本店內) | 董事長 | 葉景葵 |
| 辦事董事 | 蔣鴻林 | 沈銘清 |
| 董事 | 胡煥 | 周慶雲 |
| | 張鑑 | 王錫榮 |

- | | | |
|---------|-----|-------------|
| 監察人 | 蔣汝荃 | 陳敬第 |
| 上海本店經理 | 盛竹書 | 副經理 徐寄庠 楊介眉 |
| 杭州支店經理 | 張篤生 | 副經理 倪秋泉 |
| 漢口支店經理 | 史晉生 | 副經理 王稻坪 |
| 天津支店經理 | 潘履園 | 副經理 馬文甫 |
| 北京支店經理 | 汪卜桑 | |
| 奉天出張所主任 | 婁雁笙 | |
| 哈爾濱出張所同 | 樊仰庭 | |

浙江興業銀行ハ前清ノ末以來杭州、漢口、上海各地ニ於テ紙幣ヲ發行シ、廣ク通用セリ、後民國四年中國銀行ト特約ヲ結ビ、前ニ發行セシ紙幣ヲ收回シ、中國銀行兌換券ヲ領有シ、代ツテ之レガ發行ヲナセリ、其額ハ三百萬元トシ、特約有効期限ヲ四十二年トセリ、同行民國五年度報告ニヨレバ舊發行紙幣回收高九十四萬九千五百元ニ達シ、内八十萬元ハ中國銀行ト會同ノ上銷燬シタルガ尙未回收ノモノ五百萬元アリ、該銀行領用ノ中國銀行兌換券ハ始メ上海ニ於テ發行シ次イデ天津、杭州、漢口ニ於テ發行シ、民國五年十二月末ニ於テハ上海ニ於テ八十萬元、杭州ニ於テ三十萬元、漢口ニ於テ五十萬元、天津ニ於テ二十萬元合計百九十萬元ヲ發行セリ、而シテ該行ニ於テハ之等紙幣ニ對シ中國銀行ニ於テ準備金ヲ設クル外ニ自ラ兌換準備ヲ供ヘ、民國五年度ノ末ニ於テハ其發行紙幣百九十萬元ニ對シ中國銀行内ニ現金準備九十五萬元、保證準備四十七萬五千元アリ、本行ニ現金準備四十七萬五千元

支那金融機關

アリ、合計右發行總額ト同額ナリ。

民國五年十二月末同行第十營業期末ニ於ケル其資產表次ノ如シ。

未拂株金	二五〇、〇〇〇、〇〇〇
現金	一、四四四、〇七五、四一
銀行錢莊ノ預金貸出(六十六月)	一、八六〇、二〇七、九〇
準備金	一、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇
抵當貸金(百五十月)	一、〇一三、八一九、〇〇九
當座貸越(四十四月)	五五三、五三五、八〇
信用貸金(百七十六月)	一、一六六、八五八、三一
割引(二月)	八、九四四、四四
過期貸金(十九月)	九九、八〇二、一六
有價證券	四二一、三八九、七一
賣買貨幣	一三、七三四、〇三
外國貨幣	一三七、六七五、二五
家屋土地並器具	四二一、一六六、〇一
沒收抵當品	二二、二七〇、三七
押租	一、五四一、八三
暫核利子	六〇二、四九
計	九、三二四、六二二、八〇

尙同行預金次ノ如シ。

定期預金	百五十萬二千元
各種當座預金	三百五十二萬二千元
各種暫時預金	八十五萬元
各種票存	十萬元

更ニ又同行歷年營業狀況ヲ表示スレバ次ノ如シ。

財產ノ部

決算期	現金	中國銀行準備金	有價證券	押款	家屋土地器具	銀行錢莊ノ預金貸出	信用貸金	當座貸越
第一	五〇、五九四			二二、五九四	一、三六八		二、三六八	
第二	三三、〇二二			七、二一九	一、七五〇		一、四四一	
第三	九七、五九七			八、七三三	一、五八八		二、四七三	
第四	一四三、三三八			九、七四八	二、三四〇		二、八二一	
第五	一四一、一九四			八、六一七	二、八〇〇		九、九四一	
第六	一〇〇、八九八			七、二七〇	二、八五五		一〇、〇三九	
第七	七四、八八七			六、六六三	二、八六一		八、〇八一	
第八	一六四、八六五			一〇、〇六七	二、九〇八		二、五九〇	
第九	七二、三三九			六、六八三	二、七五九		一、九七三	
第十	一、四四、〇七五	一、〇〇〇、〇〇〇	四、二二、三六八	一〇、三八九	四、二二、三六八	一、八〇、二〇七	一、六六、八五八	五、五三、五八〇

負債ノ部

浙江興業銀行

(單位元)

決算期	發行ノ中國銀行紙幣	本行舊券	積立金	定期預金	當座預金	各種預金	票存	每年純利
第一		三,200		一,977,553	一,777,523	5,060	三,570,000	一,275,555
第二		三,862,650		一,777,523	二,777,523	六,433,939	一,749,937	天,七七五
第三		七,100,000		二,777,523	二,777,523	二,923,937	五,676,330	五〇,三三五
第四		九,281,810		二,777,523	二,777,523	三,〇〇,〇〇〇	五,六七一七	二九,四八〇
第五		一,九七三,三八		一,八八八,八五八	二,七二二,二九	三,三三〇	六,二四〇八	四六,六九七
第六		六,四二一,八〇		七,七七七	二,七二二,二九	三,三三〇	三,〇〇〇	六六,六〇九
第七		九,三七七,一〇〇		三,四八七	二,六〇〇,七〇七	六,四二八	二,四六,一〇〇	一九,五五〇
第八	一,150,000	九,三三〇,〇〇〇		六,三三〇,〇〇〇	三,九七七,七三	七,七二五七	四,四七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
第九	一,150,000	四,九七七,〇〇〇		一,八七七,五	四,三三〇,六九四	一,七二,六二八	一,三六,一三三	九七,八三三
第十	一,900,000	五,〇五〇	三,〇〇,六三三	五,〇五〇,〇〇〇	四,三三〇,六九四	八,〇〇,〇〇〇	四,九七,五五	一八,八三三

中孚銀行

中孚銀行ハ孫蔭亭ノ發企ニヨリ民國五年十一月天津ニ創立セラレタル株式組織ノ銀行ニシテ、資本金二百萬兩、内百二十萬元拂込済ナリ、天津本店ハ民國五年十一月七日開業シ、尋デ六年四月二十五日上海分行ヲ開キ、漢口ニハ當初爲替取組所ヲ設ケ後六年十月十六日分行ニ改メ、北京ニハ六年三月ノ交分行ヲ開キ、其他南京、鎮江、揚州、蚌埠、徐州、蘇州、寧波、杭州、香港、廣東ニ代理通滙所アリ、開業以來成績良好ニテ、天津ノ如キ五年十一月開業ヨリ、六年六月末ニ至ル間ニ預金額百七十

餘萬元ニ達セリ、其本支店職員次ノ如シ。

- 董事長 孫多森
- 董事 傅增湘 王錫彤 袁乃寬
- 監察人 王克敏 李湛陽
- 總管理處 總理 孫多森 總文書兼稽核 卞壽孫
- 總會計 秦開
- 天津本店 總理 沈繼武 副總理 卞壽孫
- 上海分行 監理 聶其偉 經理 孫元方
- 副經理 謝永淇
- 漢口分行 經理 金廷蔚 副經理 陳沂
- 北京分行 同 楊瑜統 同 季汝揖

民國六年六月ニ至ル第一期報告次ノ如シ。

資產負債表

資本金	二,〇〇〇,〇〇〇元
定期預金	三,五三,七四七,二三
當座預金	一,〇一八,六三九,二六
通知預金	四一,六三七,七五
本票	四二,七六二,九七

中孚銀行

支那金融 關	暫時預金	三一九、八九六、五三
	儲蓄預金	二、一八八、九〇
	支拂手形	一、三〇〇、〇〇
	本期純益	六、七二四、二一
合計		三、七八六、八九六、八五
資産ノ部	未拂込資金	九八〇、〇〇〇、〇〇
	定期貸金	四二九、一九一、〇四
	定期抵當貸金	五一八、五三九、九二
	割引貸出	五七、九一六、一七
	當座	一九九、九六三、九〇
	押匯	一、三六〇、九二
	暫記	三六、一六八、〇四
	有價證券	一、一六五、八六
	總分行取引金高未記帳	七、三〇四、四八
	開辦費	二八、八二一、四七
	家屋土地	五、〇九三、四〇
	器具整修	一五、〇四三、四七
	各銀行預金	一、〇一一、一四、八六
	現金	四九五、二一三、三二

損益表

合計	三、七八六、八九六、八五	
損失ノ部	各項支出	二八、五二三、九二
	開辦費分拂	二、九二二、四二
	土地家屋分拂	二六八、〇七
	器具裝修分拂	二、二三二、一九
	雜損益	一、六八四、二六
	手數料	七九、三八
	本期純益	六、七二四、二一
計	利益ノ部	四二、四三四、四五
	利息ノ部	二七、一二一、〇四
	爲替料	四八七、四四
	爲替差益	一四、八〇八、四七
	有價證券損益	一七、五〇
	計	四二、四三四、四五

金城銀行

民國六年五月資本金二百萬元ヲ以テ設立セラレタル、株式組織ノ商業銀行ニシテ、本店ヲ天津ニ置

キ、支店ヲ北京、上海ニ設ケ、其他各地ニ代理店アリ、其營業ハ普通銀行ト同ジク預金、貸出、爲替等ニシテ、開業ノ始資本額ノ四分ノ一則五十萬元ノ拂込ヲナセリ、創業日尙淺キモ營業極メテ銳進シ民國六年度營業報告ニヨレバ各種預金合計四百六十餘萬元、各種貸付金三百七十餘萬元アリ、六年五月ノ開業ヨリ、同年十二月ニ至ル八ヶ月間ニ於テ十三萬九千七百五十元七角四分ノ利益ヲ得、各項支出、營業用家屋什器ノ償却等ニ要セシ四萬三千六百七十一元二角三分ヲ除クモ、尙九萬六千七十九元五角一分ノ純益アリ、同行總董ハ王郅隆ニシテ、監察人ハ郭善堂、胡筠、總經理人ハ周作民タリ、民國六年度ノ資產負債表、損益表、利益分配表次ノ如シ。

資產負債表

資本	二、〇〇〇、〇〇〇元
定期預金	八九一、二五一、四一
當座預金	三、一五五、六六一、八八
暫時預金	五五四、三八四、一四
存款票據	九、五四五、三八
支拂手形	八、二〇〇、〇〇
未拂利子	五、五二五、〇四
本年純利	九六、〇七九、五一
合計	六、七二〇、六四七、三六

資產ノ部

未拂込資本	一、五〇〇、〇〇〇元
定期貸付金	四五五、二七一、四一
抵當貸付金	六四四、二二九、九五
當座貸越	一八七、二九一、九九
貸付金	二、四九五、九〇六、七一
有價證券	二七、四八三、五〇
外埠同行取引勘定	一四、〇八五、六四
營業用家屋器具	二四、六三六、一五
生金銀並貨幣	一六、八二〇、〇〇
未收利息	一一、七二三、六三
手許在 金	一、三四三、一九八、三八
合計	六、七二〇、六四七、三六

損益表

各項支出	三七、七九二、〇〇元
手續費	四二五、〇〇
營業用家屋器具償却	五、四五二、〇〇
本年純利	九六、〇七九、〇〇
合計	一三九、七五〇、〇〇

支那金融機關

利益ノ部

利息	九七、九六七、〇〇
爲替料	一三、一六一、〇〇
餘水	二六、七四二、〇〇
平色	一、三二五、〇〇
雜損益	五五四、〇〇
合計	一三九、七五〇、〇〇
純利	九六、〇七九、五一
積立金	一四、〇〇〇、〇〇
配當平均積立金	一六、〇〇〇、〇〇
本年度配當(年一割二分)	四〇、〇〇〇、〇〇
行員賞與金	二四、六〇〇、〇〇
後期繰越	一、四七九、五一

利益分配表

江蘇銀行

江蘇銀行ハ江蘇官銀號ヲ民國元年二月改稱シタルモノニシテ、資本金ヲ一百萬元トシ、内六十萬元ハ江蘇財政司ヨリ支出シ、本店ヲ上海ニ、支店ヲ南京、鎮江、蘇州、揚州、常州、無錫ニ置キ、省内

金庫事務ヲ取扱フ外、官民及一般人民ノ預金ヲ取扱フ、其ノ主ナル營業ハ送金爲替ニシテ、各縣徵收ノ漕糧、地租、其他ノ諸稅ノ總テ同行ニ保管シ、行政長官ノ命令ニヨリ隨時支出シテ、行政經費ニ充テ、又中央ニ送金ス、從テ爲替ノ取組モ、大部分ハ官金ニシテ、商業爲替ハ僅ニ三分ノ一ニ過ギズ、貸付ハ借受人ノ名義如何ニ拘ハラズ、一切之ニ應ゼズ、稀ニ抵當貸ヲナスコトアルモ、極メテ確實ノモノニ限リ、錢莊發行ノ莊票ハ、即時之レヲ現銀ニ引換ヘ、約束手形ハ期限ノ長短ニ拘ハラズ、一切之レヲ拒絕シ、即時拂ノ手形ト雖モ、現銀提供ノ後ニアラザレバ記帳セズ、民國三年三月江蘇民政長ハ本行ノ官金出納事務ニ關スル章程ヲ發布セリ。

本行ハ元ト資本金一百萬元ナレドモ、民國三年秋省庫ニ對シ四十萬元ヲ納メタルヲ以テ、爾來資本金ハ六十萬元ト公稱シツ、アリ、其本店ハ上海ニ置キ、江寧、松江、南通、清江、揚州、常州、無錫等ニ支店又ハ代理店ヲ設ケ其職員次ノ如シ。

- | | | | |
|---------|-----|---------|-----|
| 總理處總理 | 潘季儒 | 儲蓄處總理 | 潘明師 |
| 上海總行經理 | 張知室 | 無錫分行理事 | 陳省三 |
| 蘇州分行理事 | 孫伯翔 | 南京分行理事 | 金調生 |
| 清江分行理事 | 夏馨園 | 下關滙兌處主任 | 蔣瑞成 |
| 南通分行理事 | 顧伯言 | 蚌埠滙兌處主任 | 何萬昌 |
| 徐州滙兌處主任 | 喬治信 | | |

同行章程ニヨル業務次ノ如シ。

- 一、短期割引
 - 二、生金銀買賣
 - 三、爲替業務
 - 四、預金
 - 五、貴重品保護預
 - 六、金銀或確實ノ倉庫證書擔保ノ貸付
 - 七、本省地方公債及公金取扱
 - 八、本省行政公署ニ對スル借款但シ其總額ハ資本ノ四分ノ一ヲ超ユルヲ得ズ。
- 而シテ次ノ業務ハ章程ニヨリ之レヲ取扱フコトヲ禁ゼラル。
- 一、本條例營業範圍外ノモノ
 - 二、錢莊及實業公司株券生命保險公司保險證書等ノ收受
 - 三、工商業ノ經營、又ハ他人ニ代リ工商業ヲ經營スルコト
 - 四、不動産ノ賣買又收押
- 本銀行ハ上海、寧波、蘇州三處ニ於テハ儲蓄ヲ兼營ス、民國六年第十一期報告ニヨレバ之等ノ預金總額三十六萬餘元アリ、又上海總行ハ老棧、東棧、西棧ノ三倉庫ヲ無錫分行ハ瑞豐棧ヲ有シ南京分行モ

倉庫一處ヲ有ス。

南通支店ニテハ中國、交通兩銀行ノ未ダ支店ヲ設ケザルノ前ニ、紙幣ヲ發行セシニ、信用良好ニシテ其額五萬元ニ上リ、後收回セルモ第十一期決算ニヨレバ尙ホ未回收ノモノ五千七百四十六元アリ。

江蘇銀行民國六年上半期(第十一期)ノ貸借對照表ヲ示セバ次ノ如シ。

資本金	借方
六〇〇,〇〇〇元	
積立金	一一五,四二〇
特別積立金	二一,〇〇〇
家屋基本金	二七,一二三
紙幣	五,七四六
當座預金	九七四,九九二
定期預金	五〇四,七二七
滙兌票存	一〇,一八〇
票存	三一,七四六
江蘇省庫款	一〇七,八七一
江蘇省公債票準備金	七,〇一四
江蘇財政處各項公款	二七,五〇二
利息	四八,九五二
總計	二,五五二,二七六

支那金融機關

現貨	四九八、一一〇元
各銀行預入	一五五、七五六
當座抵當貸	二七八、七四〇
定期抵當貸	一、一三二、五三六
押租及墊費	九、一〇八
證券有高	二一四、九六七
押匯	一九、九三〇
紙幣印刷費	一九、七三二
開辦費	二、三四五
預金利息	一五、〇七七
儲蓄處資本	一〇〇、〇〇〇
生財	八、八四七
家屋	九七、一二三
總計	二、五五二、二七六

尙同行ノ六年七月ヨリ十二月ニ至ル下半年成績ヲ見ルニ、本支店ヲ通ジテ良好ナル結果ヲ示シ同期ノ本支店純益ヲ表示スレバ左ノ如シ。

純利益	一五、八六九元二
儲蓄處利益	一、〇六九元三七

上海本店

蘇州支店	五、〇四四、三一	二〇三、五〇
無錫同	五、八五七、〇六	二〇三、五〇
鎮江同	三、七七二、〇六	
通州同	三、〇〇四、六六	
南京同	一、二一七、四二	一一四、一七
下關同	一、三二一、一九	
蚌埠同	一〇四、四八	
徐州同 缺損	一、〇九二、〇三	
差引純益合計	三六、四八四元三角〇四厘	
上半期純益	三二、三六七元六角五分七厘	
計	六八、八五一元九角六分一厘	

信成銀行

上海昌昇鐵號主人無錫人周舜臣ノ發起ニ係ル、株式組織ノ銀行ナリ、當初資本額五十萬元、内二十五萬元ハ同氏一人ノ引受額ニシテ、他ハ一般ノ應募トス、毎株五十元ニシテ、一株ノ拂込額貳拾五元即チ貳拾五萬元ノ拂込額ナリトス、支那ニ於ケル民業銀行業ノ先驅ニシテ、光緒三十二年設立セラレ本店ヲ上海ニ設ケ、無錫、蘇州、南京等ニ支店ヲ開設セリ、營業ハ普通商業銀行事務ノ外ニ、貯蓄預金ヲ取扱ヒ、且ツ百元、五十元、十元、五元及一元ノ五種銀行券ヲモ發行ス。

信成銀行

本行ハ經營其宜ヲ得タル爲、年來成績良好ニ、其銀行券モ信用アリ、嘗テ前清ノ末年、上海金融界ニ大恐慌アリ、殆ンド全部ノ支那銀行券ハ流通セザリシガ、本銀行ノモノ、ミ外國銀行券同様ニ流通セリ。

嘗テ澳國資本家ハ北京ノ同國公使ヲ經テ、周總理ニ對シ之ヲ兩國資本家共同出資ノ大銀行トナサンコトヲ提議セシガ、拒絕セラレタルコトアリ、後業務發展ト共ニ増資ヲ行ヒ、今ヤ其公稱資本額二百萬元ニシテ、拂込額ハ百十二萬五千元ナリ、一九一二年九月調査ニヨレバ、其發行銀行券總額五萬元ナリ。

工商銀行

工商銀行ハ民國六年三月、主トシテ海外ニ關係ヲ有スル支那人ニヨリ組織セラレタル銀行ニシテ、英名ヲ (The Industrial and Commercial Bank, Ltd.) ト云ヒ同年三月三十日香港ニ於テ登録セラレ、同地ニ本店ヲ置キ、資本金壹百萬弗(香港弗)ニシテ、同年五月、リ開業セリ、而シテ發企人ノ計畫ヲ聞クニ、同行ハ目下ノ所一百萬弗ノ資本ナルモ、今後五ケ年ノ後ニハ、五千萬弗ニ増資セン計畫ニシテ、支那及海外ノ重要都市ニハ、支店ヲ設ケ、追テハ上海ニ其本店ヲ移サントスルモノナリ、銀行ノ主眼トスル所ハ、現在ノ支那經濟組織ヲ統一シ、支那ニ於テ將來興ルベキ諸工業ニ對シ、努メテ諸種

ノ援助ヲ與ヘ、一方海外ニ於ケル商業家ト、支那内地生産業者間ノ聯絡ヲ計ラントスルモノニシテ、創立發起者ノ言ニ據レバ、支那ニハ製造家ガ、銀行ヲ經テ個人ノ貯金ヲ利用シ得ベキ、理想的銀行ニ乏シク、比較的低利資本ヲ運用スルコト不可能ニシテ、工業ノ發展上ニ一大障礙ヲナシ居ルヲ以テ、該銀行ニテハ開港場ト共ニ、奥地ニ支店ヲ設ケ、支那ノ富裕ニシテ廣大ナル天然財源ヲ開發スルニ努ムベシト云フ。

又近來支那人識者間ニ於テハ、支那奥地ニ新式銀行ノ設ケナク、貿易業者ハ海外ト直接取引ヲ行フヲ得ズ、一度開港地ヲ經ザルベカラザルノ不便アルヲ感ジツ、アレバ、右工商銀行ハ、此點ノ不便ヲ救ハンガ爲メ、遠ク奥地ニ迄支店ヲ開設シ、支那土耳其斯坦邊ニ於テモ、紐育或ハ倫敦ト直接取引ヲ行ヒ得ル様ニナサントスルモノナルガ、其ノ銀行紙幣ハ充分ナル準備金ノ下ニ發行シ、且ツ支那各地支店ヲ通ジテ一定價格トナシ、甲地發行紙幣ハ乙地ニ於テ割引使用セラル、ガ如キコト無カラシメ、以テ貿易上ノ障礙タル支那幣制ノ混亂ヲ改ムルニ努力スベシト云フ、而シテ同銀行株主ノ多クハ海外在留ノ支那人、若クハ支那ニ於ケル上流階級者ニシテ、當事者ハ何レモ海外留學ヲ畢ヘ、夫々官邊又ハ事業界ニ於テ銀行業及實業ニ經驗ヲ有セルモノニシテ、其頭取タルベキ Tin Tauchang 氏ハ以前保險會社ノ支配人タリシ人ニシテ、市加古大學ヲ卒業シ、廣東政府ノ公共事業委員タリシコトアリ、其他發起人諸氏何レモ「コロンビヤ」、紐育、「ボストン」等ノ大學ヲ畢業セルモノナリ。

尙該銀行ハ既ニ數年前ニ開設セラルベキ等ナリシモ、當時袁世凱政府當局者ノ反對アリ、爲ニ之レヲ實現スルニ至ラズシテ止ミタルモノナリト。

各省官銀行

各省ニハ概ネ官立ノ銀行若クハ官銀號官錢局ト稱スルモノアリ、往々官商合辦ニ係ルモノモアリ、以テ該省ノ金庫事務ヲ取扱フ、抑モ官銀號ナルモノハ、前清時代官金取扱ノ爲ニ生ジタルモノニシテ其初ハ官營ニアラズシテ、官憲ノ特別認可ヲ得テ殷實ノ商戶之ヲ經營シ、而シテ其取扱フ官銀ノ種類ニヨリテ、各其名稱ヲ異ニセリ、即チ戶部ノ金ヲ取扱フモノヲ戶部官銀號ト云ヒ、布政司ノ地丁錢糧其ノ他ノ租稅ヲ取扱フモノハ藩庫官銀號ト云ヒ、海關稅ノ出納ヲ司ルモノハ海關官銀號ト稱シ、鹽稅ヲ管スルモノヲ鹽運庫官銀號ト稱セリ。

後光緒ノ末造ニ至リ是等各種官銀號統一ノ方針ヲ採リ、各省概ネ一官銀號トシ、以テ其省内各種ノ官金ヲ取扱ハシムルコトトシ、併セテ紙幣ノ發行ヲモ爲サシメタリ、是等各種ノ官銀號ガ如何ニシテ統一セラレタルヤハ明カナラザルモ、新設ノモノハ多クハ官銀行ト稱シ、官設ニ係レリ、宣統元年九月度支部ヨリ各省ニ對シ、官銀號ノ増資ヲ訓令シタルコトアリ、多少當時ノ事情ヲ知ルノ便アルヲ以テ之レヲ次ニ掲出セン。

各省官銀行ニ付テハ前ニ章程ヲ設ケ、財政整理完了後ハ、已設ノ銀行ハ其事業ヲ擴張スベク未設ノモノハ官銀錢局ヲ章程ニ從テ改設スヘキ旨通知セリ、抑モ官設銀行ハ國家銀行ト同ジク、財政ヲ維持整理スルノ責任ヲ負フモノニシテ、經營スベキ事項甚ダ多クレバ、資本ト積立金ヲ充分準備增加シ、金融ノ敏活ヲ輔ケザルベカラズ、然ルニ現在各省官設銀錢局等ハ、積立金モ少ク、又資本モ往々充分ナラズ、多キモ一二百萬兩、少キハ僅カニ數十萬兩ニ過ギズ、且ツ時々流用貸出ノ事アルハ、決シテ根基ヲ培植スルノ法ニ非ズ、依ツテ必ズ擴張ノ法ヲ講ジ、積立金ハ奏定章程ニ從ツテ實行スベク、資本ハ愈多クレバ愈妙ナリ、或ハ千萬兩ヲ準備シ、少クトモ又數百萬兩ヲ備フベシ、凡ソ交通繁盛ノ大省、及所屬開港場ニハ、必ズ官設或ハ官民共同ノ大銀行一ヶ所ヲ設ケ、且ツ各地ニ支店ヲ設ケ、財政ヲ維持シ、市場ヲ振興スベシ、又已ニ充分ノ資本ヲ備ヘタルモノハ、金額ノ多少ニ拘ラズ、流用ノ爲メ資本ヲ空虛ニシ、信用ヲ失フガ如キ所爲アルベカラズ云々

右各省官銀錢號ハ各省金庫ノ事務ヲ取扱フヲ其本然ノ任務トスレドモ、實ハ紙幣ヲ發行シテ政費ノ急需ニ應ゼントスルヲ主要目的トナスモノナリト謂フヲ得ベク、各省官銀局就レモ之レヲ發行セザルナシ、民國二年十月頃ノ調査ニ係ル各省官銀錢號發行ノ紙幣額ヲ示セバ次ノ如シ。

各省官銀錢號ノ發行紙幣額

奉	天	四百九十九萬五千二百七十元
江	蘇	一百十二萬五千五百七十八元
安	徽	三十萬元
黑	龍	二百五十一萬八千四百七十七元
直	隸	六千四百元
貴	州	一百七十六萬九千五百二十元

各省官銀行

支那金融機關

山東	四十八萬元
山西	二百零七萬七千二百三十六元
浙江	二百四十三萬九千元
四川	一千一百五十九萬三千二百五十九元
湖南	一千零五十七萬一千零七十五元
陝西	一百五十萬元
福建	三十萬元
新疆	二百七十七萬七千七百七十七元
吉林	一千四百四十五萬六千四百十元
廣西	二百十八萬七千八百八十三元
湖北	三千萬元
甘肅	二十八萬二千八百六十元
河南	一百四十八萬三千三百元
廣東	二千二百萬元
雲南	二百萬元
江蘇	一千四百六十九萬五千三百二十元
熱河	一萬五千元
合計	一億四千五百五十七萬四千二百六十五元

是等ノ發行紙幣ニ對シテ幾何ノ準備金ヲ有スルヤ明カナラズ、恐クハ殆ンド皆無ナルモノ多カルベキガ民國三年六月財政部ニテ調査シタリト稱スル其準備金額ハ次ノ如シ。

湖南銀行	七三六、一一一元
湖北官錢局	一一七、〇九二
安徽中華銀行	二〇〇、〇〇〇
廣東官錢局	一〇、二六五、〇五八
江蘇銀行	六〇〇、〇〇〇
河南官錢局	一八一、一六六
奉天官銀號	七三六、七九三
雲南富滇銀行	二〇、〇八〇、三七七
黑龍江官銀行	六七九、〇五六
江西民國銀行	八七一、七二六
浙江銀行	三、〇〇〇、〇〇〇
黑龍江廣信公司	八四五、二九五
直隸銀行	一、八二〇、〇〇〇
吉林官銀錢局	三、三六〇、〇〇〇

(但シ山西、四川、福建及山東省ハ不明)

斯クノ如クニシテ官銀錢號ハ徒ラニ紙幣ヲ發行シ、經濟界ヲ攪亂スルヲ以テ、民國二年十一月大總統令ニテ、一律ニ紙幣ノ増發ヲ禁止シ、同年十二月二十三日官銀錢行號監理官章程ヲ公布シ監理官ヲ任命シ、コレヲ監理セシムルコト、セルモ、其ノ何レモ空文ニ歸シタルハ勿論ナリ、左ニ該章程ヲ掲グベシ。

各省官銀行

各省官銀錢行號監理章程

大總統批文ノ要ヲ案ズルニ各省官銀錢行號ノ紙幣濫發ヲ漫ニ制限スルナクシテ、價值低落シ國計民生ハ交々其困ヲ受ク、(中略)但シ各省紙幣ノ充斥ヲ查スルニ其官銀錢行號ノ發行スル者固ヨリ多數ニ屬ス、而シテ商辦銀錢行號ノ發行スル者亦タ殊ニ少ナカラズ、湖南ノ興業銀行、奉天ノ興業銀行、廣東ノ大信銀行、浙江ノ興業銀行等ノ如シ、各該省ノ調查報告類ニ據レバ紙幣發行ノ數甚ダ鉅ト爲ス、其ノ地方ノ金融關係ニ於テ官辦ト殆ド軒輊ナシ、若シ監督管理ノ範圍ガ僅カニ官辦及官商合辦ヲ以テ限リト爲シテ商辦銀錢行號ニ及バザレバ諸事實ニ按シ既ニ窒碍多ク諸情理ニ揆シ又公允ナラズ殊ニ本部整理紙幣ノ初心ニアラズ云々

- 第一條 監理官ハ財政總長ノ命ヲ承テ各省官銀錢行號ノ一切ノ事務ヲ監視ス
- 第二條 監理官ノ各省官銀錢行號ヘノ派遣ハ財政總長ニ由リ之ヲ定ム
- 第三條 監理官ハ各省官銀錢行號ノ各種簿記及金庫ヲ臨時ニ檢查スル事ヲ得
- 第四條 監理官ハ各省官銀錢行號ノ票據發行數目及準備狀況ヲ隨時檢查スル事ヲ得

- 其檢查報告書ヲ財政總長ニ呈報ス
- 第五條 各省官銀錢行號ガ新舊鈔票ヲ換發セント欲スレバ監理官ヨリ財政總長ニ轉呈シテ認許ヲ請フ可シ
- 第六條 各省官銀錢行號内ノ尙ホ未發行ノ鈔票及印票印板數記ハ均シク監理官ニ交申シ會同シテ封存保管スベシ財政部ノ命令ニ非レバ開封シテ行用スルヲ得ズ
- 第七條 監理官ハ各省官銀錢行號ノ各種票據及一切ノ文件ヲ隨時檢閱スル事ヲ得
- 第八條 監理官ハ各省官銀錢行號事務一切ノ情形ヲ隨時檢閱スル事ヲ得
- 監理官ハ各省官銀錢行號事務一切ノ情形ヲ隨時質問スル事ヲ得若シ必要ト認ムル時ハ銀行編製各種表冊及營業概略ヲ請フ事ヲ得
- 前項ノ註冊文件ハ各省官銀錢行號總辦ノ署名捺印ヲ要ス
- 第九條 監理官ハ毎月十五日前ニ上旬内ノ檢查情形ヲ詳細ニ編製シ其檢查報告書ヲ財政總長ニ呈報ス
- 第十條 監理官ハ各省官銀錢行號業務ニ對シ章程ノ違背及非法行爲有リト認ムレバ速カニ財政總長ニ呈報スベシ

- 第十一條 監理官ハ財政總長ノ許可ヲ得ルニ非レバ職守ヲ擅ニ離ル、ヲ得ズ
- 第十二條 官商合辦ノ銀錢行號モ亦本章程ノ規則ヲ遵用ス
- 第十三條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

右章程ハ當初官立ノ銀錢行號及官商合辦ノ銀錢行號ノ取締ヲナス目的ヲ以テ制定公布セラレシカ、其後各省ニ於ケル私立銀錢行號ニモ亦該章程ヲ適用スルコト、セリ、其理由ハ當時ノ財政總長ノ呈文ニ詳カナルヲ以テ左ニ之ヲ譯載スベシ。

查スルニ本部前ニ各省官銀錢行號ガ紙幣ヲ濫發シテ漫ニ限制ナク、爲メニ價格ノ低落ヲ致シ國計民生交々其困ヲ受クルヲ以テ、特ニ各省官銀錢行號監理官章程十三條ヲ訂定シ、大總統ノ批准ヲ經テ施行セリ、茲ニ查スルニ該章程ノ規定ハ僅カニ官銀錢行號及官商合辦ノ銀錢行號ニ對シ官吏ヲ派シ監理セシムルヲ得ルノミ、然ルニ各省紙幣ノ充斥ハ其官銀錢行號ニ於テ發行スルモノ固ヨリ多數ニ屬スルモ、而モ商辦銀錢行號ニ於テ發行スルモノ亦殊ニ少カラズ、湖南ノ興業銀行、奉天ノ興業銀行、廣東ノ大信銀行、浙江ノ興業銀行ノ如キ、各該省ノ調查報告ニ據レバ皆紙幣ヲ發行シ、其數甚ダ多ク、地方ノ金融關係ニ於テハ官辦ノモノト殆ド軒輊ナキヲ以テ、若シ監理範圍ヲ僅ニ官辦ト官商合辦トニ限リテ、商辦銀錢行號ニ及バザルトキハ、之ヲ事實ニ按ジテ既ニ窒礙多ク、之ヲ情理ニ揆リテ又公平ナラズ、殊ニ本部ガ紙幣整理ノ當初ノ目的ニ反ス、茲ニ該章程第十二條「官商合辦ノ銀錢行號」ノ下ニ「及紙幣ヲ發行スル商辦銀錢行號」ノ一語ヲ加入シ、以テ周密妥善ヲ期セントス、云々

斯クノ如ク監理官ニ對シテ右章程ニ從テ官銀錢行號ノ檢查ヲ命ジタルガ民國三年九月右檢查報告ノ要項トシテ指示セル處ノモノ次ノ如シ。

各省官銀錢行號監理官檢查報告書編製例言

- 一、各省官銀錢行號監理官ハ、應ニ部頒監理官章程第九條ノ規定ニ遵照シテ、毎月十五日前ニ、前月内檢查情形ニヨリ詳細ニ檢查報告書ヲ編製シテ、部ニ送リテ査核セシムベシ

一、前項報告書ハ應ニ各監理官所管行號ヲ按ジテ定名シ、其行號某月分検査報告書ト名クベシ

一、監理官検査報告書ヲ編送スルノ時ハ、須ラケ所管行號検査事實ニ就イテ、分節叙述スルコト左ノ如クスベシ

(一) 規程沿革 該行號何時ヨリ開辦シ何レハ何機關ニヨリ監督ヲ受ケ、革命以來ノ變遷ヲ簡單ニ叙述ス

(二) 歷來資本 開辦ヨリ今日ニ至ル迄ノ有ラユル資本若干、何處ヨリ指撥セルカ、利息ノ有無、籌還ノ有無、商股附有アリヤ否ヤ等實數ヲ查明シ、逐款叙述スベシ

(三) 分布機關 總行號ヲ除クノ外、分設機關現ニ若干處アリヤ、其緣起如何、所撥資本若干何項ノ營業ニ限ルヤ等ヲ查照シ附表式第一種ニ照シ叙次開列ス

(四) 營業事項 爲替割引、銀錢買賣、銀錢兌換、預金貸出、手形兌換券發行等ヨリ、省庫經理、政費畫撥等ニ至ル迄、須ク各該行經營事實ヲ分條列舉ス

(五) 紙幣發行 有ラユル紙幣ハ何時訂印シ、何時發行ヲ開始シ、共ニ幾種アリ、其總數若干ニシテ已ニ收回セルモノ現在通用セルモノ各若干、而シテ收數内何時銷燬セルモノ及監視封存セルモノ各若干、又通用數中其市面ニ流通セルモノ、在儲シテ未發ノモノ各若干等、應ニ附表式第三第五種ニ照シ詳細註明スベシ

(六) 庫存款項 庫存款項ハ各種自發紙幣手形ヲ計上セザルヲ除クノ外、有ラユル實存ノ本國各種生金、生銀、銀元、銅元、制錢各若干、及他行號兌換券、外國紙幣洋幣各若干ハ能ク準備スルニ足ルヤ、其ノ出納狀況等ヲ分別叙明シ、並ニ附表式樣第六種ニ照シ、價ヲ按ジテ換算シ、以テ比較ニ便スベシ

(七) 現有資産 資産ハ分ナ三種トス、一ハ田地、二ハ房屋、三ハ器具、應ニ各類ニツキ其名目數量ヲ按ジ、次ニ依テ叙明シ、尙自ヲ購入セルヤ、抵押收入ナルヤ、毎年收益幾何、用途如何、不動產坐落、地點面積大小原價若干、現在價格幾干等ヲ附表式樣第七種ニヨリ核實填註スベシ

(八) 收存款項 存款(預金)ハ幾種ニ分ツヤ、其官署及商民ヨリ預入セルモノ各若干、利息ノ有無、期限ノ如何等附表式第八種ニ從ヒ核明填入スベシ

(九) 放存款項 放款(貸出)ハ幾種ニ分ツヤ、官署ノ借入及商民ノ借入若干アリヤ、抵當品或ハ保證人ノ有無、年利或ハ月利若干、期限如何、現在着落ノ有無、按期追還シ得ルヤ否ヤ等ヲ、附表第九種ニヨリ詳細填註スベシ

(十) 營業經費 營業人員分掌職務若干、毎月俸給若干、手當給用等若干、此外監理官經費支出若干等、附表第二十種ニヨリ分別填報スベシ

(十一) 盈虧情形 開辦ヨリ以來毎年得ル所ノ餘利若干、爲替料、利子兌換利益等ノ項計幾種アリヤ、結算方法如何、有ユル餘利ハ如何ニ分配支出セル、現存若干アリ等、並ニ附表式第十一種ニ照シテ逐次註明スベシ

(十二) 投資事業 凡ソ正項營業ノ外、別ニ他項事業ヲ投資經營スルモノハ、例ヘバ錢莊、典當、燒鍋ノ類ヲナスモノハ、應ニ其資本ヲ如何ニ發給セルカ、産業現有若干、毎月或ハ毎年ノ收益若干、現收如何等、附表式第十二種ニ照シテ彙列備核スベシ

(十三) 市面金融 近來該地銀錢價值ノ漲跌如何、流通紙幣ノ信用如何、其物價ニ對スル影響如何、及物價銀錢騰貴低落ノ原因等均シク隨時考査ノ情ヲ分列叙入スベシ

(十四) 其他ノ事項 所管行號其收回紙幣ナ、私ニ流通セシムルノ情弊無キヤ如何、流通紙幣ヲ如何ニシテ陸續收回セルカ、其日常ノ營業、定章ニ違背シ又ハ他ノ不法行爲アリヤ否ヤ、市上ノ流通紙幣ニ偽造アリヤ否ヤ、此外幣制整理ニ對シ建議シ並ニ所見ヲ開陳シテ採擇ニ備フベシ

一、以上各節編叙事實若シ隨時變更ヲ生ジタル時ハ、均シク毎月末日現狀ヲ以テ據トナス

一、本年十一月ヨリ起リ前記節目ニ按照シテ報告シ、以後若シ事實變モ變更ナキ時ハ以後各月ニハ某期報告内第何節ト同様ノ旨ヲ聲明シタルノミニテ、以テ重贅ヲ免レシム

一、各監理官所管行號、若シ兩種機關以上アルモノハ、其報告亦須ク所管機關ヲ按ジテ一部宛ヲ作製スベシ

尙民國三年二月ニハ、次ノ命令ヲ發シテ、官銀號ノ他業ヲ兼營スルヲ嚴禁シ、以テ其營業ノ往々危險ニ陥ラントスルヲ防ガントセリ。

官銀號ノ他業兼營禁止

查スルニ銀行ガ他業ヲ兼營スルハ、流弊滋多ナルヲ以テ、各國均シク屬禁ス、本部訪問スルニ各省銀行號同々他業ヲ經營スルモノアリ、如シ詳細調査法ヲ設ケテ補救スルニアラザレバ、殊ニ金融機關ヲ鞏固ニスルノ道ニアラズト、此ニ令シ各該監理官ニ命ジ、迅速ニ所屬各官銀行號總分各行他業兼營ノ情事ノ有無ヲ調査セシメ、並ニ調査情形ヲ受命後一月以内ニ詳細呈覆セシム

次ニ各省ニ於ケル官立銀行及官銀號、官錢局名ヲ舉示スレバ左ノ如シ

官立銀行

江蘇	江蘇銀行	直隸	直隸銀行	湖南	湖南銀行
四川	濬川源銀行	江西	民國銀行	安徽	安徽中華銀行
雲南	富滇銀行	陝西	秦豐銀行	貴州	貴州銀行
浙江	浙江銀行	山東	山東銀行	廣西	廣西銀行
山西	晉勝銀行				
官銀號					
奉天	東三省官銀號	黑龍江	黑龍江官銀號	福建	福建官銀號
官錢局					
湖北	湖北官錢局	河南	河南官銀錢局	廣東	廣東官錢局
甘肅	甘肅官銀錢局	吉林	吉林官銀錢局		

外國銀行

支那ニ於テ外國銀行支店ノ開設セラルルモノ既ニ年久シク、各鉅額ノ資本ト雄厚ナル信用ヲ擁シ、銀行券發行ノ特權ヲ有シ、主要貿易港ニ雄飛セリ、殊ニ支那銀行ガ資本乏シク經營宜キヲ得ズ、信用薄弱ナルヨリ内外人共ニ外國銀行ニヨルヲ常トスルヲ以テ其支那市場ニ於ケル勢力ハ偉大ナリ。更ニ支那ニ利權獲得競争行ハレテ以來、各國競フテ鐵道鑛山等ノ借款、其他ノ公債ノ引受等ニ狂奔スルニ至リ、各外國銀行ハ其本國ヲ代表スル投資機關タリ、又ハ投資機關ノ主要組合員タルニ至リ、是等外國銀行ノ活動一層注目スベキモノアルニ至レリ、現今支那ニアル主要外國銀行ヲ列舉スレバ次ノ如シ。

銀行名	支那名	原	名	本店所在地	設立年度
チャータード銀行	麥加利銀行	Chartered Bank of India, Australia, and China.	倫	敦	一八五三年
香港上海銀行	渣打銀行	Hongkong Shanghai Banking Corporation.	香	港	一八六五年
獨亞銀行	滙豐銀行	Deutscher Asiatische Bank.	上	海	一八八九
印度商業銀行	德華銀行	Merchante Bank of India.	倫	敦	一八九二
印度支那銀行	有利銀行	Banque de L'Indo-chine.	上	里	一八七五
滙源銀行	東方滙理銀行		上	海	一九一〇

外國銀行

銀行名	支那名	原	名	本居所在地	後立年度
インターナショナル銀行	花旗銀行	International Banking Corporation.	紐育	紐育	一九〇一年
支那白耳義銀行	華比銀行	Banque Sino-Belge.	アラウセル	アラウセル	一九〇二年
和蘭銀行	嘯嘯銀行	Nederlandsche Handel-Maatschappij.	アムステルダム	アムステルダム	一八二四年
和蘭印度銀行		Nederlandsch-Indische Handelsbank.	同	同	一八六三年
橫濱正金銀行	正金銀行		同	濱	一八八〇年
臺灣銀行			臺	臺北	一八九九年
朝鮮銀行			大	京城	一九〇九年
住友銀行			東	東京	
三井銀行			東	東京	
三菱銀行			東	東京	

是等ノ各銀行ハ支那ノ上海、漢口等ノ要地若シクハ其他ノ開港場ニ支店ヲ設置シ、爲替、預金、貸付等ノ普通銀行業務ノ外、其地方ニ於テ通用スル銀元、銀兩ニ對スル一覽拂手形(即チ兌換券)ヲ發行シ、其他支那政府ノ公債ヲ引受ケ、各種ノ借款ニ應ジ、各其本國資本家ヲ代表シテ資本的ニ各國ノ勢力ヲ伸張センコトニ努力シツツアリ、今其主要ナルモノニツキ、其組織沿革及、活動狀況等ヲ略叙スヘシ。

香港上海銀行

沿革

香港上海銀行 (Hongkong Shanghai Banking Corporation) ハ支那ニ於テハ滙豐銀行ト稱セラレ、一八六五年四月香港在留ノ英國商人ニヨリテ設立セラレタルモノニシテ、爾來異常ナル發展ヲナシ、東亞ニ於ケル英國商人ノ金融機關タリ、又支那ニ於ケル各借款利權ノ獲得ニ當リ、各種借款公債ノ引受ヲナシ、今ヤ東亞ニ於テ最有力ノ銀行タルニ至レリ、同銀行ハ設立ノ當初ハ非法人タリシカ設立ノ翌年即チ一八六六年ノ香港政廳令第二號ニヨリ法人ノ資格ヲ享有セルガ元來英國海外銀行ノ設立ニ就イテハ三種ノ方法アリ、第一ハ國王ノ特許狀ニヨルモノニシテ、最モ古クヨリ行ハレ、遠隔セル殖民地ニ本國ノ資本ヲ投下スルニハ多少ノ危險ナキヲ得サルヨリ特許狀ヲ以テ種々ノ特權ヲ附與シコレヲ保護セントスルモノニシテ、一八五三年創立ノ渣打銀行ノ如キ此例ニヨル、第二ハ一八六二年ノ會社法ニヨリ設立セララルルモノニシテ、此法律ニヨル時ハ能ク前記特許ノ目的ヲ達シ得ルト共ニ特許ハ一面特權附與ノ便利アルト共ニ一面種々ノ制限アルモ、該特許ノ目的トスル所ハ此新法律ニヨリ容易ニ達成セララルヨリ、爾來ハ特許狀ニヨラス此方法ニヨリ海外銀行ノ成立ヲ見タリ、而シテ其特許狀ニヨリ設立セラレタルモノモ期限滿了ト共ニ會社法ノ下ニ改造セララルルノ狀況ニシテ彼ノ有利銀行ノ如キ其一例ナリ、第三ハ殖民地政令ニヨリ設立セララルルモノニシテ殖民地ノ銀行法ニヨルモノナリ、而シテ英本國政府ハ次第二殖民地ニ銀行法ノ制定セララルヨリ之ガ原則ヲ定ムルノ要アリトシ、一八四〇年大藏省ハ商務省ト協議ノ上一準則ヲ制定セシガ後一八四四年ロバート、ピールノ本國銀行條例改正

ニ從ヒ一八四六年修正セラレタリ、本香港上海銀行ハ此第三ノ方法ニ基キ次ノ如キ香港政廳命令ニヨリ設立セラルルモノナリ。

香港上海銀行設立ニ關スル香港政廳命令

本命令ハ一八六六年命令第二號ヲ以テ公布セラレタルモノナルモ其ノ後一八八七年、一八九九年、一九〇〇年、一九〇一年、一九〇七年、一九一一年、一九一二年、及一九一四年ニ於テ改正ヲ加ヘラレ以テ今日ニ至リタルモノナリ、左ニ譯出シタルモノ即此ノ現行命令ナリトス。

數人相集マリ一般銀行業務ヲ營ムノ目的ヲ以テ「香港上海銀行」ノ名稱ノ下ニ一株式會社ヲ組織スヘキコトヲ協定シ、且此ノ目的ヲ達スル爲先五百萬弗ノ資本金ヲ募集スヘキコト、該資本金ハ各一株ニ付二百二十五弗ノ株式四萬個ニ分ツヘキコト但將來必要ノ場合下記ノ條件及方法ニ於テ之ヲ増加シ得ヘキコトヲ協定シタリ而シテ此等ノ人々ハ從來登記ヲ受ケサル非法人組織ノ會社ヲ以テ銀行業務ニ從事セシモノナルニヨリ該會社ノ目的ヲ一層有効ナラシメンカ爲香港總督ニ對シ下記ノ條件、制限及規定ニ準據シ法人設定命令ヲ下附セラレンコトヲ申請シ總督之ヲ承認シタルヲ以テ茲ニ香港總督ハ香港立法議會ノ協賛ヲ經テ左記ノ命令ヲ發布セリ其ノ條項左ノ如シ。

第一條 本命令ハ一千八百六十六年香港上海銀行令ト稱ス

第二條 削除

第三條 本命令ニヨリ設立セラル、會社ノ株式ヲ現ニ所有シ又ハ將來所有スヘキ個人又ハ社團ハ「香港上海銀行」ナル名稱ノ下ニ一社團ヲ組織スヘク該社團ハ其ノ名義ヲ以テ總テノ法廷ニ於テ訴ヲ提起シ若クハ訴ヲ受ケ又ハ社印ヲ作成シ之ヲ使用スルコトヲ得但該社印ハ本會社ノ都合ニヨリ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 (一)本會社ハ取締役會ノ管理ノ下ニ香港殖民地ニ於テ銀行業務ヲ營ムノ目的ヲ以テ設立セラレタルモノトス但本條ノ規定ハ大藏省官吏ノ許可ヲ受ケ該殖民地以外ニ於テ其ノ地ノ法令ニ準據シ支店又ハ出張所ヲ設ケ爲督、預金及送金業務ヲ營ムコトアルヲ妨ケス

(二)本會社ノ存續期間ハ一千九百八年八月十四日ヨリ起算シ更ニ二十一年間延期シ該期間内ハ本命令ニ定メタル條件ニ從ヒ銀行業務ヲ營ムコトヲ得

第五條 (一)會社ノ資本金ハ五百萬弗トシ之ヲ四萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ一百二十五弗ト定ム(以下削除)

第六條 削除

第七條 削除

第八條 削除

第九條 削除

第十條 本命令發布ノ日ヨリ十二箇月以内ニ會社資本金ノ少クトモ二分ノ一ニ相當スル株式ノ引受人ハ定款ヲ作成シ之ニ署名シ(該定款ニ記名シ得ルモノハ少クトモ五株以上ノ株主タルコトヲ要ス)總督ノ承認ヲ經タル後該定款作成ノ日ヨリ十二箇月以内ニ之ヲ會社登記官ニ提出シ其ノ登記ヲ受クヘシ定款ニハ該定款定ムル所ニ從ヒ會社ノ株主ヨリ選任セラレタル取締役會及其ノ選任以前ニ在リテハ該定款ニ於テ指定セラレタル取締役會ノ業務執行ニ關スル規定、株金拂込其ノ他株主ヨリ會社ニ對シ仕拂フヘキ金錢ノ拂込ニ關スル規定並ニ左記ノ事項ニ關スル規定及總督ニ於テ會社ノ業務執行上必要ト認メタル其ノ他ノ規定ヲ掲ケシムルコトヲ得

第一 毎年少クトモ一回指定セラレタル時及場所ニ於テ株主總會ヲ開クコト

第二 少クトモ二千株以上ヲ代表スル九名以上ノ株主ヨリ請求アリタルトキハ臨時株主總會ヲ開クコト

第三 會社ノ業務執行、取締役ノ選任及其ノ資格ニ關スルコト

第四 毎年取締役ノ少クトモ四分ノ一ツ、ノ選任ニ關スルコト

第五 會社ニ於テ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付又ハ保證ヲ爲スコトヲ禁止スヘキコト

第六 會社ノ資産及負債ノ狀況、銀行券流通高並ニ香港殖民地及其ノ池ノ地ニ於ケル會社ノ營業所ニ保有スル貨幣在高ノ公表ニ關スルコト

第七 前項ノ諸報告審査ノ爲又ハ香港殖民地及其他ノ地ニ於ケル會社ノ營業所ノ狀況及經過ニ關シ總督ニ於テ必要ト認メタル報告ノ

調製及提出ニ關スルコト

第八 二名以上ノ監査役ニヨリ毎年會社請計算ノ監査ヲ爲スコト並ニ監査役ハ同時ニ取締役ヲ兼ヌルヲ得サルコト
第九 毎年監査役報告、貸借對照表及損益計算書ヲ株主ニ報告スヘキコト

第十 支配人、行員又ハ此等ノ事務ヲ行ハシムル爲其ノ他ノ役員ノ任命ニ關スルコト

第十一條 本命令ノ條項、定款及其ノ追加又ハ之ニ基キ作成セラレタル内規ニ包含セラレタル條項ニシテ香港殖民地又ハ會社カ業務ヲ營ム港、都市其ノ他ノ地ニ於ケル法令若クハ本命令ノ條項ニ反スルモノ、外ハ總テ會社ノ現行規則タルノ効力ヲ有ス但内規又ハ追加定款ハ總督ニヨリ承認セラレ且其ノ承認カ總督ノ署名ニヨリテ確認セラル、ニアラサレハ其ノ効力ヲ生セス

第十二條 (一)會社ハ銀行券ヲ製造シ、發行シ及ビ流通セシムルコトヲ得銀行券ハ其ノ發行地ニ於テ所持人ノ請求ニヨリ何時ニテモ該發行地ニ於テ適法ニ通用スル貨幣ヲ以テ兌換スヘキモノトス兌換ニヨリ引上ラレタル銀行券ハ其ノ當初發行シタル地ニ於テ再ヒ之ヲ發行スルコトヲ得

(二)會社本店ヨリ一定ノ金額ヲ限リ小額銀行券ヲ發行シ得ルコトニ關シ、現ニ有スル會社ノ特權ハ將來殖民地政廳ニ於テ五弗未満ノ小額政府紙幣ノ發行ヲ爲サントスル場合之ヲ廢止シ爾後會社ハ五弗又ハ其ノ倍額又ハ之ト同價格以外ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得ス

(三)香港殖民地又ハ其ノ他ノ地ニ於テ該地ニ於ケル支店以外ノ一營業所ヨリ發行セル銀行券ハ該發行店ノ外又其ノ支店ニ於テモ之レカ兌換ヲ爲スコトヲ要ス

(四)本命令ハ會社ヲシテ香港殖民地又ハ現ニ會社支店設置セラレ若クハ將來設置セラルヘキ地ニ於ケル銀行券發行ニ關スル現行ノ法令又ハ將來發布セラル、法令ノ適用ヲ除外セシムルモノニアラス

(五)會社ノ株主ハ銀行券ノ發行ニ對シ無限責任ヲ負フヘキモノトス、會社解散ノ場合ニ於テ其ノ資産カ銀行券所持人並ニ一般債權者ノ要求ヲ満足セシムルコト能ハサルトキハ先銀行券所持人ノ債權ヲ完済シタル後會社ノ株主ハ之カ爲ニ會社資産ヨリ支出シタル金額ヲ限度トシ一般債權者ニ對スル辨濟ニ充ツヘキ爲拂込ヲ爲スコトヲ要ス

(六)本條中會社ノ資産ト稱スルハ一般債權者並ニ銀行券所持人ニ對シ仕拂フヘキ爲メ支出シ得ヘキ資産ヲ云フ

第十三條 (一)銀行券ノ流通高ハ常ニ會社ノ拂込資本金額ヲ超過スルコトヲ得又會社ハ各營業所ニ於テ其ノ發行ニ係ル銀行券流通額ノ三分ノ一ニ相當スル硬貨ヲ具フルコトヲ要ス

(二)會社ハ拂込資本金額ノ三分ノ一ニ等シキ金額ヲ國務大臣ノ承認セル種類ニ屬スル貨幣若クハ有價證券又ハ貨幣及有價證券ヲ以テ Crown Agents 又ハ國務大臣ノ任命セル其ノ代理者若クハ此ノ二者ニ各一部ヲ預托スルコトヲ要ス、會社ノ預托セル此等ノ貨幣又ハ有價證券ハ會社ノ發行セル銀行券ノ兌換ニ充ツヘキ特別基金ニシテ會社カ仕拂不能トナリタル場合銀行券兌換ノ爲ニ使用スヘキモノトス但本條ノ規定ハ銀行券所持人カ會社ノ資産ニ對シ一般債權者ト同一位ニ於テ權利ヲ行使スルヲ妨ケス

(三)本條第一項ヲ以テ銀行券流通高ニ加ヘタル制限如何ニ拘ハラス一千八百二十九年八月十三日ヲ限リ會社ノ拂込資本金額ヲ超過シテ銀行券ヲ發行シ及流通セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込資本金額ヲ超過シ發行シタル銀行券ニ對シテハ其ノ發行ヲ爲セル地ノ如何ヲ問ハス之カ兌換ニ充ツヘキ爲之ト同額ノ貨幣若クハ地金銀又ハ貨幣及地金銀ヲ香港殖民地長官及國庫局長ニ預托スルコトヲ要ス但本條ノ規定ハ本會社ニ對シ香港殖民地其ノ他本會社カ營業所ヲ有スル地ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル法令ノ適用ヲ除外スルモノニアラス

第十四條 本會社債務ノ總額ハ其ノ債務ノ性質及種類ノ如何ヲ問ハス現ニ存在スル會社ノ確實ナル資産並ニ本命令ニヨリ株主ヨリ拂込マシメ得ヘキ金額トノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十五條 本會社ノ銀行券ニシテ一旦兌換ヲ停止シタルトキハ其ノ停止中一切新ニ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 本會社ハ取締役又ハ會社ノ役員カ單獨ニ又ハ他トノ組合ニテ振出シ又ハ引受ケタル爲替手形、約束手形又ハ其ノ他ノ流通證券ヲ割引キ又ハ之ヲ擔保トシテ貸出スコトヲ得ルモ其ノ限度ハ其ノ時ニ於ケル會社ノ割引貸付總額ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス且取締役ニ對シテハ一切無擔保貸出ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 本會社ハ永代財產法又ハ其ノ他ノ法律ノ規定如何ニ拘ハラス會社ノ業務執行上必要ニシテ且投機又ハ上記以外ノ目的ノ爲ニアラスト認メラレタルトキハ家屋、事務所、土地、建物ヲ購入シ、所有シ又ハ永代財產ヲ取得スルコトヲ得但家屋、事務所、土地、

建物ノ購入ハ其ノ取得ノ時ニ於ケル價格一箇年三萬弗ヲ若シ豫メ總督ノ承認ヲ經タルトキハ其ノ承認セラレタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス又會社ノ業務執行上必要ナキニ至リタルトキハ該財産ノ全部又ハ其ノ一部ヲ賣却シ讓與シ又ハ之ヲ處分スルコトヲ得

第十八條 正當ノ權限ヲ有スル各個人及法人ハ會社ニ對シ前條規定ノ家屋、事務所、土地建物及永代財産ヲ讓與シ又ハ賣却スルコトヲ得

第十九條 (一)本會社ハ香港殖民地及ビ其ノ他ノ地ニ於テ一ヶ年三萬弗若クハ總督ノ承認ヲ經テ定メタル追加額ヲ超過シテ家屋、土地又ハ永代財産ノ購入ヲ爲スコトヲ得ス

(二)本會社ニ於テ前項ノ購入ヲ爲シタルトキハ取締役ハ購入ヲ完了シタルトキヨリ三箇月以内ニ必ス書面ヲ以テ購入代金額、購入セラル家屋、土地又ハ永代財産ノ種類及之ニ關シ總督ヨリ命セラレタル其ノ他ノ細目ヲ總督ニ報告スルコトヲ要ス

(三)本會社ニ於テ家屋、土地及永代財産ヲ賣却シタルトキハ十四日以内ニ書面ヲ以テ賣却物件及其ノ代金額ヲ香港殖民長官ニ報告スルコトヲ要ス

第二十條 前項ノ目的ノ外本會社ハ土地、家屋其他ノ不動産ノ購入又ハ投機取引若クハ一般銀行業務ノ範圍ニ屬セサル事業ニ對シ其ノ資本金又ハ資金ヲ投下シ使用シ又ハ貸與スルコトヲ得ス但現ニ本會社ニ對シ負ヒ又ハ將來負フコトアルヘキ金錢其ノ他ノ債務ニ對シ抵當、質入、保管其ノ他ノ方法ニヨリ擔保ヲ請求シ之ヲ受領シ、之ヲ解除シ又ハ之ヲ賣却若クハ處分スルコトヲ得

第二十一條 本會社カ債務ノ辨濟トシテ本會社ノ有ニ歸シタル貨物商品ヲ賣却シ處分シ又ハ金錢ニ換價スルコトヲ得又同一ノ原因ニヨリ本會社ニ所屬シタル土地、家屋其ノ他ノ不動産ヲ賣却シ處分シ又ハ金錢ニ換價スルコトヲ得

第二十二條 本命令第五條又ハ定款ノ規定如何ニ拘ハラズ本會社ハ特ニ招集シタル株主總會ノ決議ヲ以テ何時ニテモ新株式ヲ發行シ資本金ノ増加ヲ爲スコトヲ得資本金ノ増加ハ豫メ總督ニ於テ適當ト認メタル條件及規定ノ下ニ其ノ承認ヲ受ケ該承認ハ總督ノ署名セル布告ニヨリ之ヲ官報ニ登載スルコトヲ要ス但會社資本金ノ總額ハ二千萬弗ヲ超過セシムルコトヲ得ス

前項ニヨリ増加資本金カ募集セラレタルトキハ總督ノ署名アル布告ヲ以テ之ヲ官報ニ登載セラレルコトヲ要ス之ニ依リ増加資本金ハ現在一千萬弗ノ資本金ト共ニ會社ノ確定資本金ト爲ルモノトス但前項ノ範圍内ニ於テ何時ニテモ更ニ資本金ヲ増加スルコトヲ得

資本金増加ノ場合ト雖第十三條第十二項ニヨリ貨幣若クハ有價證券又ハ貨幣及有價證券ヲ預托シタル後ニアラサレハ一千九百七年一月一日現在ノ拂込資本金額ヲ超過シテ銀行券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 削除

第二十四條 取締役ハ總督ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ命セラレタル計算書及報告書ヲ總督又ハ總督ニヨリ特ニ其ノ検査ヲ命セラレタル官吏ニ提出スルコトヲ要ス

第二十五條 本會社ニシテ仕拂不能ノ狀態ニ陥リタルトキハ其ノ時ニ於ケル株主ハ第十二條ノ規定ニヨリ銀行券ノ發行ヨリ生シタル債務ニ對シ辨濟義務ヲ有スル外又會社ノ一般債務仕拂ノ爲會社ヨリ拂込ノ請求ヲ受ケ未タ拂込ヲ爲ササル部分ノミナラス尙其ノ所有株式金額ヲ限度トシ會社ノ一般債務完済ノ爲必要ナル金額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第二十六條 本會社定款ニ於テハ會社株式ノ移轉ニ際シ前條ニ規定セル拂込ニ對スル新舊株式ノ義務ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ要ス

第二十七條 本會社ニシテ仕拂不能ノ狀態ニ陥リタルトキ又ハ引續キ六十日間若クハ一箇年ヲ通シテ六十日間仕拂ヲ停止シタルトキ若クハ會社カ其ノ定款ノ諸規定ヲ遵守セサル場合ニ於テハ總督ハ香港立法議會ノ協賛ヲ經タル命令ヲ以テ本命令ヲ廢止シ會社ニ附與シタル法人設定ノ效果ヲ消滅シタルコトヲ宣言スルコトヲ得

第二十八條 (一)本會社ノ清算ハ香港高等法院ノ管轄トシ以下ノ規定ニヨルヘキモノトス又會社令ニヨリ登記セラレタル會社ノ解散ニ關スル命令ノ條項ハ之ヲ本會社ノ解散ニ準用ス但以下ノ規定ニ於テ變更セラレタル諸點ハ之ヲ除ク

- (二)本會社カ清算ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ如シ
- (A)本會社ノ解散シタルトキ又ハ營業ヲ行フコトヲ止メタルトキ又ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テノミ業務ヲ行フニ至リタルトキ
- (B)本會社ハ其ノ債務仕拂フコト能ハサルニ至リタルトキ
- (C)裁判所ニ於テ本會社ノ解散ヲ以テ至當トスル旨ノ意思ヲ表明シタルトキ
- (三)本會社ハ左記ノ場合ニ於テ其ノ債務辨濟ノ不能ト爲リタルモノト看做ス
- (A)本會社ニ對シ法律上又ハ衡平法上ニ於テ元金三千弗以上ノ債權ヲ有スルモノニシテ會社ノ主タル營業所ニ該債權額ノ仕拂ヲ爲

スヘキ旨ヲ記載シタル請求書ヲ留ムルカ又ハ會社ノ支配人、取締役又ハ重ナル役員ニ之ヲ交付スルカ又ハ裁判所ニ於テ承認セル其ノ他ノ方法ヲ以テ之カ遂達ヲ爲シ爾後會社ハ該請求ヲ爲シタル日ヨリ三週同ノ期間内ニ於テ該債權ノ仕拂ヲ怠リ若クハ債權者ヲシテ満足セシムヘキ何等相當ナル擔保ヲ供セサルトキ

(B)債權者ヨリ本會社ニ對シ提起シタル訴訟カ裁判所ニ於テ法律上又ハ衡平法上會社ノ不利益ニ判決又ハ命令ヲ受ケ之ニ對シ會社カ爲シタル上訴ノ棄却セラレタルトキ

(C)本會社カ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルコトノ裁判上證明セラレタルトキ

第二十九條 本命令ノ日付ヨリ二十一年間ヲ經過シタルトキ本命令ニヨリ會社ニ與ヘタル能力及特權ハ總督ニ於テ香港立法議會ノ協賛ヲ經タル命令ヲ以テ更ニ二十箇年間若クハ該命令ニ於テ期間及條件ヲ定メ繼續ヲ宣言セラルルニアラサレハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第三十條 削除

以上ハ香港上海銀行設立ニ關スル現行香港政廳命令ノ全文ヲ譯出シタルモノナリ尙同銀行定款(The Deed of Settlement)ハ總テ二百八個條ヨリ成立シ詳細ナ極ムト雖モ其ノ主要部トモ觀ルヘキモノハ本命令ノ規定ト大同小異ナリ

本行ハ其成立ト共ニ本店ヲ香港ニ支店ヲ上海ニ設ケタルガ、更ニ福州、寧波、新嘉坡、マニラ、カルカッタ、孟買、盤谷、倫敦各地ニ出張所ヲ設置シ、其後日本、佛領印度支那、比律賓群島、爪哇、馬來各地、巴里、漢堡、紐育、桑港等ニモ營業所ヲ設ケ、今ヤ其營業區域ノ廣汎ナル他ニ匹儔ヲ見サル有様ナリ。

資本金及積立金

本行資本金額ハ一八六六年銀行令ニヨリ五百萬弗(香港弗)ト定メ、コレヲ一株百二十五弗ノ株式四萬株ニ分チ、成立ノ際半額即チ二百五十萬弗ノ拂込ヲナシ、其他ハ後數回ニ分チ拂込ヲ終レリ、其後一八八四年七月ニ至リ二百五十萬弗ノ増資ヲ行ヒ之ガ全額ヲ拂込ミ總額七百五十萬弗トナシ、次デ一八九七年二月更ニ二百五十萬弗ヲ増資シ之ガ拂込ヲ終レリ、爾後業務ノ發展ト共ニ資本金ノ増加ヲ促スモノアルヲ以テ、一九〇七年香港政廳命令第六號ヲ以テ香港上海銀行令第二十二條ヲ改正シ、同行資本金ハ二千萬弗ノ範圍ニ於テ株主總會ノ決議ニヨリ隨時之ヲ増加シ得ルコト、セシヨリ、同年六月五百萬弗ヲ増資シ翌月中其全部拂込ヲ終リタレハ、目下同行資本金總額ハ千五百萬弗ナリトス。

香港上海銀行ハ基礎ノ確實ヲ期スル爲積立金ヲ可成多カラシムルノ方針ヲ採リツツアルガ、同行積立金ニハ金貨積立金(Shilling Reserve Fund)及銀貨積立金(Silver Reserve Fund)ノ二種アリ、是蓋シ金銀比價ノ動搖ヨリ來ル損失ヲ償フ爲ニ互ニ補償的作用ヲナサシムルガ爲ニシテ、本行ハ之ニヨリテ變動常ナキ銀價ニヨリテ缺損ヲ招クヲ免レ得タリ、元本行ノ資本ハ香港弗ヲ以テ計算セラルルヨリ其配當ノ如キモ之ヲ以テ計算セラルルコト勿論ナレドモ本國ニ於テ本株券ヲ有シ金貨ヲ以テ其配當ヲ受タルモノハ銀價下落ノ際ニハ夫レ丈ケ配當率ヲ減少セラレタル結果トナリ其被ルベキ損害少カラザルヨリ、同行ハ一八七六年ヨリ爾後配當金ハ總テ金ヲ以テスベキコトトシ、以テ銀價ノ低落ヨリ生ズル株主配當額ノ變動ヲ防グコトトシタルガ、其損益計算書ニハ當時ノ爲替相場四志六片ヲ以テ其換算率

トナシ弗ヲ算出スベキ基礎トナセシガ、後一九〇七年ニ至リ一定ノ換算率ヲ定メズ、配當金ヲ定ムベキ時ノ爲替相場ニヨリ換算スルコトトセルガ、斯クシテ銀價變動ヨリ來ル危險ハ株主ヨリ銀行ニ移ルコトトナリ、益々積立金ノ必要ヲ大ナラシメタリ。

同行積立金ハ一九一四年末ニ於テ金貨積立金一千五百萬弗、銀貨積立金千八百萬弗合計三千三百萬弗即チ資本總額ノ二倍五分ノ一ナリ、金貨積立金ハ「コンソル」公債、英國大藏省證券其他確實ナル金貨證券ヲ買入レテ其利殖ノ途ヲ計リツツアリ。

組織及機關

香港上海銀行ハ最初ノ香港政廳令ニ於テハ同令發布ノ日ヨリ二十一個年ヲ以テ其存續期限ト定メラレ、一八八七年八月十三日ヲ以テ滿了スベキ筈ナリシガ、一八八七年政廳令第五號ニテ二十一個年延長セラレ一九〇八年八月十三日迄存續スルコトナレルガ、一九〇七年同廳令第六號ヲ以テ重ネテ二十一個年ヲ延長セラレ一九二九年八月十三日迄存續セラルルコトナリタルガ右期間滿了前ニハ更ニ又延長セラレベキコト勿論ナリ、尙同行ニハ次ノ諸機關ヨリ其業務ノ執行並ニ監理ヲ司ル。

(一)取締役會 取締役會ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任シタル取締役ヲ以テ組織セラレ銀行業務ノ全般ニ亘リテ指揮スルノ任務ヲ有シ、コレヲ香港本店內ニ置キ其內ヨリ取締役會議長、副議長各一名ヲ互選シ該會ノ議事ヲ整理セシム、尙取締役ノ定員、資格並ニ報酬ニツイテハ株主總會ニ於テ之ヲ定

ムト雖モ總會ニ於テ特別ノ決定ヲナサザル時ハ、取締役ノ數ハ七名以上、十二名以下トシ、五十株以上ヲ有スル株主タルノ資格ヲ要シ、其報酬ハ二萬弗ト定メラル、取締役會ハ必要ト認ムル時ハ支配人出張所長其他ノ行員ヲ任免スルコトヲ得ベク、又取締役ハ本行ヨリ或ハ單獨又ハ組合ニテ振出人又ハ引受人トシテ署名セル手形ノ割引ヲ受ケ、又ハコレヲ擔保トシテ貸出ヲ受クルヲ得ベク但シ其貸出額ハ總貸出金額ノ三分ノ一以下ト制限セラレ、又無擔保ノ貸出ヲ禁ゼラルルモ、此點ハ他ノ銀行ト其趣ヲ異ニスルヲ見ル。

同行ハ日常業務ヲ擧ゲテコレヲ支配人ニ委シ支配人ニ全權ヲ與ヘ、取締役ハ單ニ經營ノ大綱ヲ定ムルニ過ギザルハ、其特色トスル所ニシテ、各地ノ支店營業所ニハ副支配人一二名ヲ置キ、又倫敦支店ニハ特ニ倫敦委員會ヲ設ケ同支店營業ノ全般ニ關シ支配人ヲ協助セシム。

(二)監査役 監査役ノ員數ハ其報酬職權ト共ニ株主總會ニ於テ決定スベキモノナルモ同令ニ於テ別ニ定員ヲ定メザル時ハ二名トシ、其任期ハ一ケ年ニシテ職責ハ會社ノ諸計算ヲ監査シ其正確ヲ保證スルニアリ、毎年ノ株主總會ニ於テ取締役又ハ其他ノ役員以外ノモノノ中ヨリ選任スベキモノトス。

(三)株主總會 通常株主總會ト臨時總會トアリ、前者ハ毎年一回之レヲ開キ前年中ニ於ケル諸計算、取締役會報告並ニ監査役ノ報告ヲ聽取シ之レヲ承認スベキヤ否ヤヲ協議スベキモノトス、從來同行決算期ハ年二回ニシテ從テ通常株主總會モ年二回ナリシガ一九一四年八月二十二日ノ臨時株主總會ニ於

ヲ定款ヲ改正シ決算期ヲ毎年十二月三十一日ノ一回トセルヨリ、通常株主總會モ年一回トナレリ、臨時株主總會ハ二千株以上ヲ代表スル株主ノ請求アリシ外、又ハ取締役會ニ於テ必要トセル時之レヲ開ク。

現今同行ハ香港本店、倫敦支店ノ外五個ノ支店(Branch)二十六個ノ出張所(Agency)及一個ノ派出所(Sub-Agency)アリ、其所在地次ノ如シ。

支店 橫濱、上海、新嘉坡、マニラ、漢堡

出張所 リオン、紐育、桑港、孟買、カルカッタ、コロンボ、蘭貢、柴棍、磐谷、ベナン、マ

ラツカ、ジヨホール、バタビヤ、イロイロ、イポーキユダラムブル、スラバヤ、神戸、

長崎、北京、天津、青島、漢口、福州、厦門、廣東

派出所 上海虹口

業務

(一)爲替業務 本行ノ主要目的ノ一ハ東洋ニ於ケル英國貿易ノ振興ヲ期スルニアリ、而シテコレガ爲ニハ外國爲替業務ハ其最モ主要ナル部分ナルガ、其重要ナル營業區域支那ガ銀本位ナルガ爲ニ、金本位タル英本國其他トノ間ノ爲替相場ハ變動常ナク、爲ニ業務上多大ノ影響ヲ蒙リ時ニ打撃ヲ受クルコトアルト共ニ、又收益ヲ獲ルコト多ク、コレ實ニ同行收益ノ第一ノ源泉ナリトス、尙同行ガ香港本店

及支那各地營業所ニ於テ賣買セル爲替ハ之レヲ世界ノ中心市場タル倫敦及支那ノ中心市場タル上海ノ兩地ニ於テ決済ス。

(二)預金及貸付 爲替業務ト共ニ預金及貸付業務ガ本行ノ重要業務タルハ他ノ銀行ト同ジ、預金額ハ年々増加ノ狀アリ、其累年比較表次ノ如シ。

香港上海銀行預金貸出高累年比較表

年次	預金		計	指數	割引及貸付金	
	當座預金	定期預金			金額	指數
一八六五年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	3,180,000	100
一八七〇年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	3,750,000	118
一八八〇年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	4,450,000	142
一八九〇年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	5,150,000	165
一八九五年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	5,850,000	193
一八九六年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	6,550,000	208
一八九七年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	7,250,000	229
一八九八年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	7,950,000	252
一八九九年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	8,650,000	275
一九〇〇年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	9,350,000	298
一九〇一年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	10,050,000	321
一九〇二年	1,000,000	1,000,000	2,000,000	100	10,750,000	344

香港上海銀行

年次	預		計	指	割引及貸付金	
	當座預金	定期預金			金	額
一九〇三年	九七、二九、三三	一〇三、五八、五九	二〇〇、六七、七四	五、九二七	八九、九〇、七七	二、八五九
一九〇四年	一〇〇、〇一、八六	一〇三、八八、三六	二〇三、八九、五八	六、三〇〇	八五、六〇、九四	二、七三三
一九〇五年	一一五、九八、八四	一〇六、六五、二九	二二二、九五、一三	五、五五七	九一、一四四、八一	二、八九九
一九〇六年	一〇五、〇一、九三	九四、八七、九〇	一九九、八九、八三	五、八八五	九三、〇三九、七四	二、九六六
一九〇七年	二六、九五、七五	九七、二〇、四一	一二四、〇七七、一六	六、六九	一〇一、五九八、二五	三、三三三
一九〇八年	八三、七三、三三	一一五、七八、四四	一九九、五二、七七	八、八〇〇	一一〇、〇七四、六三	三、八二八
一九〇九年	一五七、九七、五二	一一四、四六、九三	二七二、四四、四五	八、〇四八	一〇八、五〇一、三六	三、四四〇
一九一〇年	一四九、四三、七六	一一四、四四、八七	二六三、八八、六三	八、八〇一	一一五、二八六、九三	三、九〇六
一九一一年	一七、七三、〇八	一一一、五〇、八〇	一二八、二三、八八	八、八二二	一一三、〇六四、八四	三、八八一
一九一二年	一七、九〇、九七	一一二、四八、六二	一二九、三九、五九	八、五三三	一二九、八六九、九四	三、八八二
一九一三年	一八、四七、七六	一一五、七三、八三	一三三、二一、五九	八、八〇九	一四一、六八四、五三	四、四〇八
一九一四年	二〇、三六、〇七	一二四、四五、九八	一四四、八一、〇五	九、七二八	一四一、五〇〇、八五	四、五〇一

備考 一八七〇年ヨリ一八九五年迄ハ六月三十日ニ於ケル數字ヲ示シ其他ハ各年末現在ノ計數ナリ

同行貸出業務ハ創立第一年末ニ於テハ貸出金二百四十萬弗ナリシモノ、一九〇七年以降ニハ一億弗

以上ニ達シ、一九〇八年ニハ前年ニ比シ一千八百四十萬弗、一九一〇年ニハ一千六百七十萬弗、一九

一二年ニハ一千七百八十萬弗ノ劇増ヲ來シ一九一四年末ニハ一億四千一百萬弗ニ達セリ。

(三)發券業務 本行ハ銀行券發行ノ特權ヲ有ス、而シテ此特權ヲ行使シ得ル地域ニ關シテハ一八六六

年、銀行令第十二條第四項ニ於テ「本令ハ會社ヲシテ殖民地(香港)又ハ現ニ會社ノ營業所ノ設置セラレ若クハ將來設置セラルベキ地ニ於ケル銀行券發行ニ關スル現行法規若クハ將來發布セラルベキ法規ノ適用ヲ除外セシムルモノニアラズ」トノ條項アルヲ以テ同行ガ發行權ヲ行使シ得ベキ地域ハ香港ノ外其他ノ法令ニ於テ之レヲ禁止セザル各營業所所在地ナルモ、現ニ同行ガ銀行券ヲ發行シ得ベキ地域ハ香港、支那、暹羅及海峽殖民地ナリ、而シテ其内香港ニ於テハ他ノ渣打銀行、有利銀行共ニ銀行券發行ノ特權ヲ有スト雖モ、本行ノ發行スルモノ最モ勢力アリ、其額最モ多ク又本行ノミ一弗券發行ノ特權ヲ有ス、又暹羅ニアリテハ盤谷ニ一出張所ヲ設ケ海峽殖民地ニアリテハ新嘉坡ニ一支店ヲ置キ各銀行券ヲ發行スルモ其額多カラズ、支那ニ於テハ南支那一帶ニ於テ其銀行券ヲ發行シ各國銀行ノ發行スルモノニ比シテ最モ勢力ト信用アリ、其銀行券發行高ヲ見ルニ同行創立後最初ニ公表シタル一八六五年ノ貸借對照表ニ於テハ諸預金ト銀行券流通高トノ合計ヲ三百三十八萬弗ト計上セシガ一八九〇年末ニハ銀行券發行高六百十八萬弗ニ、一九〇〇年末ニハ一千二百五十一萬弗ニ、一九一〇年末ニハ一千五百九十萬弗ニ一九一四年末ニハ二千七百二十四萬弗ニ達セリ。

本行ノ發行スル銀行券ハ通常弗(元)ヲ以テ記載セラルルモ、支那ニ於テハ別ニ兩銀券ヲ發行セリ、而シテ其種類弗券ハ百、五十、十、五弗ノ四種、兩券亦百、五十、十、五兩ノ四種トス、但香港ニテハ此四種ノ弗券ノ外一八七二年ノ香港政廳布告ニヨリ一弗ノ小額券ノ發行ヲモ許可セラル。

是等銀行券ハ其發行地ニ於テ所持人ノ請求ニヨリ何時ニテモ其地ノ通貨ヲ以テ兌換セラルベキモノトス、然レドモ其香港以外ノ地ニテ發行セルモノモ、香港本店ハ之レガ兌換ノ請求ニ應ズル義務アルモノナリ、但シ此場合其券面記載ノ金額香港通貨以外ナル時ハ、該券面額ノ兌換請求ノ日ニ於ケル爲替相場ニテ香港通貨ニ換算セルモノヲ拂渡セバ可ナリ、尙銀行券發行ニ關スル諸制限次ノ如シ。

一、發行額ニ關スル制限 英國海外銀行ノ銀行券發行高ハ、總テ其ノ拂込資本額ヲ以テ限度ト爲スヲ通則トセリ、從テ本行ニ於テモ一八六六年銀行令第十三條第一項ニ於テ、發行總額ハ銀行ノ拂込資本金額ヲ限度トスル旨ヲ規定セリ、然レドモ之ニ對シ一ノ重要ナル例外アリ、即一八九八年七月三十一日以後一箇年ノ期間ヲ限リ、拂込資本金ヲ超過シ銀行券ヲ發行スルコトヲ得ベキモノト爲セルコト是ナリ、此ノ特別規定ノ効力ハ、僅ニ一箇年ニ限ラレタリト雖、後屢延期セラレ遂ニ一九〇七年香港政廳命令第七號ニヨリ、之ヲ一九二九年八月十三日即香港上海銀行ノ存續期間中延期セラルルコトト爲レリ、然レドモ其ノ期間ノ終了後果シテ此ノ例外規定ノ効力ヲ消滅セシメ得ベキヤ、又ハ更ニ延期ヲ見ルベキヤハ之ヲ知ルベカラズ、然カモ同銀行既往ノ經歷ニ鑑ミ且其實際ヨリ察スレバ本規定ハ其後モ引續キ有効ト見ルヲ當レリトス、但此ノ拂込資本金ヲ超過シテ發行セル部分ニ對シテハ、該超過額ニ均シキ正貨又ハ地金銀ヲ香港政廳ニ預托スルコトヲ要スルモノトス。

右ノ外銀行令第十四條ニ於テ會社債務ノ總額ハ、現ニ存在スル會社ノ確實ナル資産及未拂込株金ノ

合計額ヲ超過スベカラザルコトヲ規定セリ、此ノ規定中會社債務ノ内ニ銀行券流通高ヲ包含スルコトヲ論ヲ埃タザル所ナリ、從テ本規定亦銀行券發行高ニ對スル一ノ制限ト觀ルヲ至當トス。

二、銀行券ノ發行準備 (イ)銀行券ヲ發行スル各營業所ニ於テハ、其ノ發行ニ係ル銀行券流通額ノ少クトモ三分ノ一ニ均シキ正貨及地金銀ヲ兌換準備トシテ保有セザルベカラズ、(ロ)銀行ハ其ノ拂込資本金額ノ少クトモ三分ノ一ニ均シキ貨幣又ハ有價證券ヲ Crown Agent 若クハ其ノ代理者ニ預托スルコトヲ要ス、斯クシテ預托セル貨幣又ハ有價證券ハ銀行券兌換基金トシテ政府之ヲ保管シ、一朝銀行ガ仕拂不能トナリタル場合之ヲ使用スベキモノトセリ、(ハ)上述拂込資本金額ヲ超過シテ銀行券ヲ發行スル場合ニ於テハ、該超過額ニ對シ全部ノ貨幣及地金銀ヲ香港政廳ニ預托スベキモノトス。

三、銀行券ニ對スル株主ノ責任 右述ブル如ク銀行券ノ發行ニ關シ種々ノ制限ヲ設ケタルハ、國家ガ銀行券兌換ノ安全ヲ期シ、其ノ所持人ニ對シ不測ノ損失ヲ被ラシメザラントセシモノニ外ナラズ、固ヨリ銀行券所持人ニ對シテハ銀行ノ總資産ヲ以テ擔保ト爲スノ外、又株主ヲシテ其ノ所有株式金額ノ二倍迄責任ヲ負擔セシムルモノナリト雖、此等ノ保證ハ啻ニ銀行券所持人ニ對スル債務ノミナラズ、其ノ他一般ノ債務ニ對シ亦同一ノ順位ニ於テ擔保タルベキモノナリ、之ヲ香港上海銀行ニ在リテハ一ノ特別ノ制度ヲ設ケ銀行券ノ流通額ニ對シテハ各株主ハ總テ無限ノ責任ヲ負フベキモノト

爲セシコト他ニ類例ナキ處ナリ。

(四) 證券業務 香港上海銀行ハ支那ニ於ケル英國ノ投資機關トシテ非常ナル活動ヲナシ、本行ニヨリテ英國ノ資本的勢力ノ支那ニ及ベルコト甚大ナリ、今本行ガ支那ニ於テ引受ケタル公債借款ノ主要ナルモノヲ列舉スレバ次ノ如シ。

- 一、一八七七年伊犁地方征討費借款 伊犁地方叛徒討伐ノ軍費ニ充ツル爲、政府ハ時ノ江南總督沈葆楨ヲシテ五百萬兩(英貨百五十萬磅)ノ外債ヲ募集セシメタリ、年利一割五分、七箇年内ニ還済スベキモノニシテ擔保トシテハ浙、粵、江、漢ノ海關收入ヲ以テ之ニ充ツル外、關稅證書ヲ副擔保ト爲セリ、其ノ副擔保タル關稅證書トハ、清國官吏ノ署名捺印セル海關納稅票ニシテ、萬一ノ場合之ヲ海關納稅ニ利用シ得ルノ準備ヲ爲セルモノナリ、右借款ハ全部本行ニテ引受ケタルガ、其借款金額ノ半額二百五十萬兩ヲ支那政府ニ交付スルニ先ダテ、急ニ船ヲ裝シテ之ヲ本國ヨリ送付セシメタリト云ヘバ、以テ同行ノ資力ガ當時尙大ナル能ハザリシ狀ヲ想見シ得ベシ。
- 二、一八七九年七分利付借款 同年本行ヨリ一千六百十五萬元(英貨三百四十八萬八千四百磅)ノ借入ヲ爲セリト云フモ其ノ詳細ヲ知ルコト能ハズ。
- 三、一八八五年七分利付借款 起債額英貨百五十萬磅ニシテ、本行ノ單獨引受ニ係ルモノナリ。
- 四、一八九四年滙豐銀貨借款 本借款ハ日清戰役ノ當時其ノ戰費ニ充ツルタメ、本行ヨリ借入タルモ

ノナリ、起債額庫平兩一千萬兩(英貨一百六十三萬五千磅)、利子年七分ナリ、擔保ハ從來ノ優先權者ニ次ギ、全國海關收入ニシテ、尙關稅證書ヲ副擔保トセルコト前ニ同ジ、期限ハ据置年限ヲ十箇年トシ、一九〇五年ヨリ十箇年内ニ償還セラルベキモノトス、同借款ハ手取額九十八萬磅ナリ。

五、一八九五年滙豐金貨借款 支那ハ更ニ軍費支辨ノ爲メ同年二月再ビ本行ト英貨三百萬磅借入レノ契約ヲ締結セリ利子年六分、手取額九十二萬磅、償還期限ハ一九〇〇年ヨリ十五箇年トス。

六、一八九六年第一次英獨借款 一八九六年四月十七日ヲ以テ成立シタル講和條約ニ依リ日清戰役終局ヲ告グルヤ、支那ハ日本ニ對シ賠償金トシテ講和條約調印後七ケ年以内ニ庫平銀二億兩ヲ仕拂ハザルベカラザルニ至リ、之ガ資金ヲ外債ニ求メントスルニ當リ、英、獨、露、佛等ノ間ニ頗ル激烈ナル競争ヲ惹起シタル結果、其ノ第一回ノ仕拂ニ對シテハ露佛ハ一八九五年七月六日露佛銀行組合ヲシテ五億法(一億留)ノ借款應募ヲ契約セシメ、英獨二國ノ競争ニ打勝ツニ至レリ、該借款ハ僅々四分ノ低利ヲ以テシ、且露國政府自ラ仕拂保證ニ立チシ等如何ニ其ノ競争ノ激烈ナリシカヲ知ルヲ得ベシ、斯クノ如クニシテ第一回賠償金仕拂ニ要スル借款引受ニ關シ、露佛ニ敗レタル英獨兩國ハ直チニ第二回支拂ニ要スル借款ノ引受運動ヲ開始シ、一八九六年三月七日一億兩(英貨一千六百萬磅)ノ借款引受契約ニ調印スルヲ得、漸ク當初ノ目的ヲ貫徹スルコトヲ得タリ、即チ本借款ハ本銀行及獨亞銀行ノ引受ニ係ルモノニシテ、年利五分、手取額九十四萬磅、全國海關收入及海關納稅票

ヲ擔保トシ、其ノ第一回一千萬磅ハ同年三月廿七日九十八磅四分ノ三ヲ以テ、殘額五百萬磅ハ同年九月十五日九十九磅ヲ以テ、何レモ倫敦及伯林ニ於テ發行セラレタリ。

七、一八九八年第二次英獨借款 日清講和條約ニヨリ仕拂未済ノ償金全部ヲ、一八九八年内ニ仕拂フトキハ、償金ニ對スル利子ノ免除ヲ得ルノミナラズ、威海衛占領ヲモ解除セラルベク、清國ノ體面ヲ保持スルコト少カラズ、之ヲ以テ清國ハ償金殘額ヲ一時ニ皆済スルノ目的ヲ以テ、外債ヲ募集セントシ之レヲ本行及獨亞兩銀行ニテ引受ケ、同年三月十七日倫敦及伯林ニ於テ千六百萬磅ノ四分五厘利付支那公債ヲ發行セリ、其ノ手取額八十三磅、發行價格九十磅ニシテ、海關收入ノ外又蘇州、松滬、九江、浙東ニ於ケル鹽釐金稅ヲ擔保トセリ。

八、一八九八年京奉鐵道借款 京奉鐵道ハ本ト清國政府自己ノ資金ヲ以テ敷設ニ着手シ、一八九六年ニ至リ北京塘沽間ノ開通ヲ見ルニ至リ、更ニ延長シテ山海關ヨリ營口新民屯間ノ工事ニ着手シタルモ、當時戰後ノ清國ハ財政窮乏シテ、之ガ資金ヲ出スニ由ナク工事ヲ繼續スル能ハザルニ至リシカバ、英國ハ機乘ズベシト爲シ本行ヲシテ之ガ資金供給ノ契約ヲナサシメントシ、一八九八年六月七日先ヅ清國ト豫備契約ヲ締結セシメ、次デ同年十月十日山海關牛莊鐵道借款契約成立スルニ至リ、翌年二月二百三十萬磅ノ五分利借款ヲ倫敦ニ於テ發行スルニ至レリ、是ヨリ先キ露國ハ露清鐵道ガ同鐵道ニ對シ六十萬兩ノ債權ヲ有シタルヲ口實トシ、極力其ノ破棄ヲ迫リテ止マズ、問題ハ英露兩

國ノ外交問題トナリ、露都ニ移リテ談判數月ノ後、一八九九年四月二十八日有名ナル清國鐵道ニ關スル英露協商ノ締結トナリテ局ヲ結ベリ。

九、一九〇三年滬寧鐵道借款 同借款ハ本行ト怡和洋行トノ共同ニ成レル英清組合ノ代表者トシテ、本行談判ノ衝ニ當リ、一八九八年七月假契約ヲ締結シタルニ、偶々南阿戰爭及團匪事變ノ起ルアリ、爲ニ其ノ後ノ協商遲延シテ、空シク數年ヲ經過シタル後、一九〇三年七月ニ至リ再ビ談判ヲ開始シ、遂ニ同月十日二百九十萬磅ノ借款成立スルニ至レリ、其ノ利子年五分、手取額九十磅ナリ、而シテ右金額中二百二十五萬磅ハ一九〇四年七月其ノ殘額六十五萬磅ハ一九〇六年十一月共ニ倫敦ニテ發行セラレタリ。

一〇、一九〇五年團匪事變賠償金元利償却補充借款 團匪事變賠償金ノ仕拂ニ關シ、清國ハ銀貨仕拂問題交渉中三箇年間ニ亘リ遲滯シタル不足額ニ對シ、年利四分ヲ加算シテ之ヲ列國ニ仕拂ハザルベカラザルニ至リ、一九〇五年遂ニ本行ト一百萬磅ノ借款契約ヲ締結シ、年利五分、九十七磅ヲ以テ之ヲ倫敦ニテ發行シタリ。

一一、一九〇六年九廣鐵道借款 九廣鐵道借款ハ一八九九年假契約ヲ結ビ、次デ一九〇六年三月英清組合ト本契約ヲ締結シタルモノニシテ、英清組合ハ本行其ノ牛耳ヲ把レルモノナリ、同借款金額百五十萬磅、年利五分、手取額九十四磅、倫敦ニ於テ百磅ヲ以テ發行セラレタルモノナリ。

一二、一九〇八年及一九一〇年津浦鐵道借款 津浦鐵道ハ初メ内資ヲ以テ敷設スベキ豫定ナリシモ、後英國資本家ト議シテ二千七百萬兩ノ借款ヲ契約シタルニ、之ニ對シ獨逸ハ山東ニ於ケル同國ノ利權ヲ害スルモノナリトシテ、強硬ナル抗議ヲ提起シタルニヨリ、遂ニ兩國協同シテ之ガ投資ノ任ニ當ルベキノ協約ヲ結ビ、清國ニ要求シテ一八九九年其ノ投資權ヲ得、直ニ工事ニ着手セントセシニ偶々北清事變ノ起ルアリテ目的ヲ達セズ、一九〇八年一月ニ至リ本行トノ間ニ五百萬磅ノ借款ヲ締結シテ工事ニ着手シ、其後一九一〇年四百五十萬磅ノ第二次借款契約ヲ締結シタリ、第一次及第二次借款ノ利子共ニ年五分ニシテ倫敦及伯林ニ於テ發行セリ。

一三、一九〇八年滬杭甬鐵道借款 本借款契約ハ一九〇八年三月成立ヲ見ルニ至レルモノナリ、其ノ金額百五十萬磅、利子年五分、手取額九十三萬磅ニシテ、引受者ハ本行其他ノ合同ニナレル英清組合ナリトス。

一四、一九〇八年京漢鐵道買收借款 京漢鐵道ハ初メ白耳義「シンジケート」ヨリ資金ノ供給ヲ得テ之ヲ敷設シタルモノナリシガ、清國政府ハ該借款据置期限ノ經過シタル後、新ニ本借款五百萬磅ヲ募集シ、前記白耳義「シンジケート」ノ借款ヲ償還セリ、即チ本借款ハ本行及印度支那銀行ノ引受ニ係ルモノニシテ、利子年五分、手取額九十四萬磅トシ、倫敦及巴里ニ於テ之ヲ發行セルモノトス、而シテ前述借款償還ニ對シ不足シタル部分ニ就テハ、度支部及大清銀行ヨリノ借入金ニ頼ル外、又日、

英、佛、獨、各銀行ヨリ一時借入ヲ爲シ之ニ充テタルモノニシテ、香港上海銀行モ之ニ對シ三百萬兩ノ貸付ヲ爲セリ。

一五、一九一一年粵川漢鐵道借款 粵漢鐵道ハ初メ米國支那開發會社ヲシテ資金ヲ供給セシメ、敷設ニ着手シタルニ露佛兩國ハ私カニ白耳義「シンジケート」ノ假面ノ下ニ其ノ株券ノ過半ヲ買收シ、事實上同會社ハ露佛ノ手中ニ收メラル、ニ至リシヨリ、時ノ總督張之洞ハ本鐵道ノ實權亦遂ニ外人ノ手ニ歸センコトヲ恐レ、一九〇五年米國支那開發會社ニ賠償金六百七十萬弗ヲ支拂ヒ、之ヲ回收シ、内資ヲ以テ之ガ敷設ヲ計リシモ資金ノ募集意ノ如クナラズ、到底之ガ成立ヲ期スルノ見込ナカリシカバ、此ノ事件ニ關係ナカリシ英國ヨリ一百五十萬磅ノ借入ヲ爲スベク、本行ニ諮リタルニ、
(一)自今南清ニ於テ他國ノ鐵道鑛山ニ關スル利權ヲ要求スルモノアレバ必ズ之ヲ英國ニ諮ルコト、
(二)自今清國ガ南清ニ於ケル鐵道敷設及鑛山採掘ヲ計畫スルトキハ、英國ノ資本ヲ用フベキコトノ條件ヲ付セントセシヨリ、容易ニ契約成立スルニ至ラズ、然ルニ一方ニ於テ獨亞銀行ノ暗中飛躍効ヲ奏シ英ニ代リテ資金供給ノ約正ニ成ラントシタリシカバ、英國資本家ハ佛ノ資本家ト共ニ之ニ對抗シ、英獨佛ノ競爭最モ激烈ヲ極メタリ、加フルニ支那人民ノ反對甚シク交渉モ其ノマ、中止ノ姿トナリタルニ、一九一一年ニ至リ漸ク英獨佛資本家ヲ代表セル本行、獨亞銀行、印度支那銀行ノ外更ニ米國資本團ヲ加ヘ之ト支那政府トノ間ニ借款契約ノ成立ヲ見ルニ至レリ、其ノ金額六百萬磅、

手取額九十五磅利子年五分、倫敦、伯林、巴里及紐育等ニ於テ發行スベキモノニシテ、尙同鐵道敷設費ニ不足ヲ生ジタル時ハ、本契約ト同一ノ條件ヲ以テ、更ニ四百萬磅以內ノ第二次借款ニ應ズベシトノ條件ヲ附セリ。

一六、一九一三年善後借款 中華民國ノ成立以來久シク懸案タリシ本借款モ幾多ノ曲折ヲ經テ、一九一三年四月日、英、露、獨、佛ヨリ成ル五國資本團ト、支那政府トノ間ニ契約ノ成立ヲ見ルニ至レルモノニシテ、本行ハ英國ノ資本家ヲ代表シテ之ニ調印セリ、其ノ金額二千五百萬磅、利子年五分、手取額八十四磅ニシテ、全國ノ鹽稅ヲ擔保トス、尙本借款ノ用途ハ公債ノ償還、軍隊解散、鹽政改革其他一般行政費等ニ使用セラレベク此等ノ借款用途ヲ監視シ且ツ鹽政ヲ監督セシムル爲、各國ヨリ顧問ヲ僱聘スベキモノトセル等ノ條件ヲ附セリ。

一七、南京政府公債 第一次革命ニ南京政府成立ノ際市場救濟資金トシテ獨亞銀行、東方匯理銀行ト共ニ三百萬兩ノ借款ヲ引受ケタリ。

一八、湖北省外債 一九〇九年湖北省外債五百萬兩ヲ引受ケタリ。

一九、湖北省銀貨外債 一九一一年獨亞、印度支那、花旗各銀行ト共ニ湖北省外債二百萬兩ヲ引受ケタリ。

二〇、招商局社債 一九一一年南京政府ノ政費不足セル爲招商局社債ノ名ヲ以テ百五十萬兩ノ借款ヲ

引受ケタリ。

二一、上海市場救濟借款 一九一〇年上海市場ノ恐慌救濟ノ爲ノ借款三百五十萬兩ヲ他ノ九銀行ト共ニ引受ケ、本行ハ其內八十萬兩ヲ分擔セリ。

二二、上海商務總會公債 一九一二年該公債二百萬兩ヲ引受ケタリ。

營業成績

本行最近ノ營業成績ヲ示ス爲ニ、一九一七年二月二十三日香港シチーホールニ開催セラレタル其年次株主總會ニ於テドッドウエル氏ノ議長トシテ報告シタル一九一六年度ノ營業狀況ヲ示スベシ。

▼收益處分 昨年度ノ純益ハ前年度ヨリノ繰越三、一六六、五七八弗八五ヲ合シテ、九、八二〇、一八〇弗三三ニ達シ、非常ノ好成绩ヲ示セリ、而シテ八月ニ支拂ヘル上半期配當(二志六片二五替ニテ)、及重役報酬三萬弗ヲ控除シタル殘額、七、七四三、二三八弗一八ハ、之ヲ左ノ如ク處分セリ、即チ下半年配當一株ニ付キ二磅三志、更ニ一株ニ付キ特別配當一磅(所得稅ヲ控除スルモノトス)、合計昨年度ノ株主配當ハ六十三萬六千磅(一株ニ付キ五磅六志)トナル、後期配當及特別配當ハ、三志ノ爲替ニテ支拂ハルベキモノトシ、之等ヲ差引キタル殘額ハ之ヲ

銀行準備金

1,000,000,000

銀行資産償却勘定

次年度勘定ニ繰入

一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
三、二二三、二三八、一八

ノ如ク處分シ、重役ニ於テハ、切ニ特別配當ノ増加ヲナシ得ルコトヲ、常ニ希望シ居ルモノニテ、今回ハ十志ノ増加ヲナシテ、一磅ノ特別配當ヲナシ得タルヲ歡フ、サレド株主諸氏ハ、特別配當ハ其額時ノ事情ニヨリテ、増減不定ヲ免レ難キモノナルコトヲ記憶セラルルヲ要ス、一九一七年ノ配當支拂額ハ、前年度ニ比シ、六萬磅多シト雖モ、弗計算ニ於テハ銀高ナリシタメ却テ前年ヨリ尠シ。

銀準備ハ今回加ヘタル一百萬弗ヲ合セテ、一千九百五十萬弗ニ達シタルガ、該資金ハ時ノ進ムニ從テ、引續キ増加シ得ベシト信ズ、今日迄各種ノ異變ニ對シテ、充分ナル準備ヲナシ來レルハ、諸氏ノ均シク賢明ノ方法ナリト贊同セラルベキヲ確信ス、銀行資産勘定ノ償却準備ニ、一百萬弗ヲ用意セルガ、之ハ昨年ノ資産經費ノ約九割ニ相當ス、而シテ經費支出ハ、依然多キヲ以テ、評價ハ充分確固タルモノナルハ説明スル迄モナシ、諸氏ノ前ニアル數字ハ自ラ諸氏ノ利益ノ良好ナリシヲ示シテ餘ス所ナカル可シ、而シテ行員（ハンブルグ支店ヲ除キ）ニ對シ、昨年給料二割ヲ賞與トシテ支給スルハ、諸氏ニ於テ何等異議ナカルベシト思惟ス。

▼職員ノ不足 總テ他ノ英國銀行及商社ト同様、本銀行モ亦職員ノ不足ニ苦シミツ、アリ、而シテ事務ニ於テハ、何等ノ減少ナカリシヲ以テ（事實或ル場合ニ於テハ却テ以前ヨリモ増加シ居レリ）勢ヒ行

員ニ劇務ヲ強ヒ、何レモ多大ノ過勞ニ在リト雖モ、去リトテ寸暇ノ休養モ融通スルコト至難ニシテ、事態頗ル困難ノ現狀ニ在リ、且ツ今後ト雖モ尙當分何等回復ノ模様ナキモノ、如シ、サレド吾人英國人ハ、總テ現在ノ如キ時ニ於テハ、各自獻身の奉公ヲナサザル可カラザルヲ自覺スルガ故ニ、行員ハ何レモ衷心ヨリ、進ンデ劇務ニ當ルヲ望ムモノナルコトハ、信ジテ疑ハズ、昨年中戰線ニ活動シテ、殫レタル我が行員數名ノ死ヲ報ゼザル可カラザルヲ、深ク遺憾トス、戰爭勃發以來本行ヨリ從軍シタルモノニシテ、各地ノ戰場ニ於テ戰死セルモノ二十八名ニ達スルガ、我等ハ之等戰死者ノ遺族ニ對シテ满腔ノ同情ヲ寄スルモノナリ。

▼貸借對照表 バランスシートニ於ケル數字ニ關シテハ、餘リ説明ヲ要スベキモノナシト思考ス、即チ爲替ハ其ノ重要ナルモノニハ非ズ、金當座勘定及定期預金ハ合計前年ノ一〇、八〇〇、〇〇〇磅ニ對シテ九、八四〇、〇〇〇磅ニ減ジタレドモ、銀當座勘定ハ一億八千七百五十萬弗ニシテ、昨年當時ヨリ三千四百萬弗多シ、銀定期預金ハ、六千一百萬弗ニシテ四萬弗少シ、銀當座勘定及銀定期預金ノ項目下ニハ、從前銀本位ニアリシモノニシテ、多年ノ間一定ノ或ル爲替基礎ヲ建テ來レル、諸國ノ數字ヲ含メルモノナルヲ以テ、從テ「銀」ナル名稱ハ正當ニアラズ、而シテ斯ク金ト銀トノバランスヲ各別々ニ表示セントスル、從來ノ方法（過去ノ遺物タル）ヲ廢止センコトハ、吾人ノ意嚮ナルコトヲ指摘ス、將來ハ單一價額ノミニテ、表ハス事トスベシ、即チ定期預金及當座勘定ニ對シテ、弗合計ヲ以テ表ハ

スベク、斯クスルハ決算報告作製上最モ適當ノ方法ナリ。

手形ノ流通額ハ、前年合計ニ比シ四百二十五萬弗少額ナレドモ、支拂手形ハ約五百五十萬弗ノ増加ヲナセリ、右支拂手形ノ増加ハ、主トシテ海外郵便物ノ遲緩ナルタメ、從テドラフト需要額、更ニ多カリシニ原因スルモノナリ、決算ノ他ノ方面ニ於テ、現金（紙幣發行勘定トシテ香港政廳ニ預ケアル一千五百五十萬弗ヲ含ム）ハ、前年度末ノ六千一百萬弗ニ對シ、今年ハ約八千四百萬弗ニ立テリ、金銀塊ノ手元及航海中ノモノヲ合セ、其有高ハ全ク變動ヲ示サズ、有價證券有高ハ、投資増加セルタメ、少ク前年度ヨリ多キガ、之等ハ總テ安全ナル程度ト思考セラル、迄ニ、價格ヲ書下ゲタリ、準備金一百五十萬磅ハ、今ヤ全ク英國政府ノ五分利戰時公債ニ投資セラレ、帳面ニハ九五ノ發行價格ニテ記載シアリ、割引手形、貸付金及信用貸ハ前年貸借對照表ニ於ケルヨリモ、約一千四百萬弗少ナク、受取手形ハ約二百五十萬弗多シ。

倫敦ニ於テハ昨年度ヲ通シテ金融潤澤ニシテ英蘭銀行ハ、利率ヲ一九一七年一月十八日六分ヨリ五分五厘ニ引下ゲ、四月更ニ五分ニ引下ゲタリ、爾來利率ハ五分ニ釘付ケセラレ來レルガ、市場ニ於ケル三ヶ月手形ノ割引率ハ、上半期平均四磅十六志七斤(%)、コール貸四磅十一志(%)ニシテ、兩者間ノ差異ハ餘リ多クノ利潤ヲ許サズ、而シテ爾來割引歩合ハ四分七厘五毛ニテ *Open* セラレタル大藏證券ノ競争如何ニ依テ決セラル、這ハ支持セラルベキ模樣ノ状態ナリ、該證券ハ吾人ノ不平ヲ挿ム可キ程

ノ無力ノモノニハ非ズ、爾來大藏證券ノ歩合ハ、三分五厘ニ低減セラレ、總テノ期限手形ニ對スル割引率ハ、3%ニ引下ゲラレタリ、戰時ニ在リテハ、國家ノ財源ヲ吸收シ、一方國民亦國家ノ此目的ノ爲メニハ、極力盡瘁スルヲ要スルハ、一般既ニ自覺スル所ニシテ、此際我國財政ヲ政府ノ手ニ集中スルノ必要アリ、吾等ハ銀行業者トシテ、之ト協力スルノ準備ヲナシ來レルト共ニ、吾人ガ出來得ル限リ、政府者ノ管理ヲシテ效果多カラシムルニ努メツ、アリ、此財政政策ハ我が聯合與國ニモ及ブニ於テハ、更ニ其ノ效果ノ大ナルハ、否ム可カラザル所、最近英蘭銀行ト合衆國聯邦準備銀行間ニ設ケラレタル、一層密接ナル關係ハ、倫敦及紐育ノ金融市場ヲ共通セシメ、且ツ相互執レノ國ニ於ケル、現金準備金ハ、他ノ國（二者ノ一國）ニ於テ、信用貸出ノ基礎ヲナシ得ルノ方法ニテ、兩者ノ財源ヲ集中スル等ニテ、實際ニ於テ既ニ兩國ニ最大ノ利益ヲ與ヘツ、アルガ、戰時財政ノ異常ナル場合ニ依テ誕生ヲ見タル、之等有力ナル方法ハ、益々平時ニ於ケル國際貿易ノ財政ノタメ、更ニ永遠ノ按配ヲナスノ基礎ヲ造ルモノナリト謂ヒ得可シ。

▼銀相場 交戰各國舉テ信用手形ノ發行、莫大ノ増加ヲナセルニ基キ、信用貸付ノ膨脹セルト銀需用諸國、殊ニ印度ノ生銀需要甚ダ旺盛ナリシヨリ銀相場ハ昇騰ノ外ナカル可シトハ、一般ニ期待セラレタル所ナリシガ、昨年ヲ通ジテ、銀相場ハ三月ニ於ケル三十五片十六分ノ十一ヨリ、九月ニ於ケル五十五片ノ間ヲ往來シ、其最高最低ノ差ハ一オンスニ付十九片十六分ノ五ナリ、一月一オンス三十六片

ノ相場ハ漸次昇騰シテ九月ノ五十五片迄進ミシガ、此相場ニテハ印度ニ於ケル留比ノ銀分、海峽殖民
地ニ於ケル弗ノ銀分、及日本ニ於ケル圓ノ銀分ハ、之等諸國ノ金爲替本位ノバリテイヲ超過セルヨ
リ、銀貨ヲ鑄潰シ、銀塊トシテ賣却スルモノヲ生ジタルヲ以テ、之等諸國ニテハ各其ノ通貨保護ノタ
メ、法律的行動ヲ取ルノ必要ニ迫ラレ、總テ印度、日本、海峽殖民地及暹羅、並ニ英吉利、米國等夫
々銀ノ輸出ヲ禁止スルニ至リ、爰ニ眼前ニ迫レル危險ヲ未然ニ防止スルヲ得タリ。

銀相場ノ低落ハ、其騰貴ヨリモ更ニ急速ニシテ、神經質的ノモノナリキ、九月二十五日最高點ニ達
シタル時ヨリ、相場ハ僅々四日間ニ六片ヲ下落セリ、其後ノ月ハ、多大ノ動搖相繼ギ、十月三十日ニ
於ケル三片ノ昇騰ハ一日ノ上伸トシテハ一八九三年以來ノ最高記録ナリ、サレド一般ノ傾向ハ、下押
シヲ迎リテ推移シ、四十三片半ヲ最後ノ相場トシテ昨年ヲ鎖シタリ。

一九一七年中、支那ニ輸入シタル銀額ハ、二千三百萬オンスニシテ、輸出ハ五千四百萬オンス、即
チ差引キ支那ニ於ケル在銀高ハ、昨年中ニ三千一百七十五萬オンスヲ減ジタル譯ナリ、サレド近キ將
來ニ於テハ、支那ヨリサシテ多額ノ銀輸出ハナカルベク、現在ノ模様ニテハ多額ノ銀輸入ヲ要セザル
ヲ示スモノ、如シ、支那爲替ハ此間概シテ慎重ノ注意ヲ拂ハレタリシト雖モ、結局銀ノ不規則ニシテ、
急激ナル動搖ニ附隨シテ、昨年ヲ經過セリ。

▼支那ニ於ケル貿易 爲替ノ動搖、政治的紛擾、洪水船腹ノ不足及不定等、幾多不良材料ノ下ニ、昨

年ヲ通ジテ行ハレタルニモ拘ラズ、支那ニ於ケル貿易ハ大體ニ於テ、内外商人共ニ満足ナルモノナリ
キ、世界ノ原料品産額ハ、今ヤ全ク世界ノ必要ヲ滿スニ足リ、又中部及北部支那ノ生産品―穀類、棉
花、羊毛、油、皮革等―ノ需要ハ、爲替、運賃及保險ガ、更ニ高率ナルニ拘ラズ、依然支持セラル可
キハ驚クニ足ラズ、從前爲替ノ高率ハ、支那ヨリノ輸出ヲ削減シタレドモ、一九一七年ニ於テハ然ラ
ズ、歐洲及亞米利加ノ買人ハ、支那人側ノ要求スル相場ヲ支拂フヲ得タリ、而シテ戰前單ニ歐洲ニノ
ミノ市場ヲ有シタル支那産品ガ、米國ニ多量ノ消費ヲ見ルニ至レルコトモ、亦注意ニ値ス、其結果支
那商人ハ、自國生産品ノ多クニ對シ、過去多年ノ間經驗シ來レル場合ニ比シ、更ニ高値ノ相場ヲ受ク
ルニ至レルガ故ニ、彼等支那人ハ、輸入品ニ對シテモ、從前以上ノ高値ニテ購買スルヲ得タリ、而シ
テ供給市場ニ於テ、經驗セル困難ヲ想ヘバ、織物其他輸入品ノ貿易ハ満足ナルモノナリキ。

▼賞賛ニ値ス 既ニ戰爭狀態ニ依テ、著シク増加シタル商品ノ貿易ヨリ、離去シ能ハサル危險ト困難
トハ、益々其度ヲ強メ來リ、商業及銀行業家ハ、何レモ其使用人減少セルヲ以テ、國家ノ業務遂行上
過分ノ執務ヲナシ、戰爭遂行ニ對スル必要供給ヲ支持スル上ニ於テ、又同時ニ財政上ノ困難ヲ解除ス
ル上ニ於テ、非常ノ努力ヲ致シ來レリ、彼等ノ勤勞ハ、全ク戰爭ト異ルナク、最モ熱誠ナル愛國心ヨ
リ進出セルモノタルハ、否ム能ハザルモノナリト信ズルガ、之等ハ其努力ノ成功ト共ニ、酬ヒラレタ
ルナリ、而シテ依然殘レル者、即チ戰線ニ立タント欲スル自然ノ衝動ヲ、此最善ノ理由ノタメニ抑制

シタル者ハ、彼等ガ夫々此巨大ナル困難(大戰)ノ幾分ヲ各自ニ負擔シツ、アルヲ感ズルノ權利ヲ有スルモノナリト思考ス、又余ハ總テ商業ニ携ハル者ハ、皆ニ我ガ貿易通路ノ安全ヲ保護スルモノニ對シテノミナラズ、確固不拔ノ精神ヲ以テ、進ンデ之等貿易航路ノ危険ニ蒞メル、豪雄ナル諸士―總テノ聯合國ノ商船―ニ對シテモ、一大感謝ノ負債ヲ負フモノナリト信ズルナリ。

▼爲替ノ地位 印度ニ於ケル爲替状態ハ、昨年ヲ通ジテ何等ノ恢復ヲ示サズ、コンソルスノ割當率ハ一志四片三十二分ノ三十一ニ昇騰セルガ、之ハ現在ニ於テハ印度爲替ノタメ一定ノ基礎ニアリ、印度ニ在ル各種英國爲替銀行ニ依ル、國家的必要ノ輸出ノ財政ハ、彼等ヲシテ極東ヘノ印度爲替、及貿易方面ニ障礙ヲ及ボスベキモノ、取扱餘地ヲ與ヘザリシモ、大體ニ於テ印度貿易ハ頗ル活況ヲ呈シ、且ツ輸出品相場高値ナリシヲ以テ、地方人民ハ良好ナリシニ相違ナク、留比貨ノ吸收ハ再ビ莫大ノ額ニ達シタリ。

一九一七年ノ日本ノ外國貿易ハ、總テ從前ノ記録ヲ超越シ五億八千九百九十二萬三千圓ノ輸出超過ニシテ、前年出超ニ比シ、二〇三、七二三、〇〇〇圓ノ多キヲ示セリ、即チ合計數ハ輸出一、六八三、八七〇、〇〇〇圓、輸入一、〇九三、八五七、〇〇〇圓ニシテ、前年ニ比シ輸出四割二分、輸入三割七分ノ増加ニテ輸出入合計ニ於テハ七億九千八百萬圓、四割ノ増加トナル、斯カル輸出大超過ハ昨年當初九ヶ月間、米國ニ於ケル自由金市場ト相俟テ、日本ノ正金有高ニ非常ナル大増加ヲ來シ、今ヤ合計十一億

二千萬圓ニ達シ、一年前ニ比シ四億一千一百萬圓多ク、右正貨ノ約半額ハ日本ニ、他ノ半額ハ海外ニ貯藏セラル、此ノ日本ノ一大好景氣ハ、彼國ヲシテ其外債ノ一部ヲ償還セシメ、聯合國ニ相當ノ貸付ヲナシ得セシメタル外、更ニ其鐵道及其他公共事業ノ開發及改善ニ對シ、便利ナル條件ヲ以テ貸付ケヲナサシメ得タルナリ。

▼支那ニ於ケル重要ナル出來事 此年即チ戰爭第四年ノ、昨年中ノ事件ニシテ、支那ニ取り最モ重大ナル二個ノ出來事アリ、余ハ茲ニ其ノ概要ヲ述ベンカ。

北米合衆國及日本ノ間ニ交換セラレタル文書ニ依リテ、支那ニ於ケル日本ノ特殊ナル利益ヲ承認セラレ、支那ノ保全及其門戶開放ハ更ニ確認セラレタリ、此日米國ノ公明正大ナル意見ノ交換ハ、關係列國ノ満足ヲ受ケ、爲メニ從來兎角之等東洋二大國ノ疎遠ヲ醸成シ來レル疑惑ト誤解ノ空氣ヲ一掃シ、且ツ將來日米相提携シテ、對支國際貿易ノ發展上ニ、機會均等ノ保全ニ盡力スベシトノ保證ヲ與ヘタリ。

一九一七年八月十四日、支那ハ獨逸ニ宣戰ヲ布告シテ、形式上協商側ニ左袒シ、支那ガ既ニ聯合側ニ與ヘタル、物質的援助ハ、實ニ尠少ノモノニアラザルナリ、即チ陸上ニ於テハ、支那人勞働隊ハ、戰線ニ價值アル業務ヲ致シ、海上ニ於テハ我ガ商船ノ乗組員トシテ、供給品ノ輸送ニ少ナカラザル援助ヲ與ヘタリ、吾等ハ其物質上ノ重大ヲ超越セル、德義上ノ意義ヨリ、支那ヲ祝福スルモノナリ、吾

等ノ戰爭ハ一大精神の鬭爭、即チ各國ハ其大ナルモ小ナルモ、共ニ各其國自己ノ目的ヲ達センガ爲メニ、又其國自己ノ豫定ノ宿命ヲ貫徹センガ爲メニ、而シテ其人民ノ天稟ニ適應シテ、其國自己ノ文明ヲ創造センガタメニ、其思想ト權利ノタメノ戰ヒナリトノ自信ハ、愈々深刻トナリツ、アリ、我が敵國側ニ於テモ認メ居ルガ如ク、戰爭ノ背景ヨリ一萬哩ノ海洋ヲ距テ、其沿岸ヲ脅カサル、コトナク、其國政ニ牴觸セラル、ナキ、一舊國ノ人民ガ、徐ロニ熟慮ヲナシタルノ末、彼等ノ立場ヲ協商側ニ寄セ、且ツ我々ノ利益ハ直ニ彼等ノ利益タル可キ所信、及ビ人間自由ノ生命ナクシテハ、歐洲ニ於ケルガ如ク、支那ニ於テモ到底堪ヘラルベキモノニ非ズトノ確信ヲ聲明スルノ時、我が聯合側ハ一大強味ト、勇氣ノ増加ヲ受クルハ、否ム可カラザル事實ニシテ、之ハ賢明ニシテ勇氣アル決斷ナリ、余ハ支那政府ガ、支那自國ノ爲メ、將又聯合各國ノ利益ノ爲メ、依然支那領土内ニ在住セル、總テノ敵國人民ヲ、内地ニ抑留スルカ、或ハ放逐スルカノ方法ヲ直ニ取ランコトヲ切望ス、聯合國及中立國ニ於テ、獨逸人ニ依ツテ行ハレ、而カモ其ヲ默過セラレタル暴行ハ、危險モ甚シキモノニシテ、獨逸人ノ如キ、斯ル野蠻ニシテ不法ナル敵人ニ、自由ノ行動ヲ許スノ危險極マルコトヲ教ヘテ餘ス所ナキハ、之等幾多ノ事實ガ自ラ立證スル所ナリ。

▼支那昨年ノ財政狀態 財政上ノ一點ヨリ觀レバ、昨年ハ支那ニ取リテ、前年ヨリモ更ニ好狀態ニアリタリ、一九一七年ノ、海關收入ハ三千八百七十七萬七千海關兩ニシテ、之ヲ四志三片十六分ノ三ノ平均

爲替率ニテ、磅ニ換算スレバ、六、二六四、四九六磅トナル、戰時狀態ノ逆調、及船腹不足ニヨリ、支那貿易ガ多大ノ障礙ヲ蒙リタルヲ考フレバ、此海關收入ノ増加ハ、爲替ガ非常ノ高率ナリシニ因ル、金換算額ノ夫レヨリモ、更ニ著シキ成績ト云フ可シ此爲替ノ非常高ナリシタメ、好都合ナリシハ、昨年中ノ海關收入ハ、昔ニ之ヲ擔保トスル各種借款ヲ支拂ヒ得タルノミナラズ、拳匪事件賠償金ノ全部ヲ支拂ヒタリ、而シテ下半六ヶ月ニハ、借款協約ノ特別規定ニヨル、追加借款ノ支拂ハ、關稅收入ノ餘剩ヲ以テ之ニ當テタリ、之等總テノ負債支拂ヲナシタル後、尙ホ一千萬海關兩ノ餘剩アリ、其ノ内二百萬兩ヲ八月支那政府ニ融通シ、餘剩ヲ曾テ拳匪賠償金支拂不足ニ一時融通ヲ受ケタル、鹽稅收入勘定中ニ支拂ヒタリ、海關收入ノ數字ニ就テ、興味アルコトハ、上海、天津、漢口及ビ南方諸港ノ一ニノ海關收入ハ、若干ノ減少ヲ示シタレドモ、哈爾濱、安東及大連ハ、相當ノ増加ヲ示シ、大連及ビ安東ノ二者ハ最高記録ヲ造リタルコトナリ。

昨一九一七年中銀行團ニ支拂ハレタル鹽稅純收入ハ、七〇、六二七、二四九弗ニ達シ、其レヨリ一切ノ支出及定期積立一千萬弗ヲ控除シタル殘額六八、六一三、三七〇弗（海關收入ヨリ返濟ヲ受ケタルモノヲ含ム）ヲ、支那政府ノ自由使用ニ引渡シタリ、然リト雖モ爰ニ注意スベキハ、昨年中徵集セラレタル鹽稅收入中、約八百萬弗ハ、或ル諸省カ鹽稅行政權、並ニ中央政府ノ權限ヲ無視シテ、勝手ニ彼等自身ノ必要ノ爲メニ流用セラレタルコトナリ、斯ノ如キハ實ニ秩序ヲ紊亂スルモノニシテ、中央政

府ノ管理ガ遠隔ナル地方諸省ノ上ニ有力ナラズ、各種ノ口實ヲ設ケ居ル、彼等ノ獨立自治ヲ許シ居ル限リハ、此種行爲ハ確ニ繼續セラレ更ニ其弊害ヲ増長スベシ、サレバ支那政府ハ宜シク此ノ種國庫ノ主要收入ニ、影響ヲ及ボス問題ニ對シテ、嚴密ナル注意ヲ拂ハンコト、吾人ノ切望セザルヲ得ザルモノ、一ナリ。

然シナガラ幸ニシテ銀爲替高ナリシト、其二大收入行政—關稅及鹽稅—ノ能率宜シカリシヲ以テ、支那ハ昨年下六ケ月中殊ニ協商側ニ立チテ參戰シ、新タニ重大ナル責任ヲ負ヒタル瞬間ノ如キ、財政ノ豐裕ナリシコトハ、曾テ見ザル所ナリ、聯合側政府ハ拳匪賠償金支拂ヲ、五ケ年間延期（但シ露國ノ分ハ三分ノ一ダケ）スルニ同意シ、以テ支那參戰ニ酬ユルコト、セルヲ以テ、之ニ依リ支那ハ、一ケ年二百萬磅以上（獨逸及奧地利ノ賠償金ハ國交斷絶ニヨリ支拂ヲ停止サレタレバ之ヲ含マズ）ノ融通ヲ得ル譯ナリ、加之支那ハ、目下其關稅現實五分引上ノ件ニ就テ、協商國委員ト協議中ナレバ、之レ亦曩テ國庫收入ニ相當多額ノ增收ヲ來スベシト期待セラル、支那ノ國庫收入ハ、鐵道ニ依リテモ亦緩慢ナガラ、漸次増加シツ、アリ、其鐵道中最モ早ク開ケタルモノ—滬寧鐵道—ハ、今ヤ收支相償ヒ、尙餘剩ヲ示ス狀態ニアリ、一切ノ經常費ヲ（其金貨負債利子ヲ含ム）控除シテ、一九一六年ノ決算ハ、約一萬七千磅ノ餘剩ヲ示シタリ、故ニ今日戰時財政ノ束縛ニヨリ、一時中止セラレ居ル、其他ノ鐵道モ速ニ工事ヲ竣成シ、施スニ遺憾ナキ經營法ヲ以テスレバ、滬寧鐵路同様ノ成績ヲ擧ゲ得ラルベシト

痛切ニ感ズル次第ナリ。

財政ニ關シテモ將又其外國關係ニ於テモ、共ニ斯ク有利ナル狀態ナルニ對シ、一方支那ノ内政ガ全ク革命戰爭ノ域ニ達セルノ嘆カハシキ狀態ニアル爲メ、之等好材料モ尠ナカラズ之ト相殺セラレザル可カラザルヲ認ムルハ遺憾ニ堪ヘザルナリ、各黨首領、督軍及各階級ノ政客ハ、各自己ノ民主政府ノ理想ヲ有シテ地位及勢力上ノ混亂ヲ來シ、其結果中央政府ハ之等反對者ノ鎮壓トシテ地方督軍ヨリ各自自由ノ經費ヲ強請セラレ、以テ此政治的軋轢ヲ調停セントスルノ現狀ニアリ、之等ハ支那ノ將來ニ就テハ、其勤勉ナル人民ト、富裕ナル自然ノ財源ヲ有スル支那ハ、戰後世界ノ經濟戰場タルベキ運命ヲ有スルヲ知ルト雖モ、露西亞ノ事例ハ能ク久シキ紛擾ガ、果シテ何ヲ導クカヲ示シテ遺憾ナキヲ以テ、支那政治家ハ能ク前者ノ覆轍ニ鑒ミ、更ニ其見解ヲ大ニシテ國家ノ利益ニ立脚シテ、行動センコト吾人ノ切望ニ堪ヘザル所ニシテ、然ルトキハ支那ハ之等政治家ニ俟ツ所頗ル多カルベシ。

▼支那ニ於ケル幣制改革 之等總テノ國內紛擾ハ中央政府ノ威信ニ係ルモノナルガ、更ニ目前差當リ改善ヲ要スベキ二大問題アリ、即チ幣制ノ改革ト、二政府銀行ノ業務ノ復權ナリ、之等兩銀行ノ北京ニテ發行セラル、紙幣ノ價格ハ、其銀行準備金ガ政府ニヨリ絶エズ多額ニ需要セラレタルタメ、過去數ケ月急激ナル暴落ヲナシ、其額面價ノ約六割トナレリ、目下右兩銀行ニ對スル、支那政府ノ負債ノ大部分ヲ、六分利付短期公債四千八百萬元ヲ、政府ヨリ兩銀行ニ發行シテ、之ヲ補償スルコトヲ協定

セラレタリ、之等公債ハ、支拂ヲ延期セラレ、總稅務司ノ手ニ保留セラルベキ賠償金ヨリ得ントスルモノニテ、總稅務司ニヨリ半年毎ニ抽籤ニ從テ兩銀行ニ償還セラレ、モノナルガ、此協定ニヨリ兩銀行ガ、直ニ其北京紙幣ノ現銀兌換ヲ行ヒ以テ日ヲ逐ウテ信用及營業共ニ、益々地ニ墜チツ、アル境地ヨリ脱シ得ンコトヲ望ミテ止マズ。

貨幣ニ關シテ其標準、及ビ改革案ハ、更テ財政總長ヨリ銀行團ノ手ニ提出セラレタリ、該案ハ現時ノ戰爭狀態ニアリテハ、直ニ實現ヲ許シ難キモノナリト雖モ、此至急ヲ要スル改革法ニ對シ、支那政府ガ重要ナルモノトシテ、着手シツ、アルノ事實ヲ示スニ足ル、而シテ此支那政府ト銀行團トノ協同熟議ニヨリ、或ル實際ノ成案ヲ結果シ、事情ノ許ス限り、速カニ實行セラレンコトヲ望ム、支那國家ノ信用ヲ確保シ、其埋藏セル富源ヲ開發シ、其人民ノ福利ヲ増進スル上ニ於テ、幣制改革ハ實ニ最急ヲ要スルモノナルナリ。

▼戰爭義捐 諸君、余ハ本銀行ガ今年ノ香港戰時寄附資金ニ向テ、五萬弗ノ義捐ヲナシタルニ對シ、諸君ガ承認セラルベキヲ信ズ、殖民地ニ於ケルプリンス、オフ、ウエールス、フアンズ(Prince of Wales Fund) 一九一五年末ニ、閉鎖サレタル時、同時ニ新資金ヲ開始サレ、該寄附金ハ昨年未迄ニ、合計六十六萬六千弗ノ寄附額ニ達シタリ、其都度新タニ發表セラレタル報告ハ、右寄附金ガ如何ニ割當テラレタルカヲ示ス、而シテ此香港戰爭寄附資金ガ、心底ヨリ戰爭ヲ援助セントスル熱誠ノ流露タルハ、

贅言ヲ要セズ、余ハ又茲ニ、本銀行ハ當ニ當地ノ該資金ニ寄附シタルノミナラズ、更ニ世界各地ニ於ケル戰爭資金ニ、寄捐セルコトヲ告グベシ、而シテ重役ニ於テハ本銀行ガ戰爭ニ依テ生ジタル苦痛ノ救濟ニ、極力幫助スルハ諸君ノ希望スル所ナルヲ確信ス。

▼亞米利加ノ參戰 我前總會ノ席上ニ於テ、本席ヨリ同年中ニ戰勝ト平和ノ來ランコトヲ希望スル旨ヲ述べタルガ、事實ニ於テハ希望ノ如クナラズ、露國ノ變節ハ時計ノ針ヲ逆轉セシメタリ、吾等及我が聯合國ガ極力得ントシツ、アル平和ハ、未ダ眼前之ヲ望ム能ハズト雖モ、昨年中更ニ多クノ世界國民ガ、我等ト共ニ其運命ヲ戰爭ニ投ジタリ、而シテ其内ニハ大國民タル合衆國ガ、其尨大ナル富力ヲ以テ之ニ蒞ムアリ、我國軍隊及我勇敢ナル聯合軍ノ光耀如タル行動ニ、吾人ノ胸底ハ滿サレタルニ更ニ米國ノ加ハルアリ、吾人戰勝ノ信念ハ決シテ動搖シ能ハズ、吾等ハ今後戰爭目的ノ貫徹ニ於テ、相共ニ提携シ、從前ヨリモ一層密接ナル行動ヲ取ツテ進マン、而シテ我國民ノ慣習ガ破壞セラレザル可シトノ信念ヲ以テ、正義ガ勝利者タル迄又無力ナル國民ヲ有力ナラシムル迄ハ、飽ク迄勇往邁進セン、諸君、何等ノ質問ナキヲ以テ、余ハ決算報告ノ御承認ヲ得タルモノトシテ通過セント欲ス。

▼ハリス氏ノ演說 エー、エツチ、ハリス氏(A. H. Harris) ハ、議長ドツドウエル氏ノ報告終ルニ次デ、左ノ說演ヲナセリ、即チ曰ク

余ハ吾人ノ手元ニ配付セラレタル報告、及決算ノ採決ニ多大ノ滿悅ヲ以テ協賛ス、余ハ唯今議長ノ

演説ニ於テ、熱誠ナル賞賛ヲ受ケタル、協商側參戰國政府ノ下ニ、一官職ノ地位ヲ保ツノ光榮ヲ有スルモノナリト雖モ、爰ニ余ノ述ベントスル所ノモノハ、勿論普通ノ一株主ノ言タルニ過ギズ、議長ノ演説ハ其レ自身、一々余ニ示スガ如ク興味タリ、且ツ余ノ注意ヲ惹ケル點甚ダ多シ、余ハ之ニ對シテ批評ヲナスノ資格ナシト雖モ、其中多大ノ意義アル一項ニ就テ、少シク附言セザル可カラザルモノアリ、即チ嚴重ナル特許ノ下ニ行フモノヲ例外トシテ、當殖民地(香港)及其他各殖民地ヨリノ、弗銀及銀輸出禁止ニ就テ謂ハントス、政府ガ此舉ニ出デタルハ、全ク戰爭狀態ヨリ來レル、止ムヲ得ザル政策上ノ變化ニシテ、之ニ因リ我等ハ、此期間中本行紙幣ヲ現銀兌換ヲ許サザルモノトナセリ、勿論當地爲替ヲ銀ノバリチーヨリ相當下位ニ保持シタレドモ、而カモ我が銀準備ヲ充分ニ維持シタルト、且ツ投機ヲ抑壓シタルニ因リ貿易ヲ助成セルハ疑フ可クモアラズ、現戰爭ノタメ世界ノ銀需要ハ、遙カニ供給ヲ超過シ居ルガ故ニ、現銀ハ自由ニ流通スベキモノナリトノ舊則、及ビ其率ヲ引上ゲテ正貨ヲ吸收セントスルハ、之ヲ適用スル能ハザルノ状態トナリシヨリ、勢ヒ右ノ政策ヲ取ルニ至レルモノナリ、サレバ之ニ隨伴シテ、幾多ノ疑惑ヲ生ジタルニモ拘ラズ、余ハ此新令ハ當殖民地及當殖民地ニ利害關係ヲ有スル方面ニ、有利ナルモノナルヲ信セント欲ス、而シテ余ハ實際ニ於テ、爾カ信ゼザルヲ得ザルナリ、今回ノ報告ヲ通讀シテ、余ノ心中ニ起リタル感想三アリ、即チ營業ノ成功ト進歩セルコト其一、愛國主義ノ旺盛セルコト其二、而シテ其全ク堅實ナルコト其三ナリ、進歩ト成功トハ我等ノ

面前ニ示サレタル數字ニ依テ明白ニシテ、昨年度ノ營業利益ノ更ニ多額ニ上リ昨年中建築物ニ於ケル、一切ノ經費更ニ正確ニ云ヘバ之等經費ノ約九割ハ利益中ヨリ支辨セラレタリ、積立金ニハ再ビ多額ノ準備ヲナシタルニ加ヘテ、余ハ豫期シ得タルモノト思フ——四十三志ノ半期配當、即チ年四磅六志ノ例年配當ノ外ニ一磅ノ特別配當ヲ行ヒ、尙前年度ヨリ稍ヤ多額ノ次年度繰越ヲナセル等、吾等ハ斯ル好成績ヲ祝福スルニ、將又營業上ニ現ハレタル多大ノ能力ヲ賞賛スルニ、如何ナル辭ヲ以テスベキカ。

報告中「利益ヲ舉グルニ就キテ利潤多カラズ」トノ文アルニ對シ、聊カ遺憾トスル余ノ言ニ諸君ハ同感ナラン、周圍ノ事情障礙多カリシニモ拘ラズ、諸君ノ總支配人ハ勤勵甚ダ努メタリ、今日ノ言多少輕卒ノ謂分ナガラ、氏ノ利益ハ「何等差シタル不潔ノモノニ非ザルモノ」ナリ、我ハ十志ヨリ二十志ニ増加シタル一特別配當ニ浴シタリ、而シテ此告知ヲ添附セル通告書ハ、實ニ輕々ニ看過スベカラザルヲ要ス、若シ爲替相場ニシテヨリ低廉ノ線上ニアリタランニハ恐ラク此増配ヲ産出シ能ハザリシナルベシ、何トナレバ利益ハ金幣使用地ニ於テ、得テ舉ゲラルルモノナレバナリ、而シテ這ハ余ヲシテ株主中ニ、我が弗登錄簿——支那人及支那居住者——ニ其名ヲ列シ居ルモノ、並ニ當地關係市場ニ於テ、現實セラル、彼等持株ノ減價ニ對シ、若干補償ヲ受ケンコトヲ望メル者アリタルヤ知ル可カラズトノ、言ヲ爲サシム、又或ル比較的の低キ爲替率ニテ、配當ヲ聲明セラレタラバ、宜シカラント望ミタリシナランガ、這ハ本銀行ノ規定ニ反スルモノニシテ、之等株主ノ配當ハ、金ニテ支拂フベキモノニ係リ、

其希望ノ如ク變通ヲ行フハ、無差別ノ惡例ヲ貽スヲ免ル能ハザルナリ、サレバ此種株主ハ、十志ノ増配ヲ是認シテ、彼等ニ提示シタル數量ヨリモ、更ニ多額ノ評價ヲ欲シ、更ニ其レニ因リテ若干ノ積立ヲ可決センコトヲ欲シタルベキハ疑ヲ存セズ、若シ我等ノ友人タル總支配人ガ、偶マ此仲間ノ一人タリシトセバ、余ハ此行爲ヲ株主全般ノ是認ニ依リ、同君ガ其失望ニ對シ幾分ノ補償ヲ感ジ得ンコトヲ希望ス、此大銀行ノ株ガ株式取引所ノ遊戲ニ供セラル、日ハ、前途頗ル遠遠ナルヤモ知ル可カラズ、併シ何等株ノ副配ナク、又配當ヲ見越シテ投機取引ナキコトハ、之レ大多數ノ株主ニ取リ獎讃スベキ政策ニシテ、同時ニ致ス最善ノモノタルヲ斷言ス、爲替ノ傾向ヲ豫知シ豫防シ得ベシト思考スル株主ハ、其人自己ノ手加減ヲナシ、其所有銀ヲ金ニ、又反對ニ所有金ヲ銀ニ交換スルコトヲ得ベシ。

余ハ爰ニ轉ジテ報告ノ第二方面、即チ愛國の音調ニ觸レントス、戰時財政ノ重荷ヲ擔ヒツ、アル我が大藏大臣ヲ援助センガ爲メニ、行ハル、コトハ何事ニヨラズ、諸君ハ我等ト共ニ其事ニ當ルモノナラン、倫敦ノ各大銀行ハ、皆協同一致、自ラ進ンデ其任ニ投ジタルコト、及ビ我が倫敦支店ヲ通ジテ我等ハ財界ノ會議ニ蒞ミ居ルコトヲ知ルハ慶賀ノ極ミナリ、各種戰爭義金ニ與ヘタル幫助ハ、我等ノ均シク認ムル所ニシテ、議長ハ同君ノ任意ノ決斷ニ依テ行動スル我等ノ信用ニ信賴シ得ルヲ斷言ス、戰時事務ニ對シ義勇奉公ノ望マシキニ關シテ、議長ノ謂ヘル使用職員ノ活動ト、其採リタル同情の見解トハ、感銘更ニ深キモノアリ、我等ハ全ク同一ノ期待ヲナシ居タルハ事實ナリ、吾等ハ我が本國及

殖民地ヲ通ジテ、烈火ノ如ク奔騰シツ、アル欲求ノ燃燒中ニ投ゼンガ爲メニハ、極東ニ於テ吾人ヲ圍繞スル平和ト安逸ニ、生活スルハ、至難ノ事ニ屬ス、一依然トシテ炎燒シツ、アル或ル狂火ハ、吾ガ傷害ノ光景ニヨリ將又彼等經驗ノ暗誦ニヨリ、深刻ニ保持セラレタリ、這次ノ戰爭ハ全ク議長ノ言ノ如ク、一大精神上ノ鬭争ニシテ、吾等ハ其精神上ノ意義及其終局ノ結果ヲ、深慮熟考スルヲ忘ルベカラズ、余ハ如何ナル人物、及ビ如何ニ多數ノ人ヲ本國及前線ノ仕事ニ當ラシメ得ルカ等、總テノ事情ニ就テ廣濶ナル觀察ヲナシタル後、之レガ決定ニ對シ一種ノ使命ヲ強ヒラレタル、我が職員ニ對シテ滿腔ノ敬意ヲ表スルモノナリ。

余ハ更ニ第三ノ問題、即チ將來ノ豫測ニ移リテ、少シク謂ハン、而シテ余ハ此處ニ或ル覺醒ヲ感ズ、一大戰爭ノ繼續中、又現在ノ如ク斯カル持久ノ久シキニ亘ル戰爭ニ在リテハ、指導ノ統一及ビ利益ノ合同ガ、根本要素トナリタルハ、避ケ難キ必然ノ成行ナリ、併シ乍ラ、政府ノ管理、ステート、パートナーシツプ及ビ關稅ノ境界ハ、將來普通ノ問題トナレリトノ將來ノ豫測ニ關スル、本日ノ報告及演說ニ、余ハ驚愕ノ注意ヲ致シタリ、資金ノ探求及補助ノ獎勵、教育方針、専門上及經濟其他ニ於ケル改善等ノ如キ、政府ノ活動スベキ餘地勿論大ナリ、吾等ハ個人ノ業務ニ於テ、政府ノ干涉ヲ尠カラズ試驗シ來リタルガ、其成功如何ニ就キ、將又戰後如何ナル便宜ノ干涉ガ、持續シ得ルカニ就テ、云爲スルハ早計ニ失ス、而シテ余ハ最近海運界ノ狀態ニ就テ述べタル、インテグレート卿ノ遺憾ナキ見解ニ

必底ヨリ其鳴スル者ナリ、英國商人ハ右ニ余ガ參照シタルモノ、外ニ、政府ニ向ツテ機會均等、門戶開放ノ保障、並ニ必要ノ場合、武裝敵ニ對スル保護ヲ要求ス、商人ハ決シテ其職業ノ教ヘヲ受クルヲ欲セズ、又世襲ノ法制ヲ聞クヲ欲セザルナリ、其處ニハ分業的消化不良ヲ來スベキモノアリト雖モ、天帝ハ能ク此種不消化ノ食物ヨリ、吾人ヲ庇護シ給フナリ、香港憲政改新會ノ勢力ハ、斯ル場合ニ際シ其ノ現ニ脅威セラレントスルモノヨリモ、一層重大ナル負擔ヲ課セラルベシ、此ニ慶ブ可キ一事ハ、支那ニ於ケル事情ガ此報告ニ立證セラレ居ルガ如ク、取引ノ好積ヲ許シタルコトナリ、假論ヲ敢テ好ムノ概アレドモ、此取引ノ成功ハ戰爭ニ因レルモノニシテ、内政多大ノ不安ナリシニ際シテ、得タルモノナルガ、斯ノ如キ状態ハ健全ナルモノニ非ズ、吾等ハ支那ニ於ケル秩序ガ、今日引續キ不安状態ニアラザ遺憾トシ、且ツ嗟嘆ス。(下略)

尙同行資産負債累年比較表ヲ擧グレバ次ノ如シ。

香港上海銀行重要諸勘定累年比較表

(一) 負債ノ部

年次	拂込資本金	諸積立金	海陸保 險勘定	銀行 流通高券	當座預金	定期預金	諸仕拂手形	純 益金	配當金
一九〇〇	10,000,000	11,000,000	1,000,000	11,500,000	85,000,000	65,000,000	22,900,000	4,700,000	3,100,000
一九〇一	10,000,000	13,000,000	1,000,000	13,000,000	108,000,000	80,000,000	18,750,000	4,400,000	3,100,000
一九〇二	10,000,000	15,000,000	1,000,000	16,500,000	119,000,000	100,000,000	14,300,000	4,000,000	3,100,000
一九〇三	10,000,000	16,000,000	1,000,000	16,500,000	97,000,000	103,500,000	20,800,000	2,500,000	3,100,000
一九〇四	10,000,000	17,000,000	1,000,000	16,000,000	110,000,000	103,800,000	22,000,000	5,300,000	4,000,000
一九〇五	10,000,000	18,000,000	1,000,000	19,000,000	115,000,000	106,600,000	16,100,000	5,300,000	4,000,000
一九〇六	10,000,000	19,000,000	1,000,000	16,000,000	105,000,000	99,100,000	13,800,000	4,800,000	4,000,000
一九〇七	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	112,000,000	97,200,000	11,400,000	3,500,000	4,000,000
一九〇八	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	112,000,000	115,000,000	11,500,000	7,000,000	4,000,000
一九〇九	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	117,000,000	114,000,000	11,400,000	6,700,000	4,000,000
一九一〇	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	117,000,000	114,000,000	11,400,000	6,500,000	4,000,000
一九一一	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	117,000,000	114,000,000	11,400,000	6,300,000	4,000,000
一九一二	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	117,000,000	114,000,000	11,400,000	6,100,000	4,000,000
一九一三	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	117,000,000	114,000,000	11,400,000	5,900,000	4,000,000
一九一四	10,000,000	19,000,000	1,000,000	15,000,000	117,000,000	114,000,000	11,400,000	5,700,000	4,000,000

備考 本表ハ各年末ニ於ケル各勘定殘高ヲ示シタルモノナリト雖純益金及配當金ハ一箇年ノ合計ヲ掲ゲタリ但一九〇三年ノ純益金ハ材料不足ノ爲單ニ下半年分ノミヲ掲ケタリ。

(二) 資産ノ部

年次	現 金	發行準備トシ テ政府ニ預托 シタル正貨	地 金 銀	殖民地公債 其他有價證券	積立金放資 有價證券	貸 付 引 金	諸受取手形	營業用地所 建物勘定
一九〇〇	38,850,348	3,000,000	9,970,252	9,486,202	10,000,000	71,200,987	68,500,588	3,000,000
一九〇一	37,500,000	5,000,000	14,300,998	10,350,658	10,000,000	74,700,000	70,000,000	7,000,000
一九〇二	35,250,639	8,000,000	14,140,633	11,600,889	10,000,000	98,800,000	107,000,000	8,000,000
一九〇三	36,360,269	8,500,000	7,820,187	10,700,387	10,000,000	89,000,000	101,000,000	13,500,000

香港上海銀行

年次	現金	發行準備トシテ政府ニ預托シタル正貨	地金銀	殖民地公債 其他有價證券	積立金放資 有價證券	貸付引及	諸受取手形	營業用場所 建物勘定
一九〇四	三七、四七、七三	八、五〇〇、〇〇〇	五、七三、六八〇	一一、五〇、一三〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	八五、六〇、一三〇	一一、五〇〇、一三〇	一、三六、六九
一九〇五	四七、二七、六六	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六、九六、六五八	一一、三三、四七〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九一、一四、一八一	一一、三、七〇、五九〇	一、一〇、七一一〇
一九〇六	五九、八六、一〇八	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二、〇四、七〇六	八、六六、〇三七	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九三、〇三、七四六	九九、〇三、五九三	一、四四、二七四
一九〇七	四〇、五八、八八七	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四、三三、七六四	八、四九、三〇四	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇一、五九、六一五	一一、八〇〇、六四三	一、七九、一三〇
一九〇八	五二、七九、九三	一三、〇〇〇、〇〇〇	五、四〇、三三三	一四、三三、四九	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇七、四六三	一六、三、七七一	一、七〇、三三七
一九〇九	四三、六四、一七	一三、〇〇〇、〇〇〇	六、四七、〇三	一七、〇〇、〇四八	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇、八、五〇、三三八	一四、七、八八、七九	一、九三、四、四五〇
一九一〇	四三、八九、〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一六、八九、七六	二二、九四、四八	一五、〇〇〇、〇〇〇	一五、三、六、九三	二二、九〇、三、二九	一、八七、五、一六三
一九一一	四八、八三、八二	一三、五〇〇、〇〇〇	一一、五五、九七	一三、〇〇、七九九	一五、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇、六四、八四	一五、九、五、四、八三	二、一一、二、二九
一九一二	四一、九六、二〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	五、一九、九三	一一、五八、六六	一五、〇〇〇、〇〇〇	一五、八、六九、九四	一三、六、七、四、六四	五、三、〇、〇、〇
一九一三	四九、五九、二六	一五、〇〇〇、〇〇〇	五、三三、九三	一四、六六、七五	一五、〇〇〇、〇〇〇	一四、一、六四、五三	一四、七、九、九、二、七八	六、七、九、九、八
一九一四	七四、二八、四五	一五、五〇〇、〇〇〇	七、六三、二三	一六、七五、八三	一五、〇〇〇、〇〇〇	一四、一、五〇、八四	一五、〇、九、九、六、一	六、八、〇、一、三

印度支那銀行

沿革

印度支那銀行(Banque de L'Indo-chine)ハ一ニ東方滙理銀行ト稱セラレ、一八八七年ノ創立ニ係リ、佛國ノ印度支那經營ノ一機關トシテ設ケラレタルモノナリ、元來佛國ノ植民銀行ニハ二種類アリ、第一ハ政府ニヨリテ設立セラレタル官僚的銀行ニシテ、第二ハ大銀行ノ合同經營ニ係ル娘銀行タリ、而

シテ印度支那銀行ハ此第二類ニ屬シ、佛國ニ於ケル各有力ナル大銀行ノ合同シテ設立セルモノナリ、本行ノ沿革ヲ顧ルニ其發達ノ歴史ヲ三期ニ劃分スルコトヲ得ベク、即チ第一期ハ一八七五年ノ創立ヨリ一八八八年ニ至ル間ニシテ、第二期ハ一八八八年ノ第一回特權延長ヨリ一九〇〇年ノ第二回特權延長ニ至ル間、第三期ハ一九〇〇年以降ナリトス。

右ノ内第一期ノ間ハ本行ハ單ニ交趾支那及佛領印度ニ於ケル一佛國殖民地銀行タリシニ過ギズ其創立ノ始ニ遡レバ一八六三年コントワルドスコントハ始メテ柴棍ニ支店ヲ設ケシガ、本行ハ單ナル劃引銀行ニシテ印度開發資金ノ供給ヲナスニ足ラザルヨリ、一八六五年交趾支那總督ローズハ同地ニ於ケル金融機關設立ノ必要ヲ佛國政府ニ上申シコレニ基キ種々ノ計畫ノナサレタリシモ、孰レモ成立ニ至ラザリシガ、コントワルドスコント及ソシエテ、ゼネラルノ二銀行ハ各別ニ政府ニ出願シ交趾支那ニ於テ「最初ノ五殖民銀行」ニ倣ヘル銀行ヲ設立セントスルヲ以テ之レニ發行權ヲ與ヘンコトヲ乞ヒ、後此二行共同シテ如上ノ出願ヲナシ、更ニ巴里和蘭銀行之レニ加入シ三行共同ノ出願トナリシガ、政府ハ其請ヲ容レ其定款ヲ殖民銀行監督委員及參事院ニ審議セシメタル上遂ニ一八七五年一月二日ノ命令ヲ以テ其定款ヲ認可シ、印度支那銀行ナル名稱ノ下ニ設立スル株式會社ニ對シ銀行券ノ發行其他ノ特權ヲ與ヘ、其特權ヲ二十ヶ年間存續スベキコトヲ規定セリ、斯クシテ成立シタル印度支那銀行最初ノ資本金ハ八百萬法ニシテ、コレヲ一株五百法ノ株式一萬六千株ニ分チ四分ノ一ノ拂込ヲナシ、本

店ヲ巴厘ニ置キ、一八七五年四月十日柴棍ニ支店ヲ設ケ、翌年ボンデイシエリーニモ支店ヲ設ケ、是等兩支店ハ爾來次第ニ發展シ、其發行ニ係ル銀行券ハ士民並ニ支那人ノ間ニ歡迎セラレ、流通甚ダ圓滿ニ一八八三年ヨリ一八八六年ニ亘リ交趾支那ニ起レル金融上ノ恐慌ノ如キモ同行ノ力ニヨリ救済セラレ其信用益増大セリ、然レドモ當時本行ハ尙佛領印度及交趾支那ニ限ラレタル殖民銀行ニシテ、其以外ニ於テ營業スルコトヲ許サレザリシガ、一八八四年佛支葛藤ノ結果佛國ノ東京ヲ占領スルヤ、同行ハ政府ノ命ニヨリ東京ノ要港アイフォンニ支店ヲ設置スルニ至リ、更ニ一八八五年ノ天津條約ニヨリ安南ノ全ク佛國保護領タルニ至ルヤ、又政府ノ命令ニヨリ安南ニ一支店ヲ設ケントスルニ至リ、コレヨリ其發展ノ地域大ニ擴大セラレタリ、コレ本行ノ第一期時代ナルガ斯ク佛國ノ印度支那ニ於ケル經營進捗スルト共ニ本行ノ業務亦益發達シ來レルヨリ、其特權ヲ延長シテ基礎ノ安固ヲ計ルベシトノ議アリ、一八八六年同行重役會ハ一八八五年ヨリ以降二十ヶ年間其特權ヲ延長スルコト、及其特權ノ行使ハ同行ノ支店ヲ有スル佛國ノ保護領並ニ今後支店ヲ設置セラルベキ地方（佛國ノ主權ノ行ハレザル）ニモ及ブベキコトヲ請願セリ、是ニ於テ政府ハ一方農工商業者ニ對スル同行貸出規定ノ改正ニ關シ各州行政長官ノ意見ヲ徵シ、又他方ニ於テハ銀行ニ賦課スベキ義務ニツキ調査スル處アリ、一八八八年ノ命令ヲ以テ定款一部ノ改正ヲ行ヘリ、其要點次ノ如シ。

- 一、一八九五年ヨリ十ヶ年間特權ヲ延長ス。

- 二、佛國政府ハ本行ヲシテ其殖民地内ハ勿論支那、日本、印度洋及太平洋方面ニ於テモ必要ト認ムル地點ニハ支店出張所又ハ代理店ヲ設置セシムルノ權能ヲ有ス。

- 三、佛國ノ主權ノ完全ニ行ハレザル地方ニ對シ本行ノ特權ヲ擴張スルコトニ就イテハ國際法ノ問題ニ關與スル所ナルモ東蒲塞ハ既ニ一八八三年ノ條約ニヨリテ支障ナク、又安南及東京ニ對シテハ新ニ試ミタル交渉ノ結果新協約成立セシヲ以テ是等ノ保護國ニ設置セラルベキ支店出張所モ同一ノ特權ヲ有ス。

斯クテ本行ハ大ニ其營業區域ヲ擴大セラレ極東ニ於ケル佛國ノ經營ヲ助クベキ一大金融機關タルコトトナリ、其結果從來ノ支店出張所ノ外ニ一八八八年ヨリ一八九八年ニ至ル間ニ於テ佛領内ニテハ河内、東京ノ首府及ヌメヤ（太平洋諸島）、ブノムバン（東蒲塞ノ首府）、ツラーヌ（安南ノ要港）ノ四支店ヲ佛領以外ニテハ香港、盤谷、上海三支店ヲ設置セリ、コレ同行發達ノ第二期トス。

一八九四年ヨリ九五年ニ亘レル日清戰爭後支那ニ對スル列國ノ角逐非常ノ激甚ヲ加ヘ、殊ニ各國共ニ鐵道鑛山其他ノ利權ヲ獲得セントシ、各國資本家ハ大ニ奮闘スル處アリ、而シテ之レガ機關トシテ露國ハ露亞銀行、獨逸ハ獨亞銀行ヲ特設シ、米國ハ花旗銀行ヲ以テ、英國ハ香上銀行及有利銀行ヲシテ之レニ當ラシメ、佛國ハ本行ヲ以テコレニ任ゼシメタリ、然レドモ本行ハ發券銀行タル關係ヨリシテ、其業務ニツキ嚴格ナル制限ヲ受ケ、爲ニ工業的若シクハ財政的放資特ニ鐵道ノ建設公債ノ應募等

ニ關與スル能ハザリシヨリ、他國ノ銀行ト競争シテ遺憾ナキ活動ヲナス能ハズ爲ニ本行ニ對スル非難ノ聲各方面ニ起リ、甚シキハ本行ノ銀行券發行ノ特權ヲ取消シ、一方本行ヲシテ自由ナル活動ヲナサシムルト共ニ、一方本行獨占ノ弊ヲ止メテ他ノ多數銀行ヲ現出セシムルニ如カズト論ズルモノスラアリキ、此時偶佛國政府ハ本行ヲシテ亞弗利加ノ東海岸ソマリノ殖民地デブローチニ支店ヲ設置セシメントセシガ、其目的ハ之レニヨリ同地方ニ計畫セラレタル一鐵道會社ノ事業ヲ助成シ併セテ此地方ニ移住セル多數佛國人ノ爲ニ必要ナル資金ヲ供給セシメントスルニアリシガ、本行ハ此機會ニ於テ其特權ヲ擴大延長セントスルニ至レリ、是レヨリ先政府ニテモ本行ノ特權ニツイテハ研究スル處アリシガ、各方面ニ於ケル研究ノ結果ハ(一)本行ヲシテ佛國殖民地ニ於テハ大體ニ於テ他ノ佛國殖民銀行ト同ジク銀行券ノ發行ヲナサシムルト共ニ割引貸付ニ力ヲ注ガシムルコト、(二)佛領以外ノ地ニ於テハ寧ロ財政的並ニ工業的放資即チ證券銀行ノ業務ヲ主トシテ營マシムルコトヲ以テ必要ナリト認メコレガ爲ニ次ノ三個ノ提案中其一ヲ採ツテ實行スルコト、セリ。

- 一、定款ノ改正ニヨリテ印度支那銀行ヲシテ證券的業務ヲ行ハシムルコト。
- 二、極東方面ニ於テ證券的業務ヲ行ハシムル爲ニ同一ノ組織同一ノ重役會ヲ有スル印度支那銀行ノ娘銀行ヲ設立スルコト。
- 三、印度支那銀行トハ全然獨立セル新ナル銀行ヲ支那ノ南部ニ設立スルコト、但シ此場合ニハ印度

支那銀行ハ其ノ香港、上海及盤谷支店ヲ新設銀行ニ讓渡シ且新設銀行ノ爲ニ出資ヲナシ、其株式應募額ニ基キテ自己ヲ重役會ニ代表セシムルコト。

種々研究ノ結果右ノ内第一案採用セラル、ニ至リ、コレガ爲ニ一九〇〇年五月十六日ノ命令ヲ以テ同行ノ特權ニ對シ一大變革ヲ加ヘラレタリ、其主要點次ノ如シ。

- 一、同行特權ヲ更ニ一九〇五年ヨリ十五ヶ年間延長スルコト。
- 二、同行支店ヲ有スル外國ニ於テモ殖民大臣ノ認可ヲ得、外務大臣及大藏大臣ノ同意ヲ經タル時ハ銀行券ヲ發行シ得ルコト。
- 三、同行ノ營業ヲナス諸國ニ於テ發行セラルル國債ニ應募シ、又ハ財政的工業的及商業的企業ニ關與シ、又ハ第三者ノ爲ニ若シクハ第三者ヲ代表シテ取引ヲナスノ權能ヲ有スルコト。

斯クテ本行ノ缺陷ハ除カレ、茲ニ他國ノ金融機關ト角逐シテ讓ラザルノ權能ヲ得タリ、此點ニ關シ一九〇〇年四月ノ株主總會ニ於テ重役會ノ發表セル意見ニ曰ク「定款第十五條並ニ第十七條ニ加ヘラレタル變更ハ其目的我銀行ノ定款ニ從來規定セラレズシテ、然カモ外國銀行ノ盛ニ行ヒツ、アリシ特殊ノ取引ヲナスノ權能(特ニ支那ニ於テ)ヲ與フルニアリ、從來ハ此缺點アリシ爲本行ハ外國銀行ト競争シテ劣位ニ立チシガ今後ハ之レヲ矯正スルヲ得ベシ」ト、以テ其ノ真相知ルベキナリ。

資本金及積立金

本行ノ資本金ハ最初八百萬法ナリシガ業務ノ發展ト共ニ増資シ、現今ハ四千八百萬法ナルガ、將來之レヲ増加セントスル時ハ株主總會ノ決議ニヨリ殖民大臣ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス、其株式ハ額面五百法ニシテ悉ク四分ノ一ノ拂込ナリ、第二回以後ノ拂込ハ重役會之レヲ定メ通知後二ヶ月以内ニ之レヲナスモノナルモ、殖民大臣ニ於テ必要ト認ムル時ハ、何時ニテモ拂込ヲ命ズルコトヲ得ルモノトス其株式拂込ヲ確實ニスル爲同行ノ採レル方法ハ甚ダ簡單ナルモノニシテ拂込ヲ怠リタル株式ニ對シテハ株主ニ催告ヲナシ其後十日ヲ經レバ延滞株主ノ危險ニ於テ仲買人ヲ經由シ巴里株式取引所ニ於テ銀行ガ自由ニ賣却スルコトヲ得ルモノトス、尙株式ノ讓渡人、讓受人ハ拂込ニ對シテ連帶責任ヲ負ヒ讓渡後二ケ年ヲ經過スルニアラザレバ此責任ヲ免レザルモノトス。

同行ハ每期純益金中ヨリ總拂込資本金ノ千分ノ五ヲ法定積立金トシテ積立ツルコトヲ要シ、同時ニ拂込資本金ニ對スル年六分ニ相當スル金額ヲ第一配當トシテ株主ニ分チ、尙殘餘アル時ハ其十分ノ八ヲ第二配當トシテ株主ニ分配シ、其十分ノ一ヲ特別積立金トシ殘金ノ十分ノ一ヲ重役會ノ各員ニ分配スルモノトス、若シ純益不十分ニシテ第一配當年六分ヲナスコト能ハザル時ハ特別積立金中ヨリ之レヲ補フモノトス、本行ハ此外ニ尙任意積立金多額ヲ有ス。

組織及機關

(一)重役會 印度支那銀行ニ於テハ重役會ハ其經營管理ニ就キ絶大ノ權能ヲ有シ、同行ノ實權ハ全ク重役會ニ存ス、而シテ是等重役ハ悉ク株主會ニ於テ選任セラル、モノニシテ、其數八人以上十五人以下ト定メラレ、重役會ノ決議ハ重役會ノ名ニ於テ執行ス、只重役會開催ノ時ハ殖民大臣指名ノ監理官一名之レニ陪席スルモ、重役會ハ政府ヨリ獨立シ其拘束ヲ受クルコトナシ、重役會ハ互選シテ總裁一名ヲ設ク、但シ總裁ハ形式上殖民大臣ノ承認ヲ受クルヲ要ス、重役タルノ資格ハ同行株式四十株以上ヲ有スルコトヲ要シ、其任期ハ五ケ年トシ毎年二人ノ割合ヲ以テ改選セラレ、重役會ハ毎月必ズ一回以上開會スルコトヲ要シ、五人以上ノ出席アルニアラザレバ開議スルヲ得ズ。

(二)株主總會 株主總會ハ株式原簿ニヨリ同半期間最モ多數ノ株式ヲ所有スル百人ノ株主ヨリ成立スルモノトス、若シ同株數ノモノアル時ハ先ニ株主トナレルモノ其權利ヲ有スベク、同株數ニシテ同時ニ株主トナレルモノニツイテハ年長者其權利ヲ有ス、佛國人ニアラザル株主ハ少クトモ五年間佛國若シクハ佛領殖民地ニ居住スルニアラザレバ總會ニ出席スルノ權利ナク、表決權ハ株式十株ニツキ一票トシ、但シ何人ト雖モ一人十票以上ノ權利者タルヲ得ザルコト、セリ、又總會ニ出席セシムル代理人ハ株主ニシテ且總會ニ出席スル資格ヲ有スルモノニ限り、議決ハ出席員ノ多數決ニヨルヲ原則トス、

總會ニハ定時ト臨時ノニアリ、定時總會ハ毎年五月本店若クハ召集通知書ニ記載セラレタル場所ニ開催シ、臨時總會ハ重役會ガ必要ト認メタル時及少クトモ資本金ノ三分ノ一ニ相當スル株主ガ書面ヲ以テ其理由ヲ認メ之レヲ要求シタルトキ、又ハ營業上ノ缺損ノ爲資本金ノ半額ヲ失ヒタル時ニ之レヲ開クヲ要ス、總會ハ重役會ノ名ニ於テ之レヲ召集シ重役會長之レガ議長トナル、總會ハ重役會ノ推薦ニ依ル重役ヲ選舉スルモノトス、其選舉ノ方法ハ無記名ニシテ過半數ヲ以テ決ス、總會ノ成立ニハ少クトモ資本金ノ四分ノ一ニ相當スル二十人以上ノ株主ノ出席ヲ要ス、若シ出席株主定數ニ達セザル時、若クハ資本金ノ定額ニ達セザル時ハ十五日以内ニ第二回總會ヲ開クヲ要ス、但シ此場合ニハ定數ニ制限ナシ、然レドモ定款ノ改正、存立期間ノ延長、滿期前ノ解散ニ關スル事項ヲ決議スル爲ニ召集セラレタル總會ハ少クトモ資本金ノ半額ヲ代表スル株主出席スルニアラザレバ有効ナル決議ヲナス能ハザルモノトス。

佛國ニ於テハ殖民銀行ハ殖民大臣及大藏大臣ノ監督ヲ受クルモノニシテ、又佛領以外ノ地ニアル殖民銀行ハ支店、出張所ノ特設、銀行券ノ發行其他ノ特權行使ニツイテハ更ニ外務大臣ノ同意又ハ認可ヲ得ザルベカラズ、而シテ巴里ニハ殖民銀行監督委員ナルモノアリ、九名ノ委員ニヨリ組織セラル、印度支那銀行モ該監督委員ノ監督ヲ受クルコト、ナリ居レルモ、事實上ハ形式的ノ監督ニ過ギズシテ、其實際ノ監督ニ當レルモノハ監理官及監査官ニシテ前者ハ其本店後者ハ各支店ヲ監督シ、各支店

ニハ政府ヨリ一名宛ノ監査官ヲ配置セリ。

尙同行支店出張所所在地次ノ如シ。

支店 柴棍、アイフォン、ボンデイシエリー(佛領印度)、ヌメア(ニューカレドニア)、パピ

ート(タイチー島)、ジブーチ(ソマリヌ)。

出張所 プノムバン(東蒲塞)、アノイ(東京)、ツラーヌ(安南)、盤谷、パツタンバン(暹羅)、

香港、上海、廣東、漢口、天津、北京、新嘉坡

業 務

(一) 銀行券發行 主要ナル本行業務ノ一タル銀行券發行ニ關スル制度ノ要點次ノ如シ。

イ、印度支那銀行ハ其營業所ヲ有スル佛國ノ殖民地若クハ保護國ニ於テ法定通用力ヲ有スル銀行券發行ノ獨占權ヲ有シ、又外國ニ在ル同行ノ營業所モ殖民大臣、外務大臣ノ承認ヲ經テ銀行券ヲ發行スルコトヲ得。

ロ、其發行スル銀行券ハ千法、五百法、百法、二十法、五法ノ五種トス。

ハ、右法ノ銀行券ノ外ニ特ニ殖民大臣ノ承認ヲ經テ其營業地ニ於ケル貨幣ノ稱呼ニ從ヒ、例之柴棍ニテハピアストル、ボンデイシエリーニテハルビー、盤谷ニテハチカルヲ表示スル銀本位ノ銀行

券ヲ發行スルコトヲ得。

ニ、本銀行發行ノ兌換券ハ之レヲ發行セル支店竝ニ殖民大臣ト銀行ト協定ノ七指定シタル支店若クハ出張所ニ於テ兌換ニ應ズ。

ホ、銀行券發行總額ハ正貨準備金ノ三倍ヲ超過スベカラズ。

ヘ、銀行ノ要求拂ノ債務即チ銀行券、當座勘定及他店ニ對スル爲替尻借越等ハ之レヲ合シ資本金及積立金（正貨準備ガ三分ノ一以上存スル時ハ其餘分ヲ加算ス）ノ三倍ヲ超過スベカラズ。

ト、準備タル正貨ハ免責價格則チ法律上完全ニ債務ヲ免除スルノ資格ヲ有スル貨幣タルヲ要ス、但シ佛國貨幣ノ外其營業所ニ於テ法律上ノ流通力ヲ有スル銀貨ヲ以テ正貨準備ニ充用スルコトヲ得。

本行ノ發行セル銀行券ノ流通ハ非常ニ圓滿ニシテ、年々其流通額ヲ増加シツ、アリ、支那ニ於テハ上海、廣東ニ於テ之レヲ發行ス、然レドモ其支那ニ於ケル發行額ハ次第ニ他國銀行及支那銀行ノ夫レノ爲ニ壓倒サレツ、アリ、又本行ハ其上海ニ支店ヲ設クルニ際シ露清銀行ト協約ヲ結ビ上海以北及漢口ヲ以テ露清銀行ノ營業區域、上海以南ヲ本行ノ營業區域ト定メ、本行ハ上海以北ニハ發展セザルノ約アリ。

(二)爲替業務 本行ハ佛本國ト其殖民地其他トノ間ノ爲替取組ヲ主要ナル業務ノ一トセルガ、本行ハ

元來本國ニ於ケル多數大銀行共同經營ニ係ルモノニシテ、是等大銀行ハ世界各地ニ支店ヲ有スルヲ以テ、本行ノ本國竝ニ外國ニ對スル爲替取組ハ非常ノ便宜ヲ有シ居レリ。

(三)預金 本行ハ他ノ佛蘭西ノ殖民銀行ト異リ無利子預金ノ外ニ有利子ノ當座預金ヲ取扱ヒ得ルモ、然モ該利子付預金ハ(一)其總額ガ拂込資本金ヲ超過セザルコト、(二)其利率ハ割引歩合ノ半以上タルベカラズ、又割引歩合ガ一割以上ニ達スルコトアルモ預金利子ハ五分以上タルベカラザルノ制限アリ實際ニ於テハ同行ハ未ダ利子付預金ヲ取扱ヒタルコトナシト云フ、同行ハ原則トシテ割引ヲ許シタル取引先ニ限り當座勘定ヲ開クノ資格アルモノトナセルガ、之レヲ許スニ際シテハ嚴密ナル調査ノ上ニアラザレバ決定セズ、又當座貸越ニツイテハ十分ノ注意ヲ拂ヒ、其期限ハ之レヲ六ヶ月以内ニ限り、又當座勘定ニテ銀行ガ受入レタル預金竝ニ銀行ガ與ヘタル貸越制度ニ關シテハ之レニ對シテ差押又ハ法律上ノ抗議ヲナスコトヲ得ザルコト、セリ。

(四)割引 本行ハ當所拂タルト他所拂タルトヲ問ハズ、廣ク手形ノ割引ヲナシ得ルモノニシテ、其要件次ノ如シ。

イ、手形ハ信用確實ナル二個ノ署名ヲ有スルコト、但シ規定ノ擔保ヲ差入ル、時ハ第二署名ハ省略スルコトヲ得。

ロ、其期日ハ百二十日ヲ超ユベカラズ。

ハ、手形ハ割引ヲ許サレタル人ニヨリ銀行ニ差出サル、コトヲ要ス。
ニ、手形ハ實際ノ取引ヨリ生ジタルモノタルヲ要シ慣合手形ハ一切割引セズ。

(五)貸付 本行ハ流通證券若クハ不流通證券ヲ以テ貸付ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ、其貸付ハ主トシテ對物信用ヲ基トス、而シテ貸付ノ體様ニ就イテハ他ノ佛國殖民銀行ニ比シ種類ノ多様ナルト規模ノ大ナルトヲ特色トス、又擔保物ト貸付金額トノ割合ハ定款ニ規定スル處ニシテ次ノ如シ。

イ、國債並ニ同行ノ支店又ハ出張所ヲ有スル國ノ政府又ハ市ノ發行若クハ保證セル證券ニ就イテハ公定相場ノ五分ノ四以下トス。

ロ、其他ノ諸證券ハ其五分ノ三以下トス。

ハ、農産物ハ其價格ノ三分ノ一以下トス。

ニ、寶石類ハ其價格ノ三分ノ一以下トス。

ホ、商品ニ就イテハ確實ナル取引先ナルニ於テハ仲買人又ハ商業會議所ノ供給セル定價表ニ示セル全價格迄貸付ケ得、但シ商品ニハ必ズ債務者ノ負擔ニ於テ保險ヲ附スルコトヲ要ス。

ヘ、安南若シクハ東京ニ於ケル村落ニアリテハ、其村落又ハ農民ノ組成セル農業組合ニ對シ稻田ヲ擔保トシテ貸付ヲ行フ。

(六)證券的業務 本行ハ其營業所ヲ有スル國ニ於テ發行スル公債ノ應募引受ヲナスコトヲ得、但シコ

レニツイテハ次ノ諸制限アリ。

イ、其外國政府發行ニ係ルモノナル時ハ外務大臣ノ同意ヲ經ルヲ要ス。

ロ、殖民地並ニ外國ニ於ケル國債ノ應募引受額ハ資本金ノ四分ノ一ヲ超過スベカラズ、但シ特ニ殖民大臣ノ認可ヲ得タル時ハ此限ニアラズ。

ハ、各種ノ財政的若クハ商工業的企業ニ對スル放資ハ其總額積立金ノ三分ノ一ヲ超過スベカラズ。尙最近同行ガ諸外國ノ國債ヲ引受ケタル主要ナルモノ次ノ如シ。

イ、暹羅國ノ貨幣制度改革公債三百萬磅ヲ香港上海銀行及和蘭亞細亞銀行ト共ニ引受ケ巴里市場ニテ發行セリ。

ロ、支那政府ノ京漢鐵道贖回公債五百萬磅ヲ香港上海銀行ト折半シテ引受ケ巴里市場ニテ賣出セリ。

ハ、英、獨、米ノ銀行團ト共ニ湖廣及川漢鐵道公債六百萬磅ヲ引受ケ、其總額ノ四分ノ一ヲ引受ケ發行セリ。

ニ、支那政府改革借款二千五百萬磅ヲ募集スルニ方リ英、獨、日、露ノ銀行團ト共ニ佛國資本團ヲ代表シテ之レニ參加シテ其持分ヲ引受ケ、爾後所謂五國銀行團ノ一員トシテ活動セリ。

ホ、上海市場救濟借款三百五十萬兩ヲ他銀行團ト共同引受ケタリ。

支那金融機關

尙又同行ガ各種企業會社ノ株式ヲ所有シ、若クハ債券ヲ引受ケ其ノ會社ノ設立又ハ經營ニ關係セル主ナルモノ次ノ如シ。

- 印度支那雲南鐵道會社
- 雲南四川省シンジケート
- 支那鑛業調査會社
- 上海電氣鐵道電燈會社
- 東洋國際會社
- ツラーヌ船渠及炭坑會社
- 印度支那鐵道建設會社
- 亞細亞汽船會社

營業成績

本行營業ノ成績ハ毎年驚クベキ良好ノ結果ヲ擧ゲツ、アリ、今其重要諸勘定累年比較表ヲ掲ゲテ其真相ヲ知ルニ便セン。

印度支那銀行重要勘定累年比較表

年次	資本金	諸積立金	銀行流通高	諸預り金	支拂手形	印度支那政府當座勘定	再割引	純益金	配當率
一九〇〇	24,000,000	6,491,911	27,770,010	15,104,093	35,408	13,104,077	15,755	1,144,611	26
一九〇一	24,000,000	6,711,581	33,733,333	15,015,113	141,084	22,321,633	15,210	1,797,791	30
一九〇二	24,000,000	7,477,333	36,949,041	16,566,055	31,944	18,251,776	17,383	1,995,370	31
一九〇三	24,000,000	8,401,911	40,872,211	15,811,080	56,544	23,906,351	19,776	2,299,919	36
一九〇四	24,000,000	9,651,911	46,446,677	15,569,133	70,519	23,144,066	20,497	2,266,050	38
一九〇五	24,000,000	9,977,911	46,811,981	16,868,666	74,600	23,677,333	29,817	2,665,834	42
一九〇六	24,000,000	10,750,766	50,079,855	16,060,411	90,973	26,721,956	34,960	3,010,753	44
一九〇七	24,000,000	11,914,071	53,749,666	18,733,666	87,190	29,100,999	37,600	3,330,655	44
一九〇八	24,000,000	12,916,911	57,000,000	18,733,666	71,555	31,254,410	41,254	3,646,770	44
一九〇九	24,000,000	13,183,111	60,774,333	19,560,377	58,817	33,597,956	48,874	4,066,273	44
一九一〇	24,000,000	13,755,066	63,854,444	20,373,333	58,997	34,588,913	55,874	4,244,691	44
一九一一	24,000,000	14,044,388	63,649,913	20,373,333	67,075	33,297,455	53,257	4,411,559	44
一九一二	24,000,000	14,688,833	81,701,019	28,842,233	1,000,275	35,304,781	58,446	4,500,333	44

負債ノ部

資産ノ部

年次	未拂込資本金	諸公債	諸株券	現金	手許保存手形	取立ノ爲メ送付中ノ諸手形	諸貸付金	銀行不動産
一九〇〇	18,000,000	3,355,691	11,374,333	29,437,423	22,832,846	9,472,866	16,442,559	1,037,687
一九〇一	18,000,000	3,555,919	13,344,444	34,846,444	33,850,000	11,946,633	19,280,007	1,044,183

印度支那銀行

支那金融機關

三〇八

年次	未拂込資本金	諸公債	諸株券	現金	手許保存形	取立ノ爲メ送付中ノ諸手形	諸貸付金	銀行不動産
一九〇二	一八,〇〇〇,〇〇〇	三,二五五,九〇〇	四四,〇〇〇	三,五六一,八五七	三七,六三二,八五七	五,九四六,五八一	二七,五九九,六元	一,五三四,〇元
一九〇三	一八,〇〇〇,〇〇〇	三,二五五,九〇〇	五五,〇〇〇	三〇,九三三,〇〇〇	三二,五三三,三〇〇	五,五八四,〇五三	三七,九六六,四九九	一,三四〇,〇元
一九〇四	一八,〇〇〇,〇〇〇	三,二五五,九〇〇	一〇〇,〇〇〇	三三,七四四,八八五	三五,九〇〇,六二二	六,八二五,五三三	四三,七六六,七四四	一,五三四,〇元
一九〇五	一八,〇〇〇,〇〇〇	三,二五五,九〇〇	一七三,八〇〇	三六,五七〇,〇六六	四一,七三九,六三二	七,〇七九,六六一	三七,三三三,五三三	一,五三四,〇元
一九〇六	二七,〇〇〇,〇〇〇	三,五〇九,九七五	一,八九七,二五一	三三,八三三,〇六六	四九,八九四,〇六六	二一,六六六,八四四	五九,五八八,七五三	一,八六六,五五五
一九〇七	二七,〇〇〇,〇〇〇	三,五二四,三三三	二二,三三三,五元	三三,三〇三,五五〇	五三,二八八,〇〇〇	三三,一〇六,三三〇	五九,四四五,五五五	二,三四四,三三三
一九〇八	二七,〇〇〇,〇〇〇	三,四九三,五九四	三,二七二,〇七五	三三,六六五,九〇八	四八,四四三,九九九	二〇,五二七,〇〇九	六九,二七七,四三三	二,三四四,三三三
一九〇九	二七,〇〇〇,〇〇〇	三,四九三,五九四	三,三三三,三三三	三三,二九三,八七二	三三,七六五,五七七	一九,七九八,八〇五	六九,七七六,九四四	二,八八七,一一〇
一九一〇	三六,〇〇〇,〇〇〇	三,四三三,七六七	三,三三三,七二二	三三,三三三,九八八	五一,九三三,六三三	一九,三三七,八三三	八九,三三三,六六六	二,八三三,五〇五
一九一一	三六,〇〇〇,〇〇〇	三,三三三,〇九二	二,〇〇九,六六六	三三,三三三,二二二	五七,五八一,六六六	一九,五七四,〇〇七	二二,八三三,六六六	二,八三三,五〇五
一九一二	三六,〇〇〇,〇〇〇	三,三三三,〇九二	一,一七三,四〇五	三三,三三三,二二二	五七,五八一,六六六	一七,〇九六,六六六	二二,八三三,六六六	二,八三三,五〇五

印度支那銀行貸借對照表 (一九一二年十二月三十一日現在)

資産ノ部		負債ノ部	
未拂込資本金	三六,〇〇〇,〇〇〇	資本金	四八,〇〇〇,〇〇〇
諸公債	四,六一七,八三〇	積立金	四二,一一八,八二二
諸株券	一,一七三,四〇五	支那各店資本金及積立金	二,五〇〇,〇〇〇
現金手許在	六七,〇五二,一一四	銀行券流通高	八一,七二〇,一〇九
手許保有諸手形	一〇五,五一五,四五八	當座勘定及當座預金	五八,九六九,二二二
取立ノ爲メ送付中ノ諸手形	一七,〇二九,六四三	定期預金	一九,八七三,一九九
合 計	三八六,四八〇,七四〇	合 計	三八六,四八〇,七四〇

資産ノ部		負債ノ部	
當座及擔保貸	一〇七,五五一,七四四	支拂手形	一,三〇〇,二七五
爲替尻及雜勘定	四二,九三九,七一	取立勘定	一六,七八二,六五九
不動産	四,六〇〇,八三二	支店及代理店引受勘定	三,八七九,五二三
合 計	一五五,〇九一,九四七	爲替尻及雜勘定	七六,七四四,〇〇八
		印度支那政府當座勘定	二五,三一〇,四七八
		未濟配當金	二,三四六,七二二
		既收後期割引料	五五八,四七六
		損益勘定	七六八,八三一
		一九一二年上半期殘高	三,三〇八,四一〇
		同 下半年純益金	二,三〇〇,〇〇〇
		不動産償却積立金	二,三〇〇,〇〇〇
合 計	三八六,四八〇,七四〇	合 計	三八六,四八〇,七四〇

印度支那銀行爲替決濟其他融通資金殘高表

年次	他店へ貸勘定	他店ヨリ借勘定	差引他店ヨリ借勘定	再割引勘定	合 計
一九〇〇年末	三,二六四,八一九	一四,二八四,七〇一	一一,〇一九,八八三	一五三,七五五	一,一五三,三三七
一九〇一年末	六,一一〇,九七九	二二,七九〇,四七七	一七,六六八,四九六	一五三,八三〇	一七,八三三,三三八
一九〇二年末	二二,四六〇,八三〇	一七,五五〇,五九九	五,〇九九,七九九	一七三,八八三	五,二七三,六三三
一九〇三年末	七,六五四,八八九	一八,四四五,二五五	一〇,八〇〇,三三七	一九七,三七六	一〇,九九七,七四三
一九〇四年末	七,一五一,四一七	二二,五七七,九〇七	一四,四二六,四九九	二〇四,九九七	一四,六三三,四〇七
一九〇五年末	二〇,八〇四,三三〇	三六,二二七,〇三三	一五,四三三,七〇六	二九八,一四七	一五,七二〇,八五三
一九〇六年末	八,〇五二,三三三	三四,九六六,六〇三	二六,八六四,三九九	三四九,六九〇	二七,一一四,〇八〇

印度支那銀行

三〇九

年次	他店へ貸助定	他店ヨリ借助定	差引他店ヨリ助定	再割引助定	合計
一九〇七年末	一九,七〇〇,三三三	三六,五九二,八九九	一七,三三三,四七七	二二,七六〇	一九,四〇一,三三三
一九〇八年末	二五,三〇〇,三三三	四二,六〇〇,〇〇〇	一七,三三三,六五二	二二,一七五	一九,四〇一,三三三
一九〇九年末	一五,五五五,一五三	四七,三六八,八九	三,七三二,六六七	二八,〇〇〇	三三,〇〇九,六六一
一九一〇年末	四〇,九二二,七四三	八二,二八二,〇六九	四一,六〇〇,三三六	六五八,八七四	四一,〇〇九,一〇〇
一九一一年末	四三,〇〇〇,一七七	七七,〇七三,三三三	三三,九六七,二〇〇	三三三,一五七	三三,〇〇〇,〇〇〇
一九一二年末	四三,九二九,二二二	七六,七四四,〇〇八	三三,八〇六,二九七	五五八,四七六	三三,〇〇〇,〇〇〇

尙同行ノ配當ハ一九〇五年以降四割以上ノ配當率ヲ維持シ來リタルガ、其創立以來ノ平均率次ノ如シ。

- 一八七六年—一八八五年 一〇・〇%
- 一八八六年—一八九五年 一八・三%
- 一八九六年—一九〇五年 二四・八%
- 一九〇六年—一九一二年 四五・〇%

次ニ同行關係重要法規及定款ヲ掲グ。

印度支那銀行重要關係法規及定款

一 印度支那銀行ノ設立及其ノ定款ノ承認ニ關スル命令

(一千八百七十五年一月二十一日公布)

一千八百五十四年五月三日元老院決議書及一千八百五十一年七月十一日及一千八百七十四年六月二十四日殖民銀行設立ニ關スル法律ニ依リ海軍兼殖民大臣及大藏大臣ノ報告ニ基キ共和國大統領ハ左ノ命令ヲ發ス

第一條 印度支那銀行ナル名稱ヲ有スル發行、貸付、割引銀行ヲ交趾支那及佛領印度ニ於ケル殖民地ノ爲ニ設立ス

第二條 同銀行ノ特權ヲ印度支那銀行ノ名稱ノ下ニ組織セラレタル株式會社ニ附與ス、但同株式會社ハ本命令ニ添付セル定款ヲ遵奉スヘキモノトス

第三條 該特權ノ期限ヲ本日ヨリ二十箇年ト定ム

第四條 殖民銀行ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ一千八百七十四年六月二十四日ノ法律ニ依リ發布セラレタル未收貨物及商品ヲ擔保トスル貸付ニ關スル各種ノ權利及特權ハ悉ク之ヲ印度支那銀行ニ賦與ス

第五條 殖民銀行監督委員ハ印度支那銀行ニ對シ前記法律ヲ以テ規定セラレタル權利及職權ヲ行使ス

第六條 海軍兼殖民大臣及大藏大臣ハ各其ノ關係事項ニ關シ本命令ノ執行ヲ分掌ス

本命令ハ Bulletin des Lois 及 Bulletin officiel de La Marine ニ掲載スヘシ

一千八百七十五年一月二十一日巴里ニ於テ

マレシャル、ド、マタマホン署名

大藏大臣及海軍兼殖民大臣連署

二 印度支那銀行ノ特權ノ延長及擴張ニ關スル命令

(一千八百八十八年二月二十日公布)

一千八百五十四年五月三日元老院決議書、一千八百五十一年七月十一日及一千八百七十四年六月二十四日殖民銀行設立ニ關スル法律及一千八百七十五年一月二十一日印度支那銀行設立及該銀行定款ノ承認ニ關スル命令ニ依リ海軍兼殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ノ報告

印度支那銀行

支那金融機關

ニ基キ殖民銀行監督委員ノ審査ヲ經共和國大統領ハ左ノ命令ヲ發ス

第一條 本命令ノ日附ヨリ六箇月以内ニ印度支那銀行ハメアニ支店ヲ開設スヘシ

同銀行ハ海軍兼殖民大臣ノ請求ニ基キ殖民銀行監督委員ノ承認ヲ經東藩塞、安南及東京ニ出張所、ノシベ、メーヨット及其ノ屬地並

ニ太平洋洲ニ於ケル佛國殖民地ニ支店若クハ出張所ヲ設置スヘシ

但支店ハ海軍兼殖民大臣及大藏大臣ノ提案ニ基キ發布セラレタル命令ニヨリテ設置セララルヘキモノトシ出張所ハ海軍兼殖民大臣ノ命令ニ依リ設置セララルヘキモノトス

同銀行ハ又海軍兼殖民大臣ノ要求ニ基キ殖民銀行監督委員ノ承認ヲ經支那、日本、印度洋及太平洋ニ於テ指定セラレタル諸港ニ出張

所ヲ設置スヘシ但是等出張所ノ設置ハ外務大臣ノ同意ヲ得海軍兼殖民大臣ノ命令アルコトヲ要ス

第二條 一千八百七十五年一月二十一日ノ命令ニ依リ交趾支那及佛領印度ニ於テ印度支那銀行ニ賦與セラレタル特權ハ本命令ノ規定ニ

依リニユーカレドニヤ、東藩塞、安南及東京ノ保護國ニモ延長セララルヘシ但定款ノ規定ハ依然之ヲ遵奉スヘキモノトス

同該特權ハ支店設置ノ日ヨリ第一條ニ記載セラレタル他ノ殖民地ニモ同様ニ擴張スヘキモノトス

第三條 佛國ノ主權ニ服シ同銀行ノ特權ノ及フ諸國ニ於テハ同銀行券ハ定款第十五條ノ規定ニ依リ流通スヘシ

銀行券ハ外務大臣ノ同意ヲ得海軍兼殖民大臣ノ命令ニ依リ保護國ニ於テモ法貨トシテ授受セシムルコトヲ得

第四條 同銀行ハ海軍兼殖民大臣ノ要求ニ基キ常事者相互ノ同意ヲ以テ規定セラレタル條件ニ依リ支店若クハ出張所ヲ有スル地ニ於テ

國庫事務ヲ取扱フヘシ

第五條 印度支那銀行特權ノ期間ハ一千八百九十五年一月二十一日ヨリ十年間延長セララルヘシ

第六條 一千八百七十七年一月二十一日命令ニ依リ承認セラレタル定款第二、十五、十六、十七、十八、二十、二十四、四十六、五十

四、六十二、及六十五條ハ追加條文ニ依リ改正セララルヘシ

第七條 海軍兼殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ハ各自所管ノ事項ニ關シ本命令ノ執行ヲ分掌ス本命令ハ Bulletin des Lois Journal

Officiel de La Republique francaise, 及 Paris Bulletin Officiel de l'Administration des Colonies ニ掲載セララルヘシ

一千八百八十八年二月十日巴里ニ於テ

カルノ一署名

關係諸大臣署名

三 印度支那銀行特權ノ延長ニ關スル命令

(一千九百年五月十六日發布)

一千八百五十四年五月三日元老院決議書、一千八百七十四年六月二十四日殖民銀行設立ニ關スル法律、一千八百七十五年印度支那銀行ノ設立ヲ許可シ同銀行定款ヲ承認セル命令及同上定款改正ニ關スル一千八百八十八年二月二十日命令ニ依リ殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ノ報告ニ基キ殖民銀行監督委員會ノ審査ヲ得テ共和國大統領ハ茲ニ左ノ件ヲ命令ス

第一條 印度、印度支那及ニユーカレドニヤノ殖民地ニ於テ印度支那銀行ニ一千九百二十年一月二十一日ヲ期限トシ左ノ權利ヲ賦與ス

一 殖民銀行ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ一千八百七十四年六月二十四日ノ法律ニ依リ許可セラレタル權利及特權

二 銀行券ノ獨占發行權

第二條 既ニ同銀行カ其ノ營業所ヲ有スル殖民地ニ於テ若クハ印度洋及太平洋ニ於ケル他ノ佛國殖民地若クハ保護國ニ於テ同銀行ヲシ

テ支店若クハ出張所ヲ設立セシムルコトヲ得

本命令第一條ノ規定ハ同銀行カ營業所ヲ設立スヘク命セラレタル佛國殖民地若クハ保護國ニモ當然適用セララルヘキモノトス

第三條 暹羅、支那、日本、及其ノ他佛領以外ノ印度洋及太平洋ニ於ケル諸港ニモ同銀行ヲシテ支店或ハ出張所ヲ設立セシムルコトヲ

得

第四條 支店及出張所ハ殖民大臣、大藏大臣ノ提案ニ基キ殖民銀行監督委員ノ審査ヲ經テ發セラレタル命令ニ依リ設立セララルヘシ其ノ

之ヲ閉鎖スル時亦同シ本命令第三條ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル支店若クハ出張所ノ設立ニ關シテハ外務大臣ノ同意ヲ要ス

同銀行ノ重役會議ハ支店設立出張所設立ノ命令ニ關シ豫メ其ノ意見ヲ徵セララルヘシ

印度支那銀行

第五條 同銀行ハ額面一千法、五百法、百法、二十法及五法ノ銀行券ヲ發行ス

五法券ハ殖民大臣ノ認可ヲ受ケ大藏大臣ノ同意ヲ得ルニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

銀行券ハ殖民大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ地方ノ貨幣ニ基キ其形式ヲ制定スルコトヲ得

第六條 佛國殖民地及保護國ニ於テハ唯支店ニ限り銀行券ヲ發行スルコトヲ得

外國ニ於ケル支店及出張所ニ銀行券ノ發行ヲ認可スル場合ニハ外務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ要ス

銀行券ハ之ヲ發行シタル支店若クハ殖民大臣ト同意ヲ以テ指定シタル支店及出張所ニ於テ呈示次第兌換セラルヘシ

第七條 各支店發行銀行券ノ總額ハ如何ナル場合ニ於テモ硬貨準備ノ三倍ヲ超過スヘカラス但硬貨準備中ニハ附屬出張所ニ保管セラル

ルモノヲモ包含ス

本規定ハ銀行券發行ノ認可ヲ得タル外國ニ於ケル出張所ニモ適用ス

第八條 銀行券ノ流通高、當座預金及其他ノ債務ノ總額ハ資本金及積立金ノ三倍ヲ超過スヘカラス

第九條 同銀行ノ營業所ヲ有スル佛國殖民地若クハ佛國保護國ニ於ケル同銀行券ハ其ノ兌換ヲ爲スヘキ支店ノ營業範圍地域内ニ於テ法

貨トシテ授受セラルヘシ

第十條 銀行券ノ様式ハ殖民大臣及大藏大臣ノ承諾ヲ受ケヘシ但外國ニ於テ發行セラルヘキ小額銀行券ニ關シテハ外務大臣ノ同意ヲ要

ス

銀行券製造機械ハ佛蘭西銀行ニ於テ保管スヘシ

第十一條 同銀行ハ殖民大臣ノ要求ニ基キ當事者間ニ協定セラルヘキ條件ニ依リ其ノ支店所在地ナル佛國殖民地若クハ保護國ニ於テ國

庫事務ヲ取扱フヘシ

第十二條 同銀行ノ利益ヲ保護スル爲ニ買入若クハ收穫物ノ讓渡又ハ引渡其ノ他ノ方法ニ依リ質權ヲ設定シ當銀行ノ債權ヲ確實ナラシ

ムル目的トスル行爲ハ該買物カ定款ニ依リ特定セル擔保タルト追加擔保タルト其ノ他何モノタルトナ間ハス總テ一定ノ手数料ヲ以

テ登記ヲ受ケヘシ

第十三條 銀行ヲ受取人トシ若クハ銀行ニ讓渡セラレタル手形ノ振出人、引受人及保證人ノ手形行爲並ニ其ノ擔保物件及保證ニ關スル

裁判ハ商事裁判所ノ管轄トス

第十四條 殖民銀行監督委員ハ印度支那銀行ニ對シテ一千八百七十四年六月二十四日ノ法律ニ規定セラレタル權利及權限ヲ有ス

第十五條 本命令ニ添付セララル印度支那銀行ノ定款ヲ承認ス

第十六條 本命令ハ一千八百七十五年一月二十一日及一千八百八十八年二月二十日付命令ニ代ルモノトス

第十七條 本命令ハ Bulletin des Lois、佛蘭西共和國官報、殖民省官報及關係殖民地官報ニ掲載ス

殖民大臣、外務大臣及大藏大臣ハ其ノ關係事項ニ關シ本命令ノ執行ヲ分掌ス

一千九百年五月十六日巴里ニ於テ

エミル、ルーベ署名

關係各大臣署名

四 印度支那銀行定款

一千八百七十五年一月二十一日印度支那銀行設立ニ關スル法律ニ添付セラレ且一千八百八十八年二月二十日及一千九百年五月十六日ノ命令ニ依リ改正セラレタルモノナリ

第一章 銀行ノ組織及業務

第一節 組織、存立期間、本店所在地

第一條 印度支那銀行ハ株式會社ニシテ凡テノ株主ニ依リ成立ス會社ノ負債ニ對スル各株主ノ責任ハ其ノ所有株金額ヲ以テ限度トス

第二條 當銀行ハ其ノ本店ヲ巴里ニ置キ其ノ存立期間ハ一千九百年一月二十一日ヨリ向十五年間延長セラレタルモノトス

第二節 資本金

第三條 銀行ノ資本金ヲ二千四百萬法トシ之ヲ各五百法ノ株式四萬八千株ニ分ツ此ノ資本金ハ株主總會ノ決議ニ依リ殖民大臣ノ認可ヲ

印度支那銀行

得テ之ヲ増加スルコトヲ得

(註一千九百五年十二月二十七日ノ株主總會ノ決議ニ依リ一千九百六年一月二十二日殖民大臣ノ認可ヲ得テ資本金ヲ三千六百萬法ニ増加シ一千九百十年一月十二日ノ臨時株主總會ニ於テ更ニ之ヲ四千八百萬法ニ増加スルノ議ヲ決シ同年一月二十六日殖民大臣ノ認可ヲ得タリ)

資本金増加ノ場合ニハ第一回發行株式ノ所有者ハ常に優先權ヲ有ス但一千八百八十八年二月二十日ノ命令ニ依リ賦與セラレタル特權ノ滿期日タル一千九百五年一月廿一日以後ハ此ノ優先權ハ凡テノ株主ニ歸屬ス第一回ノ拂込即一株ニ付百二十五法ハ既ニ之ヲ終了セリ、更ニ一株ニ付百二十五法ノ第二回拂込ハ之ニ關スル重役會ノ通知後二箇月以内ニ於テ拂込マシムルコトヲ得商業ノ發達若クハ其ノ他ノ理由ニ依リ必要ト認メタル場合ニハ殖民大臣ハ之カ拂込ヲ要求スルノ權利ヲ有ス殘餘ノ二百五十法ノ全部又ハ一部ノ拂込期日ハ重役會之ヲ定ム

株式ノ全部拂込ヲ終了スル迄ハ株式ハ記名式トス株式ハ控付原簿ヨリ切り離シ重役二名之ニ署名ス然レトモ第一回ノ拂込ニ對シテハ單ニ假領收證ヲ交付ス

第四條 重役ハ拂込ナキ株式ヲ賣却スルコトヲ得

株式ノ賣却ハ當銀行ノ諸報告ヲ掲載スル爲メ特ニ指定セラレタル巴厘ノ二新聞ニ於テ延滞株主ニ對シ催告シタル後十日ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ要ス

株式ハ延滞株主ノ危險ニ於テ仲買人ヲ經由シ巴厘株式取引所ニ於テ之ヲ賣却スヘシ但裁判所ノ命令又ハ滿期ノ豫告ヲ要セス賣却セラレタル株式ハ所持人ノ手中ニ在リテ無効トナリ銀行ハ同一番號ノ新株式ヲ買主ニ交付ス可シ本條ニ依ル處分ハ之ト同時ニ銀行力法律上ノ普通手段ニ依リ署名者ニ對シテ訴追ヲ實行スル事ヲ妨グス賣却代金カ延滞拂込金ヲ支拂ヒテ猶剩餘アル場合ニハ其ノ剩餘額ハ舊株主ノ所得トス

第五條 所要拂込ノ完了セサル株式ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

延滞株主ニ對シテハ銀行ハ當然ノ權利トシテ裁判所ノ承認ヲ待タズ其ノ期日ヨリ起算シ年六分ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

六條 株式ニハ會社ノ證明ヲ捺捺ス可シ

株式ハ株主ノ選擇ニ依リ記名若クハ無記名式トナスコトヲ得但全額拂込済ノモノニ限ル

記名株式ノ讓渡ハ重役會ノ定ムル形式ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

無記名株式ハ單純ナル引渡ニ依リ讓渡セララル

第八條 株式ハ之ヲ分割スルコトヲ得ス

會社ハ一株ニ付一人ノ所有者ノ外承認セス

第九條 株式ニ屬スル權利ハ其ノ何人ノ手ニ渡ルヲ問ハズ株式ニ付モノトス

第十條 株式ノ所有者ハ當然本定款及總會ノ決議ニ服從スルモノトス

第十一條 各株主ハ銀行ノ資産及利益ノ分配ニ就テハ同等ノ權利ヲ有ス

第十二條 株式ノ配當ハ其ノ記名タルト無記名タルトヲ問ハズ株式所有者ニ支拂ハルヘシ

第十三條 株主ノ相續人、代理人若クハ債權者ハ如何ナル口實ヲ以テスルモ會社ノ財産及有價證券ヲ差押ヘ其ノ分配若クハ競賣ヲ請求シ又如何ナル形式ノ下ニモ其ノ管理ニ對シ容喙スルコトヲ得ス

第三節 業務

第十四條 當銀行ハ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル口實ノ下ニモ本定款ニ規定セラレサル他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十五條 當銀行ノ業務ハ銀行カ營業所ヲ有スル諸國ニ關係アル金融業務ヲ以テ唯一ノ目的トス即チ銀行ハ該諸國ニ於テ左ノ業務ニ從事ス

一、當銀行ノ設立ニ關スル命令ノ規定ニ從ヒ銀行券ノ發行

二、信用確實ナル二名以上ノ署名ヲ有シ期日百二十日ヲ超過セサル約手及當所拂爲替手形ノ割引、同條件ニテ期日六箇月以上ニ亘ラサル當座貸越

三、殖民地、本國若クハ外國宛記名式若クハ指圖式爲替手形、マンダラ若クハ小切手ノ發行、讓渡割引、購入、爲替手形ノ期日確定

セルモノハ百二十日ヲ超過スヘカラス確定セサルモノハ當所拂ニアリテハ一覽後九十日、他所拂ノモノハ一覽後百八十日ヲ超過スルコトヲ得ス

四、左ノ擔保ヲ有スル流通若クハ不流通證券ノ割引

(イ) 公共倉庫、私有倉庫(此ノ場合ニハ其ノ鍵ヲ銀行ニ交付スヘシ)若クハ銀行所有ノ倉庫ニ保管スル貨物ノ庫入證書若クハ貨物領收書但土地ノ習慣ニ依リ之ヲ必要ト認ムル場合若クハ銀行カ確實ト認ムル場合ニハ銀行ハ借主ノ手許ニ在ル商品ニ對シ貸出ヲ爲スコトヲ得

(ロ) 未收穫物ノ讓渡

(ハ) 指圖式ニテ適當ニ裏書セラレ且保險證書ノ附帶スル船荷證券但船舶ノ到着ニ際シ船積證書ハ積荷ノ全部或ハ一部ニ對シ前項庫入ノ規定ニ依リ庫入證書ニ變更スル事ヲ得尙例外ノ場合若クハ土地ノ習慣上必要ト認ムル場合ニハ支拂人單獨ノ保證ヲ以テ船積證書ヲ仕拂人ニ交付スルコトアリ

(ニ) 佛蘭西銀行ノ擔保トシテ受入ル、證券若クハ當銀行カ支店或ハ出張所ヲ有スル國又ハ佛領印度ノ政府若クハ市ニ依リテ發行セラレ若クハ保證セラレタル證券若クハ英國又ハ印度公債ノ購入

(*) 金塊、金銀銅貨幣及其ノ他寶石ノ供托

(ヘ) 船舶抵當權ニ關シ佛法ノ行ハル、國ニ於テ佛國船舶ノ上ニ設定セラレタル船舶抵當

五、金銀銅ノ賣買

六、金塊、貨幣、金銀、銅品若クハ寶石ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

七、利付若クハ無利子ニテ當座勘定ヲ開キテ金錢ヲ預ルコト又諸證券、金塊、貨幣、金銀銅製品ヲ預ルコト

八、巴里本店及支店出張所ニ於テ左ノ業務ヲ營ム

八、簡人勘定若クハ公共團體ノ勘定ニテ送付ヲ受ケタル諸證券ノ保管及取立並ニ「マシ」若クハ小切手ノ支拂

九、國務大臣若クハ殖民地總督ノ認可ヲ經テ殖民地若クハ本國ニ於テ募集スル公債ノ手取金ヲ收納スルコト

十、約束手形、爲替手形若クハ「マシ」ノ發行

十一、信用狀ノ發行

十二、佛國若クハ外國ニ於テ自己ノ勘定ニテ二名ノ署名ヲ有シ若クハ適當ニ裏書セラレ且保險證書ヲ有スル指圖式船積證書ニ依リ保證セラレタル手形ノ割引

十三、佛國若クハ外國ニ於ケル金銀銅貨幣及物品ノ購入

此ノ外當銀行ハ其ノ營業ヲ爲ス諸國ニ於テ發行スル國債ノ募集ニ應スルコトヲ得其ノ額ハ總資本金額ノ四分ノ一ヲ超過スヘカラス但殖民地大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

前項ノ國債カ外國政府ノ發行ニカ、ル場合ハ殖民地大臣ノ外務大臣ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

又當銀行ハ其ノ營業ヲ爲ス諸國ニ於ケル金融、工業及商業の企業ニ其ノ準備金ノ三分ノ一ヲ超過セサル範圍ニ於テ關係スルコトヲ得當銀行ハ又第三者ノ爲又ハ第三者ヲ代表シテ取引ヲ爲スコトヲ得

第十六條 前條ノ規定ニ依リ二個ノ署名ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ一個ノ署名ハ(一)當所拂手形若クハ不流通證券ニ關スルトキハ前條規定ノ有價證券ノ預托、商品庫入證書若クハ貨物領收書ノ供托、未收穫物ノ讓與(以下ニ規定セラルヘキ條件ニ依リ)金銀塊、貨幣、金銀銅製品ノ預托若クハ殖民地政府ニ對スル債權ノ讓與(但此ノ場合ニハ該債權ノ直ニ償還セラルヘキ性質ノモノナルカ若クハ仕拂ノ引受ケヲ爲シタルモノニ限ル)及殖民地政府若クハ保護國政廳ニ依リ保證セラレタル市ニ對スル債權ノ讓與ニヨリ(二)支拂期限ノ定メナキ爲替手形若クハ「マシ」ニ關スル時ハ商品船積證書ニ依リ之ヲ代表スルコトヲ得

爲替手形ノ第二署名ハ銀行ニ宛テ仕拂人ヨリ差入レタル引受讓約書若クハ仕拂人ヨリ振出人宛信用狀取組ノ通知ヲ銀行ニナスコトニ依リ省約セラル、コトヲ得

第十七條 重役會ニ依リ制定セラルヘキ銀行内規ハ當銀行ニ依リ割引セラルル手形(爲替手形ヲ含ム)ノ法定署名ノ代用トシテ並ニ貸付ノ擔保トシテ差入ルヘキ前記證券及物品ノ擔保價格ヲ決定ス預托商品ノ價格ハ仲買人及商業會議所ノ定メタル定價表ヲ超過スヘカラス

金銀貨及金塊ハ全部

金銀製品ハ其重量及含金量ニ依リ價格ヲ定ム

寶石ハ其價格ノ三分ノ一

收穫物ハ其價格ノ三分ノ一

國債及當行カ支店若クハ出張所ヲ有スル國ノ政府若クハ市ニ依リテ保證セラレタル證券ハ公定相場ノ五分ノ四

其ノ他承認セラレタル佛國諸證券ハ其ノ五分ノ三

銀行ニ預托シタル物品ハ銀行ノ承認シタル保險會社ニ依リ豫メ保險ヲ付セラル、ニ非ラサレハ銀行ハ之ニ保險ヲ附スヘシ

第十八條 當銀行支店ノ設置アル國ニ於テ印紙法ノ施行セラル、所ニハ當銀行ニ依リ割引セラルヘキ手形ハ印紙ヲ貼付セサル可カラズ

當行ハ實際ノ取引ナキ慣合手形ハ割引セズ

第十九條 當銀行ハ豫メ支拂基金ノ準備アルニ非ラサレハ爲替手形若クハ「マシダ」ヲ振出スコトヲ得ス

本國ニ存置セル資本金及準備金ノ全部若クハ一部分並ニ殖民銀行監督委員ノ同意ニ依リ殖民大臣ノ指定シタル本國ノ他銀行ニ開キタル借越契約ハ之ヲ準備ト爲スコトヲ得

第二十條 當銀行ハ一千八百七十四年六月廿四日付法律ノ規定ニ依リ個人若クハ法人ノ農業團體ニ對シ未收穫物ヲ擔保トシテ貸付マナ

スコトヲ得

若シ此等貸出ニシテ地方政廳ヲ以テ爲サル、時ハ其條件ハ當該政廳ト銀行トノ協定ニ依リ定メラル可シ

第二十一條 未收穫物ノ讓渡ニ依リ保證セラレ當座取引ヲ開始スルニ至ラシメタル不流通手形ノ期限ハ其ノ讓渡サレタル作物ノ收穫時期迄延長スルコトヲ得

當銀行ハ又其ノ收穫物ノ取入レラル、ニ從ヒ法律ノ規定ニ據リ特ニ指定セラレタル食庫中ニ之ヲ納メ未收穫物ヲ擔保トセル貸付マ商

品擔保貸付ニ變更スルコトヲ契約スルコトヲ得

第二十二條 稅關倉庫若クハ銀行所屬倉庫若クハ地方長官ニ依リ特ニ此ノ目的ヲ以テ指定セラレタル倉庫ハ之ヲ公開倉庫ト見做シ當銀

行手形ノ副抵當タル商品ヲ保管スルコトヲ得

當該商品ハ倉入證券ニ依リ代表セラレ倉入證券ハ裏書ニ依リ轉讓セラル、モノトス

個人ノ所有セル倉庫ニ在ル擔保品ニ就テハ其ノ鍵ヲ銀行ニ交付スルコトニ依リ在庫品ノ引渡シト見做スコトヲ得但シ其ノ交付ハ監督官ニ依リ捺印セラレタル書面ニヨリテ證明セラルヘキコトヲ要ス

第二十三條 貸付金カ期日ニ於テ返済セラレサル場合ニハ銀行ハ單純ナル満期到着通知後一週間ヲ經テ其ノ擔保物カ商品、金銀、製品、寶石、未收穫物若クハ既收穫物若クハ證券タルヲ間ハス銀行カ債務者ニ對シテ執行シ得ル他ノ訴追ヲ妨タル事ナクシテ執達ニ依リ

貸金利子及其ノ他費用ノ全部償却ニ要スル金額ニ限リ之ヲ公賣スルコトヲ得ルノ權能ヲ有ス

第二十四條 若シ手形ノ支拂ニシテ第十五條ニ列記シタル有價證券ニ依リ保證セラレタル場合ハ銀行ハ拒絕若クハ満期到着ノ單純ナル通知後一週間ヲ經テ後其ノ貸出額全部償却ニ要スル金額ヲ限リ當該商品若クハ證券ヲ賣却スルコトヲ得

未收穫物ニ關スル場合ニハ銀行ハ圖ニアルマ、ニテ賣却スルモノ之ヲ精製スル爲メ自行ニ取入ルルトモ自由ニ選擇ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 第十五條第四項ニ列舉シタル證券ノ一ニ依リ保證セラレサル手形カ指圖式ニアラサル時ハ債務者ハ期限前ニ其ノ支拂ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ時ヨリ満期ニ達スル迄ノ時日ニ從テ利子ノ割戻ヲナス

第二十六條 當銀行ニ追加擔保ヲ供スルコトハ手形ノ署名人ニ對スル訴追ヲ妨ケス此ノ訴追ノ提起ハ貸付タル元金、利息及費用ヲ超過セサル金額ヲ限リ銀行カ自己ノ利益ノ爲メ擔保品ノ賣却ヲ目的トスル訴訟ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 割引料ハ日數ニ應シテ之ヲ課シ一覽後幾日ト云フ手形ハ其ノ割引料ヲ一覽後ノ日數ニ應シテ之ヲ課ス若シ他所拂若クハ殖民地以外ニ支拂ハルル場合ニハ其ノ距離ニ依リテ到着スヘキ日數ノ割引料ヲ加算ス

第二十八條 當座勘定ニ預入シタル資金若クハ上記ノ規定ニ基キ收穫物讓渡ノ結果銀行カ許シタル貸越ノ限度ニ對シテハ何人モ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十九條 當銀行ハ内規ニ依リ割引勘定及當座勘定ノ開始ニ關スル規定ヲ定ム

第三十條 銀行ハ預リ品ニ對シテ領收書ヲ交附ス該領收書ニハ預リ品ノ性質、價格及預ケ主ノ姓名及住所、預ケタル日及返却スヘキ日

付並ニ登録番號ヲ記載スヘシ
領收書ハ指圖式トセス且ツ裏書ニ依リ讓渡スルコトヲ得ス銀行ハ貸出ノ擔保品ニアラサル預り品ニ對シテハ其ノ預托ノ際内規ニ依リ
定メラレタル保管手数料ヲ徵收ス

若シ預ケ主ノ請求ニ依リ預り品ノ返却期日前ニ同預り品ニ對シ貸出ヲ爲スコトアルモ是ニ領收シタル手数料ハ返却セサルヘシ

第三十一條 當銀行ハ毎月巴里ニ於ケル官報ニ其ノ營業狀況ヲ掲載ス

各支店若クハ出張所ニアリテモ當該地方政廳ニ依リ指定セラレタル新聞紙ニ其ノ狀況ヲ掲載スヘシ

第四節 配當及積立金

第三十二條 六箇月毎即チ六月三十日及十二月三十一日ノ兩回當銀行ノ帳簿ヲ締切リ其ノ勘定ヲ精算シ營業ノ結果ヲ確定ス

六箇月間ノ純利益ノ内ヨリ總拂込資本金ノ千分ノ五ヲ引去リ之ヲ以テ法定積立金ト爲シタル後總拂込資本金ニ對シ年六分ニ相當スル

第一配當ヲ爲スヘシ

第三十三條 以上ノ分配ヲ了シタル後殘餘アル時ハ次ノ如ク分配スヘシ

準備積立金

重役會報酬

第二配當

一 割

一 割

八 割

若シ利益不十分ニシテ拂込株金ニ對シ年六分ノ配當ヲ爲スコト能ハサル時ハ六分ニ達スルマテ準備積立金ノ内ヨリ之ヲ填補スヘシ
然レトモ前項ノ分配ハ殖民大臣ノ認可ヲ要スルモノトス

第三十四條 期限後五箇年間請求セラレサル配當金ハ會社ノ利益ニ繰入レラルヘシ

第三十五條 配當金ハ第三十三條ノ認可ヲ經タル後巴里本店若クハ支店ニ於テ支拂フヘシ

第二章 銀行ノ管理

第一節 總會

第三十六條 正當ニ成立シタル總會ハ株主全體ヲ代表ス總會ハ銀行ノ原簿ニ依リ過去六箇月間最多數ノ株式ヲ所有セル百人ノ株主ヨ
リ成立ス但株主ニシテ同株數ヲ所有スル場合ニハ先ニ株主ト爲レルモノ其ノ權利ヲ有シ又同株數ヲ有シテ同時ニ株主ト爲レルモノニ
就テハ年長者其ノ權利ヲ有ス

佛國人ニアラサル株主ハ少クモ五箇年間佛國若クハ佛領殖民地ニ居住スルニアラサレハ總會ニ出席スルコトヲ得ス

又本定款ノ決定セル日(一千九百年五月十六日)以後佛國人ニアラスシテ當銀行ノ株主ト爲レルモノハ其ノ株式取得ノ原因如何ヲ問
ハス一千九百〇五年一月二十一日以後ハ總會ニ出席スルヲ得ス

總會ニ出席センカ爲ニ株主ヨリ預託ヲ受ケタル株式ニ對シテハ記名領收書ヲ交付スヘシ該領收書ハ總會入場券ノ用ヲ爲スモノトス

株券ノ預託ヲ受ケタル株主ノ名簿ヲ調製シ之ニ各株主ノ姓名、住所、所有株數ヲ記載シ之カ閱覽ヲ希望スル株主ノ用ニ供シ總會ノ當
日ニハ之ヲ總會事務室ニ備ヘ置クヘシ

總會出席簿ハ總會事務室ニテ認證セラレ本店ニ保存シテ希望者ニ閱覽セシムヘシ

第三十七條 何人ニモ總會ニ出席スル資格アル者以外ノモノヲシテ總會ニ自己ヲ代表セシムルコトヲ得ス

第三十八條 議決ハ出席會員ノ多數ニ依リテ決ス

各十株ニ付一票ノ權ヲ與フ但何人モ自己ノ名ニ於テ若クハ代理人トシテ一人十票以上ノ權利者タルコトヲ得ス

第三十九條 總會ハ毎年五月當銀行本店若クハ召集通知書ニ記載セラレタル場所ニ於テ開會ス

總會ハ重役會ニ依リ召集セラレ重役會長之カ議長トナル會長差支アルトキハ副會長若クハ重役ノ互選ニ依リ指名セラレタル重役ノ一
人ノカ議長トナル開票立會人トシテハ出席株主中最大ノ株主二人之ニ當リ若シ承認セサルトキハ其ノ次ノ株主之ニ當リ承認ヲ得ル迄
順次之ヲ次席ニ讓ル

總會事務室ニ秘書役ヲ置ク

第四十條 總會ハ當銀行ノ營業及ヒ議事日程記載ノ問題ニ關スル重役會ノ報告ヲ受ク

總會ハ計算ヲ討論シ若クハ拒絕ス

總會事務室ニ秘書役ヲ置ク

總會事務室ニ秘書役ヲ置ク

總會ハ計算ヲ討論シ若クハ拒絕ス

總會ハ計算ヲ討論シ若クハ拒絕ス

總會ハ本定款第三十二條及三十三條ニ準據シ配當額ヲ定ム

總會ハ重役會提出ノ諸問題ヲ議シ殊ニ資本金ノ増額業務ノ擴張、定款ノ變更、存立期限ノ延長若クハ滿期前解散及其ノ他定款ニ規定セラル又規定セラル諸提議ヲ議決ス

總會ハ重役會ノ推薦ニ基キ重役ヲ選舉ス

投票ハ之ヲ請求スルモノアル時ハ無記名タルヘク且過半數ヲ以テ決セララルヘシ

投票ニ回ノ後猶過半數ヲ得タルモノナキ時ハ第二回ニ最大多數ヲ得タル候補二人ノ内ニ決選投票ヲ行フヘシ若シ決選投票ノ場合ニ於テ二人同數ナル時ハ年長者ヲ以テ當選者トス

第四十一條 總會ノ決議ハ其ノ第一回ニ於テハ少クトモ總資本金額ノ四分ノ一ヲ代表スル二十人以上ノ株主本人若クハ代表者カ出席スルニ非ラサレハ無効トス若シ出席株主定數ニ達セス又ハ資本金ノ定額ニ達セサル時ハ十五日以内ニ第二回總會ヲ召集スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ數ハ幾何ナルモ其ノ決議ハ有効トス但其ノ議事ハ第一回總會ノ議事日程ニ記載セルモノニ限ル

第四十二條 臨時總會ハ重役會カ其ノ必要ヲ認ムル時何時ニテモ之ヲ召集スルコトヲ得
臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ召集スルコトヲ要ス

一、少クトモ其ノ合計總資本金額三分ノ一ヲ有スル株主カ重役會ニ宛テ書面ヲ以テ其ノ理由ヲ認メタル要求ヲ呈出シタル場合但此ノ場合ニ於テハ二箇月以内ニ總會ヲ召集セサルヘカラス

二、當銀行營業上ノ損失ニ依リ資本金ヲ半減シタル場合

第四十三條 定期及臨時總會ノ召集ハ其ノ開催ノ日ヨリ少クトモ十五日以前ニ當銀行株主名簿ニ記載セル住所ニ據リ總會ヲ召集スル株主ノ各自ニ宛テタル書面並ニ諸會社ノ廣告ニ關シ指定セラレタル巴里ニ於ケル二個ノ新聞紙ノ廣告ヲ以テ通告スルコトヲ要ス
該書面及廣告ニハ會議ノ目的ノ梗概ヲ掲クヘシ

總會ニ提議ヲ爲サントスル株主ハ之ヲ五日以前ニ重役會ニ提出スヘシ重役會ハ之ヲ議事日程ニ載ス可キヤ否ヤヲ決ス可シ
議事日程ニ記載セラレサル問題ハ一切總會ニ於テ議スルコトヲ得ス

總會開會八日前當銀行現況ノ梗概ヲ記述セル報告書ヲ本店ニ備置キ株主ノ閱覽ニ供スヘシ

第四十四條 定款ノ改正、存立期間ノ延長及滿期前解散ニ關スル問題ヲ議決スル爲ニ召集セラレタル總會ハ少クトモ資本金ノ半額ヲ代表スル株主出席スルニ非ラサレハ有効ナル決議ヲ爲スコトヲ得ス

召集ノ通知狀ニハ召集ノ目的ヲ記載スヘシ然レトモ第四十二條ノ規定ニ依リ第二回總會ノ召集セラレタル場合ニハ出席又ハ代表セラレタル株主ノ數ニ關セス其ノ決議ハ有効トス

第四十五條 定款ニ從ヒ採用セラレタル總會ノ決議ハ欠席者、反對者及其ノ他ノ株主ヲ拘束ス

決議ハ特ニ備ヘラレタル議事録ニ記載シ議長、立會人及秘書役之ニ署名ス此ノ議事録ハ本店ニ保管セラル別ニ總會出席員ノ姓名並ニ株式數ヲ記載セル出席表ヲ製シテ之ヲ議事録ニ添付スヘシ但該出席表モ亦議事録ト同様ノ署名ヲ要スルモノトス

第四十六條 第三者ニ對スル事項ニ關スル總會ノ決議ハ重役會長ニ依リ證明セラレタル謄本若クハ拔書ヲ以テ之ヲ證スヘシ

第二節 重役會

第四十七條 當銀行ハ八人以上十五人以内ノ會員ヲ有スル重役會ノ支配ヲ受ク重役ハ佛國人ニシテ株主總會ニ於テ重役會ノ推薦ニ基キ選舉セララルモノトス重役會ニハ政府ノ監理官陪席ス

第四十八條 重役ノ任期ハ五年ニシテ毎年二人ノ割合ヲ以テ改選ス但其ノ交替順序ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ重役ハ再選セララルコトヲ得

重役ノ死亡又ハ辭職ノ場合ニハ重役會ハ本定款第四十九條ノ規定ニ相當スル株主ノ中ヨリ次ノ總會迄之カ代人ヲ推薦スルコトヲ得
斯ノ如クニシテ推薦セラレタル重役ノ任期ハ前任者ノ滿期ヲ以テ盡クルモノトス

第四十九條 就職ニ際シ各重役ハ當行株四十株ヲ所有スルコトヲ證明セサル可ラス
而シテ此ノ株ハ成規ノ拂込ヲ了シタルモノタルコトヲ要シ且其ノ任期中ハ讓渡スルコトヲ得ス

第五十條 重役ハ出席日數ニ準シ一定ノ報酬ヲ受ク但其ノ金額ハ總會之ヲ定ム

第三十三條ニ依リ重役ニ屬スル利益分配額ノ半額ハ出席ニ對スル報酬トシテ分配セララルヘシ

第五十一條 重役會ハ當銀行業務ノ執行ニ關シ最大最高ノ權力ヲ有シ業務全般ノ審議ヲナシ内規ヲ制定シ割引料、利息、爲替料、手数料及保管料金ノ率ヲ定メ且金塊、貨幣、金銀製品、商品、收穫物ノ鑑定方法ヲ決定ス

重役會ハ定款ニ規定セル範圍内ニ於テ萬般ノ業務ヲ裁決シ其ノ條件ヲ定ム

重役會ハ第三十二條及第三十三條ニ規定セル積立金及準備金ノ用途ヲ定メ割引ヲ許スヘキ手形及證券ヲ選擇シ(但拒絕ノ場合ニ於テモ其ノ理由ヲ示スノ義務ナシ)銀行券ニ附セラルヘキ署名其ノ回收及廢棄ニ關スル規定ヲ定ム

重役會ハ各種契約、取引、資金運用、國債其ノ他證券ノ讓渡、債權其ノ他權利ノ取得、讓與、放棄並ニ登記其ノ他法律上ノ行爲ヲ爲シ及和解ヲ爲シ不動産ノ取得若クハ讓渡ヲ爲シ負債ヲ爲シ及質權ノ設定ヲ爲スコトヲ得

重役會ハ法令ノ規定ニ從ヒ不動産其ノ他ノ下附ヲ要求シ當銀行ノ各種ノ業務ヲ執行シ當銀行ニ屬スル各種債權商業手形及其ノ他各種證券ノ書換及取立ヲ決定ス當銀行カ本定款若クハ内規ニ違反スルコトナキヤテ監視シ且總會ヲ召集シ議事日程ヲ定メ又議事ニ附スヘキ問題ヲ定ム

重役會ハ局課ノ分合、職員ノ任免及使用人ノ俸給及報酬、總經費ヲ決定ス

重役會ハ上記權能及職務ノ全部若クハ一部ヲ他ニ委任スルコトヲ得

第五十二條 重役會ハ會員ノ内ヨリ議長及副議長ヲ互選シ且秘書役ヲ指定ス

重役會ハ重役會議ノ決議ヲ記録スヘシ重役會ニ依リテ承認セラレタル決議録ハ議長及秘書役ニ依リ署名セラルヘシ

第五十三條 重役會議ハ少クトモ毎月一回本店ニ於テ開カシヘシ

臨時重役會議ハ必要ト認メラル時若クハ監理官力之ヲ要求スルトキ何時ニテモ開會スヘシ

重役會議ニ於テハ少クトモ重役五人ノ出席ヲキトキハ其ノ決議ヲ無効トス

第五十四條 決議ハ出席會員ノ多數ヲ以テ決シ可否同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

欠席セル重役ハ特定ノ事件ニ對シ他ノ重役ヲシテ自己ヲ代表セシムルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ一人ノ重役ハ自己ノ投票權以外二以上ノ投票權ヲ有セス

第五十五條 總會ニ提出セラルヘキ營業報告書ハ重役會ニ於テ之ヲ決定ム但該報告書ハ之ヲ印刷ニ附シ殖民大臣ニ提出シ且各總會各員ニ交付スヘシ

第五十六條 重役會ハ殖民大臣ノ同意ヲ得テ銀行ノ業務ヲ擔任スヘキ支配人ヲ選定ス此ノ支配人ハ重役會ノ決議ノ執行ニ關シテハ第三者ニ對シ當銀行ヲ代表ス重役會ハ支配人ノ俸給ヲ定ム

第五十七條 裁判上ノ行爲ハ重役會ノ名ヲ以テ爲シ起訴及訴訟手續ハ支配人ノ名ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 支配人ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス支配人ノ署名アル手形及證券ハ割引クコトヲ得ス

第五十九條 支配人ハ其ノ就職ニ際シ自己カ二十株ヲ所有スルコトヲ證明スヘシ而シテ此ノ二十株ハ在職中他ニ讓渡スコトヲ得ス該株式ハ當銀行ノ金庫中ニ保管セラル

第六十條 各支店ニ割引相談會ヲ設ケ其ノ成立、權限及報酬ハ重役會ニ於テ定メラレタル規則ニ據ル

第三節 監理官及監査官

第六十一條 印度支那銀行ニハ殖民大臣ニ依リ指定セラレタル監理官ヲ置ク

第六十二條 監理官ハ重役會及株主總會ニ出席ス監理官ハ當銀行ノ定款及規則ノ執行當銀行及各般ノ業務ヲ監督シ準備金、諸記録及諸證券ノ現況ヲ視察シ且銀行諸帳簿ノ拔萃及複寫ヲ請求スルコトヲ得

監理官ハ有益ト信スル計畫ハ之ヲ提案シ且其ノ提案及意見ヲ重役會決議録ニ記載セシムルコトヲ得

第六十三條 監理官ハ毎月銀行ノ營業ニ關シ殖民大臣ニ報告ヲ爲スヘシ該報告ニハ重役會決議録、本店及各支店ノ毎月狀況報告書ノ複寫ヲ添付スヘシ

監理官ニ欠任若クハ故障アル場合ニハ殖民大臣ハ其ノ代理者ヲ指名スヘシ

第六十四條 監査官ハ殖民大臣之ヲ指名シ當銀行各支店ニ之ヲ置ク佛領以外ニアル支店ノ場合ハ其ノ任命ハ外務大臣ノ意見ニ從フモノトス

第六十五條 支店ニ於ケル監査官ハ本店ニ於テ監理官ノ職務トシテ本定款第六十二條ニ規定セラレタル職務ヲ執行ス

監査官ハ其ノ職務ヲ執行スル爲テニ備付ケラレタル帳簿ニ監査ニ關スル意見ヲ登錄スルコトヲ要シ少クトモ毎月一回又ハ必要ト認ムルトキ總督並ニ殖民大臣ニ對シ報告ヲ提出スヘキモノトス

監査官カ死亡又ハ辭職其ノ他ノ事由ニヨリ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ殖民地總督ハ直ニ其ノ代理者ヲ選任スヘシ

第六十六條 監査官及監理人ノ報酬ハ殖民大臣之ヲ定メ銀行ヨリ支給ス

第六十七條 殖民大臣並ニ殖民地總督ハ其ノ職權ヲ以テ又ハ殖民銀行監督委員會ノ請求ニ依リ何時ニテモ官吏ヲ派シテ銀行ノ諸帳簿、金庫及業務ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 雜 則

第六十八條 銀行カ營業ノ爲ニ資本金ノ三分ノ二以上ノ缺損ヲ生シタルトキハ當然清算ヲ開始スヘキモノトス
前項ノ缺損額カ資本金ノ三分ノ一ニ達セル場合ニハ之カ爲臨時ニ召集セラレタル株主總會ハ清算ヲ請求スルコトヲ得但其ノ清算ノ請求ハ資本金ノ三分ノ二以上ヲ代表スル半數以上ノ株主出席シ其ノ決議ニ基クコトヲ要ス

政府ハ右ノ請求ニ對シ殖民地全般並ニ債權者ノ被ルヘキ利害ヲ審査シ殖民銀行監督委員會及參事院ノ意見ヲ徵シタル上大統領ノ命令ヲ以テ之ヲ決ス

第六十九條 裁判上ノ爭議ニ關シテハ株主ハ巴里ニ其ノ居所ヲ選定スヘシ

前項ノ特別居所ヲ定メサル株主ニ對スル召集、通告其ノ他裁判上並ニ裁判外ノ書類ノ送達ハセーヌ始審民事裁判所檢事局ヘ宛テ爲シタル送達ヲ以テ有効トス株主ト重役會トノ間ニ起レル爭議ハ一切セーヌ裁判所ノ管轄トス

第七十條 特權滿期二箇年前ニ銀行ハ株主總會ヲ召集シ特權更新ニ關シ政府ニ請願スヘキヤ否ヤヲ議決スヘシ
本定款ハ一千九百年五月十六日ノ命令ニ添付セルモノトス

殖民大臣 アルバート、テグレイ

獨 亞 銀 行

沿 革

獨亞銀行 (Deutsch Asiatische Bank) ハ德華銀行ト稱セラレ、一八八九年二月十二日柏林ニ於テ設立セラレ、同年五月十五日上海ニ於テ獨逸總領事館ニ登記セラレタルモノニシテ、獨逸ノ極東經營殊ニ對支發展ノ爲ニ特設セラレタルモノナリ、抑本銀行設立ノ當時支那ニ於ケル列國投資家ノ競爭漸ク激甚ナラントスルモノアリ、獨逸ニ於ケル對支投資團ニモ二派ヲ生ジ、一ハヂスコント銀行ヲ中心トシ、他ハドイツチエ銀行ヲ盟主トシ、兩者相競フノ狀アリシヨリ、政府當局及財界有力者ノ間ニ支那ニ對スル金融ノ爲ニ一銀行ヲ特設セントスルノ議ヲ生ジタリシガ、其方法ニ關シニ説ヲ生ゼリ、一ハ普魯西國立銀行タルゼーハンドルングニ倣ヒ設立セラレタル銀行ノ支店ヲ東洋ニ設ケントスルモノニシテ、ヂスコント銀行ノ提議ニ係リ、他ハ獨逸帝國銀行ニ從屬スル銀行ヲ設立セントスルモノニシテ當時ノ帝國銀行總裁フオンデツヘンドノ發案ニ成レリ、然レドモ右二案ハ獨逸商法株式ニ關スル規定ト衝突スルノ故ヲ以テ實現セザリシガ、後此點ニ關スル法律上ノ疑義解決セラレ、且又ヂスコント銀行熱心之ガ設立ヲ主張シタル爲遂ニ獨逸ニ於ケル有力ナル銀行ノ合同ニヨリ本行ノ創立ヲ見ルニ至レリ、本銀行ヲ組成セル各銀行名次ノ如シ。

イ、デイレクテイオン、テア、デスカウンター、ゲセルシヤフト
ロ、獨逸銀行

ハ、プライヒローデル

ニ、ベルリナー、ハンデルス、ゲセルシヤフト

ホ、バンク、フサエル、ハンデル、ウント、インダルトリエ

ヘ、モイデルス、ゾーン、ウント、コンバニー、ベルリン

ト、ヤコツプ、イー、ハー、ステルン

チ、ノルドドイツ、バンク、イン、ハンブルグ

リ、ザル、オツベンハイム、ユン、ウント、コンバニー、コロソ

ヌ、バイエル、ヒポテケン、ウント、ワクセル、バンク

ル、ドレズドナー、バンク、ベルリン

ヲ、ナチヨナル、バンク、フキエル、ドイツランド、ベルリン

ワ、アー、シヨツフ、ハウゼンセル、バンクヘライン、コロソ

一八八九年本行創立後一八九六年初メテ柏林ニ支店ヲ設置シ、更ニ同年カルカッタニ支店ヲ設ケ、
一八九七年天津漢口ニ、獨逸專管居留地ノ設ケラル、ヤ此ニ支店ヲ増設シ、又其年膠州灣租借條約成

ルヤ直ニ青島支店ヲ設ケタリ、其後一八九九年香港支店ヲ、一九〇四年濟南支店ヲ、一九〇五年北京
支店、橫濱支店ヲ、一九〇六年神戸支店ヲ、一九〇六年新嘉坡支店、橫濱支店ヲ、一九一一年ニハ廣
東支店ヲ設置セリ。

斯クテ東亞各地ニ涉リテ支店ヲ設ケ、是等地方ニアル自國商人ノ便益ヲ圖ルト共ニ、一方支那ニアリ
テハ投資團ノ一員トシテ活動シ來リシガ、歐洲大戰開始ノ結果青島、濟南支店ハ日本ノ爲ニ占領閉店
セラレ、香港等ノ英領内支店ハ英國官憲ヨリ閉店清算ヲ命ゼラレタリシガ、其後支那參戰ノ結果其在
支本支店一律ニ閉店ヲ命ゼラレ、現在ニテハ全ク倒閉ノ状態ニアリ、將來ト雖モ再起ハ困難ナルベ
シ。

資本金

本行資本金ハ一八八九年ノ設立ノ初ニアリテハ五百萬上海兩ナリシガ、一九〇四年七百五十萬兩ニ
増資セリ、拂込ハ創立ノ際ハ四分一即百二十五萬兩ナリシガ、カルカッタ支店設置ト共ニ資金ノ需要
増加セルヨリ一八九七年四分ノ三即三百七十五萬兩ノ拂込トナシ、更ニ香港支店ノ開設ト共ニ一九〇
〇年五百萬兩全額ノ拂込ヲナシ、後一九〇四年ノ増資ノ際拂込ヲ四分ノ三即五百六十二萬兩トナセシ
ガ一九〇六年全額拂込済トナセリ。

株式ハ上海兩ヲ以テ稱呼トセルモ、株金ノ拂込ハ獨逸本位貨幣タル馬克ヲ以テセザルベカラズ、而シテ馬克ノ上海兩ニ對スル換算率ハ監査役ニ於テ隨時之レヲ決定スルモノトス、斯ク外國ノ貨幣ヲ以テ資本ヲ表示スル點ニツイテハ本行設立前經濟上及法律上ノ兩方面ヨリ研究セラレタルガ、(一)經濟上ノ問題トシテハ外國貨幣殊ニ銀本位ノ貨幣ヲ以テ株式ヲ形成スルハ銀行經營上果シテ有利ナリヤ否ヤト云フニアリキ、此ノ問題ハ初メ貨幣相場ノ變動ニヨリ海外銀行ガ蒙ルベキ損失ヲ防止スルノ方法如何トノ問題ニ關聯シテ起リタルモノニシテ、此ノ根本問題ハ今日ニ至ルモ尙解決セラレズト雖モ、少クトモ株式ハ金銀孰レノ勘定ニテ之レヲ發行スルヲ有利トスルヤニツイテハ絶對的ニ斷定シ難ク、個々ノ場合ニヨリ決定スル外ナシ、而シテ爲替相場ノ變動ヨリ生ズル危險ヲ避クルガ爲ニハ金本位ノ方概シテ優レルモノアルモ、外國ニ在リテ當該國人ヲ得意トシテ之レヲ我ニ誘引スルガ爲ニハ當該國ノ貨幣ヲ以テスル方便利ナリトシ、遂ニ上海兩ヲ採用スルニ決セリ、(二)法律上ノ問題トシテハ獨逸商法第八十條ノ解釋如何ニアリ、即チ同條第一項ニハ「株式ノ金額ハ少クモ千馬克ニテ發行スルヲ要ス」ト規定セルヨリ、株式ハ馬克ヲ以テ發行スルヲ要ストノ意見アリシガ、右ハ解釋上單ニ株式ノ最低額ヲ定メタルモノニシテ、幣種ヲ定メタルニアラズト云フニ決定セリ、本行ノ株式ハ上海兩ヲ以テ定ムルモ配當ハ馬克ニ換算シテ支拂フヲ要シ、其場合ノ換算率亦監査役ノ決定ニ委ヌ

本行ノ株券ハ無記名式ニシテ一株ノ全額一千上海兩トス

機 關

獨亞銀行ノ機關ハ監査役、取締役及株主總會ノ三者ヨリ成ル。

(一)監査役 監査役ハ十二人以上二十五人以下ヨリ成リ株主總會ニ於テ之レヲ選任ス、監査役ヲ構成スル各員ハ獨逸商法ノ規定ニ從ヒ必ズシモ自身ガ本行ノ株主タルコトヲ必要トセズ、然レドモ現在十五人ノ監査役中デスコント銀行三人、ドイツチエ銀行二人、ドレステン銀行、ダルムスタット銀行、シヤーフハウゼン銀行組合、ナチヨナル銀行等是等銀行ヨリ十人ヲ出シツ、アルハ株主銀行ノ代表者ノ如クナルガ、コハ法律上又ハ定款ニ基ク當然ノ結果ニハアラザルナリ。

是等監査役ヲ構成スル各員ノ中五人ハ伯林ニ於テ、全員ノ四分ノ三ハ獨逸帝國ニ於テ、又其全員ハ歐羅巴ニ於テ住所ヲ有スルコトヲ要シ、又監査役ハ其中ヨリ頭取及副頭取ヲ互選シ且頭取ノ選任ニツイテハ獨逸皇帝ノ裁可ヲ仰グベキモノトス。

頭取、副頭取及監査役ノ任期ハ四年トシ、又監査役ハ無報酬ニシテ唯利益配當ヲ受クル權利ヲ有シ、重要行務ハ監査役會ヲ開キテ之ヲ決ス、其權限ノ主要ナルハ(一)取締役ノ任免、(二)帳簿書類ノ検査、(三)貸借對照表及損益計算書ノ審査、(四)株主總會ニ對スル決算書及利益分配案ノ提出等トス。

(二)取締役 取締役ハ二人以上ヨリ成リ監査役之レヲ任命ス、但シ必ズシモ株主タルコトヲ要セズ、

取締役ハ銀行ヲ代表スル機關ニシテ、其各員ハ部署ヲ定メテ本店又ハ支店ノ常務ヲ處理シ、且取締役會ヲ開キ常務ヲ評議ス、取締役ハ使用ハヲ任免黜陟スルコトヲ得ベク、會社ノ意思表示ハ取締役ノ二人ニヨリ又ハ其一人ト取締役ニ準スベキモノ一人ニヨリ爲サルベク、取締役ノ報酬ハ營業費中ヨリ支出スルモノトス。

(三)株主總會 株主總會ニ通常臨時ノ二アリ、通常株主總會ハ毎年一回上半季中ニ開クベク、總會ハ伯林、漢堡又ハブレーメンニ於テ開クベキモノトス。

業 務

本行ハ獨領膠州灣、支那各地及東亞ニ於テ一般銀行業務ヲ行フノ外、本國ト亞細亞間ノ貿易ノ發達ヲ促進スル爲ノ目的ヲ有スルモノニシテ、東洋ニ於テ各種銀行業務ニ從事メルコトヲ得レドモ、自己ノ計算ニ於テ商品取引ヲナスコト、本國ニ於テ預金及振替業務ヲナスコトヲ禁止セラル、今其主要業務ニツイテ説明ヲ加ヘンカ。

(一)發券業務 本行ハ一九〇六年六月八日附帝國宰相ノ特許狀ニ基キ一九〇四年十月三十日ヨリ十五ケ年間獨領膠州灣及支那各地ニ於テ銀行券ヲ發行スルノ特權アリ、其結果本行ハ青島ニ於テハ一九〇七年六月ヨリ其他ノ支那各地ニ於テハ同年十一月ヨリ發行ヲ開始シ、同年末ニハ發行額四十四萬七千

兩ナリシモノ爾後次第ニ増加シテ一九一一年末ニハ百四十六萬四千兩ニ増加セルガ、歐洲大戰ノ結果其本支店閉鎖ト共ニ其通用モ杜絶セリ。

其發行兌換券ノ種類ハ青島ニテハ弗銀行券ノミヲ、其他各地ニ於テハ弗ノ外銀兩券ヲ發行シ、弗券ニハ一、五、十、二十五、五十元ノ五種アリ、兩券ニハ一、五、十、二十兩ノ四種アリ、兌換ハ發行地ニ於テハ額面ヲ以テ發行地以外ニ於テハ呈示當日ノ爲替相場ヲ以テ之レヲナス、但シ青島本位貨幣ニ對シテ發行シタル銀行券ハ保護領及山東省內就レノ支店ニ於テモ額面ヲ以テ之レヲ兌換ス。

銀行券ノ發行高ニ關シテハ制限ナキモ、之レガ兌換ノ爲左ノ三様ノ準備ヲ設クルノ必要アリ。

イ、帝國宰相ニ於テ適當ト認メタル保證人ヲ立ツルコト、保證人ハ現ニ本行株主中ノ主ナルモノタル商工銀行、伯林商業銀行、ブライヒレデル、ドイツチエ銀行、ヂスコント銀行、メンデルスグリーン商會等ニシテ、保證人ハ其出資額ニ應ジ獨立シテ債務ヲ負擔ス、保證ハ獨亞銀行振出保證人ノ引受アル十萬馬克以上ノ手形ヲ提供シテ之レヲナス。

ロ、帝國宰相ニ於テ適當ト認メタル有價證券ヲ供託スルコト、但シ帝國銀行へ擔保トシテ提供シタル有價證券ハ一定ノ限度迄之レヲ準備ニ充當スルコトヲ得。

ハ、所有地ニ抵當權ヲ設定スルコト、但シ課稅價格ノ四割ヲ超過スルコトヲ得ス。

尙本行ハ特ニ山東省ノ獨逸保護領地内ニ於テ墨西哥弗ノ十分ノ一及二十分ノ一ノ兩種ノ名價ヲ有ス

ル白銅貨ヲ鑄造シ之レヲ該領内ニ流通セシメツ、アリタリ。

(二) 抵當貸付 本行ハ發券ノ特權ノ外一九一〇年一月二十四日附帝國宰相ノ特許狀ニヨリ社債券發行ノ特權ヲ有シ、抵當貸付ニヨリ取得シタル抵當權ヲ保證トシテ同額ノ社債券ヲ發行シ、因テ得タル資金ヲ更ニ抵當貸付ニ使用スルモノトス、元來發行銀行ノ債權ハ銀行券所持人ヲ保護ノ爲ニ必ズ短期ナルヲ原則トスルモノナルニ、抵當銀行ノ債權ハ全然之レニ反對ナルヲ以テ、發行銀行ガ抵當銀行ノ業務ヲ兼營スルハ矛盾ナリ、故ニ此點ヲ調和スルガ爲ニ本行ニ於テハ抵當貸付及社債券ノ發行ヲ管掌スル抵當部ヲ特設シ、其部ノ帳簿及勘定ハ他ト全然分離シ、且該部ノ業務ハ青島支店ニ於テ之レヲ統轄セシムルト共ニ其業務執行ニツイテハ帝國宰相ノ監督ニ屬セザルベカラザルコト、セリ。

此抵當貸付ハ獨領膠州灣ハ勿論天津、漢口ノ如キ獨逸ノ專管居留地ニシテ、獨逸法ニヨル登記ヲナスコトヲ得ル地方ニ於テハ皆之レヲ行フコトヲ得、但抵當貸付ハ第一抵當權ヲ有スルコトヲ要シ且擔保スル土地ノ評價額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ザルノミナラズ、擔保タル土地ハ既耕地又ハ建物ノ數地タルベキコトヲ條件トシ、之レニ對スル貸付ハ通貨ヲ以テスルコトヲ要スルモ、其返済ニハ本行ノ社債券ヲ充ツルヲ得ルコト、セリ。

本行ノ社債券ハ無記名式擔保付ニシテ、其ノ發行額ハ拂込資本金ノ四倍ヲ限度トナセドモ、其流通額ニ對シテハ獨亞銀行ハ常ニ同額ノ保證ヲ以テ之レヲ擔保セザルベカラズ、保證ハ原則トシテハ本行ガ抵當貸付ニヨリ取得シタル土地抵當權ナリト雖モ、時ニ或ハ有價證券、現金又ハ流込ニヨリ取得シタル土地ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得、又本位金貨ニ於テ發行セラレタル社債券ハ本位貨幣ヲ以テ、弗銀貨ニヨリテ發行セラレタルモノハ弗銀貨ヲ以テ支拂ハルベキ保證ニヨリ之レヲ擔保スベキ原則トス、但帝國宰相ノ命令アル時ハ本位金貨ニヨリ發行セラレタル社債券ト雖モ、弗銀貨ニヨリテ支拂ハルベキ保證ニヨリ之レヲ擔保スルコトヲ得、而シテ此場合ノ換算率ハ二百馬克ニ對シ百弗トス、又本行ハ社債券所持人ノ權利ヲ保護スル爲メ擔保品管理人ヲ置クコトヲ要シ、該管理人ハ質權ノ取得、保全及行使ニ付社債券所持人ノ全員ヲ代表スルモノニシテ、社債券ノ保證タル抵當證書ヲ保管シ、且社債券ノ發行ヲ監視ス。

(三) 證券業務 公債社債ノ引受應募、株式ノ引受等ノ如キ證券業務モ本行ノ主要業務ノ一ナルガ、本行ガ創立後取扱ヒタル其主要ナルモノ次ノ如シ。

甲、公債發行

イ、日清戰爭公債 支那ハ一八九五年ノ馬關條約ノ結果、日本ニ對シ四億萬兩ノ賠償金支拂ノ責ヲ負フヤ、之レガ借款引受ノ競争起リ、最初英、佛、獨ニテ其第一部分二千二百萬磅ヲ引受ケントセシガ、コレハ露佛銀行團ヨリ奪ハレシガ、一八九六年支那ガ其第二部分千六百萬磅ヲ發行スルヤ、本行ハ香港上海銀行ト提携シテ之レヲ引受ケ其半額ヲ負擔シ伯林ニテ同年三月及九月ニ賣出

セリ。

ロ、同續借款 一八九八年支那ガ其續借款千六百萬磅ヲ募集スルヤ本行ハ又香上銀行ト共同シテ各其半額ヲ引受ケタリ。

ハ、津浦鐵道借款 一九〇八年一月十三日ノ津浦鐵道借款契約ニヨリ英國華中鐵路公司ト共同シテ該鐵道資金五百萬磅ノ借款ヲ引受ケタリ。

ニ、同續借款 一九一〇年九月英國華中鐵路有限公司ト共ニ同鐵道續借款四百八十萬磅ヲ引受ケタリ。

ホ、粵川漢鐵道借款 一九一一年八月英、佛、米資本團ト共ニ川粵漢鐵道借款六百萬磅ヲ引受ケタリ、其内本行ノ負擔額百五十萬磅ナリキ。

ヘ、幣制改革借款 一九一一年四月英、佛、米資本團ト共ニ幣制改革借款一千萬磅ノ契約ヲ締結セリ、但シ本契約ハ支那革命其他ノ爲ニ實行セラル、ニ至ラザリキ。

ト、善後借款 民國政府成立後ノ善後大借款二千五百萬磅ヲ英、佛、日、露四國資本團ト共同シテ引受ケタリ。

チ、上海市場救濟借款 第一革命ニ際シ上海市場ニ恐慌ヲ生ズルヤ、コレガ救濟ノ爲ニ二百五十萬元ノ借款ヲ起セシガ、本行ハ他ノ八銀行ト共同之レヲ引受ケタリ。

リ、湖北省外債 湖北省ノ財政難ニ際シ英、佛、米ノ銀行團ト共ニ一九一〇年二百萬元ノ借款ヲ引受ケタリ。

乙、投機業務

イ、天津、漢口居留地土木會社 天津、漢口ニ獨逸專管居留地設ケラル、ヤ、本行主トシテ是等兩地ノ土木工事ヲ受負ハンガ爲メニ本會社ヲ創立セルガ、後一九〇四年兩社共解散セリ。

ロ、山東鐵道會社 山東鐵道布設ノ爲本社ノ設ケラル、ヤ、其資本金五千四百萬馬克ヲ獨逸ノ十四銀行共同ニテ引受ケタルガ、本銀行ノ持株最モ多シ。

ハ、山東鑛山會社 山東鑛山會社ノ資本金二百萬馬克ハ八個ノ獨逸銀行ニヨリ引受ケラレ、本行亦其一部ヲ引受ケタルガ、本社ハ後山東鐵道會社ニ合併セリ。

ニ、獨逸支那鐵道會社 獨逸ガ津浦鐵道北段ノ布設經營ニ任ズルヤ其事業ヲ遂行センガ爲ニ一九〇三年本行其他ノ獨逸銀行團一致シテ資本金一千萬馬克ノ本社ヲ創立セシガ、後右鐵道布設經營ノ權利ヲ支那ニ回收セラル、ニ至リシヨリ本會社モ其資本金ヲ百萬馬克ニ減シタリ。

營業成績

本社創立以來ノ營業成績ノ狀況ヲ表示スレバ次ノ如シ。

獨亞銀行重要諸勘定累年比較表 (上海兩)

年次	資本金	積立金	爲替相場變 動準備金	銀行券流通高	諸預金	監查役 賞與金	配當 率	繰越 金
一八八九	五,000,000	—	—	—	一五,二八七,六三	—	—	—
一八九〇	五,000,000	二九四,三三	—	—	二,五七九,九四〇,一〇	—	—	—
一八九一	五,000,000	二,三二一,六六	—	—	三,三三四,二六六,三三	—	—	—
一八九二	五,000,000	三,四四〇,九九	—	—	二,一〇八,四九九,八三	—	—	—
一八九三	五,000,000	一八,八三三,八一	三〇,〇〇〇,〇〇	—	三,五五八,二八一,六六	—	—	—
一八九四	五,000,000	三三,六九九,八一	六〇,〇〇〇,〇〇	—	五,〇四六,四七七,九九	—	—	—
一八九五	五,000,000	一七,〇二一,〇七	九〇,〇〇〇,〇〇	—	五,七四九,八九七,四八	—	—	—
一八九六	五,000,000	一三,九九九,〇七	二二五,七五〇,〇〇	—	八,三三三,一〇一,七一	—	—	—
一八九七	五,000,000	一五,四三〇,〇七	二二五,九四二,〇〇	—	五,五九八,一六六,七七	—	—	—
一八九八	五,000,000	二九,四〇〇,〇七	三三九,九四二,〇〇	—	六,九二七,一八三,四五	—	—	—
一八九九	五,000,000	三三,七七九,二二	三三九,九四二,〇〇	—	七,八九〇,四七七,七三	—	—	—
一九〇〇	五,000,000	三九,九九九,二二	三三九,九四二,〇〇	—	九,〇一九,一三三,一三	—	—	—
一九〇一	五,000,000	四〇,〇〇〇,〇〇	三三九,九四二,〇〇	—	一,一七九,八六六,六六	—	—	—
一九〇二	五,000,000	四七,八一〇,九二	三三九,九四二,〇〇	—	一,六四三,九八七,四一	—	—	—
一九〇三	五,000,000	五三,一四八,三九	三三九,九四二,〇〇	—	一,七四六,九五四,九一	—	—	—
一九〇四	五,000,000	九一,八九三,〇九	三三九,九四二,〇〇	—	二,三九九,八〇九,四一	—	—	—
一九〇五	五,000,000	一〇〇,〇〇〇,〇〇	三三九,九四二,〇〇	—	二,四八七,四九五,五六	—	—	—
一九〇六	五,000,000	一〇九,〇〇〇,〇〇	三三九,九四二,〇〇	—	—	—	—	—

年次	未拂込 資本金	現金	預け金	手形	有價證券	貸付	勘當部	土地建物
一九〇七	七,五〇〇,〇〇〇	一,一六九,六八,一九	三三九,九四二,〇〇	四四七,七四〇,〇〇	三五,五六,一五四,九二	二六,〇八六,九五	八%	一八,五三三,九八
一九〇八	七,五〇〇,〇〇〇	一,一四四,六七,三三	三三九,九四二,〇〇	九七八,六六一,一〇	三五,七三九,三三,三三	二九,三四七,八三	八,五%	一三,六九九,三三
一九〇九	七,五〇〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇,〇〇	三三九,九四二,〇〇	一,二二四,一九〇,三〇	四一,一五九,三五六,四七	二六,〇八六,九六	八,五%	九〇,三〇〇,五二
一九一〇	七,五〇〇,〇〇〇	一,三三〇,〇〇〇,〇〇	三三九,九四二,〇〇	一,三三三,三三六,一九	三五,九九〇,四五七,四三	二六,〇八六,九六	八%	一八,四四六,三三
一九一一	七,五〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇,〇〇	三三九,九四二,〇〇	一,四六四,六八三,四〇	四六,九四〇,八四八,七二	六,五二一,七四	五%	六二,九九六,八八

資産ノ部

年次	未拂込 資本金	現金	預け金	手形	有價證券	貸付	勘當部	土地建物
一八八九	三,七五〇,〇〇〇	二二,五四一,〇〇	—	八七三,六三八,八三	—	三九三,五六五,四七	—	—
一八九〇	三,七五〇,〇〇〇	五三,七九九,六五	—	一八四八,七一,七五	—	一,五〇〇,一三二,一九	—	—
一八九一	三,七五〇,〇〇〇	五四,一五七,四五	—	一,六六五,六四六,三三	—	二,一九一,九四四,三六	—	—
一八九二	三,七五〇,〇〇〇	二六七,四九九,八〇	—	一,四三四,七三三,八四	—	一,六八〇,八三三,三三	—	—
一八九三	三,七五〇,〇〇〇	三〇,四七七,四三	—	一,六五四,四九六,五七	—	二,六九一,八三三,四四	—	—
一八九四	三,七五〇,〇〇〇	一,二〇〇,九二一,六三	—	一,五〇五,五六三,八〇	—	三,八七五,八二二,六九	—	—
一八九五	三,七五〇,〇〇〇	一,〇〇二,五〇〇,〇〇	—	一,三三三,九三〇,〇一	—	四,九四七,二八,六四	—	—
一八九六	三,七五〇,〇〇〇	八四九,四三三,四五	一六,五五三,九九,〇三	三,七七八,二八二,一三	—	五,九三〇,八三三,三三	—	—
一八九七	三,七五〇,〇〇〇	七五,一三六,八三	—	三,四七五,九九二,八一	—	五,六一四,八五二,九八	—	—
一八九八	三,七五〇,〇〇〇	一,八五三,三七七,九	四七,〇八〇,四五,〇〇	二,八三九,四四〇,七〇	—	五,八六六,九八三,五一	—	—
一八九九	三,七五〇,〇〇〇	一,三三二,四七四,四	一,三三三,三三六,七一	四,八五七,一〇九,三三	—	四,五三三,九六三,五四	—	—
一九〇〇	三,七五〇,〇〇〇	三,四四〇,六九五,七	—	六,八四四,七八九,五二	—	三,四三三,六七一,〇二	—	—
一九〇一	三,七五〇,〇〇〇	三,四三七,三三一,二	—	六,七四二,〇七八,九二	—	五,四三三,三九九,九〇	—	—
一九〇二	三,七五〇,〇〇〇	二,四八五,六四四,〇	—	九,〇五七,九二五,九六	—	八,八九七,九四五,六一	—	—

年次	未拂込 資本金	現金	預ケ金	手形	有價證券	貸付	抵當部	土地建物
一九〇三	—	一七五、〇三三、六三	—	七、六〇、二七三、七三	九二、八九九、九四	二、三三九、五五三、三	—	三九、五四六、〇三
一九〇四	一、八七五、〇〇〇	三、七五七、二七、四三	—	八、四四、七二、〇三	五九、三三、四一、〇〇	一〇、九〇七、八三、四六	—	三二、二五二、九九
一九〇五	—	四、四四、七、七六、七七	—	二、一〇、七〇、〇〇、〇〇	九〇、一〇三、九五	一一、一八、五八七、〇	—	四九、七〇、九三
一九〇六	—	五、二四七、四九、〇三	—	一五、七四、七三、七三	七五、六六、五七	一一、三〇〇、一七四、九七	—	五七、二七〇、九三
一九〇七	—	四、八五三、九五、七三	—	一九、五五、三〇、五二	八三、八五、五三	一九、八六三、五七九、九〇	—	八六、〇七、八五
一九〇八	—	八、三三三、四九、二九	—	三、四九、九〇、九一	六六、七四	二八、一〇六、三三、五九	—	八四、八四二、八五
一九〇九	—	一〇、七六、四三、二二	—	二、九〇、九七、五二	七〇、五九、九二	二九、〇七四、三三、〇四	—	八三、九六、一〇
一九一〇	—	四、四三、七五、〇六	—	二、九〇、三五、〇七	七二、三三、七三、八三	三三、三三〇、八三、七四	—	七九、七、六二、一〇
一九一一	—	七、七六、六三、〇八	—	二、九七、五五、八四	四三、四七、五九、六四	三五、三三三、七四、九四	—	一一、四三、四七、三三、〇六、九〇

獨亞銀行關係重要法規及定款

第一章 總 則

- 第一條 當會社ハ本定款ニ依リ設立セラレタル株式會社ニシテ「獨亞銀行」ト稱シ其本店ヲ上海ニ置ク當會社事業ノ存續期間ニ付テハ一定ノ制限ナシ
- 第二條 當會社ハ獨逸株式會社ノ性質ヲ有シ其内部關係ニ於テハ商法々典及伯林ニ於テ行ハル、民法法ニ從フ
- 第三條 當會社ハ銀行業ヲ經營シ且獨逸ト亞細亞間ノ商取引ヲ促進スルヲ以テ目的トス
- 當會社ハ左ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス
 - 一、自己ノ計算ニ於テ商品ノ賣買ヲ爲スコト
 - 二、獨逸帝國內ニ於テ振替業務 (Dispo-Geschäft) 及預金業務ヲ取扱フコト

業務ノ範圍及經營ニ關スル規則ハ監査役之ヲ定ム

- 第四條 前條ノ目的ヲ遂行スル爲當會社ハ支店ヲ設置シ有限責任社員又ハ匿名組合員トシテ他ノ事業ニ關與シ又ハ第三條ノ目的ヲ遂行スルニ足ル海外銀行ヲ設立シ其株式ノ全部若クハ一部ヲ引受ケ又ハ之ト永久的關係ニ立ツコトヲ得
- 第五條 法律又ハ本定款ニ依リ必要ナル公告ハ本定款ニ於テ監査役ニ委任セラレタル場合ノ外會社ノ名ニ於テ取締役之ヲ爲ス公告ハ獨逸帝國及普魯西亞王國官報ニ之ヲ掲載スヘシ
- 右ノ外監査役ハ其申合規則第二十三條及第二十四條ニ依リ公告ヲ掲載スヘキ内國又ハ外國ノ新聞紙ヲ指定スルコトヲ得
- 取締役及監査役ノ爲ス公告ノ形式ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ヲ適用ス

第二章 資 本

- 第六條 當會社ノ資本ハ七百五十萬上海兩トシ之ヲ七千五百株ニ分チ一株ノ金額ヲ千上海兩トス
- 株券ハ無記名式トス
- 資本ノ増加ヲ爲ス場合ニハ監査役ハ新株券發行ニ關スル條件ヲ定ム但新株券發行ニ關スル最低相場ハ總會ノ定ムル所ニ依ル新株券ハ額面以上ノ相場ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得
- 第七條 株金第一回ノ拂込ハ本定款施行ノトキニ於ケル券面額ノ四分ノ一ヲ以テ之ヲ爲ス爾後ノ拂込ハ監査役ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲスコトヲ要ス監査役ハ株金全額ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得拂込ハ上海兩ニ對シ隨時監査役ノ定メタル交換相場ニ依リ獨逸帝國ノ本位貨幣タル馬克ヲ以テ之ヲ爲ス
- 第八條 分割拂込ノ場合ニハ株式申込人又ハ引受人ニ對シ記名式假株券ヲ交付スヘシ
- 第九條 本定款申株式ニ關スル規定ハ株券力交付セララル迄ハ之ヲ假株券ニ適用ス
- 第十條 株金ノ全額拂込アリタルトキハ假株券ト引換ニ株券ヲ交付ス
- 第十一條 株券並假株券ニハ十箇年分ノ配當札 (Dividen-denschein) 及配當札引換書 (Talon) ヲ添付スヘシ
- 十箇年經過毎ニ配當札引換書ト引換ニ更ニ十箇年分ノ配當札ヲ交付スヘシ

株券ハ假株券及配當札引換書此期限ノ到來セサル配當札ト引換ニ之ヲ交付ス

第十二條 株主若シ期限ノ到來セルニ拘ラス分割拂込ヲ爲ササル場合ニハ取締役ハ假株券ノ番號ヲ記載シタル報告ニ依リ該株主ニ對シ
四週間下ラサル期間内ニ於テ拂込金額及之ニ對スル五分ノ利息ヲ支拂フ可キ旨ヲ催告スルコトヲ得

前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササル株主ハ利息ノ外拂込金額ノ一割ニ相當スル違約金ヲ支拂フコトヲ要シ且取締役ハ訴訟行爲ニ依リ此等
拂込金、利息、違約金及費用ノ支拂ヲ該株主ニ對シ請求スルコトヲ得

辦事シタル株主若シ商法第二百十九條及第二百二十條ニ依リ三度催告ヲ受クルモ猶ホ拂込ヲ爲ササルトキハ取締役ハ其決議ニ依リ株
式ノ申込又ハ引受及株金ノ拂込ヨリ生シタル該株主ノ權利ハ會社ノ爲ニ喪失スヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得此ノ宣言ハ公告ヲ以テ之ヲ
爲ス無効宣言ニ附セラレタル株券ニ代ヘ新株券ヲ發行ス

第十三條 株券又ハ第十條及第十一條ノ規定ニ從ヒ當會社ノ作成シタル證券カ毀損セラレ又ハ不可用トナリタル場合證券ノ主要部ニ於
テ續其ノ正當ナルヲ見トメ得ヘキトキニ限り取締役ハ所持人ノ費用ヲ以テ毀損證券ト引換ニ同種ノ證券ヲ作成シ且之ヲ交付スルコト
ヲ要ス

右以外ノ場合ニ於テハ裁判上ノ無効宣言アリタル後ニアラサレハ毀損又ハ喪失シタル株券及假株券ニ代ヘ株券ヲ作成交付スルコトヲ
得ス

配當札ハ裁判上ノ無効宣言ニ附セラレルコトナシ即チ配當札ハ支拂年度ノ十二月三十一日ヨリ起算シテ四箇年内ニ呈示セラレサルト
キハ其効力ヲ失ヒ該配當金ハ會社ニ歸屬ス

然レトモ前記四箇年ノ期間經過前配當札ノ喪失ヲ取締役ニ届出テ且株券ノ呈示其他適當ノ方法ニ依リ從來ノ占有ヲ證明シタル者ニ對
シテハ前記期間ノ經過シタル後領收證ト引換ニ該配當札ノ金額ヲ支拂フヘシ

毀損又ハ喪失シタル配當札引換書モ亦裁判上ノ無効宣言ニ附セラレルコトナシ
新配當札ノ交付前株券ノ所持人カ配當札引換書ノ呈示人ニ新配當札ヲ交付スルコトニ付異議ヲ申立テ之ニ對シテ配當札引換書ノ呈示
人カ自己ニ交付アリ度キ旨ヲ請求シタルトキハ該事件ハ之ヲ裁判所ノ決定ニ委ネ新配當札ノ交付ハ事件ノ終了迄之ヲ停止ス

配當札引換書カ喪失シ且新配當札ノ交付ニ付異議ノ申立キ場合ニハ配當札引換書ト引換ニ受取ルヘカリシ配當札ノ第三支拂日經過
後當該株券ノ所持人ニ對シ領收證ト引換ニ新株券ヲ交付スヘシ爾後當該配當札引換書ヲ占有スルモ配當札ヲ受領スルノ權利ヲ生セス
第十四條 株券又ハ假株券ノ引受又ハ取得ヲ爲シタルトキハ株主ハ會社關係ニ依リ當會社トノ間ニ生シタル一切ノ訴訟ニ關シ伯林ニ於
ケル第一審商事裁判ノ管轄ニ屬シ且伯林ニ於テ行ハルル法律ニ從フ

第三章 機關

甲、取締役

第十五條 取締役ハ商法々典及本定款ノ規定ニ從ヒ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第十六條 取締役ハ二人以上トシ監督役之ヲ任命ス任命ハ裁判所又ハ公證人ノ調査ニ之ヲ登錄シ且公告スルコトヲ要ス

監督役ハ取締役代理並支配人ヲ任命スルコトヲ得任命ハ裁判所又ハ公證人ノ調査ニ之ヲ登錄スルコトヲ要シ且取締役代理人及支配人
ノ氏名ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

監督役ハ取締役ノ事務分掌、俸給及賞與、取締役相互間ノ關係並取締役會ニ關スル規定ヲ設ケ
取締役ハ當會社ノ使用人ヲ任免シ且事務章程第二十四條第二號ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第十七條 義務ノ負擔ニ關スル當會社ノ意思表示ハ二人ノ取締役、二人ノ取締役代理、一人ノ取締役及一人ノ取締役代理、一人ノ取締
役及一人ノ支配人又ハ一人ノ取締役代理及一人ノ支配人之ヲ爲スモノトス

當會社又ハ支店ノ業務其他ノ商業的行爲ノ執行及當會社又ハ支店ノ代理ハ前條以外ノ商事代理人ニ之ヲ委任スルコトヲ得但右商事代
理人ハ代表權ヲ有シ若クハ有セサル取締役、支配人又ハ前項ノ規定ニ從ヒ任命セラレタル代理人ト共ニスルニアラサレハ當會社ヲ代
理スルコトヲ得ス

法律又ハ定款ニ依リ取締役及支配人ノ代理權限ハ前項ノ規定ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ取締役力前項ノ授權ヲ爲スニハ監督役ノ承
認ヲ受クルコトヲ要ス

代理人タル資格ノ證明ハ二人ノ取締役及頭取又ハ副頭取力適法ノ形式ニ於テ作成シタル授權證明書ニ依リ之ヲ爲ス各種ノ法的行爲ノ

執行（讓渡ノ意思表示、訴訟行為、強制競賣ノ代理、法律行為ノ執行及決定、各種證書ノ作成等）其他各種郵便物、爲替價格表記郵便及價格表記小包郵便ノ受取方ニ付テハ（郵便物受取代理人）取締役ハ監督役ノ承認ヲ經スシテ其代理人ヲ定ムルコトヲ得
當會社ノ商號ヲ記載スルニハ記載者之ニ署名シ且特ニ支配人ノ之ニ關與シタル旨ヲ明ニスルコトヲ要ス

乙、監督役

第十八條 監督役ハ十二人以上二十五人以下トシ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

監督役ノ任期ハ四箇年トシ四年毎ノ通常株主總會ニ於テ之ヲ選任ス監督役ノ中少クモ三人ハ成ル可ク一定ノ順番ニ依リ毎年脱退ス脱退ノ最初ノ順番ハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

脱退シタル監督役ハ之ヲ再選スルコトヲ得

監督役力或ル他ノ事由ニ依リ脱退シタルトキハ補缺選舉ハ次期ノ通常株主總會迄之ヲ延期スルコトヲ得

但少クモ七人ノ監督役其職ニ在ルコトヲ要ス

任期ノ終了前ニ脱退シタル監督役ノ任期ハ前任者ノ殘存期トス監督役ノ意思表示ハ「獨亞銀行監督役」ナル文字及頭取若クハ副頭取及

一人ノ監督役ノ署名アルトキハ其效力ヲ生ス監督役タル資格ノ證明ハ監督役頭取及副頭取ノ選任ニ付議列所職員又ハ公證人カ作成

シタル證明書ニ依リ之ヲ爲ス

第十九條 監督役中少クモ五人ハ伯林ニ於テ、監督役全員ノ少クモ四分ノ三ハ獨逸帝國ニ於テ、又其全員ハ歐羅巴ニ於テ住所ヲ有スル

コトヲ要ス

第二十條 監督役ハ無給トス但職務執行上ヨリ生シタル費用ノ支辨及第三十四條ニ依リ利益分配ヲ受ク各監督役ニ對スル利益分配ノ割

當額ハ監督役會ノ決議ニ依ル

第二十一條 監督役ハ其中ヨリ四年ノ任期ヲ有スル頭取及一人若クハ二人ノ副頭取ヲ選任シ且頭取ノ選任ニ付テハ皇帝陛下ノ御裁可ヲ

仰クモノトス但御裁可ハ何時ニテモ取消サル、コトアリ

頭取ハ監督役トノ特約ニ依リ第三十四條ニ依リ利益分配ニ代ヘ又ハ其外ニ一定ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十二條 頭取又ハ副頭取ハ必要アリト認メタル時又ハ監督役ノ二人若クハ取締役ノ請求アリタルトキハ監督役會ヲ召集ス、召集ハ

成ル可ク會議ノ目的ヲ示シテ之ヲ爲ス監督役會ハ頭取又ハ副頭取及少クモ四人ノ監督役出席スルニアラサレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

頭取ノ請求アリタルトキハ監督役會ノ召集ヲ爲サスシテ單ニ書面又ハ電報ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ得、但決議事項ニ付全員ノ意見一

致シタル場合ニ限ル

監督役ハ各自一箇ノ議決權ヲ有ス決議ハ過半數ニヨリ之ヲ爲ス可否同數ナル時ハ監督役會議長ノ決スル所ニ依ル

監督役ノ爲ス選任ハ過半數ニ依リ之ヲ爲ス過半數ノ得點者ナキ場合ニハ二人ノ最高點者ニ付第二回ノ選舉ヲ行ヒ得點同數ナル時ハ抽

籤ニ依リ之ヲ決ス

第二十三條 監督役ハ其申合規則ヲ決議ス申合規則ニ於テハ獨逸以外ニ住居ヲ有スル監督役ノ投票方法ニ付規定スルコトヲ要ス

第二十四條 取締役ノ業務執行ニ關スル一般ノ監督及本定款ニ於テ取締役ニ委任シタル權限ヲ除キ監督役ハ左ノ特別ナル權限ヲ有ス

一、本店並支店ニ於ケル取締役ヲ任免スルコト

二、本店並支店ノ事務章程ヲ定ムルコト

三、頭取又ハ特ニ委任セラレタル監督役ヲシテ當會社ノ一切ノ書類及帳簿ヲ閱覽シ且一切ノ業務狀態ヲ検査セシムルコト

右ノ權限ハ監督役會ノ決議ニ依リ他人ニ之ヲ委任スルコトヲ得

四、取締役ニ事故アル時商法第二百四十八條ニ依リ他ノ取締役又ハ第三者ヲ以テ一時其職務ヲ處理セシムルコト

五、土地又ハ船舶ノ取得又ハ賣却ヲ承認スルコト

六、支店及代理店ノ設置ニ關スル決議ヲ爲スコト此決議ハ少クモ出席監督役ノ三分ノ二ノ多數ニ依ルコトヲ要ス

七、本店並支店及代理店ノ貸借對照表及損益計算書ヲ審査シ且株主總會ニ提出スヘキ議案ヲ決定スルコト

八、責任解除ノ爲ニスル決算書ヲ株主總會ニ提出シ且特別積立金及利益配當金ヲ提案スルコト

九、株金拂込ノ催告ニ關スル決議ヲ爲スコト

十、第三十四條ニ依リ特別積立金ノ處分ヲ爲スコト

第二十五條 獨逸帝國外ニ在ル支店又ハ代理店ノ業務ノ執行ニ付テハ監査役ハ申合規則ノ範圍内ニ於テ監査役以外ノ人ニ當該支店又ハ代理店ノ監督ヲ委任シ且之ニ一定ノ權限ヲ附與スルコトヲ得

丙、株主總會

第二十六條 株主總會ハ株主ノ全員ヲ代表ス株主總會ノ決議及選任ハ株主ノ全員ヲ拘束ス

株主ハ株主總會ニ出席スルコトヲ得議決權ハ一株ニ付一箇トス

株主ハ其名義ヲ以テ株主總會ノ終了迄領取證ト引換ニ其株券ヲ召集狀ニ記載セラレタル場所又ハ公證人ニ供託スルコトヲ要ス供託ハ株主總會及供託ノ日ヲ除キ少クモ株主總會ノ八日前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

商會及合資會社カ其營業主又ハ支配人ニ依リ、妻ハ夫ニ依リ、寡婦ハ其成年ノ子ニ依リ、未成年者其他ノ被後見人ハ後見人又ハ保佐人ニ依リ、社團又ハ財團法人及株式會社カ其法定代理人ニ依リ、又株式會社カ其支配人ニ依リ代理セラレル場合ニハ特別ノ授權ヲ要セス、其他ノ場合ニ於テハ株主ハ他ノ株主ニ限リ且書面ニ依リ自己ヲ代理セシムルコトヲ得

代理ニ關スル授權ハ運クモ總會ノ前日迄ニ取締役ノ審査ヲ受クルコトヲ要ス

第二十七條 株主總會ハ伯林、漢堡又ハフ列メンニ於テ之ヲ開ク取締役又ハ監査役ハ公告ニ依リ株主總會ヲ召集ス召集ハ公告及總會ノ日ヲ除キ少クモ株主總會ノ四週間前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一營業年度ヲ除キ毎年上半季中ニ通常株主總會ヲ開ク臨時株主總會ハ臨時必要ヲ生シタルトキ之ヲ召集ス株主總會ノ決議事項ハ召集狀ニ之ヲ記載スヘシ

第二十八條 會社ノ清算又ハ解散、會社事業ノ擴張又ハ變更ニ依ル會社ノ變形、他ノ株式會社トノ合併並資本ノ減少若クハ其一部ノ償却ニ關スル決議ハ此目的ノ爲ニ特ニ召集セラレタル臨時株主總會ニ於テ之ヲ爲ス但法律ノ規定ニ依リ會社カ當然解散スヘキ場合ハ此限ニ在ラス前項ノ決議ハ少クモ資本ノ四分ノ三ノ株數ニ相當スル株主出席シテ之ヲ爲スニアラサレハ其効力ヲ生セス

出席株數資本金ノ四分ノ三ニ充テサル場合ニハ六週間内ニ同一目的ノ爲ニ更ニ臨時株主總會ヲ開クコトヲ要ス此場合ニハ出席株數ハ資本金ノ四分ノ三以下タルモ妨ナシ前二項ノ場合ニ於ケル決議ハ少クモ出席株數ノ四分ノ三ノ多數ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 前條以外定款ノ變更及補充ニ關スル決議ハ少クモ出席株數ノ三分ノ二ノ多數ニ依リ之ヲ爲ス

第三十條 頭取又ハ副頭取若クハ特ニ指定サレタル監査役ハ株主總會議長トナル

議事録ハ公證人又ハ裁判所之ヲ作製シ且議長、議決權數調査委員及出席シタル取締役及監査役之ニ署名スヘシ議事録ニハ議事ノ狀況並決議ノ方法及結果ヲ記載スルコトヲ要ス

總會ノ議長ハ議事録ニ議決權數ト共ニ出席株主ノ氏名ヲ記載シタル目錄ヲ添付スルコトヲ要ス議事録ハ會社ノ役員及株主ニ對シ完全ナル證據力ヲ有ス決議ハ出席ノ有無ニ拘ラス一切ノ株主ヲ拘束ス

第三十一條 株主總會ノ決議ハ過半數ニ依リ之ヲ爲ス但第二十八條及第二十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス可否同數ナルトキハ議案ハ否決セラレタルモノト看做ス選任ハ投票紙ヲ用キ過半數ニ依リ之ヲ爲ス但投票方法ニ關シ別段ノ提議アリ且之ニ對シ異議ノ申出ナキトキハ之ニ從フ第一回ノ選舉ニ於テ過半數ノ得點者ナキ時ハ二人ノ最高點者間ニ第二回ノ選舉ヲ行ヒ過半數ノ得點者ヲ以テ當選者トス第二回ノ選舉ニ於テ過半數ノ得點者ナキトキハ二人ノ最高點者間ニ第三回ノ選舉ヲ行ヒ高點者ヲ以テ當選者トス得點同數ナルトキハ抽籤ニ依リ之ヲ決ス

第三十二條 株主總會ニ於テハ取締役カ監査役ト共同シテ又ハ取締役若クハ監査役ノ一人ヨリ提出セラレタル議案ヲ議スルモノトス株主ヨリ提出セラレタル議案ハ商法第二百五十四條及第二百五十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フ

第四章 貸借對照表、利益分配及積立金

第三十三條 營業年度ハ曆ニ從フ

決算、財産目錄ノ調製及純益金ノ計算ハ十二月ノ經過後商人ノ慣行ノ原則及商法ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス

營業年度ノ經過後四箇月内ニ取締役ハ財産目錄及貸借對照表、損益計算書並本店及支店ノ財産狀態其他ノ關係ヲ説明シタル報告書ヲ監査役ニ提出シ監査役ハ之ヲ審査シ株主總會ノ承認ヲ經テ之ヲ確定ス取締役及使用人ニ對スル利益分配ハ監査役ノ承認ヲ經タル上營業中ヨリ之ヲ支出ス

獨亞銀行

三四九

貸借對照表及損益計算書ハ株主總會ノ承認ヲ經タル後監督役之ヲ公告ス

第三十四條 貸借對照表ノ資産ヨリ負債ヲ控除シタル殘額ヲ以テ純益金トス

純益金ハ左ノ割合ヲ以テ之ヲ分配ス

- 一、純益金ノ五分 法定積立金
 - 二、純益金ノ四分 拂込株金ニ對スル利益配當
 - 三、右殘額ノ八分 監督役ニ對スル利益分配
 - 四、右ノ殘額ハ株金拂込額ノ割合ニ應シ各株主ニ之ヲ配當ス但株主總會ニ於テ之ニ異リタル決議ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
- 配當金ノ支拂ハ確定後遅クモ四週内ニ監督役ノ公告シタル場所ニ於テ之ヲ爲ス(獨逸ニ於テ配當金ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ監督役カ隨時定メタル換算率ニ依ル)

第三十五條 法定積立金ハ貸借對照表ニ依ル損失ヲ填補スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス第三十四條ニ依ル法定積立金ハ資本金ノ一割ヲ超過スルコトヲ要セス

第五章 解 散

第三十六條 清算又ハ他ノ株式會社トノ合併ニ依ル會社解散ノ場合ニハ清算又ハ合併ヲ決議シタル總會ハ實行ノ方法及條件ヲ定メ且清算人ヲ選任ス

二、獨領膠州灣及支那ニ於ケル銀行券發行ニ關スル特許狀

(一千九百零六年六月八日公布)

獨亞銀行ハ保護領法第三條及領事裁判法第三十四條並保護領ニ於ケル銀行券發行ニ關スル勅令ニ依リ一千九百零四年十月三十日ヨリ向フ十五箇年間獨領膠州灣及支那ニ於ケル營業所ニ於テ左ノ條件ニ從ヒ銀行券ヲ發行スルノ特權ヲ有ス

第一條 銀行一般派業務ノ外其定款及營業ノ範圍ニ關シ制定セラレタル一般ノ命令ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

第二條 銀行券ノ發行ニ就テハ特ニ左ノ規定ニ從フヘシ

- 一、銀行券ノ種類ハ券面額一弗、五弗、十弗、二十五弗、五十弗ノ五種及一兩、五兩、十兩、二十兩ノ四種トス但支那山東省ニ於テハ青島ニ於テ流通スル本位貨幣ト同一名稱ヲ有スル銀行券ヲ發行スルコトヲ要ス
- 二、本令ニ於テ弗ト稱スルハ墨西哥弗ノ名ヲ以テ流通スル貨幣ニシテ純分千分ノ九〇ニ、七、重量二七、〇七三「グレーン」最少量二六、三三「グレーン」ヲ有スルモノ又ハ各發行地ニ於ケル商取引上又ハ法律上右ト同價額ノモノト認定セラレタル硬貨ヲ云ヒ兩ト稱スルハ銀行券發行ノ際ニ其ノ發行地ニ於テ通用スル同一名稱ノ支那本位銀ノ單位ヲ云フ
- 三、銀行ハ其銀行券ノ呈示ヲ受ケタルトキハ各營業所ニ於テ之ヲ兌換スルノ義務ヲ有ス但シ銀行券發行地以外ノ地ニ在ル營業所ニ於テハ其有スル現金額其他營業ノ都合ニ依リ其時ノ爲替相場ニ換算シテ之カ兌換ヲナスコトヲ得、青島本位貨幣ト同一名稱ヲ有スル銀行券ハ之ヲ保護領及支那山東省ニ於ケル銀行各營業所ニ於テ其券面額ヲ以テ兌換スヘシ
- 銀行ハ其銀行券ヲ以テ支拂ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ之ヲ受入ル、ノ義務ヲ有ス其金額ハ銀行券發行地ニアル營業所ニ於テハ券面額、其他ノ營業所ニアリテハ其時ノ爲替相場ニ依リ換算セラレタルモノトス但シ青島本位貨幣ニ對シテ發行セラレタル銀行券ハ保護領又ハ支那山東省ニ於ケル銀行ノ各營業所ニ於テ其券面額ヲ以テ支拂ヲ受ケルモノトス
- 四、銀行ハ流通銀行券ヲ券面額ニ兌換スル爲帝國宰相ノ指定スル準備ヲナシ置クコトヲ要ス前項ノ準備ハ左ノ如シ

- (イ)帝國宰相ノ適當ト認定シタル保證人
- (ロ)帝國宰相ノ適當ト認定シタル有價證券ノ供託
- (ハ)銀行所有地ノ上ニ抵當權ノ設定
- 準備ノ計算ニ就テハ左ノ換算法ニ依ルモノトス
- (イ)兩ト弗トノ換算ハ七二ニ對スル百ノ割合
- (ロ)帝國本位貨幣ト弗ノ換算ハ前年ノ平均相場

提供シタル準備ヲ銀行券所持人ノ爲處分セントスル場合ハ訴訟手續法ニ準據スルヲ要セス單ニ帝國宰相ノ命令ニ依テ之ヲ爲スコトヲ得

五、銀行ハ其賦與セラレタル銀行券發行ノ特權ニ對シ毎年銀行券ノ一箇年平均流通高ノ百分ノ一ヲ納付スルノ義務アルモノトス右ノ金額ハ其翌年一月ニ於テ帝國宰相ノ定ムル金庫ニ之ヲ支拂フヘシ

六、銀行券發行開始以後四箇月間ハ銀行ハ前項ノ納付義務ヲ有セス

銀行ハ特許ヲ受ケタル後九箇月間ニ於テ銀行券ヲ發行スルノ義務ヲ有ス

青島ニ於テ銀行券ヲ發行スル場合ニハ銀行ハ右期日迄ニ少クトモ五十萬弗ノ額ニ相當スル銀行券ヲ用意スヘシ但右金額ノ内二十五萬弗ハ壹弗券タルヲ要ス

七、銀行券ノ所持人カ半分以上殘留セル銀行券ヲ所持シ又ハ半分若クハ半分以下ナル場合ト雖モ殘片カ消滅シタルコトヲ證明シタル場合ニハ銀行ハ右損傷銀行券ヲ全額ヲ以テ交換スヘシ

八、銀行券ノ引上及銷却ヲ爲サントスルトキハ帝國宰相ノ命令又ハ認可ヲ要ス帝國宰相ハ銀行券引上ニ關スル公告ノ方法、度數、期間、銀行券銷却ノ期間及場所、期間經過後ニ於ケル引上濟銀行券ノ銷却方法及銀行券所持人ノ權利保全ニ必要ナル其他ノ規則ヲ規定スルモノトス

九、銀行ハ支那又ハ保護領ニ於ケル本位貨幣變更ノ爲ニ受ケル損害ニ就テ帝國政府ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

十、帝國宰相ハ本令ノ實行ヲ監督スル爲監督會及株主總會ニ吏員ヲ派遣シ且該吏員ヲシテ何時ニテモ伯林及發行地ニ於テ諸帳簿特ニ銀行券ノ流通及準備ニ關スル帳簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得

獨亞銀行ハ銀行券ノ發行及流通ニ關スル其主要ノ帳簿ヲ青島ニ於ケル營業所ニ備付クヘシ

銀行ハ毎月銀行券ノ流通高表ヲ帝國宰相及膠州灣總督ニ提出シ且其三箇月分ヲ帝國宰相ノ指定スル三新聞紙ニ公告スルコトヲ要ス

十一、左ノ場合ニ於テハ銀行券發行ノ特權ヲ喪失ス

(イ) 銀行券發行ノ特許期間ノ經過

(ロ) 銀行自體ノ棄權

(ハ) 銀行ニ對スル破産手續開始ノ場合

左ノ場合ニ於テハ帝國宰相ハ特許ヲ取消スコトヲ得

(イ) 銀行カ發行地ニ於テ銀行券ノ呈示ヲ受ケタル日ニ之ヲ兌換セザルトキ

(ロ) 帝國宰相ノ許可ナクシテ定款第一條乃至第五條ノ規定ヲ變更シタルトキ

(ハ) 流通銀行券ノ準備ニ關スル本令第二條第四號ノ規定ニ違反シタルトキ

前二號ノ場合ニ於テハ帝國宰相ハ銀行券ノ引上ヲ命令スヘシ

一千九百零六年六月八日ノルデルネーニ於テ

帝國宰相侯爵 ビユーロ

三 銀行券發行ニ關スル特許狀施行細則

(一千九百零六年六月八日公布)

第一條

一、左ノ銀行會社ハ保證人タルヲ得

商工銀行

伯林商工銀行

エス、プライヒェレール

ドイツチエ銀行

ザスコント銀行

メンデルゾーン商會

獨亞銀行

保證人ハ各其出資額ニ應シテ獨立シテ債務ヲ負フ保證行爲ハ獨亞銀行ノ振出保證人ノ引受アル十萬馬克以上ノ一覽簿爲替手形ノ作成ニ依リ之ヲ爲ス銀行ハ保證ヲ延長スル場合ニハ手形滿期日ノ三箇月前ニ新形手形ヲ振出スカ或ハ別ニ適法ノ準備ヲ提供スルヲ要ス

二、帝國銀行ノ擔保規定ニヨリ認メラレタル株券ハ供託ニヨル準備ニ之ヲ使用スルヲ得
前項以外ノ株券ヲ供託ニ依ル準備トナス場合ニハ特ニ帝國宰相ノ承認ヲ要ス但承認ハ取消サル、コトアルヘシ
獨逸ノ取引所ニ於テ取扱ハレサル株券モ亦準備トナスコトヲ得ヘシ

準備ハ獨亞銀行ノ費用ヲ以テ帝國宰相之ヲ帝國銀行ニ供託スルモノトス
帝國宰相ハ本特許狀ニ基ツク銀行ノ義務不履行ノ場合ニハ其供託シタル有價證券ヲ公賣ニ付シ又ハ之ヲ自由ニ賣却スルコトヲ得

三、抵當權ノ設定ニヨル準備ノ價格ハ徵稅ニ採用セル土地評價ノ四割ヲ限度トス
抵當權ハ各銀行券所持人ノ利益ノ爲ニ民法第千八百七十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ登記スヘシ

前項ノ場合ニハ民事訴訟法第百條ニ依ル強制執行ノ規定ヲ適用スルコトヲ得
銀行ハ各債權者ノ利益ノ爲ニ民法第千八百八十九條ニ依リ無制限ノ處分權ヲ有スル代理人一名ヲ推舉スルコトヲ要ス

土地齟齬ニハ代理人ノ欠缺ノ場合ニハ同一ノ方法ニ依リ新代理人ヲ定ムヘキ旨ヲ記載スルコトヲ要ス代理人ハ帝國宰相之ヲ決定ス
四、帝國宰相ニ於テ準備ヲ不充分ナリト認メタルトキ又ハ準備力減少セントスルトキハ銀行ハ準備ヲ補充シ又ハ他ノ適法ノ準備ヲ提

供スルノ義務アルモノトス

第二條 銀行券ノ様式ハ豫メ帝國宰相ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス
第三條 報告ニハ毎月二十日現在ノ銀行券流通高ヲ記載スルコトヲ要ス

一千九百零六年六月八日ノルテルネーニ於テ

帝國宰相侯爵 ビューロー

四 白銅貨發行規定

(千九百零九年十月十一日公布)

保護領法第十五條並一千八百九十八年四月二十七日付帝國宰相布告第一條ニ基キ左ノ如ク改ム

第一條 獨逸帝國政府ハ墨西哥弗ノ十分ノ一及二十分ノ一ノ兩種ノ名價ヲ有スル白銅補助貨ヲ鑄造シ之ヲ膠州灣保護領地内ニ於テ通用セシム

第二條 白銅貨ハ一面ニハ鐵ト帝鷲ノ圖「獨逸國膠州灣保護領地」ナル文字、價格及年號ヲ、他ノ一面ニハ支那文字ヲ以テ中央ニ「獨逸帝國貨幣」周圍ニハ價格及「青島」ナル文字ヲ現ハスモノトス

第三條 白銅貨ハ銀三弗ニ相當スル額迄ハ官公署並個人取引ニ於ケル支拂ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 金庫ハ無制限ニ白銅貨ヲ收納シ又ハ之ト墨銀トノ交換ヲ爲スヘシ

第五條 金庫ハ穴ヲ穿タレ又ハ流通以外ノ原因ニ依リ毀損セラレ若クハ偽造セラレタル白銅貨ヲ收納シ又ハ交換スルノ義務ヲ有セス
第六條 現今通用ノ支那及香港鑄造ノ五仙、十仙及二十仙ノ補助銀貨ノ流通ヲ制限又ハ禁止スルノ時期ハ膠州灣總督ノ告示ニ依リ之ヲ定ム

一千九百〇九年十月十一日青島ニ於テ

獨逸帝國膠州灣總督

マイエル、ワルデアック

五 獨亞銀行ノ無記名式擔保付社債券發行ニ關スル特許狀

(一千九百十年一月二十四日公布)

保護領法第三條及領事裁判法第三十四條ニ基キ獨亞銀行ニ對シ以下ノ規定ニ從ヒ無記名擔保付社債券ヲ發行スルコトヲ許可ス

第一條 獨亞銀行ハ土地擔當付社其取得シタル抵押權ヲ基トスル無記名式社債券ノ發行ヲ管掌スル抵押部ヲ設置スヘシ
抵押部ニ於テハ獨立シタル取引ヲ爲シ且獨立ノ帳簿ヲ備フルモノトス

部ノ業務ハ青島支店ニ於テ之ヲ統轄ス

獨亞銀行

支那金融機關

第二條 抵當部ハ帝國宰相ノ監督ニ屬ス

監督權ハ部ノ業務ノ全般ニ及ヒ且部ノ閉鎖ノ後ト雖清算ノ終了スル迄存續ス

第三條 帝國宰相ハ法律、命令、本特許狀其他ノ規定ニ基キ業務ノ執行上必要ナル命令ヲ制定スルノ權限ヲ有ス帝國宰相ハ主トシテ以下ノ權限ヲ有ス

- 一、帳簿及書類ヲ検査スルコト
 - 二、業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵スルコト
 - 三、株主總會及重役會ニ自己ノ代表者ヲ派遣スルコト
 - 四、法律、命令、本特許狀其他ノ規定ニ牴觸シタル決議又ハ規則ヲ禁止スルコト
- 帝國宰相ハ監督權ノ行使ニ關シ吏員ヲ任命スルコトヲ得帝國宰相ハ金庫ヲ指定シテ監督上必要ナル經費ヲ銀行ニ命スルコトヲ得其金額ハ帝國宰相之ヲ定ム

第四條 擔保付社債券ノ流通額ハ少クモ同額ノ抵當券及同額ノ利息收入ヲ以テ之ヲ保證スルコトヲ要ス帝國本位金貨ニ依ル社債券ハ帝國本位金貨ヲ以テ、弗銀貨ニ依ル社債券ハ弗銀貨ヲ以テ支拂ハルヘキ擔保ニ依リ之ヲ保證スルコトヲ要ス

帝國宰相ノ命令アルトキハ帝國本位金貨ニ依ル社債券ト雖弗銀貨ヲ以テ支拂ハルヘキ擔保ニ依リ之ヲ保證スルコトヲ得但第八條第二項ニ規定スル貸付價格ノ四分ノ三ヲ超過スルコトヲ得ス弗トハ墨西哥弗ヲ謂フ弗ノ換算率ハ二百馬克ニ對シ百弗トス社債券所持人ノ利益ヲ保持スル爲必要アルトキハ帝國宰相ハ右ノ換算率ヲ變更スルコトヲ得

損失ヲ防止スル爲銀行カ抵當物件タル土地ヲ取得シ因テ該土地ノ上ニ存在シタル抵當權カ銀行ニ歸屬シタル場合ニハ爾來該土地ノ流通債券ニ對スル保證價格ハ取得前ニ於ケル保證價格ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス抵當物件ノ拂戻其他ノ事由ニ依リ保證額ニ不足ヲ生シタル場合ニ於テ銀行カ直ニ他ノ抵當權ヲ以テ之ヲ補充シ又ハ不足額ニ相當スル社債券ノ償却ヲ爲ス能ハサルトキハ銀行ハ一時有價證券又ハ現金ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ要ス但右有價證券ハ貸付ノ擔保トシテ帝國銀行ニ提供シ得ルモノニ限リ且其保證價格ハ帝國銀行所定ノ擔保價格ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 獨亞銀行ハ拂込資本金ノ四倍ヲ限リ擔保付社債券ヲ發行スルコトヲ得

第六條 擔保付社債券ニハ銀行ト債券所持人トノ間ノ法律關係ニ關スル規定及擔保付社債券タルコトヲ明カニスル文字ヲ掲グルコトヲ要ス

擔保付社債券ノ償還ニ關シテハ獨亞銀行ハ十年間ノ據置年限ヲ定ムルコトヲ得擔保付社債券ノ買入償却ノ價格ハ額面金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 擔保付社債券ノ保證ハ以下ニ規定スル條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第八條 貸付ハ既耕地及建物敷地ニ對シテノミ之ヲ爲ス土地ハ獨領膠州灣又ハ支那ニ於ケル獨逸領事裁判所區域内ニ在リテ且獨逸法ニ從ヒ土地產權ニ登録セラレタルモノタルコトヲ要ス

貸付ハ第一順位ノ抵當ヲ以テ之ヲ爲シ且土地ノ評價價格ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス帝國宰相ハ價格ノ四分ノ三迄貸付ケテ爲シ得ル場合ヲ指定スルコトアルヘシ建物敷地及工事中ニテ未ダ登記ヲ經サル建物ノ保證價格ハ社債券ニ對スル總保證價格ノ十分ノ一並獨亞銀行拂込資本金ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 貸付評價價格ハ土地ノ時價ヲ超過スルコトヲ得ス土地ノ評價ハ地位及收穫ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス收穫ノ査定ハ尋常ノ經營方法ニ依リ收メ得ヘキ高ヲ以テ標準トス

第十條 獨亞銀行ハ評價ニ關スル諸規則ヲ制定スルコトヲ要ス此規則ハ帝國宰相ノ承認ヲ承ケヘシ

第十一條 貸付ハ通貨ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但貸付金ノ返済ハ銀行ト借主トノ合意ニ依リ社債券ヲ以テ其額面金額ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニハ銀行ハ借主ニ對シ通貨又ハ社債券ノ一ヲ以テ返済ニ充ツルコトヲ得ル旨ノ承諾書ヲ交付ス可シ

第十二條 抵當貸付ノ利率ハ擔保付社債券ノ利率ノ二倍半ヲ超過スルコトヲ得ス但銀行ノ申出ニ依リ帝國宰相ハ上記ノ制限ヲ超ヘタル利率ヲ許可スルコトヲ得抵當貸付ニ關スル其他ノ規則ハ獨亞銀行之ヲ定ム但シ此規則ハ帝國宰相ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス此規則ニ於テハ獨亞銀行ハ期日ニ至リ返済セサル借主ニ對スル制裁及期日前ニ銀行カ返済ヲ請求シ得ヘキ條件ヲ定ムルコトヲ要ス

第十三條 抵當銀行法第十六條乃至第二十一條ノ規定ハ之ヲ獨亞銀行ニ準用ス獨亞銀行ハ貸付規則中ニ抵當銀行法第十七條ニ相當スル

獨亞銀行

規定ヲ掲クルコトヲ要ス

第十四條 擔保付社債券ノ保證ニ充當セラレタル抵當權有價證券及現金ハ社債券所持人ニ對シ之ヲ買入レスルコトヲ要ス

第十五條 抵當權買入ニ際シ抵當證書ヲ受取ルコトヲ要ス抵當權買入契約書ニ於テハ民法法典第四百八十一條乃至第四百八十三條ノ規定ハ適用ナキコト、銀行ハ社債券ニ因リテ生スル債務ノ期限力到來シタル後ト雖解約及償却ニ依リ抵當權ヲ處分シ得ルノ特權ヲ有スルコト及抵當債務者ハ必ス銀行ニ對シテ返済スルニアラサレハ其効力ヲ生セサルコトヲ記載スルコトヲ要ス社債券ノ保證ニ充當シタル現金ハ銀行之ヲ封印シ擔保品管理人ニ供託スルコトヲ要ス

第十六條 買入シタル抵當權及有價證券カ社債券ノ保證トシテ剩餘額ヲ存スルトキ又ハ銀行カ他ニ適法ノ保證ヲ有スルトキハ其額タケ銀行ハ實權ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

銀行ハ法律ノ規定又ハ貸付契約ノ規定ニ從ヒ抵當債務者ニ抵當證書ノ交付ヲ爲スノ義務ヲ負フ場合ニハ擔保品管理人ハ第一項ニ記載シタル條件ノナキ場合ト雖銀行ニ抵當證書ヲ交付スルコトヲ要ス

銀行ハ抵當債務者ニ對シ民法法典第四百四十五條ニ規定スル行爲ヲ爲スノ義務ヲ負フ場合ニハ擔保品管理人ハ第一項ニ記載シタル條件ノナキ場合ト雖民法法典第四百四十五條ニ規定セラレタル場所ニ抵當證書ヲ送付スルコトヲ要ス但擔保品管理人ハ抵當證書ノ返戻ハ自己ニ對シ之ヲ爲スヘキ旨ヲ附加スルコトヲ要ス

抵當證書ヲ銀行ヘ交附スルコトニ關シテハ第十八條第四項ノ規定ヲ參照ス可シ

第十七條 抵當部ニ於テハ擔保品管理人ヲ任命スルコトヲ要ス帝國宰相ノ見込ニ依リ銀行ハ柏林其他社債券ノ發行地ニ於テ擔保品管理人ノ代理人ヲ任命スルコトヲ得任命ハ銀行ノ申出ニ依リ之ヲ爲ス帝國宰相ハ何時ニテモ任命ヲ取消スコトヲ得擔保品管理人並其代理人ノ職務ハ帝國宰相ノ任命シタル吏員ニ之ヲ委任スルコトヲ妨ケス

第十八條 擔保品管理人ハ實權ノ取得、保全及行使ニ付社債券所持人ノ全體ヲ代表ス殊ニ擔保品管理人ハ社債券ニ因リテ生スル債務ノ保證ニ充當スル抵當權ニ關スル證書ヲ保管シ且保證ニ充當セラレタル有價證券及現金ハ銀行ノ封印ノ下ニ之ヲ保管ス
擔保品管理人ハ社債券ニ對シ適法ノ保證カ存在スルヤ否ヤヲ監視スルコトヲ要ス但貸付ノ抵當タル土地ノ價格カ帝國宰相ノ承認ヲ得

テ確定セル場合ニハ價格カ實際ノ價格ニ適應セルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ要セス

擔保品管理人ハ社債券ノ保證タル抵當權、有價證券及現金カ社債券所持人ニ買入セラレタルヤ否ヤヲ監視スルコトヲ要ス擔保品管理人ハ社債券ノ發行前適法ノ保證ノ存在スル旨ヲ證明スルコトヲ要ス

銀行カ一時抵當證書ヲ使用セントスルトキハ擔保品管理人ハ自己又ハ其指定シタル第三者ノ保管ノ名義ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ要ス

第十九條 擔保品管理人ハ何時ニテモ抵當部ノ帳簿及書類ヲ檢閲スルノ特權ヲ有ス

銀行ハ買入シタル抵當權ニ對スル元本ノ拂戻其他該抵當權ニ關シ社債券所持人ニ及ホス變更ニ付テハ擔保品管理人ニ豫メ報告スルコトヲ要ス

第二十條 擔保品管理人ト銀行トノ爭ハ帝國宰相之ヲ決ス

第二十一條 擔保品管理人及青島以外ニ在ル其代理人ハ銀行ニ對シ業務ノ執行上必要ナル經費ヲ請求スルコトヲ得經費ノ額ハ銀行ノ申出ニ依リ帝國宰相之ヲ定ム

第二十二條 每半年ノ最初ノ三箇月以内ニ銀行ハ前半年ノ末日ニ於ケル社債券ノ流通高及前半年ノ末日ニ於テ社債券所持人ニ買入シタル抵當權、有價證券及現金ノ高ヲ獨逸帝國官報局、獨逸領膠州灣ニ於ケル官報局及上海ニ於ケル獨逸總領事ニ報告スルコトヲ要ス有價證券又ハ社債券ノ保證トシテ不足セル抵當權カ社債券所持人ニ買入セラレタル場合ニハ該有價證券又ハ抵當權ノ保證充當額ヲモ公告スルコトヲ要ス

第二十三條 獨亞銀行ノ貸借對照表ニハ「抵當部勘定」ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載ス可シ

- 一、社債券ノ保證ニ充當セラレタル抵當權、有價證券及現金ノ高
- 二、流通社債券ノ券面額但社債券ノ利率一様ナラサルトキハ利率ニ依リ區別シ其流通高ヲ掲ケ可シ
- 三、銀行所有ノ社債券額
- 四、社債券利子ノ未拂額

支那金融機關

第二十四條 損益計算書ニ於テハ營業年度間ニ銀行ノ收得シタル抵當利子、貸付手数料其他抵當債務者ヨリ徴シタル収益並營業年度間ニ銀行ノ支拂タル社債券利子ノ總額ヲ區別シテ掲グルコトヲ要ス

第二十五條 社債券發行ノ際ニ於ケル價格ノ上騰及下落ニ付テハ抵當銀行法第二十五條及第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 營業報告書又ハ貸借對照表ニ於テハ抵當部勘定中ニ抵當銀行法第二十八條ニ規定シタル日付ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 本特許狀ニ於テ土地債務ハ抵當權ト同様ニ之ヲ扱フ

第二十八條 左ノ場合ニ於テハ帝國宰相ハ社債券發行ニ關スル許可ヲ取消シ且社債券所持人ノ權利ヲ侵害セスシテ社債券ノ償却ヲ命スルコトヲ得

一、銀行カ拂込資本金ノ四倍ヲ超過シテ又ハ適法ノ保證ナクシテ社債券ヲ發行シタルトキ

二、保證カ社債券發行額以下ニ減少シ且銀行ハ帝國宰相又ハ擔保品管理人ノ請求アルニ拘ラス之ヲ補充セサルトキ

三、銀行カ支拂ヲ停止シ又ハ支拂不能トナリタルトキ

四、本特許狀發布後三十年ヲ經過シタル後ハ前項第一號乃至第三號ノ條件ナキ場合ト雖帝國宰相ハ前項ノ權限ヲ有ス第三條ニ依ル帝國宰相ノ一般ノ權限ハ以上ノ規定ニ依リ妨ケラル、コトナシ

第二十九條 社債券ノ保證タル土地カ膠州灣ニ於テ登記セラレタルトキハ銀行ハ社債券ノ一箇年間ニ於ケル平均額ノ千分ノ二半ヲ膠州灣ニ在ル金庫ニ支拂フ可シ此場合ニハ社債券ノ第一回ノ發行ヲ爲ス迄ノ日數ハ之ヲ算入セス上納金ハ連クモ次年ノ三月迄ニ帝國宰相ノ定メタル金庫ニ支拂フコトヲ要ス

土地ノ抵當物カ獨逸居留地ニ於テ登記セラレタルトキハ當該居留團ハ銀行ニ對シ相當ノ上納金ヲ命スルコトヲ得

一千九百十年一月二十四日伯林ニ於テ

帝國宰相 フォン、ベトマン、ホルウエツヒ

花旗銀行

花旗銀行 (International Banking Corporation) ハ一九〇一年米國ノ東亞經營ニ資スル爲ニ米國銀行家ノ聯合シテコンネクチカット州法ノ下ニ創立セルモノニシテ、同五年直チニ上海ニ支店ヲ設ケタリ、支那ニ於ケル米國銀行ハ僅ニ本行ノミナリシガ爲ニ米支兩國ノ貿易關係密接トナルト共ニ本行業務モ發展シ、後支那ノ投資團ノ一トシテ活動スルニ至レリ、本店ヲ紐育ニ置キ、支那ニ於テハ上海ノ外北京ニ支店ヲ設ケ、其他日本、比律賓、印度等ニモ支店アリ、其ノ資本金三、二五〇、〇〇〇米弗ニシテ一株百弗ノ株式三萬二千五百個ニ別ツ、本行ハ米國國際企業會社ト密接ノ關係アリ、支那ニ於テハ同社ノ爲ニ金融業務ヲ掌レリ、尙同行ノ利益金勘定、資産狀況ヲ示セバ次ノ如シ。

利益金勘定

(單位米弗)

年次(六月末)	純益金	配當金		未拂利益金	後期繰越金
		數	額		
一九〇六年	一四八、八八二	六五、〇〇〇	四	八三、八八二	一六六、〇八三
一九〇七年	一一七、一六二	六五、〇〇〇	四	五二、一六二	二一八、二四五
一九〇八年	一二六、八一四	—	—	一二六、八一四	三四五、〇五九
一九〇九年	一〇、〇六〇	—	—	一〇、〇六〇	三五九、一一九
一九一〇年	二二九、六七五	—	—	二二九、六七五	一二五、四四四
一九一一年	一九〇、六四〇	—	—	一九〇、六四〇	三一六、〇八四
一九一二年	二四二、二〇六	—	—	二四二、二〇六	五五八、二九〇
一九一三年	三〇六、一七一	一六二、五〇〇	五	一四三、六七一	七〇一、九六一
一九一四年	一六九、二二七	九七、五〇〇	六	七一、七二七	七七三、六八八

支那金融機關

借方

(單位米弗)

年次(六月末)	拂込 資本金	準備金	資本金及 準備金計	在支那銀行 定期及即時 券流通高	融通手形 引受高	引受手形 支拂勘定	未 利益 拂 金	借方合計
一九〇二年	三,三九一,五〇〇	三,三九一,五〇〇	六,七八三,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九〇三年	三,九四七,二〇〇	三,九四七,二〇〇	七,八九四,四〇〇	—	—	—	—	—
一九〇四年	三,九四七,二〇〇	三,九四七,二〇〇	七,八九四,四〇〇	—	—	—	—	—
一九〇五年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九〇六年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九〇七年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九〇八年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九〇九年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九一〇年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九一一年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九一二年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九一三年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—
一九一四年	三,二五〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	六,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—

貸方

(單位米弗)

年次(六月末)	現金手許及地方國庫 金預金銀行預入高	證券放貸高	定期貸付及 手形割引高	貸付高	取引先ニ對スル 手形引受借權	手形、受取 勘定其他雜	貸方合計
一九〇二年	一,九三三,一八三	一,二二一,九九九	一,三三九,〇二四	二,〇一〇,七四九	—	九,九三三,八二五	一六,四一四,七五七

一九〇三年	二,八六二,四三三	三,二六二,〇〇七	四,七八八,四一九	三,三三三,四〇二	—	五,五六一,〇九九	三〇,〇六二,一三二
一九〇四年	五,四〇五,〇六六	四,一九四,〇四四	五,八八八,六一三	四,三二二,六四四	—	四,六四五,三三七	二七,一六三,〇一〇
一九〇五年	五,一六九,二二三	五,〇〇〇,三三四	五,五九九,四四五	四,〇三三,九三九	—	九,三三七,四九二	三三,四七二,四四六
一九〇六年	四,五七六,七七二	五,一三三,三四四	六,九三三,四七二	三,五二一,五九九	—	八,一三三,六六三	三三,一五七,七七二
一九〇七年	四,四四〇,六九五	五,七七七,四一〇	五,〇九九,三三三	三,八五九,六三三	—	一〇,九二二,〇八八	三三,三三三,八二二
一九〇八年	三,七四二,二三八	五,一五八,四七九	六,〇〇四,七二二	三,四九二,三六八	—	七,四三二,一〇〇	二七,三三三,五九九
一九〇九年	四,三九九,一六七	四,七三〇,五五四	七,〇七二,四八八	二,八三三,五三三	—	七,九三三,四八六	二八,五二二,七三三
一九一〇年	四,〇三三,二九八	四,八四二,二八五	八,一八九,七六六	三,八八九,七四三	—	八,八七二,四〇三	三三,四五三,二二二
一九一一年	六,〇五四,四一一	四,九四三,四八六	一〇,五五五,八三三	三,八六六,五五八	—	七,三三三,六八三	三三,九一三,一〇三
一九一二年	五,六四三,一〇五	五,七四二,六三三	六,二九九,四七五	五,九四三,七五〇	—	一〇,三三三,七〇〇	三三,九〇三,四八〇
一九一三年	六,七三三,六七〇	五,五五五,五二五	六,三三三,三三〇	五,五九六,七三五	—	一三,六〇三,二四五	四三,二四九,四〇〇
一九一四年	八,九八〇,〇三三	四,八〇七,六四六	五,三三〇,九九九	六,三三二,四九二	—	九,五五二,八六五	三三,七九八,三三三

其支那ニ於ケル投資事業ノ主ナルモノ次ノ如シ。

名	稱	金	額	期	限	利率	擔	保	備	考
湖北省外債		二,〇〇〇,〇〇〇		一九一一年	一九二〇年	七分	宜昌鹽稅		四國銀行ト共同引受	
上海市場救済資金		三,七〇〇,〇〇〇		一九一〇—一九一五	七分		支那政府保證		九銀行團ト共同引受	

インターナショナル銀行特許狀

一千九百一一年一月北米合衆國コンネクチカット州上院總會ニ於ケル聯合決議第二百三十二號

第一條

花旗銀行

エス、ダウンス並ニ以上ノ人々ト組合チ爲シタル其ノ他ノ諸氏發起ト爲リコンネクチカッツ州ブリツヂボート市ニ於テインダーナシヨナル銀行ト稱スル一社團ヲ組織スルコトヲ得、本社團ハ前記ノ名ニ於テ法律上有効ニ不動産又ハ動産ノ受領、買受、所持、賣却及引渡ヲ爲シ裁判上訴ヲ提起シ又ハ訴ヲ受ケ抗告ヲ爲シ及防訴ヲ爲スコトヲ得、本會社ハ社印ヲ定メ且任意ニ之ヲ變更スルコトヲ得、本會社ハ自カラ定ムル所ノ方法ニ從ヒ必要ナル總テノ職員ヲ選任シ之カ報酬並ニ其ノ職務ノ範圍ヲ定メ又ハ合衆國法並ニコンネクチカッツ州法ニ抵觸セザル限リ本會社ヲ統理スル爲定款ヲ作成シ且執務規程及財産管理規則ヲ作り其ノ他本特許狀ノ條項ニ從ヒ本會社ニ於テ爲シ得ヘキ業務ニ付帶セル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二條 本會社設立ノ目的ハ以下ニ列舉シタル事項ノ全部又ハ一部ヲ營ムニ在リトス即如何ナル形態ヲ以テスルヲ問ハス商業、製造業、鑛業、仲立業、各種ノ代理業、船荷問屋、建築、金融、仲買、及請負又ハ下請ニ關スル業務ヲ取扱フコト。一般銀行及信託業務ニ從事スルコト。金錢ノ預托ヲ受クルコト。爲替、貨幣及地金銀ノ賣買、約束手形、爲替手形、送金手形、諸債券、諸公債又ハ債務ノ證據タル證書及其ノ他ノ流通證券ノ賣買、振出、發行、割引、讓渡、及裏書ヲ爲スコト。對物、對人其ノ他ノ擔保貸ヲ爲スコト。州、市其ノ他ノ法人又ハ組合ノ債券ニ關シ之カ事務ヲ取扱フコト。債券又ハ抵當ニ關シ受託者ト爲リ又ハ國ノ内外、事ノ公私ヲ問ハス財產、個人、商店又ハ會社ノ爲ニ其ノ管理者、經營者、執行者、受領者、代理者、保存者又ハ受託者ト爲リ又ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス其ノ他ノ信託代理事務ノ取扱ヲ爲スコト。市又ハ其ノ他ノ法人ノ發行ニ係ル債券ノ賣買ヲ爲シ又ハ之カ元利仕拂ノ保證ヲ爲スコト。以上各種ノ業務ニ付帶シ保護預ニ關スル業務ヲ營ムコト。コンネクチカッツ州以外ノ地ニ於テ公私工事ノ建設及其ノ作業ニ從事スルコト。船舶ノ新造、購入、備入及賣却ヲ爲シ又ハ本州以外ノ地ニ於テ陸上又ハ海上ノ運送ニ從事スルコト。動産又ハ不動産ノ購入、所有、賣却、賃貸、賃借ヲ爲シ又ハ之ニ改良ヲ施シ及動産又ハ不動産ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ抵當ニ供スルコト。契約ヲ締結シ之ヲ履行シ及其他如何ナルモノタルヲ問ハス適法ナル一切ノ業務ヲ營ミ又ハ從事スルコト。世界何レノ地ニ於テモ支店ヲ設置シ得ルコト。個人、商店、組合又ハ會社ノ得意、權利及財産ヲ獲得シ之ニ對シ現金、當會社ノ株券又ハ債券又ハ其ノ他ノモノヲ交付スルコト。並ニ個人、商店、組合、又ハ會社ノ事業及負債ヲ引受クルコト而シテ其ノ結果該事業ノ引受ケト共ニ當然本會社ニ繼承セシムルコト是レナリ

第三條 本會社ノ株金、財産及事務ハ九名以上ノ取締役ヲ置キ之ヲ取扱ハシム取締役ハコンネクチカッツ州以外ノ地ニ於テ居住スルコトヲ得ヘク定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主總會ニ於テ十株以上ノ株主中ヨリ之ヲ選任ス

取締役ハ其ノ選任セラレタル後第一回ノ取締役會ヲ開キ頭取一名ヲ互選ス頭取其ノ他ノ職員又ハ取締役ニシテ辭職又ハ其ノ他ノ原因ニヨリ欠員ヲ生シタルトキ取締役會ハ之カ補欠ヲ選任スルコトヲ得補欠員ハ前任者ノ殘存期間中其ノ任ニ在ルヘキモノトス

取締役ハ定款ニ於テ定ムル所ノ其ノ他ノ職員ヲ選任スルコトヲ得頭取又ハ取締役ニ對スル選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ爲ス株主總會ハ取締役會ニ於テ必要ト認メタルトキハ州ノ内外ヲ問ハス何時ニテモ之ヲ招集シ及開會スルコトヲ得定期又ハ臨時總會ヲ招集スルトキハ定款ノ規定ニ從ヒ豫メ通知ヲ發スヘシ

本會社ハブリツヂボート市ニ一名ノ代表者ヲ駐在セシム代表者ハ法律上必要ナル文書ヲ作成シ之ヲ以テ適法ニ本會社ノ爲シタル行爲ト見做ス

本會社ハ業務執行ノ爲合衆國ニ屬スル州、領土及屬領地又ハ外國何レノ地ニ於テモ何等ノ制限ナク苟クモ一般自然人カ適法ニ營業シ得ヘキ場所ニ於テ一個又ハ數個ノ營業所ヲ設置スルコトヲ得

第四條 取締役ハ本會社定款ノ作成、變更、改正又ハ廢止ヲ得スコトヲ得又取締役ハ本會社ノ不動産又ハ動産ノ上ニ抵當權ヲ設定スルコトヲ得

取締役會ハ會社業務ノ執行上必要ナル職員及代理者ヲ任命スルコトヲ得

取締役ハ株主ヨリ會社ノ諸帳簿、計表ノ閱覽ヲ申出タルトキ之カ許否、範圍、時期及場所ヲ決定シ且其ノ條件及規則ヲ定ム株主ハ之ニ依リ取締役ハ許可ヲ得タルトキ若クハ定款又ハ株主總會ノ決議アリタル場合ノ外本會社ノ諸帳簿及文書ノ閱覽ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 本會社ハ前數條ニ規定シタルモノ、外取締役ニ對シ更ニ他ノ權限ヲ附與シ又ハ取締役ノ員數ヲ變更スルコトヲ得且取締役會ヲ組織スル定足數ヲ取締役ノ半數以內ニ於テ定メ又ハ何時ニテモ本會社ノ名稱ヲ變更スルコトヲ得

取締役會ハ總員ノ過半數ニヨル決議ヲ以テ取締役中ヨリ五名以上ノ常務委員ヲ互選シ常務委員會ヲ組織セシム常務委員會ハ取締役會

閉會中本會社ノ業務執行上取締役會ニ屬スル一切ノ權限ヲ有シ之ヲ行使ス又本會社ノ文書ニ計印押捺ノ必要アルトキハ何時ニテモ之ヲ使用スルノ權ヲ有ス

取締役ハ州ノ内外ヲ問ハズ何時ニテモ取締役會ヲ開キ且其ノ場所ニ於テ本會社ノ諸帳簿ヲ保管スルコトヲ得

第六條 取締役ハ評議員ヲ選任スルコトヲ得評議員會ハ本會社ノ利益及經營ニ關シ取締役ニ對シ意見ヲ陳述スヘキモノトス評議員ノ選任此ニ評議員會開會ノ時期ハ取締役會ニ於テ之ヲ定ム

第七條 本會社ノ資本金ハ五百萬弗ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ百弗トス株式ハ本會社取締役ノ定メタル規定ニ從ヒ之ヲ讓渡スルコトヲ得

本會社ノ資本金ハ株主總會ノ決議ヲ以テ何時ニテモ之ヲ增加スルコトヲ得

第八條 本會社株式ニ對スル申込ハ發起人ノ指定シタル場所及時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス創立總會ハ州ノ内外ヲ問ハズ發起人ノ全部又ハ過半數ニ於テ指定シタル時期及場所ニ召集及開會セラルルモノトス創立總會開會ノ時期及場所ハ發起人ヨリ之ヲ通知スルコトヲ要ス株式申込人ニシテ其ノ引受株ニ對シ全部ノ拂込ヲ爲シタル後ハ會社又ハ其ノ債權者ニ對シ更ニ何等ノ義務ヲ負擔セズ

第九條 本會社ハ本特許狀ノ定ムル所ニ依リ本州ニ於テ銀行又ハ信託業務ヲ開始セントスルトキハ銀行委員會ノ許可ヲ受クヘシ銀行委員會ハ免許讓下付スルニ當リ必要ト認ムルトキハ本會社ノ業務ヲ検査スルコトヲ得本會社ニシテ本州ニ於テ銀行又ハ信託業務ヲ營ムコトヲ免許セラレタルトキハ本會社ノ本州ニ於ケル銀行又ハ信託業務ニ關シテハ銀行委員會ノ監督ニ服シ且ツ本州ニ於テ營業スル銀行又ハ信託會社ニ關スル法律ノ規定ニ從フヘキモノトス

第十條 本會社ノ出納役ハ毎年十月一日ニ於ケル本州居住者ノ名義ニ係ル株式ノ數及其ノ時價ヲ記載シタル報告ヲ同月中ニ本州監督官廳ニ提出シ又十月一日ニ於テ本州ニ居住スルモノ、名義ニ係ル株式ニ對シ其ノ時價ノ百分ノ一ニ相當スル課稅ヲ毎年二月末日迄ニ本州金庫ニ納付スルコトヲ要ス

本會社出納役ハ毎年十二月末日迄ニ本州金庫ニ對シ現在發行株式總數ニ付其ノ額面ノ百分ノ一「パーセント」ニ相當スル課稅ヲ納付スルコトヲ要ス本稅ノ納付ハコンネクチカツト州内ニ存在スル本會社所有ノ財産ニ對スル課稅ノ外其ノ他一切ノ租稅ヲ免除スルノ効

力ヲ生ス

第十一條 本會社ハ本州金庫ニ對シ五十弗ノ免稅稅及本會社公稱資本金每一千弗ニ付金五十仙ノ免稅料ヲ納付スルコトヲ要ス爾後増資シタルトキハ其ノ増資金額五百萬弗ニ達スル迄每一千弗ニ付金五十仙、五百萬弗以上ハ每一千弗ニ付金十仙ノ割合ヲ以テ免稅料ヲ納付スヘシ本稅ノ外本會社ハ其ノ營業免稅ニ關スル一切ノ租稅及手數料ヲ課セラルルコトナシ

第十二條 本會社ハ毎年本州銀行委員會ニ對シ資産負債ノ狀態ヲ記載シタル本會社ノ營業報告書ヲ提出スヘシ該營業報告書ニハ其頭取又ハ副頭取之ニ署名シ秘書役又ハ出納役之ニ連署シタル上更ニ當該官吏ノ公證ヲ受クルコトヲ要ス營業報告書ノ提出ハ本特許狀第十條ニ定メタルモノヲ除キ本會社ニ對スル一切ノ報告又ハ検査ニ代ハルヘキモノトス

第十三條 本會社第一回ノ資本金ハ總テ引受濟トナリ且全部ノ拂込ヲ了シタル後ニアラサレハ本會社ハ本特許狀第二條ニ規定シタル業務ヲ開始スルコトヲ得ス

インターナショナル銀行特許狀改正ニ關スル上院決議

(一九〇五年コンネクチカツト州上院聯合決議第六六號)

第一條 インターナショナル銀行特許狀ハ本決議ニヨリ左ノ通り變更セラレタルモノトス

本會社ハ現ニ其ノ所有ニ係ル他ノ銀行株ヲ以テ當インターナショナル銀行株式一萬株ヲ限リ且該株式所有者ト協定シタル條件ニ於テ之ヲ交換スルコトヲ得但シ本州ニ於テ存在スル銀行又ハ信託會社ノ株式ヲ以テ之ヲ交換スルコトヲ得ス

第二條 インターナショナル銀行頭取及出納役ハ本決議ニ由リ自行ノ株式ヲ取得シタルトキハ六ヶ月以内ニ該株數ヲ記載シタル文書ヲ作成シ之ヲ本州政廳ニ提出スヘシ州務官ハ該政廳ニ備付ケアル登錄簿ニ於テ之ヲ登錄スヘキモノトス

第三條 第一條ニ依リ他ノ銀行株ハ交換トシテ取得シタル本インターナショナル銀行株式ハ特ニ此ノ目的ノ爲ニ召集シタル株主總會ニ於テ出席株主三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ償却シ且之ニ依リ本インターナショナル銀行ノ資本金ヲ減少スルコトヲ得但該資本金ノ減少ハインターナショナル銀行取締役ノ過半數ニ於テ該資本金ノ減少力適法ニ株主ノ承認ヲ經タルコトヲ記載シタル文書ヲ作成シ之

ニ署名シ並ニ該資本金ノ減少ニ關シ其ノ細目ヲ記載シタル株主總會議事録原本ト共ニ之ヲ本州政廳ニ提出シ且州務官ニ於テ之ニ依リ登錄簿ニ登錄シタル後ニアラサレハ其ノ効力ヲ生セス

有利銀行

有利銀行 (Merchantile Bank of India, Ltd) 元 Chartered Merchantile Bank of India, London and China ト稱シ、一八七五年九月十五日附特許狀ニ基キ設立セラレタル、英國海外銀行ノ一ナルガ、特許狀ニヨル時ハ一面特權ノアルト共ニ一面種々ノ制限アリ、然カモ一八六二年ノ會社法ニヨレバ此特權ノ目的トスル所ヲ容易ニ遂行シ得ベキヲ以テ、一八九二年ニ至リ組織ヲ變更シ同年十二月二日會社法ノ下ニ登記ヲナシ、前記ノ名稱ニ改ムルニ至レルモノナリ、本店ヲ倫敦ニ置キ孟買、カルカッタ、ハウラト、デリー、マドラス、カラチ、蘭貢、古倫母、カンデー、グール、新嘉坡、彼南、コタバル、クアラウムプア、バタビヤ、香港、北京、上海、ボートルイス、マウリチウス等ニ支店ヲ有ス、其資本總額百五十萬磅ニシテ、内A株三萬株、B株三萬株アリ、其發行資本額ハA株一萬五千株一八七、五〇〇磅、B株三萬株三七五、〇〇〇磅ナリ。

今該銀行ノ營業報告ニヨリ一九一六年一月ヨリ十二月ニ至ル一九一六年度ノ營業成績ヲ示ヤバ左ノ如シ。同年ノ純益ハ貸倒準備ヲ控除シ、前年度ヨリノ繰越金三一、三〇二磅六志ヲ合シテ一六四、六七

六磅一一志四片トナリ、六月二十日迄ノ上半期配當トシテ五分ノ配當二八、一二五磅(A及B株ニ於ケル所得稅ヲ差引キ)ヲ控除シタル殘額ヨリ五萬磅ヲ積立金ニ當テ(積立金ハ之ニテ六十萬磅ニ達ス)五千磅ヲ出征者扶助料ニ、一萬磅ヲ自由保有銀行不動産ニ準備セリ、而シテ半期配當トシテ、七分(所得稅差引)ノ配當ヲナシ、之ニテ同年配當ハ一割二分トナル、右ヲ控除セル殘額三二、一七六磅一一志四片ハ、之ヲ次年度へ繰越セリ、同社ハ同年中マウリチウスニ於テマウリチウス銀行ヲ買收シ之ヲ同地支店トシテ開業セリ、一九一六年十二月三十一日現在バランスシート及損益計算書ヲ表示スレバ左ノ如シ。

貸借對照表

負債之部

公稱資本

A株三萬株(每株二五磅)

B株三萬株(同)

計

發行資本

A株一萬五千株(拂込十二磅十志)

B株三萬株(同上)

志片

七五〇、〇〇〇磅

七五〇、〇〇〇

一、五〇〇、〇〇〇

一八七、五〇〇

三七五、〇〇〇

五六二、五〇〇

有利銀行

三六九

支那金融機關

積立金	六〇〇,〇〇〇	〇	〇
流通手形	一〇四,〇二七	〇	〇
當座及定期預金及其他勘定(再割引及貸倒勘定ヲ含ム)	八,五五八,五八一	一九	〇
支拂手形	九二〇,〇〇六	一八	〇
擔保貸付	一〇〇,〇〇〇	〇	〇
代理貸付承諾	三四九,〇〇六	一八	〇
當期純益金	七一,五五一	一一	八
合計	一一,二六五,六七四	七	九
資産之部			
手許及銀行金	一,九六八,三四七	一三	七
地金	五九,三三五	一三	七
發行手形ニ對スル擔保及金銀貨預金	二,〇二七,六八三	六	七
戰時公債、印度政府留比貨幣及保證鐵道債券及其他有價證券	一一二,二〇〇	〇	〇
受入手形	八三〇,六九九	〇	〇
割引手形	三,四六二,三七八	三	一
受入及借款及前渡金	二一六,九五七	八	三
自由保有銀行不動産	三,七一七,三〇八	八	〇
代理支拂承認	二二五,三五六	一四	九
雜勘定	三四九,〇〇六	一八	九
	三一四,〇八四	七	三
合計	一一,二五六,六七四	七	九

損益計算書

支出之部

本店支店及代理店營業費	一四五,〇三九	五	七
上半期配當五分(年一割)	二八,一二五	〇	〇
A,株一萬五千、B株三萬	五〇,〇〇〇	〇	〇
積立金準備	五,〇〇〇	〇	〇
出征者扶助資金へ	一〇,〇〇〇	〇	〇
自由保有銀行不動産準備	七一,五五一	一一	四
バラレンス	三〇九,七一五	一六	一
計			

收入之部

前年度ヨリノ繰越	六五,〇二五	六	六
一九一五年下半年配當(六分)	三三,七五〇	〇	〇
差引残り	三一,三〇二	六	六
一九一六年總利益(貸倒準備、社員賞與金及マウリチウス銀行買收費ヲ控除シ)	二七八,四一三	一〇	五
計	三〇九,七一五	一六	一

有利銀行

渣打銀行

渣打銀行 (Chartered Bank of India, Australia and China) は一八五〇年設立の銀行トモ稱セラレ、一八五

三年英國國王ノ特許狀ニヨリ設立セラレタルモノニシテ、倫敦ニ本店ヲ置キ印度、濠洲、及支那方面ノ英國ノ金融機關トシテ計畫セラレタルモノナリ、設立後五年ニシテ即一八五七年十一月上海ニ支店ヲ設置シタルガ之レ實ニ支那ニ外國銀行ノ設ケラレシ最初ナリ、上海ニ於ケル銀行業務ハ設立ノ當初、未ダ不振ノ状態ナリシガ、一八八〇年頃ヨリ次第ニ勢力ヲ得、後香港上海銀行ノ設立ヲ見タルモ尙打撃ヲ蒙ラザリシ有様ナリキ。

其資本金ハ一、二〇〇、〇〇〇磅ニシテ一株二十磅ノ株式ニ別チ、全額拂込済トス、當初ノ資本ハ八〇〇、〇〇〇磅ナリシヲ一九〇七年増資ヲ行ヘルナリ、支那ニ於ケル支店ハ廣東、福州、漢口、天津、上海、青島各地ニ設置セラル、次ニ同行營業狀況ヲ表示セン。

一八九〇年以降貸借對照表ハ次ノ如シ。

(單位磅)

年次 (十二 月末)	借				貸				
	支店 數	資本及 準備金	未拂 利益金	銀行券 流通高	引受手 形其他	預 金	合 計	現金手許 在高他銀 行預入高	放 資 高
一八五〇年	一七	一,000,000	九五,000	六〇,000	七二,500	六,八〇〇	二,六四〇,九三〇	二,六四〇,九三〇	七七,三三四
一八五五年	二〇	一,二二五,000	七五,五八〇	五三,〇〇〇	七三,九七五	七,三三〇	二,八四九,九六〇	二,八四九,九六〇	八七,九三三
一八六〇年	二七	一,六七五,000	一〇〇,〇〇〇	五八,七五〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一八六五年	二七	一,七七五,000	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一八七〇年	二七	一,七七五,000	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一八七五年	二七	一,七七五,000	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一八八〇年	二七	一,七七五,000	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一八八五年	二七	一,七七五,000	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一八九〇年	二七	一,七七五,000	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇

一九〇四年以降(末) 損益勘定ハ次ノ如シ。

(單位磅)

年次 (十二月末)	總 益 金	俸給及其他 諸經費		純 益 金	配 當 金		他 備 入 額	後 期 繰 越 金
		數	額		步 合	額		
一九〇四年	四三五,四〇五	二一五,八一〇	二一九,五九五	八八,〇〇〇	一一	一一五,〇〇〇	八〇,〇七九	
一九〇五年	四八九,四〇六	二四四,三七三	二四五,〇三三	一〇四,〇〇〇	一一	一一五,〇〇〇	八六,一一二	
一九〇六年	五〇九,〇三九	二六二,七八一	二四六,二五八	一〇四,〇〇〇	一三	一三五,〇〇〇	九三,三六九	
一九〇七年	五二一,一八一	二七〇,九九九	二五〇,一八二	一二九,〇〇〇	一四	一三五,〇〇〇	一二九,四八三	
一九〇八年	五三三,一一九	二八五,四二四	二四七,六九五	一六八,〇〇〇	一四	一三五,〇〇〇	一三四,一七八	
一九〇九年	四六一,六五八	二七八,六六八	一八二,九九〇	一六八,〇〇〇	一四	一三五,〇〇〇	一二四,一七八	
一九一〇年	五三九,〇二七	三〇八,八三二	二三〇,一九五	一六八,〇〇〇	一四	一三五,〇〇〇	一二六,三六三	
一九一一年	五六四,三九一	三二九,三〇三	二三五,〇八八	一六八,〇〇〇	一四	一三五,〇〇〇	一二八,四五二	

渣打銀行

年次(十二月末)	總益金	俸給及其他諸經費	純益金	配當金		準備金其他繰入額	後期繰越金
				數	額		
一九一二年	六四九、八八八 ^磅	三四七、七七〇 ^磅	三〇二、一一八 ^磅	一九八、〇〇〇 ^磅	一六 ^{1/2} %	一〇〇、〇〇〇 ^磅	一三二、五七〇 ^磅
一九一三年	六九〇、三四九	三六三、六六五	三二六、六八四	二〇四、〇〇〇	一七 ^{1/2} %	一三五、〇〇〇	一二〇、二五四

次ニ一八七二年以降ノ配當歩合ハ次ノ如シ。

一八七二—一八九〇	五%	一八九八—一九〇三	一〇%	一九一二	一六 ^{1/2} % (特別配當金三 ^{1/2} %ヲ含ム)
一八九一—一八九五	七%	一九〇四	一一%	一九一三	一七% (特別配當金三%ヲ含ム)
一八九六	八%	一九〇五—一九〇六	一三%		
一八九七	九%	一九〇七—一九一一	一四%		

尙同行最近ノ營業狀況ヲ示サンカ、同行ハ一九一七年四月十日倫敦本店ニ於テ第六十四回株主總會ヲ開催シタルカ、今其決算報告書ニ據リ、同行一九一七年度ノ營業成績ヲ見ルニ左ノ如シ。

同年度營業純益ハ總テノ滯貨準備金ヲ除キ、前年度ヨリノ繰越金一五七、四六五磅一〇志二片ヲ合シテ五六〇、二六一磅三志三片ニ上リ、其内昨年九月ニ支拂ヒタル年一割四分ニ相當スル上半期配當其額八四、〇〇〇磅ヲ控除スル時ハ殘高四七六、二六一磅三志三片トナルベシ、此金額ニ對シ下半年配當年一割四分、外ニ毎株一磅ノ特別配當ヲ行ヒタルガ是ニテ合計全年ニ對シ年一割九歩(所得稅免除)ノ

配當トナル、此外積立金ニ一〇〇、〇〇〇磅ヲ加ヘテ全計二、〇〇〇、〇〇〇磅トナシ、役員退隱料基金ニ二五、〇〇〇磅ト不動産ノ減價償却ニ四〇、〇〇〇磅ヲ充テテ殘額一六七、二六一磅三志三片ヲ次期、繰越シタリ。

今參考ノ爲メ營業決算表ヲ示セバ左ノ如シ。

貸借對照表 (一九一七年十二月三十一日)

負債之部

一、資本金 株數六〇、〇〇〇株	一、二〇〇、〇〇〇 ^磅
每株額面、二十磅	一、九〇〇、〇〇〇 ^磅
一、積立全	九二五、九九一・一六一
一、銀行券	一九、三四九、三四五・一四八
一、當座及其他諸勘定(貸倒及臨時缺損準備ヲ含ム)	八、六九二、八〇三・三一八
一、定期預金	五八三、三六〇・一六八
一、支拂手形	一、二五五、九七六・四三
一、支拂承諾	五三二、五〇〇・〇
一、擔保付借入金	三一、二九二・三七
一、他店借	一、一七八、九〇一・九八
一、雜負債	四七六、二六一・三三
一、損益勘定	

支那金融機關

三七六

再割引手形ニ對スル債務
 六、一五〇、四五三磅一四志四片ノ内五、五一八、四八八磅二志一〇片ハ一九一八年三月二十五日ヲ以テ滿期決済セラレタリ。
 爲替豫約殘高一、三五六、四八三磅二志一片

總計

資產之部

一、現金及當座預金	八、六九四、一四五・六一一
一、手許及運送中地金	四五、二二八・一七一
一、國債證書其他有價證券	三、三二五、九七七・六一〇
一、紙幣發行準備及政府へ供托	一、〇一四、〇〇〇・〇
一、爲替手形(大藏證券ヲ含ム)	四、三三七、九〇三・五一
一、割引手形及貸金	一〇、一四三、一〇八・一〇
一、取引先支拂承諾	一八、二五五、九七六・四三
一、他店貸	二二一、一四六・一一二
一、雜資産	一一五、四九三・一三二
一、本支店營業用地所家屋等	五一六、九五九・一九一
一、本店及支店間ノ送付中ノ金錢及手形	六、四四六、四九三・六一〇
總計	三六、一二六、四三二・一二一

損益計算書

支出

一、前半期配當(一九一七年六月三十日)	八四、〇〇〇・〇
一、配當(後半期分年一割四分ノ割)	八四、〇〇〇・〇
一、特別配當每株一磅	六〇、〇〇〇・〇
一、積立金	一〇〇、〇〇〇・〇
一、役員退隱料基金	二五、〇〇〇・〇
一、土地家屋	四〇、〇〇〇・〇
一、次年度へ繰越	一六七、二六一・三
合計	四二七、四六五・一〇

合計 收入

一、一九一六年度末日殘高	八四、〇〇〇・〇
内差引	三六、〇〇〇・〇
一九一六年下半年配當	一〇〇、〇〇〇・〇
特別配當每株十二志	二〇、〇〇〇・〇
積立金	三〇、〇〇〇・〇
役員退隱料基金	二七〇、〇〇〇・〇
土地及建物	一五七、四六五・一〇
合計	九二三、〇四〇・七二

一、一九一七年度總利益(貸倒準備過剩利益稅及役員賞與金控除)

噠町銀行

三七七

内差引
本支店營業經費

五二〇、二四四・一四 一
四〇二、七九五・二三 一
五六〇、二六一・三 三

支那ニ於ケル投資事業トシテハ數フベキモノナク、一九一〇年ノ上海市場救濟借款三百五十萬兩中本行ヨリ五十萬兩ヲ出資シタルノミナリ。

和蘭銀行

和蘭銀行ハ一八二四年ノ設立ニ係リ、本店ヲアムステルダムニ置キ、一九〇二年上海ニ支店ヲ設置セリ、其目的トスル處ハ南洋ニ於ケル和蘭殖民地ノ金融機關タラシムルニアリ、拂込資本金五〇、〇〇〇、〇〇〇ギルダニシテ、近年上海ト南洋各地間トノ取引漸ク盛ナルト共ニ、上海支店ノ業務繁盛ヲ加ヘツツアリ、一九一五年度ノ純益金五、九四一、四〇九ギルダニシテ、年一割ノ株主配當ヲナセリ、一九一〇年ノ上海市場救濟借款募集ニ際シテハ他銀行ト共ニ之レヲ引受ケ、本行ノ分擔額ハ二五〇、〇〇〇兩ナリキ。

華比銀行

華比銀行 (Banque Sino-Belge) ハ白支間ノ金融機關トシテ、且又當時決定セシ北清事變賠償金ヲ受

取ラシメンガ爲ニ、一九〇二年三月設立セラレタル白耳義銀行ニシテ、本店ヲブラツセルスニ置キ、北京、天津、上海等ニ支店ヲ設ク、設立ノ當初ノ資本金ハ百萬法ニシテ、コレヲ百株ニ分チ二十七人ノ株主ニテ全部ヲ引取ケ、宛ラ合資會社ノ如キ組織トセシガ、後總資本額ヲ五千萬法ニ増加シ、內三千萬法拂込済ナリ、一九一六年ニ於ケル上海市場救濟借款三百五十萬兩中本行ハ十五萬兩ヲ引受ケタリ。

日本諸銀行

支那ニ支店ヲ有スル日本ノ銀行少ナカラズ、是等ニ就イテハ此ニ記述ヲ須キル迄モナク、世上熟知スル處ナルヲ以テ、敢テ贅セズ、唯其支那ニ於ケル支店出張所ノ所在地及投資事業ノ主要ナルモノノミヲ列舉スルニ止ムベシ。

(一) 橫濱正金銀行

- 一、營業所 本店 東京
- 支店 上海、漢口、天津、香港、大連、北京、青島、牛莊、奉天、長春、哈爾濱、開原、濟南

一、資本金

四千二百萬圓

和蘭銀行 華比銀行 日本諸銀行

一、對支投資

イ、贖回京漢鐵道借款(一九一〇年)

二百二十萬圓

(擔保京漢鐵道收入)

ロ、郵傳部鐵道公債(一九一一年)

一千萬圓

(擔保京漢鐵道收入及江蘇省買米納金)

ハ、四鄭鐵道第一回借款(大正四年十二月)

五百萬圓

ニ、四鄭鐵道第二回借款(大正七年二月)

二百六十萬圓

ホ、第一回善後借款

四千萬圓

(英佛露獨各國銀行團ト共同ニテ二億萬圓ノ借款ヲ引受ケ内四千萬圓ヲ本行ニ於テ分擔セリ但シ實際ニ於テハ本行ハ名義ノミニシテ他國ヨリノ出資ニ係ル)

ヘ、第二次善後借款第一回前渡金(大正六年八月)

一千萬圓

(名義ハ英佛露日四國財團ナルモ、事實上全部日本側ニテ引受ケ實際我國ノ東西銀行團之レヲ引受ケタリ)

ト、第二次善後借款第二回前渡金(大正七年一月)

一千萬圓

(同上)

チ、第二次善後借款第三回前渡金(大正七年七月)

一千萬圓

リ、漢冶萍公司貸付

六千五百三十餘萬圓

(數回ノ貸付ヲ合計シタルモノナルガ其正確ナル現在高ハ不明ナリ)

(二) 臺灣銀行

一、營業所 本店 臺北

支店 上海、福州、汕頭、廈門、廣東、九江、香港

一、資本金

三千萬圓

一、對支投資

イ、上海開北水電公司

二十萬兩

(大倉組經由擔保同社資產)

ロ、上海旭公司

二十萬三千五百兩

(上海市電燈公司ニ對スル旭公司ノ債權ヲ擔保トシ、三井物產會社保證)

ハ、漢冶萍製鐵廠(四口)

三十六萬兩

(三井物產經由)

ニ、浙江銀行(三口)

七萬五千兩

ホ、福建承宣布政使

十二萬五千圓
十二萬五千圓
五萬兩

ヘ、福州電氣公司

七萬弗
二十萬圓

日本諸銀行

支那金融機關

三八二

ト、汕頭商務總會

十五萬弗

チ、汕頭電氣公司

二十萬弗

リ、廣東承宣布政使(二口)

百六十萬圓

ヌ、廣東巡按使

九萬圓

ル、福建銀行(三口)

四萬弗

ヲ、交通銀行第一次借款

二十萬弗

(朝鮮興業銀行ト共同)

ワ、同第二次借款

五百萬圓

(同上)

カ、吉會鐵道借款

二千萬圓

(同上)

コ、京畿水災借款

一千萬圓

(他銀行會社ト共同)

ク、滿蒙四鐵道借款前渡

五百萬圓

(朝鮮、興業銀行ト共同)

レ、濟順高徐鐵道借前渡

二千萬圓

ソ、廣東セメント廠借款

三百萬圓

ツ、廣東鹽稅擔保借款

百五十萬圓

ネ、參戰借款

二千萬圓

(朝鮮興銀ト共同)

(三) 朝鮮銀行

一、營業所 本店 京城

支店出張所 奉天、大連、遼陽、鐵嶺、營口、四平街、旅順、鄭家屯、上海、龍井村、

開原、長春、傅家甸、哈爾濱、吉林、青島、天津、濟南、滿洲里

一、資本金

四千萬圓

一、對支事業

イ、滿洲ニ於ケル金券ノ發行

ロ、滿洲ニ於ケル國庫金ノ取扱

ニ、奉天財政廳第一次借款

百萬圓

(擔保奉天電燈、電話事業、商埠地土地)

ホ、同 第二次借款

百萬圓

日本諸銀行

三八三

支那金融機關

(擔保酒稅契稅)

ハ、第三次奉天財政廳借款(大正七年四月)

三百萬圓

ト、交通銀行第一次借款(大正六年一月)

五百萬圓

(但臺灣興業銀行ト共同)

チ、同 第二次借款(大正六年九月)

二千萬圓

(同上)

リ、吉會鐵道借款(大正七年六月)

一千萬圓

(同上)

ヌ、京畿水災借款(大正六年十一月)

五百萬圓

(興銀、三井、三菱其他七銀行ト共同)

ル、滿蒙四鐵道借款前渡(大正七年九月)

二千萬圓

(塞銀、興銀ト共同)

ヲ、濟順高徐二鐵道借款前渡(大正七年九月)

二千萬圓

(同上)

ワ、參戰借款

二千萬圓

(同上)

カ、直隸省借款(大正七年五月)

百萬圓

コ、陝西省借款(大正七年六月)

三百萬圓

ヨ、中國銀行借款(大正七年八月)

二百萬圓

(四) 住友銀行

一、營業所 本店 大阪

支店 上海、漢口

一、資本金

三千萬圓

(五) 三菱合資會社銀行部

一、營業所 本店 東京

支店 上海

一、資本金 會社資本金

三千萬圓

銀行部資本金

一百萬圓

(六) 三井銀行

一、營業所 本店 東京

支店 大阪

一、資本金

二千萬圓

合辦銀行

支那ニ於ケル新式銀行中ニハ支那人ト外國人トノ合辦經營ニ係ルモノアリ、現ニ設立營業中ノモノハ露亞銀行、中佛實業銀行、中華滙業銀行、北洋保商銀行、正隆銀行等アリ、尙米支銀行、日支銀行等ノ合辦組織ノ銀行設立ノ計畫ハ久シキ以前ヨリ試ミラレ、殊ニ米支銀行ノ如キ類ニ其設立ヲ提唱セラレツ、アリ、支那人ト外國人トノ合辦ヲ以テ銀行ヲ經營スル時ハ、支那人ニ對シテハ現金ノ缺乏ヨリ來ル資本募集難ヲ補ヒ、行員ノ私曲舞弊ノ害ヲ矯メ、又外人ニ對シテハ支那各地ニ容易ニ發展シ支那人ノ力ヲ藉リテ容易ニ支那人ノ顧客ヲ求ムルヲ得ルノ利アリ、然レドモ一方ニハ兩者本位貨幣ヲ別ニシ、殊ニ外國ハ金本位制ヲ採レルニ支那ハ銀本位制ヲトル爲、資本金拂込、利益配當其他ニツキ爲替上ノ危險ヲ負擔セザルベカラザルノ不利益アリ、其利害決シテ一概ニ論斷スル能ハザル處ナルガ今後或程度迄ハ此中外合辦ノ形式ニヨル銀行支那ニ設立セラル、ニ至ルベシト信ゼラル、茲ニ現存セル合辦銀行及米支銀行ノ計畫ニツイテ簡單ニ記述スル處アラントス。

露亞銀行

沿革

露亞銀行 (Banque Russo-Asiatique) ハ支那ニ於テハ華俄道勝銀行ト稱セラレ、一九一〇年七月露國政府ノ特許狀ノ下ニ舊露清銀行ト露國北方銀行トノ合併ニヨリ成立シタルモノナリ、本行ノ前身タル露清銀行ハ一八九五年十二月露國ノ對支經營ノ機關トシテ設立セラレタルモノナリ、然レドモ露國ハ本銀行ヲ露國單獨ノ經營トスルヨリモ、清國政府トノ合辦トナスヲ以テ、其勢力扶殖上ニ便利ナリトシ、其翌年次ノ條約ヲ締結シテコレヲ露清合辦トナセリ。

露清銀行組合ニ關スル契約

(光緒二十二年七月十二日
一千八百九十六年八月)

露國駐劄清國全權公使許ハ光緒二十二年七月二十日ノ諭旨ヲ欽奉シ華俄道勝銀行(露清銀行)組合營業ノ契約ヲ締結シ左ニ其ノ條款ヲ列記ス

- 第一條 清國政府ハ庫平銀五百萬兩ヲ以テ華俄道勝銀行ト組合營業ヲ爲ス即此ノ金額ヲ該銀行ニ交付シタル日ヨリ總テ損益ハ株金ニ應ジテ負擔シ又ハ享受ス
- 第二條 毎年露曆一月一日該銀行カ總決算ヲ爲ス時ニ於テ清國政府ノ株金ト比較シテ其ノ準率ヲ定メ年末ニ至リ清國政府ノ總テノ損益ノ計算ハ此ノ準率ニ依リ庫平銀ヲ以テ計算スベシ
- 第三條 該銀行ノ章程ニ依リ得ル所ノ利益ハ先若干ヲ提出シ各總辦ノ功勞賞與ト爲シ功勞賞與ヲ引去リタル後餘ス所ノ利益ハ清國政府ト該銀行ト株數ニ應ジテ配當ス但シ右配當ノ利ヨリ各其ノ一割ヲ出シテ積立金ト爲シ此資本ヲ計算シテ若餘利ノ利益カ六釐(六分)ヲ超ユルトキハ利益六釐(六分)除キタル上餘利ノ金ヨリ其ノ二割ヲ出シテ各事務員ノ慰勞ト爲スヘシ若營業ニシテ損失アルトキハ清國ノ負擔スヘキ損失額ハ先其ノ積立金ヨリ出シテ彌補シ置クヘシ
- 第四條 該銀行ノ月報年報ハ株主總會ノ審議承諾ヲ經テ清國駐在ノ該銀行管理人ヨリ清國ノ選任シタル東清鐵道總辦ニ遞交シテ查閱ノ